The essentials of imaging

bizhub 423/363/283/223

ユーザーズガイド　ネットワーク管理者編

もくじ

6 ネットワークファクスを送受信する

7 ユーザー認証を行う

8 セキュリティーを強化する

10 管理する

12 ボックス機能に関する設定をする

13 プリント機能に関する設定をする

14 ファクス機能に関する設定をする

15 付録

16　索引

1 はじめに

1　はじめに

1.1　ご挨拶

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このユーザーズガイドには、本機の機能と操作方法、使用上のご注意、簡単なトラブルの処理方法などについて記載しています。本機の性能を十分に発揮させて、効果的にご利用いただくために、必要に応じてこのユーザーズガイドをお読みください。

1.1.1　マニュアル体系について

印刷物のマニュアル	概要
[すぐに使える操作ガイド]	すぐに本製品をご利用いただけるよう使用頻度の高い機能や操作方法を紹介しています。
[安全にお使いいただくために]	本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい注意事項とお願いを記載しています。 製品のご使用前に必ずお読みください。

ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド	概要
[ユーザーズガイド コピー機能編]	コピーの機能や本機の設定について記載しています。 ・ 原稿、コピー用紙の仕様 ・ コピー機能 ・ 本機のメンテナンス ・ トラブルの対処方法
[ユーザーズガイド 拡大表示機能編]	拡大表示機能の操作について記載しています。 ・ コピー機能 ・ スキャナー機能 ・ G3 ファクス機能 ・ ネットワークファクス機能
[ユーザーズガイド プリンター機能編]	プリンター機能について記載しています。 ・ プリンター機能 ・ プリンタードライバーの設定
[ユーザーズガイド ボックス機能編]	ハードディスクを利用したボックス機能について記載しています。 ・ ボックスへのデータ保存 ・ ボックスからのデータの取出し ・ ボックスからのデータの印刷、転送
[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編]	スキャンしたデータの送信方法を記載しています。 ・ E-mail 送信、FTP 送信、SMB 送信、ボックス保存、WebDAV 送信、Web サービス ・ G3 ファクス ・ IP アドレスファクス、インターネットファクス
[ユーザーズガイド ファクスドライバー機能編]	コンピューターから直接ファクス送信を行うファクスドライバー機能について記載しています。 ・ PC-FAX
[ユーザーズガイド ネットワーク管理者編]	ネットワークを利用した各機能の設定方法を記載しています。 ・ ネットワークの設定 ・ PageScope Web Connection を使用した設定

ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド	概要
［ユーザーズガイド 拡張機能編］	オプションのライセンスキットでご利用いただける機能、およびアプリケーションと連携することでご利用いただける機能について記載しています。 ・ Web ブラウザー機能 ・ イメージパネル ・ PDF 処理機能 ・ 音声ガイド機能 ・ サーチャブル PDF ・ My パネル、My アドレス機能
［商標 / ライセンスについて］	商標およびライセンスについて記載しています。 ・ 商標、著作権について

1.1.2 ユーザーズガイドについて

このユーザーズガイドは、本機を初めてご利用になるお客様から本機を管理する管理者までを対象としています。

本機の基本的な操作方法、より便利にお使いいただくための機能、簡単なトラブルの対処方法、その他本機のさまざまな設定方法について説明しております。

なお、トラブルの対処には、製品についての基本的な技術知識が必要です。トラブルの対処は、本書で説明している範囲内で行ってください。

お困りの際には、サービスエンジニアにご連絡ください。

1.2　ページの見かた

1.2.1　本文中の記号について

本書では、様々な情報を記号で記載しています。

ここでは、製品を正しく安全にお使いいただくために、本書で使用している記号について説明します。

安全にお使いいただくために

⚠ **警告**
- この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**
- この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

重要
本機や原稿に損害をあたえる可能性が想定される内容を示しています。
物的損害を避けるために指示に従ってください。

手順文について

✔ このチェック記号は、手順の前提となる条件や機能を使用するときに必要なオプションを説明しています。

1 このスタイルの 1 は、最初の手順を表します。

2 このスタイルの番号は、連続する手順の順番を表します。

➔ この記号は、手順文の補足的な説明を表します。

手順の動作を
イラストで
表しています。

→ この記号は、目的のメニューにアクセスする**操作パネル**の遷移を表します。

目的の画面を表示しています。

参照

参照先を表しています。

必要に応じてごらんください。

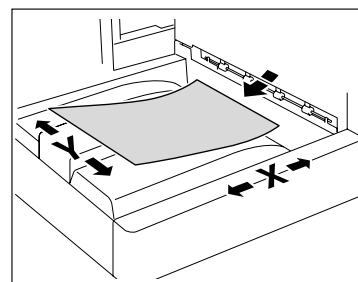
キー記号について

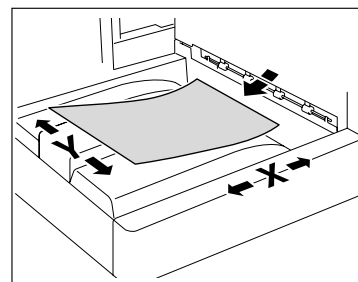
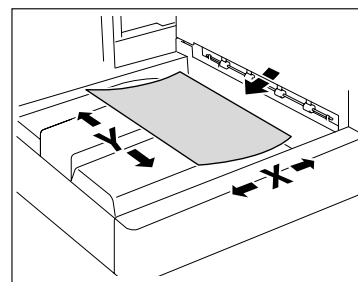
[ ]
タッチパネル上のキー名称、コンピューター画面上のキー名称、ユーザーズガイド名称などを表します。

本文の太字
操作パネル上のキー名称、部品名称、製品名、オプション名などを表します。

1.2.2　原稿と用紙の表示について

原稿と用紙の大きさ

本文中に出てくる原稿と用紙の表示について説明します。
原稿と用紙の大きさを表す場合、Y 辺を幅、X 辺を長さと呼びます。

原稿と用紙の表示

幅（Y）よりも長さ（X）のほうが大きいものを と表示します。

幅（Y）よりも長さ（X）のほうが小さいものを と表示します。

1.3 PageScope Web Connection の表示モードについて

PageScope Web Connection の管理者モードの表示モードには、［タブ表示］と［リストボックス表示］があります。本書では、表示モードを［リストボックス表示］に設定して説明しています。

ここでは、各表示モードの概要を説明します。どちらの表示モードに設定しても、設定できる項目は同じです。

参考

- 表示モードの設定について詳しくは、3-6 ページをごらんください。

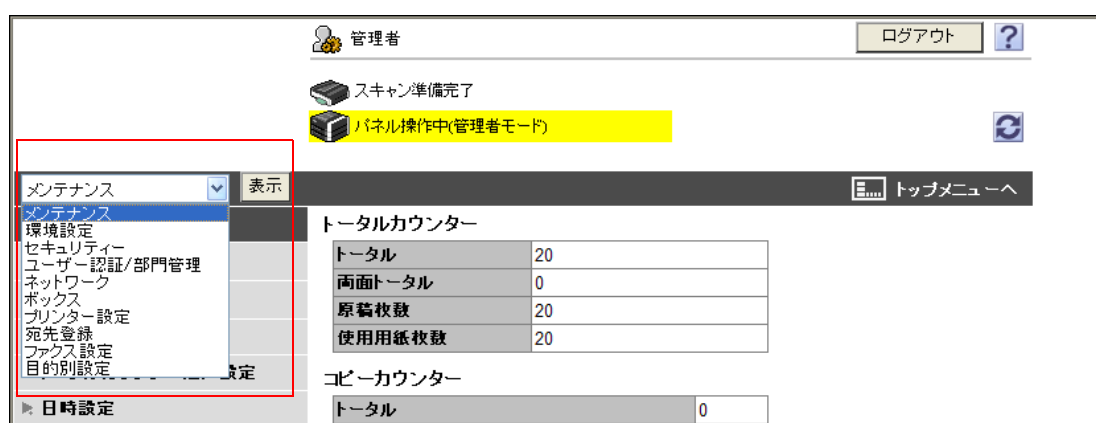
1.3.1 ［タブ表示］について

初期設定では、［タブ表示］で表示されます。

［タブ表示］では、アイコンをクリックしてメニューを切換えます。

1.3.2 ［リストボックス表示］について

［リストボックス表示］では、リストボックスからメニューを切換えます。

ドロップダウンリストから目的のメニューを選択し、［表示］をクリックします。

トップメニュー

［リストボックス表示］に設定している場合、管理者モードにログインすると、最初にトップメニューが表示されます。

トップメニューには、管理者モードの全メニューが一覧表示されます。ドロップダウンリストから目的の設定を選択し、［表示］をクリックすることで、各設定画面を表示させることができます。

参考

- 管理者モードの各設定画面で［トップメニューへ］をクリックすると、トップメニューへ戻ることができます。

2 ネットワークに接続する

2　ネットワークに接続する

2.1　TCP/IP で通信するための基本設定を行う

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

本機をネットワークに接続して使用するためには、あらかじめこの設定を行ってください。

重要
ネットワークの設定変更を有効にするには、本機の主電源を入れなおしてください。

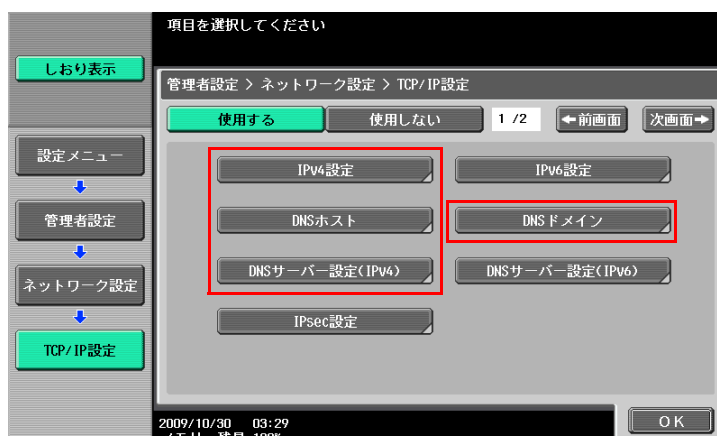
主電源スイッチを OFF/ON する場合は、主電源を OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。

［TCP/IP 設定］

操作パネルの［管理者設定］で、［ネットワーク設定］ ▸▸ ［TCP/IP 設定］を選択します。

参照
［ネットワーク設定］への入り方について詳しくは、15-3 ページをごらんください。

操作パネルの［ネットワーク設定］のメニュー構成については、15-5 ページをごらんください。

IPv6 環境で本機を使用するための設定について詳しくは、2-4 ページをごらんください。

項目	説明	事前確認
［使用する］／［使用しない］	［使用する］を選択します。	

［IPv4 設定］

項目	説明	事前確認
［IP 確定方法］	IP アドレスを自動取得するか、直接設定するかを選択します。	IP 確定方法
［自動取得］	IP アドレスを自動取得する場合は、自動取得の方法を選択します。	
［IP アドレス］	IP アドレスを直接設定する場合は、本機の IP アドレスを設定します。	本機の IP アドレス
［サブネットマスク］	IP アドレスを直接設定する場合は、接続するネットワークのサブネットマスクを設定します。	本機のサブネットマスク
［デフォルトゲートウェイ］	IP アドレスを直接設定する場合は、接続するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。	本機のデフォルトゲートウェイ

［DNS ホスト］

項目	説明	事前確認
［Dynamic DNS 設定］	Dynamic DNS 機能をサポートしている DNS サーバーに、［DNS ホスト名］で設定したホスト名を自動で登録する場合は、［有効］を選択します。	Dynamic DNS か
［DNS ホスト名］	本機のホスト名を設定します（半角 63 文字以内）。	

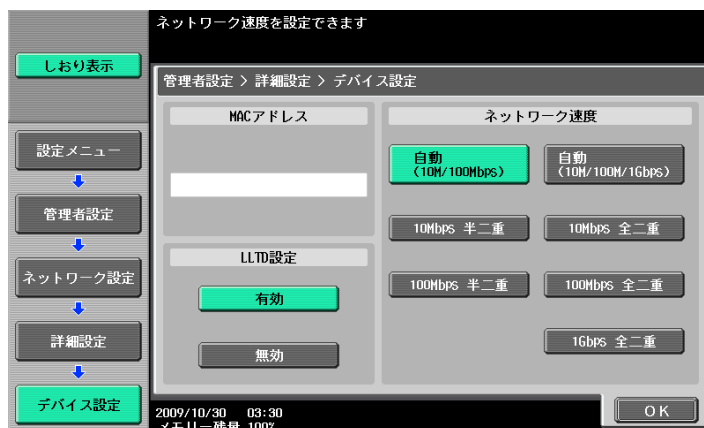
［DNS ドメイン］

項目	説明	事前確認
［ドメイン名自動取得］	ドメイン名の自動取得を行うかどうかを選択します。 DHCP が有効の場合に設定します。	DHCP で自動取得可能か
［検索ドメイン名自動取得］	検索ドメイン名の自動取得を行うかどうかを選択します。 DHCP が有効の場合に設定します。	DHCP で自動取得可能か
［DNS デフォルトドメイン名］	ドメイン名を自動取得しない場合は、本機が所属するドメイン名を設定します（ホスト名と合わせて半角 255 文字以内）。	デフォルトドメイン名
［DNS 検索ドメイン名 1］～［DNS 検索ドメイン名 3］	DNS 検索ドメイン名を設定します（半角 253 文字以内）。	

［DNS サーバー設定（IPv4）］

項目	説明	事前確認
［DNS サーバー自動取得］	DNS サーバーアドレスの自動取得を行うかどうかを設定します。 DHCP が有効の場合に設定します。	DHCP で自動取得可能か
［優先 DNS サーバー］	DNS サーバーアドレスを自動取得しない場合は、優先 DNS サーバーのアドレスを設定します。	サーバーのアドレス
［代替 DNS サーバー 1］～［代替 DNS サーバー 2］	代替 DNS サーバーのアドレスを設定します。	サーバーのアドレス

［デバイス設定］

操作パネルの［管理者設定］で、［ネットワーク設定］▸▸［次画面］▸▸［詳細設定］▸▸［デバイス設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［MAC アドレス］	本機のネットワークインターフェースカードの MAC アドレスが表示されます。	
［ネットワーク速度］	ネットワーク速度を設定します。	

2.2 IPv6 で通信する

IPv6 で通信するための設定を行います。

IPv6 アドレスを本機に割当てて使用したい場合に設定します。IPv6 を使用する場合、IPv4 と同時に動作させせることができますが、IPv6 のみで使用することはできません。

本機を IPv6 環境で使用する場合、以下の制限があります。

- SMB で印刷できません（ダイレクトホスティングサービスの場合は可能）。
- SMB でスキャンデータを送信できません（ダイレクトホスティングサービスの場合は可能）。
- SMB ブラウジングができません（Publication Service の場合は可能）。
- NTLM 認証ができません（ダイレクトホスティングサービスの場合は可能）。
- IP フィルタリングができません。
- プリンタードライバーのインストーラーを使用できません（Windows Vista/Server 2008/7 の場合は可能）。
- PageScope Web Connection を Flash で表示できません。

参照

ダイレクトホスティングサービスについて詳しくは、以下の参照先をごらんください。

「スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターに送信する」（p. 4-2）

「プリントする（SMB）」（p. 5-4）

「本機を使用するユーザーを制限する（Windows ドメイン／ワークグループ）」（p. 7-14）

［TCP/IP 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［TCP/IP 設定］ ▸▸ ［TCP/IP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［TCP/IP 設定］	［使用する］を選択します。	
［IPv6］	［使用する］を選択します。	
［IPv6 自動設定］	IPv6 アドレスを自動取得する場合は、［使用する］を選択します。	IPv6 アドレスを自動取得するか

項目	説明	事前確認
［DHCPv6 設定］	DHCPv6 を使用して IPv6 アドレスを取得する場合は、［使用する］を選択します。	DHCPv6 を使用するか
［IPv6 リンクローカルアドレス］	MAC アドレスから生成されたリンクローカルアドレスが表示されます。	
［IPv6 グローバルアドレス］	IPv6 アドレスを自動取得しない場合は、IPv6 グローバルアドレスを入力します。	IPv6 アドレス
［IPv6 グローバルアドレスプレフィックスレングス］	IPv6 アドレスを自動取得しない場合は、IPv6 グローバルアドレスプレフィックスレングスを入力します。	プレフィックスレングス
［IPv6 ゲートウェイアドレス］	IPv6 アドレスを自動取得しない場合は、IPv6 ゲートウェイアドレスを入力します。	ゲートウェイアドレス
［DNS サーバー設定（IPv6）］	必要に応じて、DNS サーバーの設定を行います。	
［DNS サーバー自動取得］	DNS サーバーアドレスを自動取得するかどうかを選択します。 DHCPv6 が有効の場合に設定します。	DHCPv6 で自動取得可能か
［優先 DNS サーバー］	DNS サーバーアドレスを自動取得しない場合は、優先 DNS サーバーのアドレスを設定します。	サーバーのアドレス
［代替 DNS サーバー 1］～［代替 DNS サーバー 2］	代替 DNS サーバーのアドレスを設定します。	サーバーのアドレス

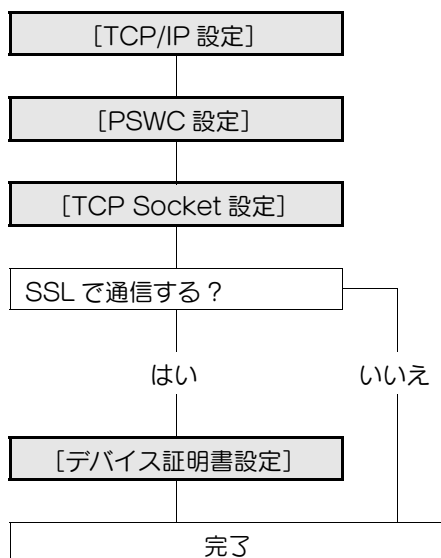
3 PageScope Web Connectionを使用する

3 PageScope Web Connection を使用する

3.1 PageScope Web Connection を使用する

PageScope Web Connection を使用するための設定を行います。

PageScope Web Connection は、本体に内蔵されている HTTP サーバーが提供する、デバイス管理用ユーティリティです。ネットワーク上のコンピューターで Web ブラウザーを起動し、本機の設定変更や状態確認ができます。本機の**操作パネル**で行う設定の一部を、手元のコンピューターから操作できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

3.1.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

3.1.2 [PSWC 設定]

操作パネルの［管理者設定］で、［ネットワーク設定］▸▸［http サーバー設定］を選択します。

参照

［ネットワーク設定］への入り方について詳しくは、15-3 ページをごらんください。

項目	説明	事前確認
［PSWC 設定］	［使用する］を選択します。	

3.1.3 ［TCP Socket 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］►►［TCP Socket 設定］を選択します。

参照

PageScope Web Connection の管理者モードへのログイン方法について詳しくは、3-4 ページをごらんください。

項目	説明	事前確認
［TCP Socket (ASCII Mode)］	PageScope Web Connection を Flash 形式で使用する場合は、チェックを入れます。	
［ポート番号 (ASCII Mode)］	ポート番号を入力します。	

3.1.4 ［デバイス証明書設定］

コンピューターから本機への通信を SSL で暗号化するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

3.2 管理者モードにログインする

PageScope Web Connection で本機の設定を行うためには、管理者モードにログインする必要があります。管理者モードへのログイン方法は、以下のとおりです。

参考

- 管理者モードにログインしているときは、本機の**操作パネル**から操作できなくなります。
- 本機の状態によっては、管理者モードにログインできない場合があります。
- ユーザー認証や部門管理を行っていない場合に、PageScope Web Connection にアクセスすると、パブリックユーザーとしてログインした画面が表示されます。管理者としてログインするためにはいったんパブリックユーザーモードからログアウトしてください。

1 ログイン画面で［管理者］を選択し、［ログイン］をクリックします。

➔ 必要に応じて［言語］や［表示形式］を選択します。

➔ 必要に応じて Flash 形式での表示を禁止できます。設定のしかたについては、3-10 ページをごらんください。

➔ ［警告時、ダイアログ表示する］にチェックを入れると、操作中に警告が発生した場合、ダイアログが表示されます。

2 本機の管理者パスワードを入力します。

➔ **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［認証操作禁止機能］を［モード 2］に設定している場合、誤ったパスワードを一定回数入力すると、管理者モードにログインできなくなります。

➔ ［ヘルプ表示設定］でポップアップヘルプを利用するかどうかを設定できます。詳しくは、3-7 ページをごらんください。

3　［OK］をクリックします。

管理者モードの画面が表示されます。

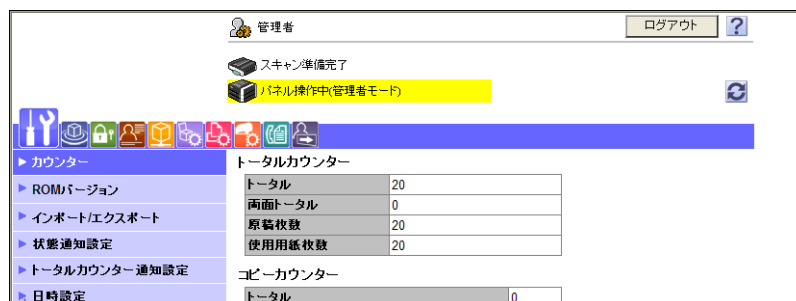
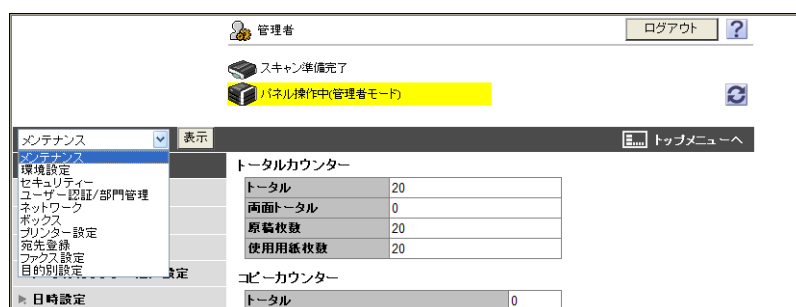
3.3　管理者モードの表示モードを設定する

PageScope Web Connection の管理者モードの表示モードを、［タブ表示］と［リストボックス表示］から選択できます。

［表示設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［表示設定］を選択します。

項目	説明
［管理者表示モード］	管理者モードの表示モードを選択します。

［タブ表示］

［リストボックス表示］

参考

- 本書では、表示モードを［リストボックス表示］に設定して説明しています。

3.4　　ポップアップヘルプを利用する

PageScope Web Connection の［ネットワーク］の画面では、ポップアップヘルプを利用できます。

画面上の項目をオンマウスまたはオンフォーカス（クリック）すると、該当の項目の説明がポップアップで表示されるため、項目の意味を確認しながら設定できます。

参考

- ネットワークの設定のみヘルプを表示できます。
- ポップアップヘルプは、オンマウスとオンフォーカス（クリック）の 2 つの方法で表示できます。オンマウスとオンフォーカスのどちらで表示するかについては、それぞれ個別に設定できます。

［ヘルプ表示設定］

項目	説明
［オンマウスで表示］	ポップアップヘルプをオンマウスで表示するかどうかを選択します。 オンマウスで表示する場合は、設定項目にオンマウスすると、その項目の説明が右側に表示されます。
［オンフォーカスで表示］	ポップアップヘルプをオンフォーカスで表示するかどうかを選択します。 オンフォーカスで表示する場合は、設定項目の入力エリアや選択肢をクリックすると、その項目の説明が右側に表示されます。

ポップアップヘルプの表示例

3.5　目的ごとにウィザード形式で設定する

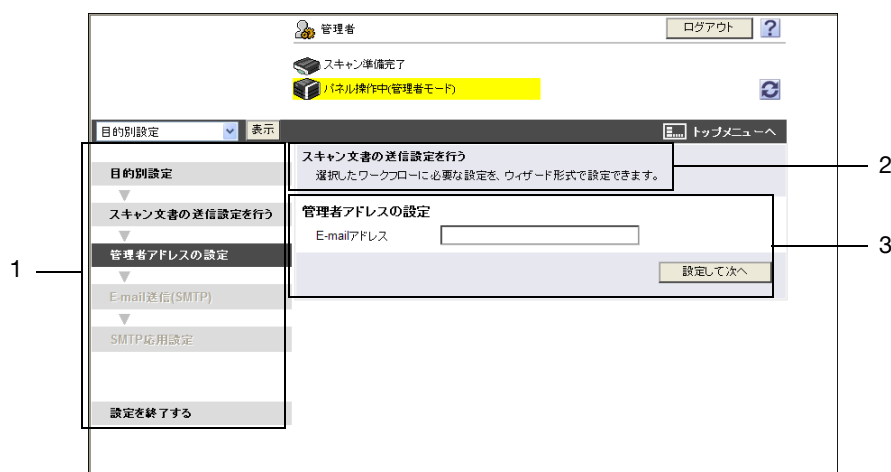
[目的別設定] では以下の機能を使用するための設定を、ウィザードに従って簡単に設定できます。

[スキャン文書の送信設定を行う]
- [スキャンしたデータを E-mail で送信する]
- [スキャンしたデータを E-mail で送信する (デジタル署名の添付)]
- [スキャンしたデータを E-mail で送信する (公開鍵による暗号化)]

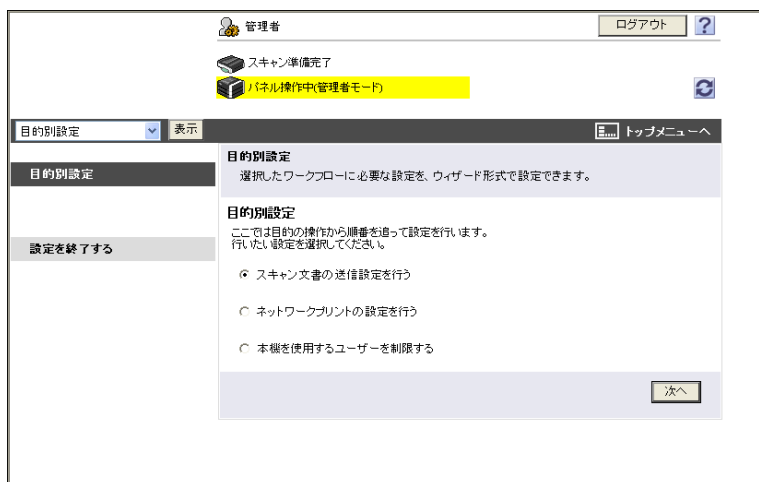
[ネットワークプリントの設定を行う]
- [LPR 印刷をする]
- [RAW ポートで印刷する]
- [SMB で印刷する]

[本機を使用するユーザーを制限する]
- [認証は行わない]
- [ユーザー認証のみで管理]
- [部門のみで管理]
- [ユーザー認証＋部門で管理]
- [外部認証サーバー（ActiveDirectory）で管理]

3.5.1　画面構成

[目的別設定] の画面は以下のように構成されています。

No.	項目	説明
1	フロー	目的の機能を使用するための設定の流れが表示されます。設定中の項目は濃い灰色で表示されます。
2	目的の表示	選択した目的が表示されます。
3	設定内容の表示	設定内容が表示されます。

3.5.2 ［目的別設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［目的別設定］を選択します。目的を選択し、ウィザードに従って設定してください。

参考

- 設定の途中で前の設定項目に戻りたい場合は、フローで戻りたい設定項目をクリックします。前に戻った場合は、戻った設定項目から再設定する必要があります。
- 設定の途中で終了したい場合は、フローで［設定を終了する］をクリックします。

3.6 Flash 表示を禁止する

PageScope Web Connection の Flash 形式での表示を禁止できます。

参考

- Flash 形式での表示を禁止すると、表示形式は HTML 形式に固定されます。
- Flash 形式での表示を禁止すると、データ管理ユーティリティーを使用できなくなります。

［Flash 表示設定］

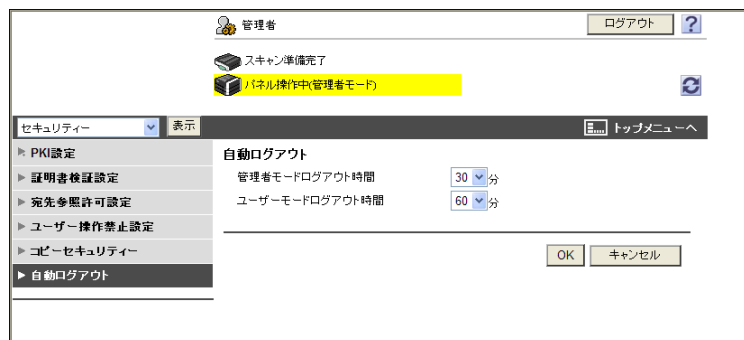
PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［Flash 表示設定］を選択します。

項目	説明
［Flash 表示の選択］	Flash 形式での表示を禁止する場合は、［許可しない］を選択します。

3.7　自動ログアウト時間を設定する

PageScope Web Connection の管理者モード、ユーザーモードの自動ログアウト時間を設定できます。
設定した時間内に操作が行われない場合は、自動的にログアウトします。

［自動ログアウト］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［自動ログアウト］ を選択します。

項目	説明
［管理者モードログアウト時間］	管理者モードで一定時間操作を行わない場合に、自動的にログアウトするまでの時間を選択します。
［ユーザーモードログアウト時間］	ユーザーモードで一定時間操作を行わない場合に、自動的にログアウトするまでの時間を選択します。

4 スキャンする

4　スキャンする

4.1　スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターに送信する

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターに送信（SMB 送信）するための設定を行います。

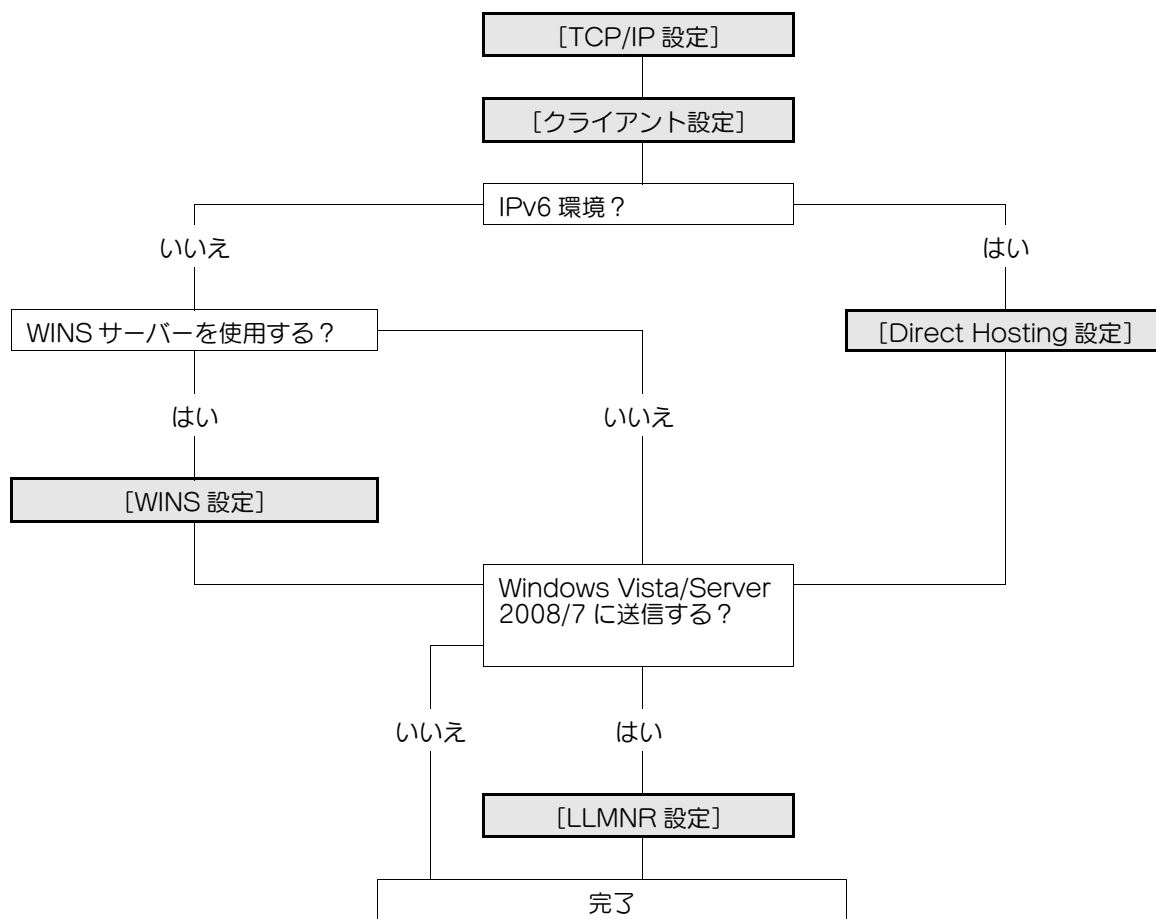
SMB 送信を行うには、データを受信するコンピューターで Windows のファイル共有の設定をあらかじめ行う必要があります。

Samba を導入している場合は、非 Windows OS 搭載のコンピューターへも送信できます。また、NetWare サーバー上で動作している CIFS サービス（TCP/IP）への SMB 送信にも対応しています。

ルーターを越えた先にあるコンピューターを Windows 名（NetBIOS 名）で指定する場合は、WINS サーバーを使用する必要があります。

IPv6 環境で送信する場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にする必要があります。ダイレクトホスティングサービスを有効にすると、送信先を IPv6 アドレスまたはコンピューター名（ホスト名）で指定できます。送信先をコンピューター名（ホスト名）で指定する場合は、DNS サーバーを利用し、IPv6 アドレスを取得します。

Windows Vista/Server 2008/7 を搭載したコンピューターに送信するときに名前解決を行う場合は、DNS サーバーの存在しない環境でも、LLMNR 機能を使用して名前解決を行うことができます。特に Windows Vista/Server 2008/7 で IPv6 のみの通信を行うように構築された環境で名前解決を行う場合は、LLMNR 機能を有効にすると便利です。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

SMB 宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

SMB によるファイルの送信方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

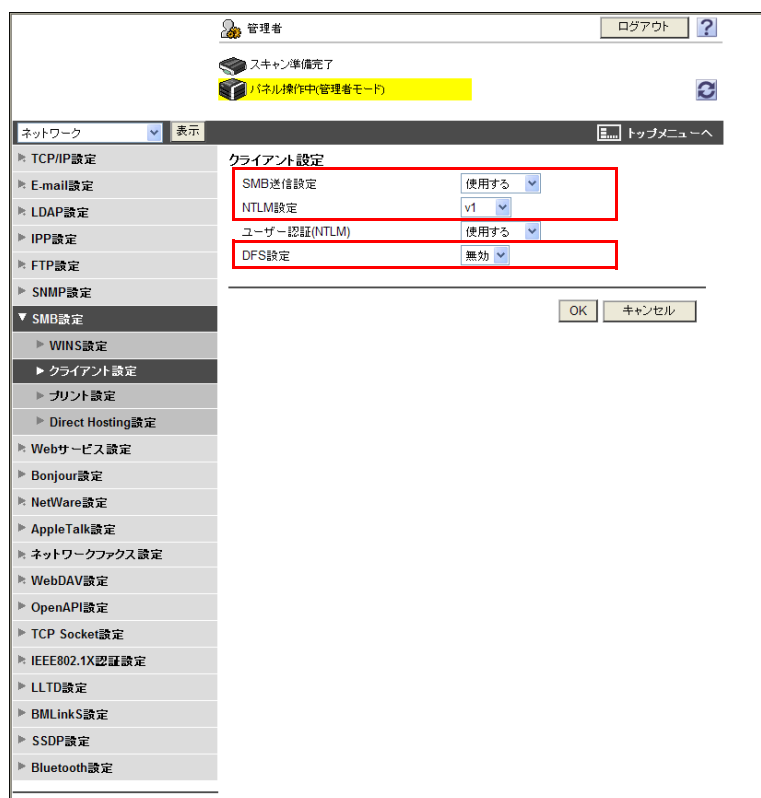
4.1.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- IPv6 環境で SMB 送信するときに、送信先のコンピューターをコンピューター名(ホスト名)で指定する場合は、DNS サーバーを用意し、本機の DNS に関する設定を行ってください。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.1.2 [クライアント設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [SMB 設定] ▸▸ [クライアント設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[SMB 送信設定]	[使用する] を選択します。	
[NTLM 設定]	NTLM のバージョンを設定します。 Windows 共有(Mac OSX)、Samba(Linux/Unix)へ SMB 送信する場合は、[v1] に設定してください。 Windows 98SE/Windows Me へ SMB 送信する場合は、[v1/v2] または [v1] に設定してください。	宛先の OS
[DFS 設定]	分散ファイルシステム(DFS)を用いて構築された環境で SMB 送信を行う場合は、[有効] を選択します。	DFS 環境かどうか

4.1.3　［WINS 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［SMB 設定］ ►► ［WINS 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［WINS］	WINS サーバーを使用する場合は、［使用する］を選択します。	
［WINS 自動取得設定］	WINS サーバーアドレスを自動取得する場合は、［有効］を選択します。 DHCP が有効の場合に設定します。	DHCP で自動取得可能か
［WINS サーバーアドレス 1］～［WINS サーバーアドレス 2］	WINS サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255）	サーバーのアドレス
［ノードタイプ設定］	名前解決の方法を設定します。 ・［B ノード］：ブロードキャストで問い合わせ ・［P ノード］：WINS サーバーに問い合わせ ・［M ノード］：ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせ ・［H ノード］：WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせ	

4.1.4 ［Direct Hosting 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［SMB 設定］ ►► ［Direct Hosting 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［Direct Hosting 設定］	IPv6 アドレスで通信する場合は、［使用する］を選択します。	IPv6 環境かどうか

4.1.5 ［LLMNR 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［TCP/IP 設定］ ►► ［TCP/IP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［LLMNR 設定］	DNS サーバーが動作していない環境で、Windows Vista/Server 2008/7 を搭載したコンピューターに送信するときに名前解決を行う場合は、［有効］を選択します。 特に IPv6 のみの通信を行うように構築された環境で名前解決を行う場合に設定します。	・ Windows Vista/Server 2008/7 か ・ DNS サーバーを使用しないか

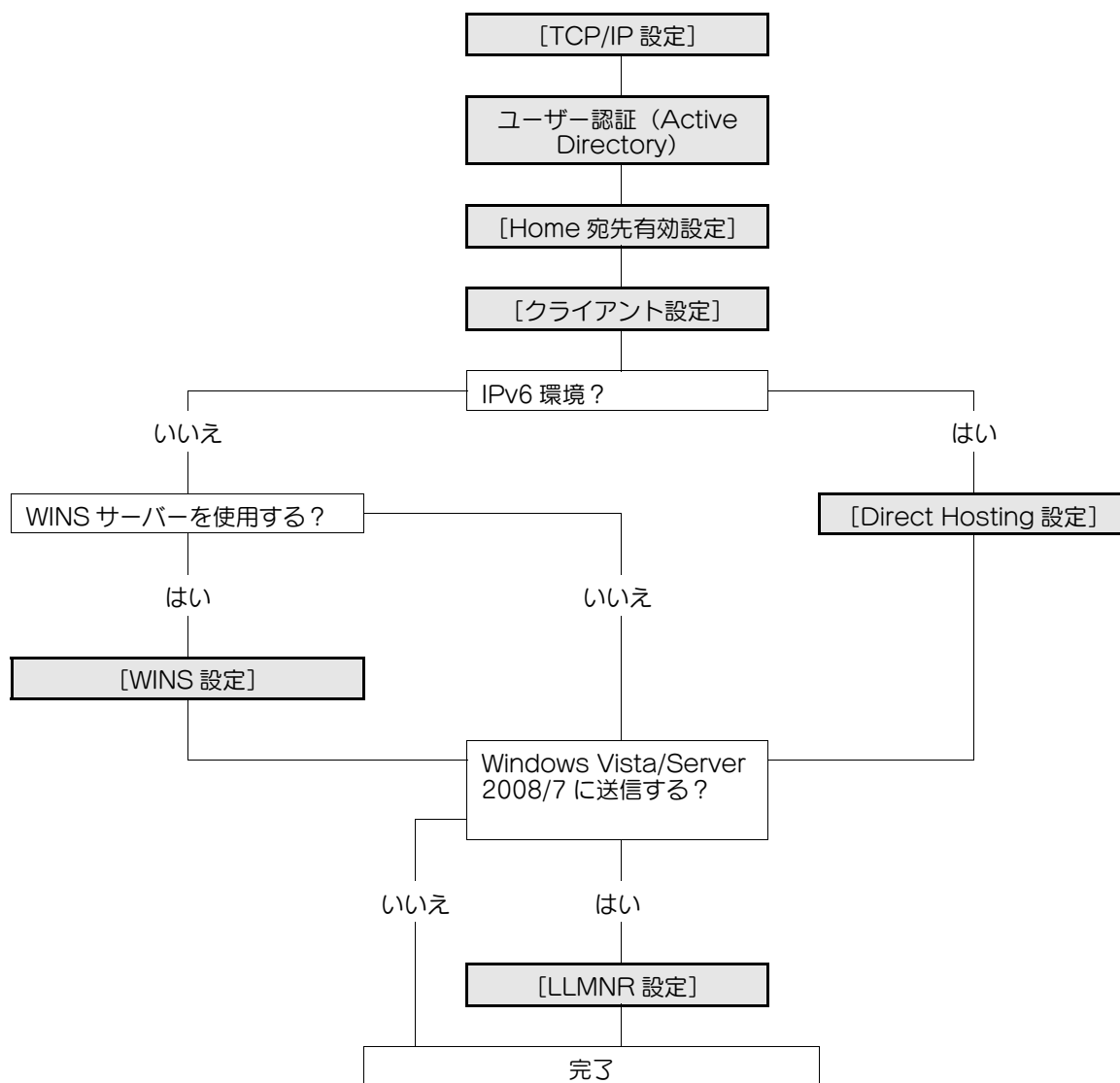
4.2 スキャンしたデータを自分のコンピューターに送信する（Scan to Home）

スキャンしたデータを自分のコンピューターに送信するための設定を行います。

この機能は、Active Directory でユーザー認証を行い、かつユーザーの Home フォルダーの位置を登録している場合に利用できます。

ログインしたユーザーの Home フォルダーが Active Directory に登録されている場合は、アドレス帳に［Home］が表示されます。宛先に［Home］を指定することで簡単に自分自身の Home フォルダーへ送信できます。

Home フォルダーへの送信時に認証する場合は、本機へのログイン時に Active Directory 認証で使用した［ユーザー名］と［パスワード］を使用して認証します。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- Scan to Home 機能を使用するには、Active Directory にユーザーの Home フォルダーが登録されている必要があります。また、ユーザーのメールアドレスまたはファクス番号が登録されている必要があります。
- Active Directory で Home フォルダーの位置を登録するときに、Home フォルダーのあるコンピューターを NetBIOS 名で指定する場合は、大文字で入力してください。
- SMB による Home フォルダーへのファイルの送信方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

4.2.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- IPv6 環境で SMB 送信するときに、送信先のコンピューターをコンピューター名（ホスト名）で指定する場合は、DNS サーバーを用意し、本機の DNS に関する設定を行ってください。

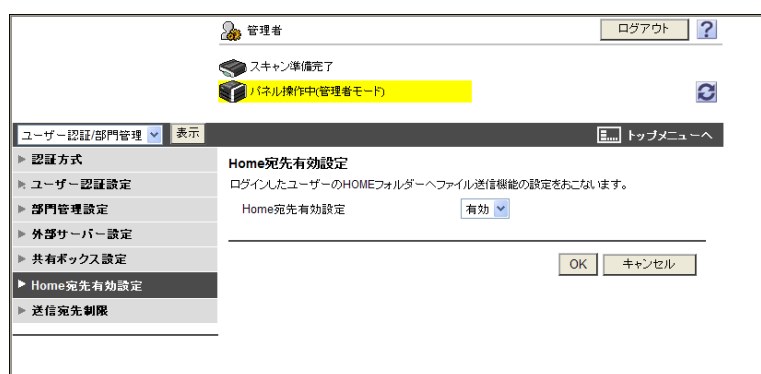
詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.2.2　ユーザー認証（Active Directory）

Active Directory で本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

詳しくは、7-9 ページをごらんください。

4.2.3　［Home 宛先有効設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸ ［Home 宛先有効設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［Home 宛先有効設定］	［有効］を選択します。	

4.2.4　［クライアント設定］

SMB クライアントの設定を行います。

詳しくは、4-3 ページをごらんください。

4.2.5　［WINS 設定］

ルーター経由で SMB 送信を行う場合は、WINS サーバーの設定を行います。

詳しくは、4-4 ページをごらんください。

4.2.6　［Direct Hosting 設定］

IPv6 環境で SMB 送信を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にします。

詳しくは、4-5 ページをごらんください。

4.2.7　［LLMNR 設定］

Windows Vista/Server 2008/7 と通信し、かつ DNS サーバーが動作していない環境で名前解決を行う場合は、LLMNR 機能を有効にします。

詳しくは、4-5 ページをごらんください。

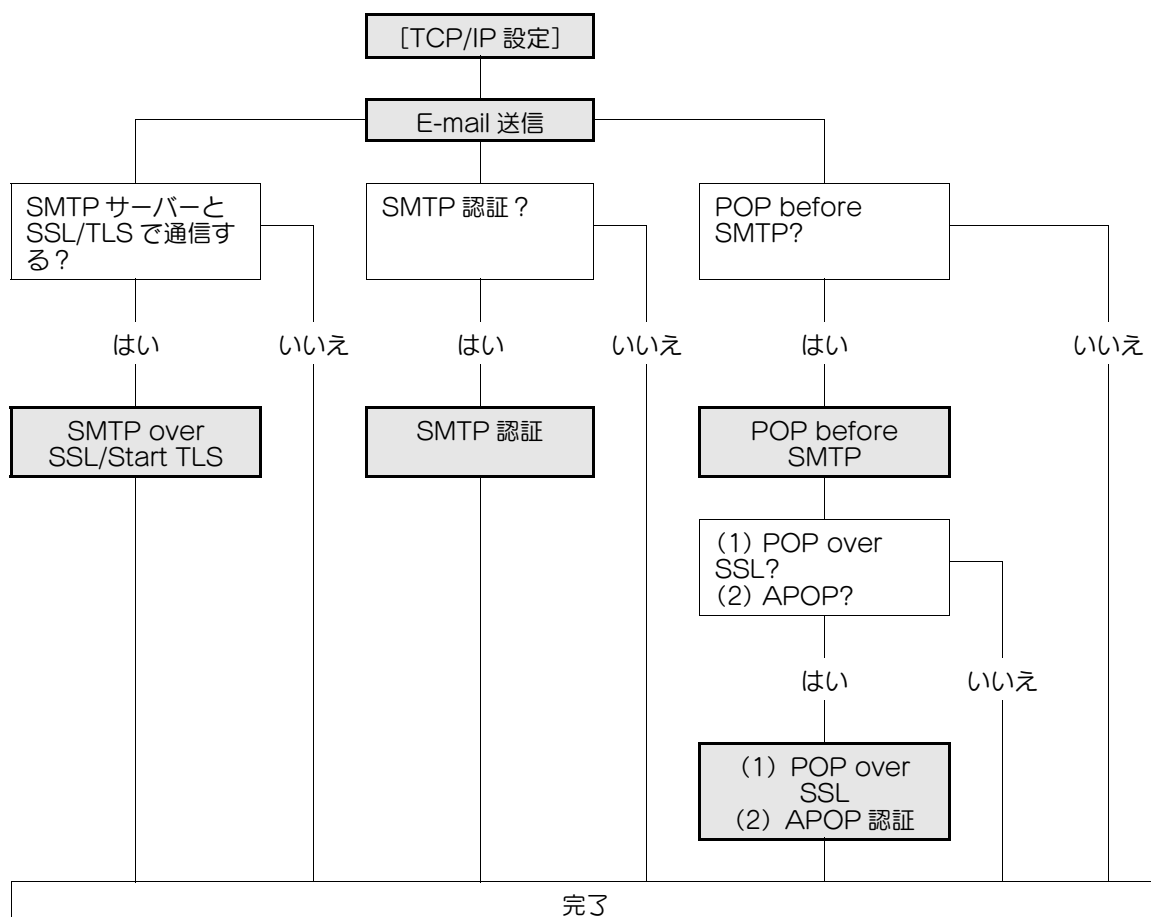
4.3　　スキャンしたデータを E-mail で送信する

スキャンしたデータを E-mail の添付ファイルとして、指定した E-mail アドレス宛に送信するための設定を行います。

SMTP サーバーが SMTP over SSL または Start TLS に対応している場合は、設定を行うことをおすすめします。SSL/TLS により通信を暗号化できるため、本機と SMTP サーバー間で安全に通信できます。

SMTP サーバーが SMTP 認証を要求している場合は、SMTP 認証の設定を行う必要があります。

SMTP サーバーが POP before SMTP 認証を要求している場合は、POP before SMTP の設定を行う必要があります。また、POP サーバーが POP over SSL や APOP 認証に対応している場合は、組み合わせて設定できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。

参照

E-mail 宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

E-mail でのファイルの送信方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

4.3.1　　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.3.2 E-mail 送信

［E-mail 送信（SMTP)］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［E-mail 設定］ ►► ［E-mail 送信（SMTP)］を選択します。

項目	説明	事前確認
［E-mail 送信設定］	［E-mail 送信設定］にチェックを入れます。	
［スキャン送信］	［使用する］を選択します。	
［SMTP サーバーアドレス］	SMTP サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.* （* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：25	サーバーのポート番号
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を設定します。	
［最大メールサイズ］	送信メールのサイズを制限するかどうか選択します。	
［サーバー容量］	SMTP サーバーの容量を入力します。サーバー容量の上限値を超えるメールは破棄されます。 メールを分割する場合は、この設定は無効となります。	サーバーの受信制限値
［管理者アドレス］	管理者の E-mail アドレスが表示されます。	

項目	説明	事前確認
[バイナリー分割]	メールを分割する場合は、チェックを入れます。 メールを受信したメールソフトに復元機能がない場合は、メールを読むことができない可能性があります。	メールソフトの復元機能
[分割メールサイズ]	メールを分割する場合は、分割メールサイズを入力します。	サーバーの受信制限値

[管理者アドレス]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[環境設定] ►► [本体登録] を選択します。

項目	説明	事前確認
[E-mail アドレス]	管理者の E-mail アドレスを設定します（半角 128 文字以内）。 管理者の E-mail アドレスを設定しなければ、E-mail を送信できません。 通常は管理者の E-mail アドレスが、本機から送信する E-mail の From アドレスに設定されます。 ユーザー認証を行う場合は、ユーザーの E-mail アドレスが From アドレスに設定されます。ただし、ユーザーの E-mail アドレスが登録されていない場合や、S/MIME を使用して送信する場合は、管理者の E-mail アドレスが From アドレスに設定されます。 [セキュリティー] ►► [ユーザー操作禁止設定] ►► [From アドレス変更] を [許可] に設定すれば、E-mail を送信する前に、ユーザーが From アドレスを変更できます。	管理者の E-mail アドレス

4.3.3 SMTP over SSL/Start TLS

[E-mail 送信（SMTP）]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ►► [E-mail 設定] ►► [E-mail 送信（SMTP）] を選択します。

項目	説明	事前確認
[SSL/TLS 使用]	本機と SMTP サーバー間の通信を SSL/TLS で暗号化する場合は、[SMTP over SSL] または [Start TLS] を選択します。	サーバーは SSL、Start TLS に対応するか
[ポート番号]	[Start TLS] を選択した場合は、ポート番号を入力します。 初期値：25	サーバーのポート番号
[ポート番号（SSL）]	[SMTP over SSL] を選択した場合は、SSL 通信で使用するポート番号を設定します。 初期値：465	サーバーのポート番号

項目	説明	事前確認
[証明書検証強度設定]	サーバー証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
[有効期限]	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
[CN]	サーバー証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。	
[鍵使用法]	サーバー証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	
[チェーン]	サーバー証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
[失効確認]	サーバー証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

[証明書検証設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[セキュリティー] ►► [証明書検証設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[証明書検証設定]	サーバー証明書を検証する場合は、[使用する] を選択します。	
[タイムアウト時間]	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
[OCSP サービス]	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
[URL]	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	

項目	説明	事前確認
［プロキシサーバーアドレス］	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

4.3.4　SMTP 認証

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［E-mail 設定］▸▸［E-mail 送信（SMTP）］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SMTP 認証］	SMTP 認証を行う場合は、チェックを入れます。 SMTP 認証の認証方式は、Digest-MD5, CRAM-MD5，PLAIN、LOGIN の中から、SMTP サーバーが対応している認証方式の中で最も強度が強いものが自動で選択されます。	サーバーは SMTP 認証を要求するか
［ユーザー ID］	SMTP 認証のユーザー ID を入力します（全角、半角 255 バイト以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	SMTP 認証のパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 128 バイト以内）。	
［ドメイン名］	SMTP 認証のドメイン名（realm）を入力します（半角 255 文字以内）。 認証方式が Digest-MD5 の場合に設定が必要になります。 ユーザーが所属するドメイン（realm）が 1 つの場合は、初期通信時に SMTP サーバーからドメイン名が通知され、そのドメイン名を使って自動的に通信するため、入力は不要です。ただし、ユーザーが所属するドメイン（realm）が 2 つ以上存在する場合は、ユーザーが所属するドメイン名を指定する必要があります。	認証方式
［認証設定］	ユーザー認証を行う場合に、SMTP 認証をユーザー認証と連動させるかどうかを選択します。 ［ユーザー認証を使用］を選択すると、ユーザー認証で使用するユーザー名とパスワードを SMTP 認証のユーザー ID とパスワードとして使用します。 ［設定値を使用］を選択すると、［ユーザー ID］と［パスワード］で入力した値を使用します。	ユーザー認証と連動させるか

4.3.5　POP before SMTP

［POP before SMTP］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［E-mail 設定］ ▸▸ ［E-mail 送信（SMTP）］を選択します。

項目	説明	事前確認
［POP before SMTP］	POP before SMTP 認証を行う場合は、［使用する］を選択します。	サーバーは POP before SMTP 認証を要求するか
［POP before SMTP 時間］	POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーにアクセスするまでの時間を入力します。 POP サーバーと SMTP サーバーが異なるコンピューターの場合は、POP サーバーにログインしたことを SMTP サーバーへ通知するための時間がかかります。そのため、設定時間が短すぎると、E-mail 送信できないことがあります。	POP サーバーと SMTP サーバーは異なるコンピューターか

［E-mail 受信（POP）］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［E-mail 設定］ ▸▸ ［E-mail 受信（POP）］を選択します。

項目	説明	事前確認
［E-mail 受信設定］	POP before SMTP 認証を行う場合は、［使用する］を選択します。	
［POP サーバーアドレス］	POP サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ログイン名］	POP サーバーのログイン名を設定します（半角 63 文字以内）。	

項目	説明	事前確認
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
[パスワード]	POP サーバーのログイン時のパスワードを設定します(半角 15 文字以内)。	
[接続タイムアウト]	サーバーとの通信のタイムアウト時間を設定します。	
[ポート番号]	ポート番号を入力します。 初期値:110	サーバーのポート番号

4.3.6 POP over SSL

[E-mail 受信(POP)]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ►► [E-mail 設定] ►► [E-mail 受信(POP)] を選択します。

項目	説明	事前確認
[SSL/TLS 使用]	本機と POP サーバー間の通信を SSL で暗号化する場合は、チェックを入れます。	サーバーは SSL に対応するか
[ポート番号(SSL)]	SSL 通信で使用するポート番号を入力します。 初期値:995	サーバーのポート番号
[証明書検証強度設定]	サーバー証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
[有効期限]	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
[CN]	サーバー証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか設定します。	
[鍵使用法]	サーバー証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	
[チェーン]	サーバー証明書のチェーン(証明のパス)に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
[失効確認]	サーバー証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL(Certificate Revocation List)の順番に行います。	

［証明書検証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸［証明書検証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	サーバー証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	
［タイムアウト時間］	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
［OCSP サービス］	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
［URL］	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	
［プロキシサーバーアドレス］	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

4.3.7 APOP 認証

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］►►［E-mail 設定］►►［E-mail 受信（POP）］を選択します。

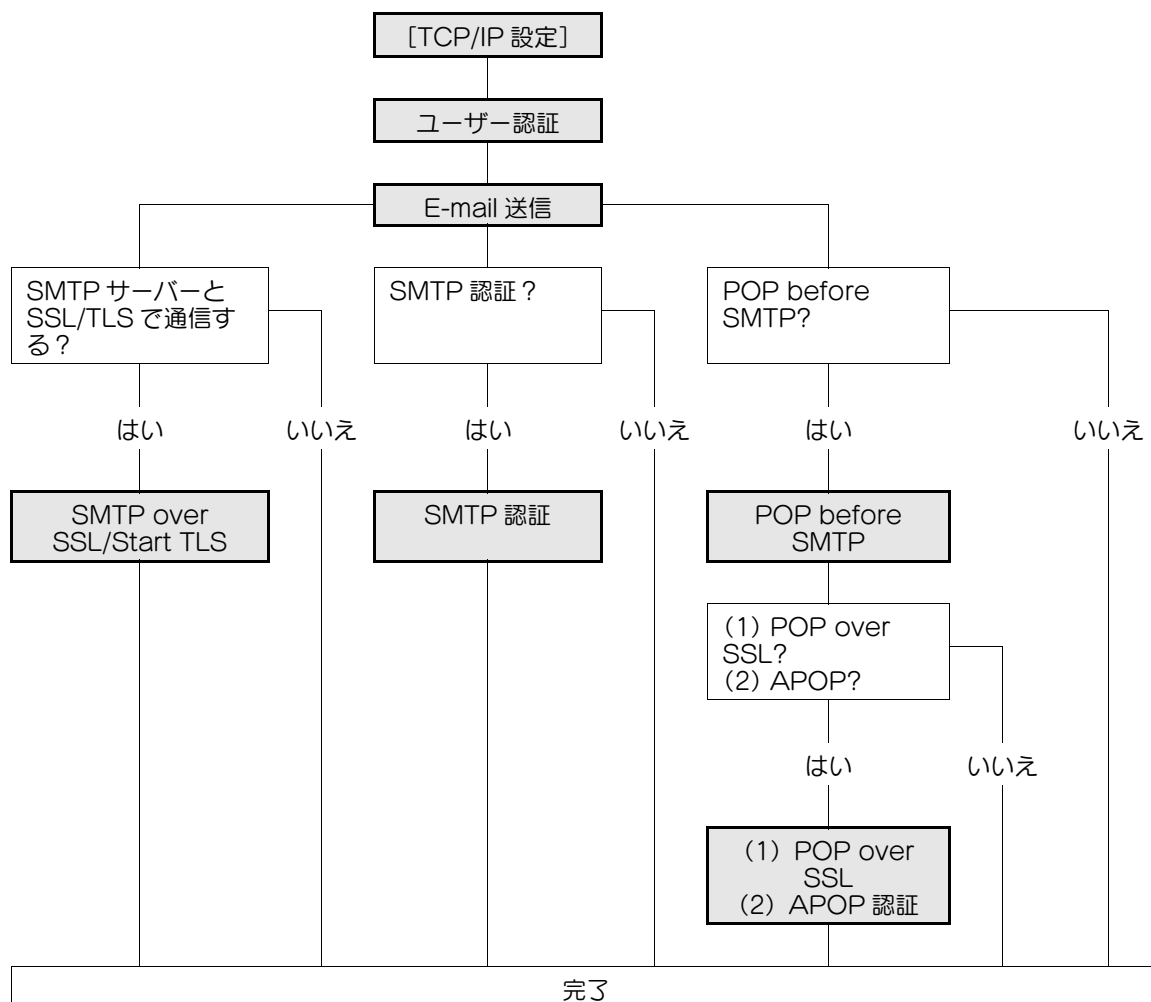
項目	説明	事前確認
［APOP 認証］	POP サーバーへログインするときに、ログイン名とパスワードを暗号化する場合は、［使用する］を選択します。 APOP を使用して POP サーバーにログインする場合は、パスワードが MD5 で暗号化されます。［使用する］を選択する場合は、事前に POP サーバーが APOP に対応しているかどうかを確認してください。POP サーバーが APOP に対応していないと、エラーとなり通信できません。	サーバーは APOP 認証を要求するか

4.4 スキャンしたデータを自分の E-mail アドレス宛に送信する（Scan to Me）

スキャンしたデータを自分の E-mail アドレス宛に送信するための設定を行います。

この機能は、ユーザー認証を行い、かつユーザーの登録情報として E-mail アドレスを登録している場合に利用できます。

ログインしたユーザーの E-mail アドレスが登録されている場合、アドレス帳に［Me］が表示されます。宛先に［Me］を指定することで簡単に自分の E-mail アドレス宛に送信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

自分の E-mail アドレス宛にファイルを送信する方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

4.4.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.4.2　ユーザー認証

本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

本体装置認証の場合

本体装置認証の場合は、以下の設定を行います。
- 本体で認証するための設定
- ユーザー登録時にユーザーの E-mail アドレスを登録する

本体装置認証の設定方法とユーザー登録の方法について詳しくは、7-2 ページをごらんください。

Active Directory 認証の場合

Active Directory 認証の場合は、以下の設定を行います。
- Active Directory で認証するための設定
- 本機から該当ユーザーの E-mail アドレスを、LDAP プロトコルを使って取得できるようにあらかじめサーバー側に登録しておく

Active Directory 認証の設定方法について詳しくは、7-9 ページをごらんください。

NTLM 認証／ NDS 認証の場合

NTLM 認証または NDS 認証の場合は、以下の設定を行います。
- NTLM または NDS で認証するための設定
- ユーザー登録でユーザーの E-mail アドレスを登録する

NTLM 認証の設定方法について詳しくは、7-14 ページをごらんください。

NDS over IPX/SPX 認証の設定方法について詳しくは、7-18 ページをごらんください。

NDS over TCP/IP 認証の設定方法について詳しくは、7-21 ページをごらんください。

4.4.3　E-mail 送信

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、4-9 ページをごらんください。

4.4.4　SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、4-10 ページをごらんください。

4.4.5　SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-12 ページをごらんください。

4.4.6　POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、4-13 ページをごらんください。

4.4.7　POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

4.4.8　APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

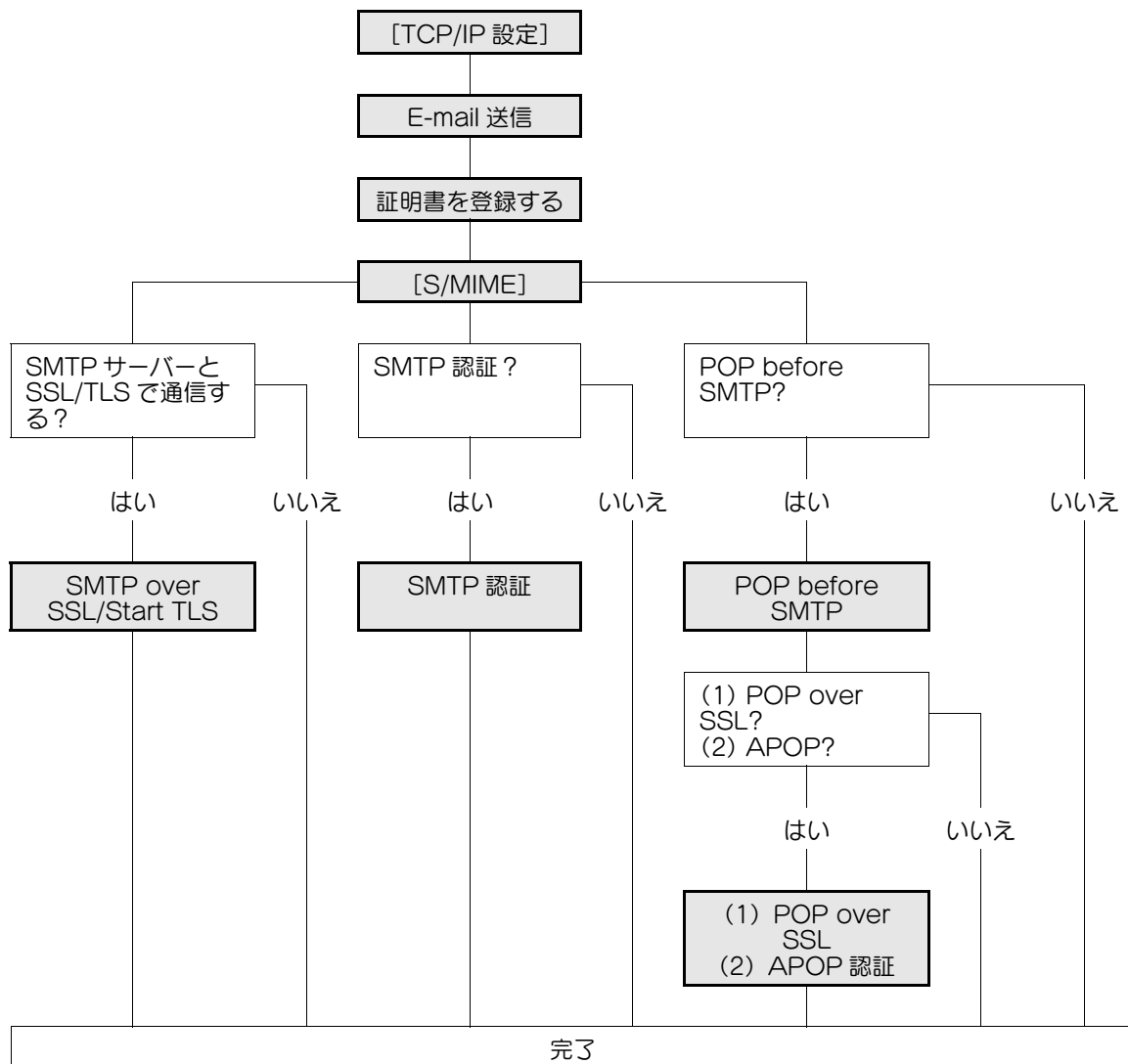
詳しくは、4-16 ページをごらんください。

4.5 スキャンしたデータを E-mail で送信する（デジタル署名の添付）

スキャンしたデータを E-mail で送信するときに、デジタル署名を添付して送信するための設定を行います。

デジタル署名を添付して E-mail を送信することで、E-mail の送信元が本機であることを証明するとともに、デバイス証明書をユーザーに送付できます。ユーザーは、取得した証明書（公開鍵）を使用して E-mail を暗号化して本機に送信できます。

POP before SMTP 認証、APOP 認証、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

4.5.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.5.2 E-mail 送信

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、4-9 ページをごらんください。

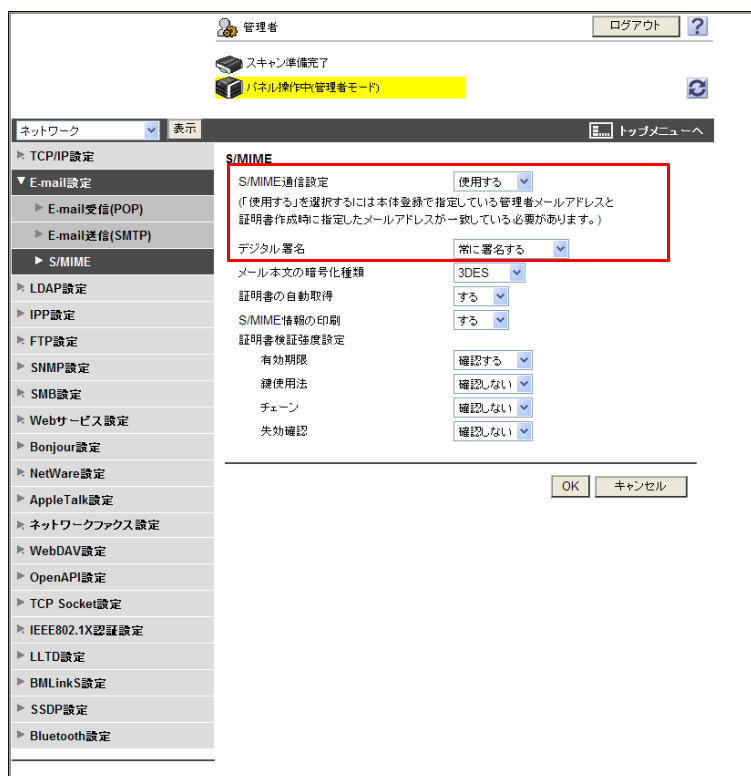
4.5.3　証明書を登録する

デバイス証明書を登録します。

- デジタル署名で使用するデバイス証明書の管理者アドレスと、E-mail の from アドレスが一致しない場合は、E-mail を送信できませんのでご注意ください。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

4.5.4　［S/MIME］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［E-mail 設定］ ▸▸ ［S/MIME］を選択します。

項目	説明	事前確認
［S/MIME 通信設定］	［使用する］を選択します。	
［デジタル署名］	［常に署名する］または［送信時に選択する］を選択します。	

4.5.5　SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、4-10 ページをごらんください。

4.5.6　SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-12 ページをごらんください。

4.5.7　POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、4-13 ページをごらんください。

4.5.8　　POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

4.5.9　　APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

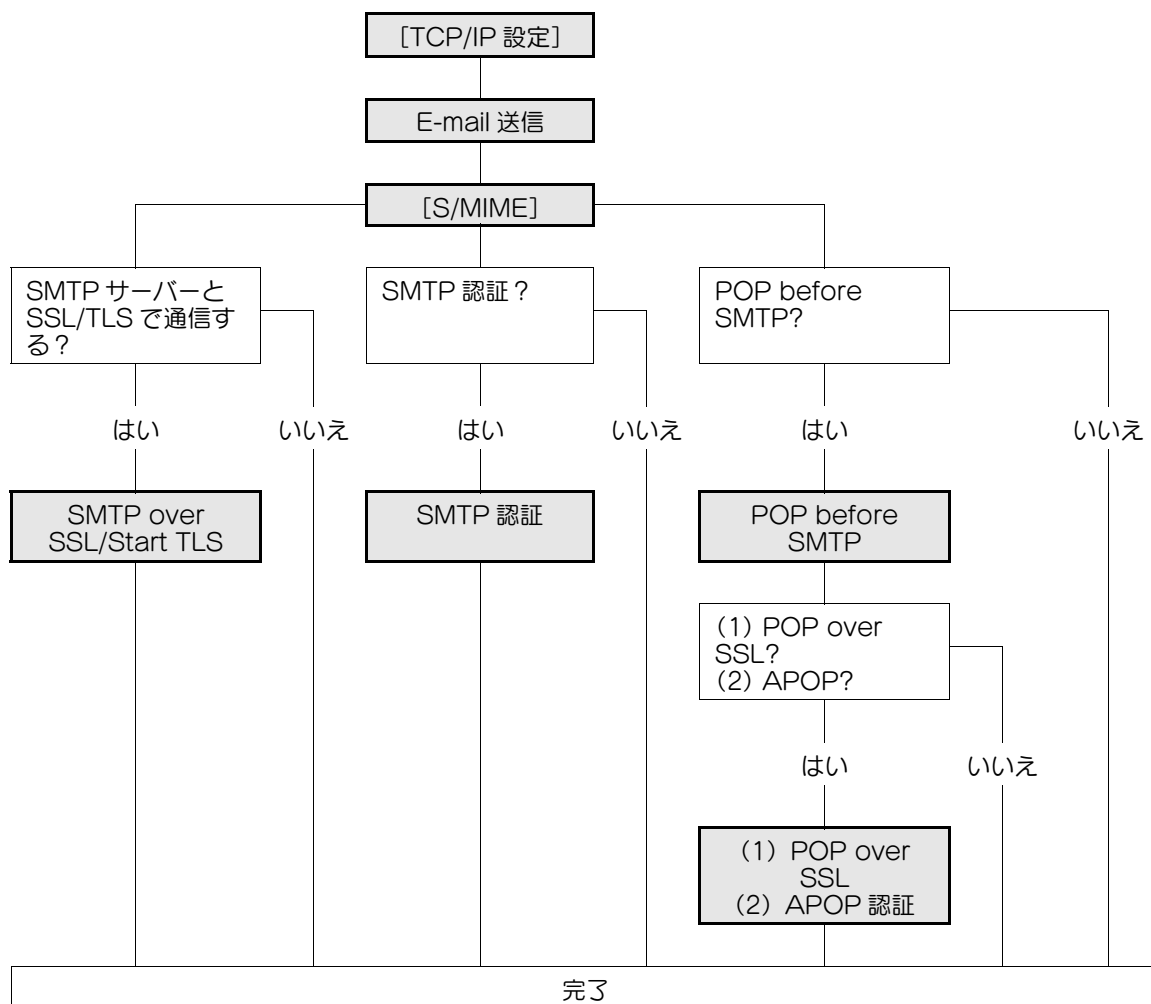
詳しくは、4-16 ページをごらんください。

4.6 スキャンしたデータを E-mail で送信する（公開鍵による暗号化）

スキャンしたデータを E-mail で送信するときに、本機に登録されているユーザーの証明書（公開鍵）を使用して E-mail を暗号化して送信するための設定を行います。

E-mail を暗号化して送信することで、伝送系路上での第三者への情報の漏洩を防止できます。また、デジタル署名を組み合わせることで、本機とメッセージの認証もできます。E-mail にデジタル署名を添付するための設定について詳しくは、4-20 ページをごらんください。

POP before SMTP 認証、APOP 認証、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照
証明書が登録されていない宛先は選択できません。E-mail を暗号化して送信するには、あらかじめ本機にユーザーの証明書を登録してください。詳しくは、8-13 ページをごらんください。

4.6.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

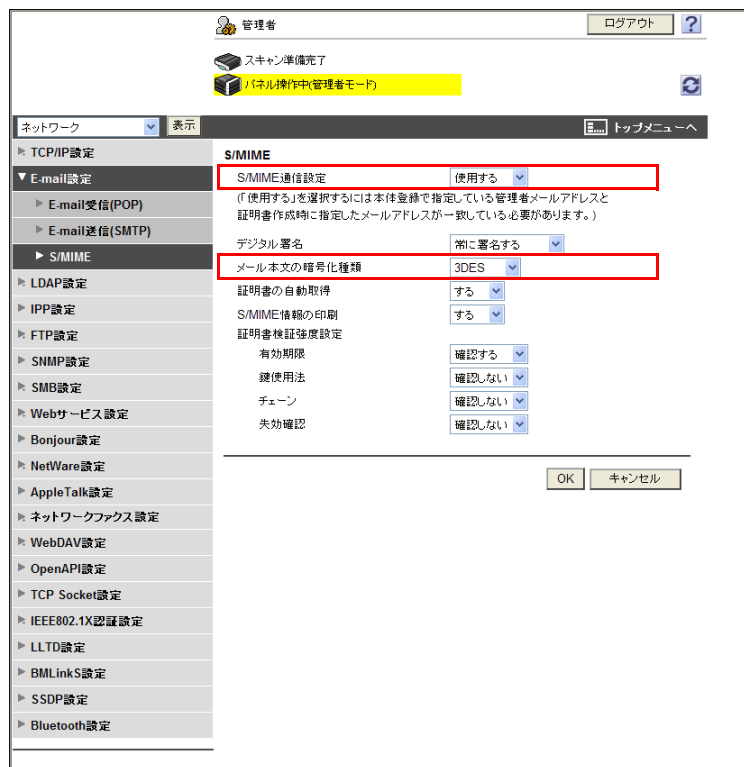
詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.6.2 E-mail 送信

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、4-9 ページをごらんください。

4.6.3　［S/MIME］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］►►［E-mail 設定］►►［S/MIME］を選択します。

項目	説明	事前確認
［S/MIME 通信設定］	［使用する］を選択します。	
［メール本文の暗号化種類］	メール本文の暗号化形式を選択します。	

4.6.4　SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、4-10 ページをごらんください。

4.6.5　SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-12 ページをごらんください。

4.6.6　POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、4-13 ページをごらんください。

4.6.7　POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

4.6.8 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

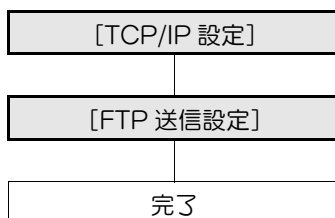
詳しくは、4-16 ページをごらんください。

4.7　スキャンしたデータを FTP サーバーに送信する

スキャンしたデータを FTP サーバーに送信するための設定を行います。

FTP サーバーのあるネットワーク環境で、スキャンしたデータをネットワーク上の FTP サーバー内の指定したフォルダーへ送信できます。FTP サーバーに送信したデータは、ネットワーク上のコンピューターからダウンロードできます。高解像度のデータなど、容量の大きなデータの送信に適しています。

ネットワーク環境にプロキシサーバーがある場合は、プロキシサーバー経由でインターネット上の FTP サーバーにアクセスするように設定できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

FTP 宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

FTP によるファイルの送信方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

4.7.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.7.2　［FTP 送信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［FTP 設定］ ►► ［FTP 送信設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［FTP 送信］	［使用する］を選択します。	
［プロキシサーバーアドレス］	プロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を入力します。	
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：21	サーバーのポート番号

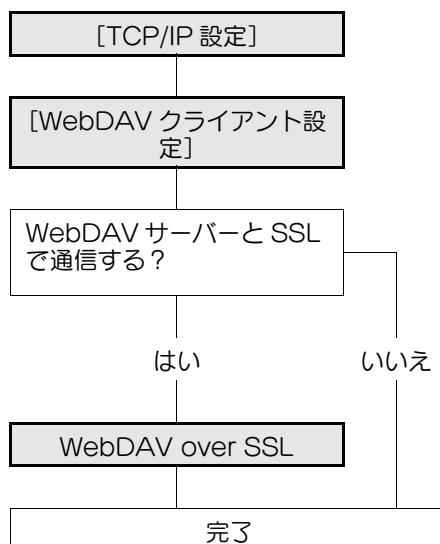
4.8　スキャンしたデータを WebDAV サーバーに送信する

スキャンしたデータを WebDAV サーバーへ送信するための設定を行います。

WebDAV サーバーのあるネットワーク環境で、スキャンしたデータをネットワーク上の WebDAV サーバー内の指定したフォルダーへ送信できます。WebDAV サーバーに送信したデータは、ネットワーク上のコンピューターからダウンロードできます。

WebDAV は HTTP の拡張仕様であるため、HTTP のセキュリティー技術をそのまま流用できます。WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全にファイルを送信できます。

ネットワーク環境にプロキシサーバーがある場合は、プロキシサーバー経由でインターネット上の WebDAV サーバーにアクセスするように設定できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

WebDAV 宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

SSL で暗号化して送信するかどうかについては、宛先登録時に設定します。詳しくは、11-7 ページをごらんください。

WebDAV によるファイルの送信方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

4.8.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.8.2 ［WebDAV クライアント設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［WebDAV 設定］ ►► ［WebDAV クライアント設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［WebDAV 送信設定］	［使用する］を選択します。	
［プロキシサーバーアドレス］	プロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［チャンク送信］	WebDAV サーバーへの送信時に、チャンク送信（一括送信）するか非チャンク送信（分割送信）するかを選択します。 初期設定では［非チャンク送信］に設定されています。 送信する WebDAV サーバーに合わせて設定を変更してください。	サーバーが対応している方式
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を入力します。	
［サーバー認証文字コード］	WebDAV サーバーで認証するときに使用する文字コードを選択します。 **操作パネル**の表示言語を［日本語］に設定している場合に設定できます。	

4.8.3　　WebDAV over SSL

［証明書検証強度設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［WebDAV 設定］ ▸▸ ［WebDAV クライアント設定］を設定します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証強度設定］	サーバー証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
［有効期限］	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
［CN］	サーバー証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。	
［鍵使用法］	サーバー証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	
［チェーン］	サーバー証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
［失効確認］	サーバー証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

［証明書検証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［証明書検証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	サーバー証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	
［タイムアウト時間］	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
［OCSP サービス］	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	

項目	説明	事前確認
[URL]	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	
[プロキシサーバーアドレス]	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
[プロキシサーバーポート番号]	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
[ユーザー名]	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
[パスワード]	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
[プロキシサーバーを使用しないアドレス]	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

4.9 TWAIN スキャンで画像を取り込む

本機をスキャナーとして使用するための設定を行います。

TWAIN ドライバーを使うと、本機をスキャナーとして使用できます。ネットワーク接続されたコンピューターから本機を制御し、スキャンしたデータをコンピューター上のアプリケーションへ取り込んで加工などができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

TWAIN ドライバーのインストールについて詳しくは、Driver CD-ROM 内の TWAIN ドライバーのマニュアルをごらんください。

4.9.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.9.2 [SLP 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [TCP/IP 設定] ▸▸ [TCP/IP 設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[SLP]	TWAIN で本機を検索したい場合は、[有効] を選択します。	

4.9.3 ［TCP Socket 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［TCP Socket 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［TCP Socket］	TWAIN ドライバーを使用する場合は、チェックを入れます。	
［ポート番号］	ポート番号を入力します。	

4.9.4 ［ネットワーク TWAIN］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ▸▸ ［ネットワーク TWAIN］を選択します。

項目	説明	事前確認
［TWAIN 操作ロック時間］	TWAIN スキャンによる操作ロックの自動解除時間を入力します。	

4.10 WS スキャン機能を使用する

Windows Vista/Server 2008/7 の Web サービス機能でスキャンするための設定を行います。

Web サービス機能により、ネットワーク接続された本機を自動的に検出して WS スキャナーとしてインストールできます。スキャン時に WS スキャナーとしてインストールした本機を指定することで、通信に HTTP を使用してスキャンできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

WS スキャン機能について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

4.10.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

4.10.2 ［Web サービス共通設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［Web サービス設定］ ►► ［Web サービス共通設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［Friendly Name］	Friendly Name を入力します（半角 62 文字以内）。	
［Publication Service］	Windows Vista/Server 2008/7 で NetBIOS が無効、または IPv6 のみの通信を行うように構築された環境で本機を使用する場合は、［有効］を選択します。 Publication Service による接続先の検出は、NetBIOS による接続先の検出と合わせて、最大 512 個まで検出できます。	

4.10.3　［スキャナー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［Web サービス設定］ ▸▸ ［スキャナー設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［スキャン機能］	［使用する］を選択します。	
［スキャナー名］	スキャナー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［スキャナー設置場所］	スキャナー設置場所を入力します（半角 63 文字以内）。	
［スキャナー情報］	スキャナー情報を入力します（半角 63 文字以内）。	
［接続タイムアウト］	接続のタイムアウト時間を入力します。	

5 プリントする

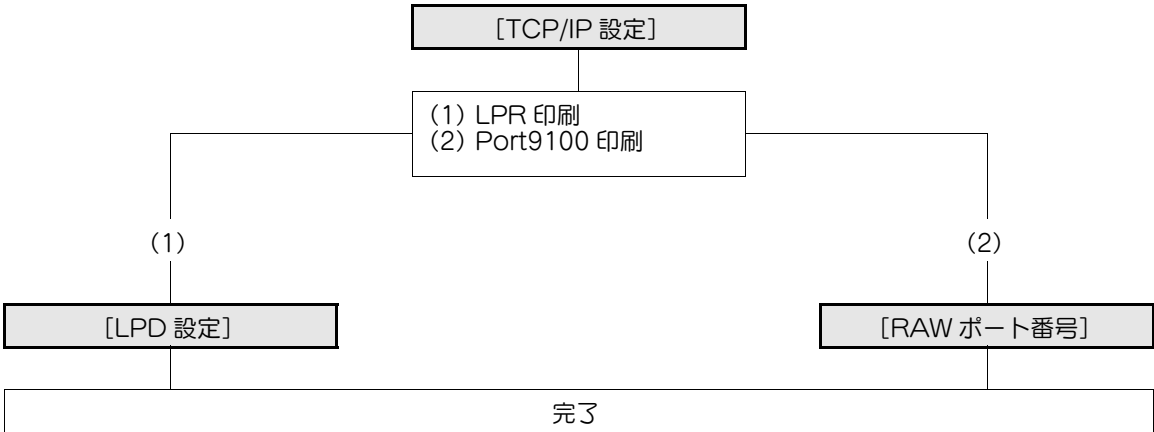
5　プリントする

5.1　プリントする（LPR/Port9100）

LPR、Port9100 で印刷するための設定を行います。

LPR 印刷は、LPR プロトコルを使用してネットワーク経由で印刷します。主に UNIX 系の OS で利用されています。

Port9100 印刷は、印刷先のプリンターとして TCP/IP ネットワークに接続された本機の RAW ポート（Port9100）を直接指定することで、ネットワーク経由で印刷します。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照
プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

5.1.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

5.1.2　［LPD 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［TCP/IP 設定］▸▸［TCP/IP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［LPD］	［有効］を選択します。	

5.1.3 ［RAW ポート番号］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［TCP/IP 設定］▸▸［TCP/IP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［RAW ポート番号］	使用するポートにチェックを入れ、RAW ポート番号を入力します。	

参考

- PageScope Web Connection および**操作パネル**で、複数のポート番号を同時に変更して［OK］を選択した場合、ポート番号重複エラーが表示されることがあります。エラーが表示される場合は、まず一方のポート番号を変更して［OK］を選択し、その後もう一方のポート番号を変更して［OK］を選択してください。

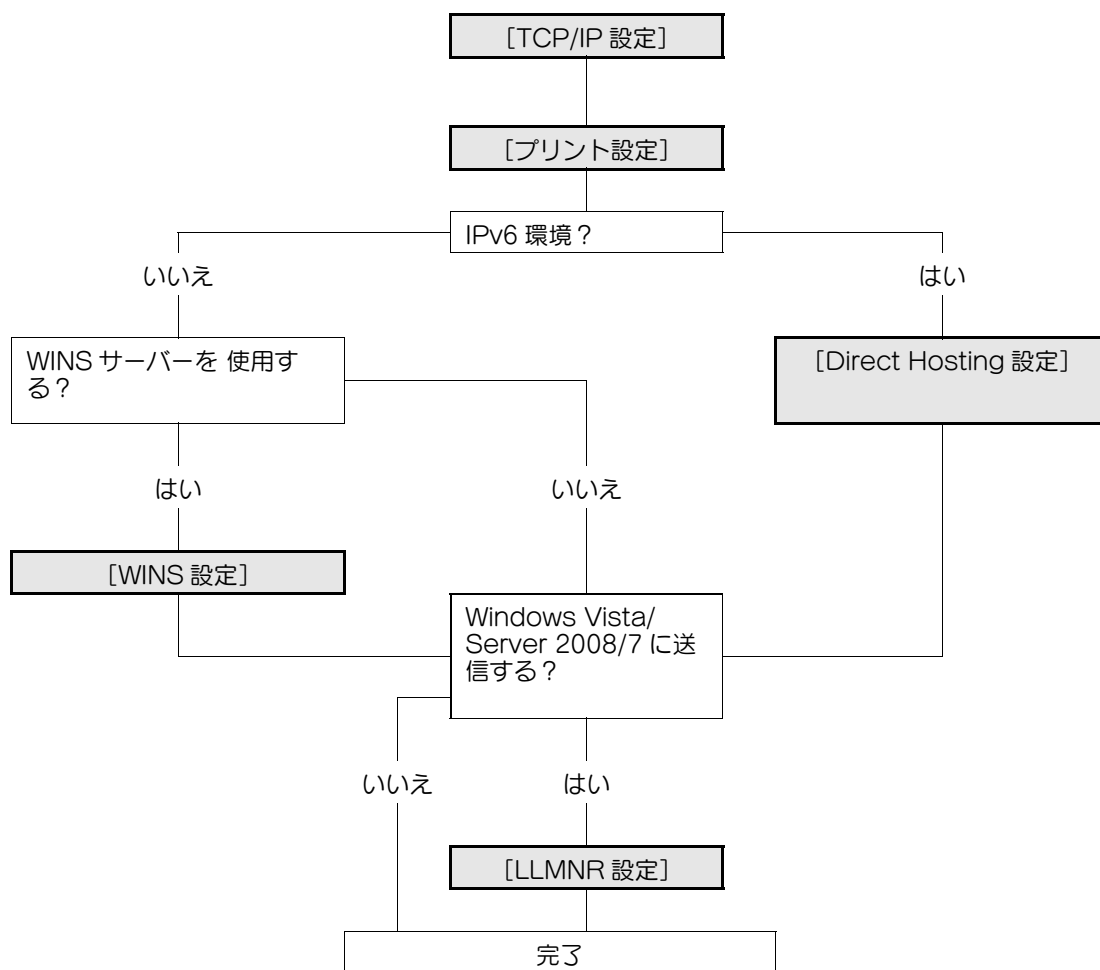
5.2　プリントする（SMB）

SMB で印刷するための設定を行います。

SMB プロトコルを使用して、Windows ネットワーク上でプリンターを共有できます。SMB 印刷は、コンピューターから Windows ネットワーク上の本機を直接指定することで印刷します。

IPv6 環境で SMB 印刷を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にする必要があります。

Windows Vista/Server 2008/7 を搭載したコンピューターから SMB 印刷を行うときに名前解決を行う場合は、DNS サーバーの存在しない環境でも、LLMNR 機能を使用して名前解決を行うことができます。特に Windows Vista/Server 2008/7 で IPv6 のみの通信を行うように構築された環境で名前解決を行う場合は、LLMNR 機能を有効にすると便利です。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照
プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

5.2.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

5.2.2 ［プリント設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［SMB 設定］ ▸▸ ［プリント設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［プリント設定］	［使用する］を選択します。	
［NetBIOS 名］	NetBIOS 名を大文字で入力します（半角 15 文字以内、記号は - のみ使用可能）。	
［プリントサービス名］	プリントサービス名を大文字で入力します（/ ¥を除く半角 12 文字以内）。	
［ワークグループ］	ワークグループ名を大文字で入力します（" ¥ ; : , * < > | + = ? を除く半角 15 文字以内）。	所属するワークグループ

5.2.3 ［WINS 設定］

ルーター経由で SMB 印刷を行う場合は、WINS サーバーの設定を行います。

詳しくは、4-4 ページをごらんください。

5.2.4 ［Direct Hosting 設定］

IPv6 環境で SMB 印刷を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にします。

詳しくは、4-5 ページをごらんください。

5.2.5 ［LLMNR 設定］

Windows Vista/Server 2008/7 と通信し、かつ DNS サーバーが動作していない環境で名前解決を行う場合は、LLMNR 機能を有効にします。

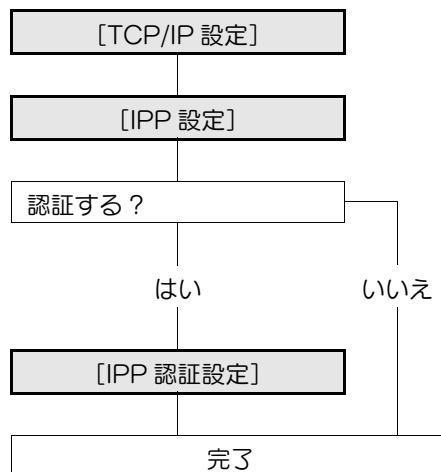
詳しくは、4-5 ページをごらんください。

5.3 プリントする（IPP）

IPP で印刷するための設定を行います。

IPP 印刷は、IPP プロトコルを使用してネットワーク経由で印刷する機能です。HTTP プロトコルを用いてネットワーク上のプリンターに印刷データを転送できるため、インターネットを経由して遠隔地のプリンターに出力することもできます。

IPP 印刷時に認証を行うように設定することで、第三者の不正利用を防止できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照
プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

5.3.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

5.3.2 ［IPP 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［IPP 設定］ を選択します。

項目	説明	事前確認
［IPP］	［使用する］ を選択します。	
［IPP 設定ジョブ許可］	［使用する］ を選択します。	
［プリンター名］	プリンター名を入力します（半角 127 文字以内）。	
［プリンター設置場所］	プリンター設置場所を入力します（半角 127 文字以内）。	
［プリンター情報］	プリンター情報を入力します（半角 127 文字以内）。	
［プリンター URI］	IPP を利用してプリントできるプリンターの URI が表示されます。	
［オペレーションサポート情報］	IPP で許可する操作にチェックを入れます。	
［印刷ジョブ］	印刷ジョブを許可するかどうかを選択します。 IPP 印刷を行う場合は、チェックを入れてください。	
［有効ジョブ］	有効ジョブの確認を許可するかどうかを選択します。	
［キャンセルジョブ］	ジョブのキャンセルを許可するかどうかを選択します。	
［ジョブ属性取得］	ジョブ属性の取得を許可するかどうかを選択します。	
［ジョブ取得］	ジョブ属性の一覧の取得を許可するかどうかを選択します。	
［プリンター属性取得］	プリンター属性の取得を許可するかどうかを選択します。	

5.3.3 ［IPP 認証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［IPP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［IPP 認証設定］	IPP 印刷時に認証を行う場合は、チェックを入れます。	
［認証方式］	認証方式を選択します。	
［ユーザー名］	ユーザー名を入力します（：を除く半角 20 文字以内）。 ［認証方式］で、［basic］または［digest］を選択した場合に入力します。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	パスワードを入力します（半角 20 文字以内）。 ［認証方式］で、［basic］または［digest］を選択した場合に入力します。	
［realm］	realm を入力します（半角 127 文字以内）。 ［認証方式］が［digest］の場合に設定が必要になります。	

5.4 プリントする（IPPS）

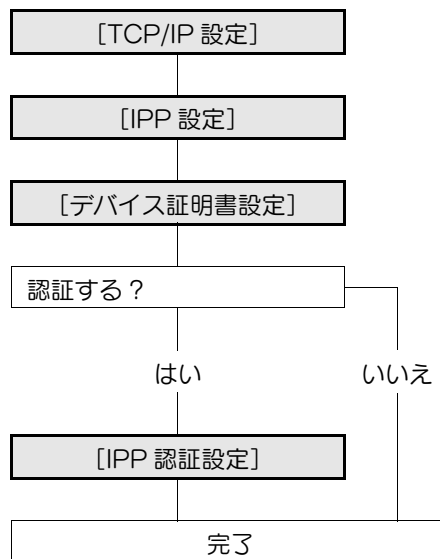
IPPS で印刷するための設定を行います。

本機で IPP 印刷を行うときに、コンピューターと本機の通信を SSL で暗号化します。SSL で暗号化することで、IPP 印刷時のセキュリティーを強化できます。

Windows Vista/Server 2008/7 で IPPS 印刷を行う場合は、以下の確認をしてください。

- 「https:// ホスト名 . ドメイン名 /ipp」を入力します。ホスト名とドメイン名には、［TCP/IP 設定］の［DNS ホスト名］と［DNS デフォルトドメイン名］で設定した名称を指定してください。
- コンピューター側から本機を DNS により名前解決できる必要があります。あらかじめ DNS サーバーに本機を登録して、コンピューター側で DNS の設定を行ってください。
- 本機の証明書が CA（認証局）により発行されたものでない場合は、ローカルコンピュータの［信頼されたルート証明機関］にデバイス証明書を登録してください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

5.4.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- Windows Vista/Server 2008/7 で IPPS 印刷を行う場合は、証明書を作成する前に、［TCP/IP 設定］で［DNS ホスト名］、［DNS デフォルトドメイン名］を正しく設定してください。この設定が正しく行われていないと、IPPS で本機に接続できません。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

5.4.2 ［IPP 設定］

IPP 印刷の設定を行います。

詳しくは、5-7 ページをごらんください。

5.4.3 ［デバイス証明書設定］

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

5.4.4　［IPP 認証設定］

IPP 印刷時に認証を行う場合に設定します。

詳しくは、5-8 ページをごらんください。

5.5 プリントする（Bonjour）

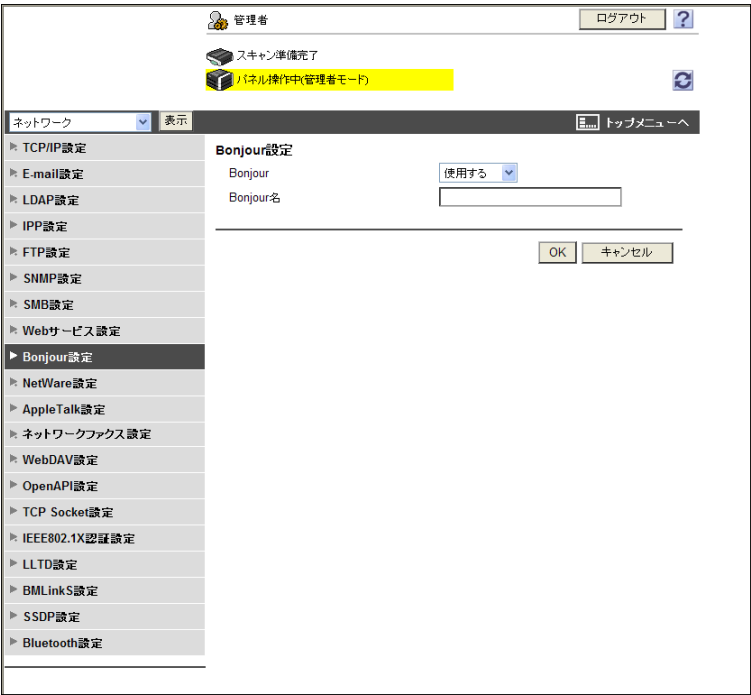
本機を Macintosh と Bonjour 接続して印刷するための設定を行います。

本機を Macintosh と Bonjour 接続して使用する場合は、あらかじめ本機で Bonjour の設定を行います。

参照

プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

［Bonjour 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［Bonjour 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［Bonjour］	［使用する］を選択します。	
［Bonjour 名］	接続機器名として表示させる Bonjour 名を入力します（半角 63 文字以内）。	

5.6 プリントする（AppleTalk）

本機を Macintosh と AppleTalk 接続して印刷するための設定を行います。

本機を Macintosh と AppleTalk 接続して使用する場合は、あらかじめ本機で AppleTalk の設定を行います。

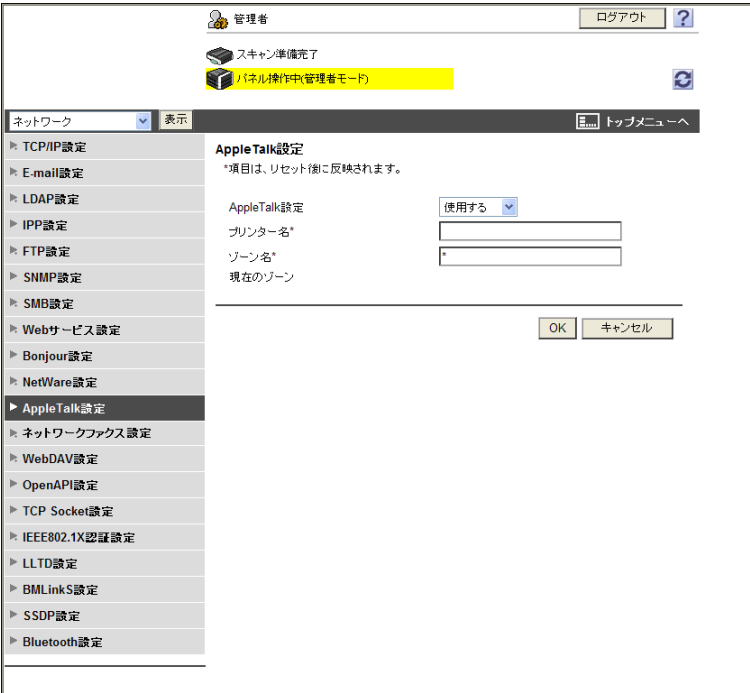
参考

- AppleTalk による接続は、Mac OS X 10.2/10.3/10.4/10.5 までの対応になります。

参照

プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、[ユーザーズガイド プリンター機能編] をごらんください。

[AppleTalk 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [AppleTalk 設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[AppleTalk 設定]	[使用する] を選択します。	
[プリンター名]	セレクタに表示されるプリンター名を入力します（=˜ を除く半角 31 文字以内）。	
[ゾーン名]	本機が属するゾーン名を入力します（半角 31 文字以内）。	
[現在のゾーン]	現在のゾーン名が表示されます。	

5.7 プリントする（NetWare）

NetWare 環境で印刷するための設定を行います。

NetWare 環境で印刷する場合は、あらかじめ本機で NetWare の設定を行います。

参照

プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、[ユーザーズガイド プリンター機能編] をごらんください。

必要に応じて、NetWare 接続の状態を確認できます。詳しくは、5-17 ページをごらんください。

5.7.1 [NetWare 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [NetWare 設定] ▸▸ [NetWare 設定] を選択します。

使用環境によって、設定項目が異なります。以下を参考にして設定してください。

NetWare 4.x バインダリエミュレーション動作モードでのリモートプリンターモードの場合

✔ バインダリエミュレーションを使用する場合は、NetWare Server でバインダリエミュレーションが有効になっていることを確認してください。

1 クライアントより NetWare に Admin 権限で Bindery としてログインします。

2 Pconsole を起動します。

3 [利用可能な項目] から [クイックセットアップ] を選択し、Enter キーを押します。

4 [プリントサーバー名]、[プリンタ名]、[プリントキュー名] を入力し、プリンターの [タイプ] 名を [その他／不明] に設定して、保存します。

5 Esc キーを押し、Pconsole を終了します。

6 NetWare Server のコンソールで、PSERVER.NLM をロードしてください。

続いて、[NetWare 設定] で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ
［NetWare プリントモード］	［Nprinter/Rprinter］を選択します。	
［プリントサーバー名］	Nprinter/Rprinter として動作させる場合のプリントサーバー名を入力します（/ ￥ : ; , * [ ] < > | + = ? . を除く半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
［プリンター番号］	Nprinter/Rprinter のプリンター番号を入力します。	

NetWare 4.x バインダリエミュレーション動作モードでのプリントサーバーモードの場合

✔ バインダリエミュレーションを使用する場合は、NetWare Server でバインダリエミュレーションが有効になっていることを確認してください。

✔ プリントサーバーモードを使用する場合は、NetWare サーバーに IPX プロトコルがロードされている必要があります。

1 クライアントより NetWare に Admin 権限で Bindery としてログインします。

2 Pconsole を起動します。

3 ［利用可能な項目］から［クイックセットアップ］を選択し、Enter キーを押します。

4 ［プリントサーバー名］、［プリンタ名］、［プリントキュー名］を入力し、プリンターの［タイプ］名を［その他／不明］に設定して、保存します。

5 Esc キーを押し、Pconsole を終了します。

続いて、［NetWare 設定］で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ
［NetWare プリントモード］	［PServer］を選択します。	
［プリントサーバー名］	Pserver として動作させる場合のプリントサーバ名を入力します（/ ￥ : ; , * [ ] < > | + = ? . を除く半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
［プリントサーバーパスワード］	必要に応じて、プリントサーバーのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［ポーリング間隔］	ジョブの問い合わせを行う間隔を指定します。	
［Bindery/NDS 設定］	［NDS/Bindery 設定］を選択します。	
［ファイルサーバー名］	Bindery モードの優先ファイルサーバー名を設定します（/￥ : ; , * [ ] < > | + = ? . を除く半角 47 文字以内）。	

NetWare 4.x リモートプリンターモード（NDS）の場合

1 クライアントより NetWare に Admin 権限でログインします。

2 NWadmin を起動します。

3 プリントサービスを行う組織、または、部門コンテナを選択し、ツールメニューから［プリントサービスクイックセットアップ］を選択します。

4 ［プリントサーバー名］、［プリンタ名］、［プリントキュー名］、［ボリューム名］を入力し、プリンターの［タイプ］名を［その他／不明］に設定して、保存します。

5 NetWare Server のコンソールで、PSERVER.NLM をロードしてください。

続いて、［NetWare 設定］で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ
［NetWare プリントモード］	［Nprinter/Rprinter］を選択します。	
［プリントサーバー名］	Nprinter/Rprinter として動作させる場合のプリントサーバー名を入力します（/ ¥ : ; , * [ ] < > | + = ? . を除く半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
［プリンター番号］	Nprinter/Rprinter のプリンター番号を入力します。	

NetWare 4.x/5.x/6 プリントサーバーモード（NDS）の場合

✔ プリントサーバーモードを使用する場合は、NetWare サーバーに IPX プロトコルがロードされている必要があります。

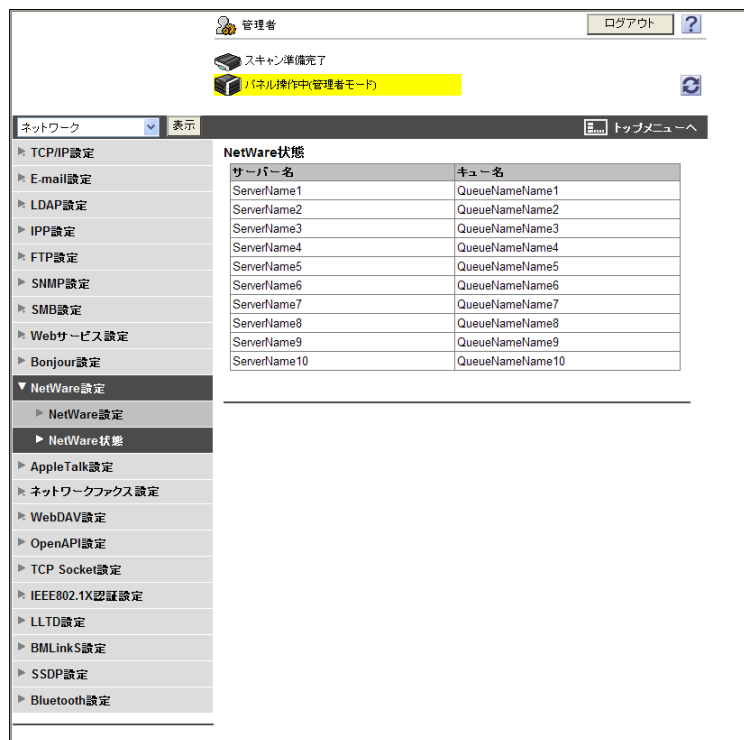
1 クライアントより NetWare に Admin 権限でログインします。

2 NWadmin を起動します。

3 プリントサービスを行う組織、または部門コンテナを選択し、ツールメニューから［プリントサービスクイックセットアップ（非 NDPS）］を選択します。

4 ［プリントサーバー名］、［プリンタ名］、［プリントキュー名］、［ボリューム名］を入力し、プリンターの［タイプ］名を［その他／不明］に設定して、［作成］をクリックします。

続いて、［NetWare 設定］で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ
［NetWare プリントモード］	［PServer］を選択します。	
［プリントサーバー名］	Pserver として動作させる場合のプリントサーバ名を入力します（/ ¥ : ; , * [ ] < > | + = ? . を除く半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
［プリントサーバーパスワード］	必要に応じて、プリントサーバーのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［ポーリング間隔］	ジョブの問い合わせを行う間隔を指定します。	
［Bindery/NDS 設定］	［NDS］を選択します。	
［NDS コンテキスト名］	プリントサーバーで接続する NDS コンテキスト名を入力します（/ ¥ : ; , * [ ] < > | + = ? を除く半角 191 文字以内）。	
［NDS ツリー名］	プリントサーバで接続する NDS ツリー名を入力します（/ ¥ : ; , * [ ] < > | + = ? . を除く半角 63 文字以内）。	

NetWare 5.x/6 Novell Distributed Print Service（NDPS）の場合

✔ NDPS に関する設定を行う前に、NDPS ブローカと NDPS マネージャが作成され、ロードされていることを確認してください。

✔ NetWare サーバーで TCP/IP プロトコルが設定されていることを確認し、本機に IP アドレスが設定され、本機が起動していることを確認してください。

1 クライアントより NetWare に Admin 権限でログインします。

2 NWAdmin を起動します。

3 プリンターエージェントを作成する［組織］、［部門］コンテナを右クリックし、作成より、［NDPS プリンタ］を選択します。

4 ［NDPS プリンタ名］欄に、［プリンタ名］を入力します。

5 ［プリンタエージェントのソース］欄で［新規プリンタエージェントを作成する］を選択し、［作成］をクリックします。

6 プリンタエージェント名を確認し、［NDPS マネージャ名］欄で、NDPS マネージャをブラウズし、登録します。

7 ［ゲートウェイタイプ］で、［Novell プリンタゲートウェイ］を選択し、登録します。

8 ［Novell NDPS の設定］ウインドウで、プリンタ［（なし）］、ポートハンドラ［Novell ポートハンドラ］を選択し、登録します。

9 ［接続タイプ］で、［リモート（IP 上で LPR）］を選択し、登録します。

10 本機に設定した IP アドレスをホストアドレスに、プリンタ名に［Print］と入力して［完了］を押して登録します。

11 プリンタードライバーの登録画面が現れますが、各 OS とも［なし］を選択して登録を終了してください。

5.7.2　［NetWare 状態］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［NetWare 設定］ ►► ［NetWare 状態］ を選択します。

必要に応じて、NetWare 接続の状態を確認できます。

5.8 WS プリント機能を使用する

Windows Vista/Server 2008/7 の Web サービス機能で印刷するための設定を行います。

Web サービス機能により、ネットワーク接続された本機を自動的に検出して WS プリンターとしてインストールできます。印刷時に WS プリンターとしてインストールした本機を指定することで、通信に HTTP を使用して印刷できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

5.8.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

5.8.2 ［Web サービス共通設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［Web サービス設定］ ►► ［Web サービス共通設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
[Friendly Name]	Friendly Name を入力します（半角 62 文字以内）。	
[Publication Service]	Windows Vista/Server 2008/7 で NetBIOS が無効、または IPv6 のみの通信を行うように構築された環境で本機を使用する場合は、[有効] を選択します。	

5.8.3　[プリンター設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ►► [Web サービス設定] ►► [プリンター設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[プリント機能]	[使用する] を選択します。	
[プリンター名]	プリンター名を入力します（! ￥ , を除く半角 63 文字以内）。	
[プリンター設置場所]	プリンター設置場所を入力します（半角 63 文字以内）。	
[プリンター情報]	プリンター情報を入力します（半角 63 文字以内）。	

5.9　携帯電話や PDA に保存されているデータを利用する

Bluetooth 機能を搭載した携帯電話や PDA を本機に無線接続して、端末内のデータを利用するための設定を行います。

携帯電話や PDA に保存されているデータを印刷したり、本機のボックスに保存したりできます。いったんボックスに保存したデータは、外部に送信することもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

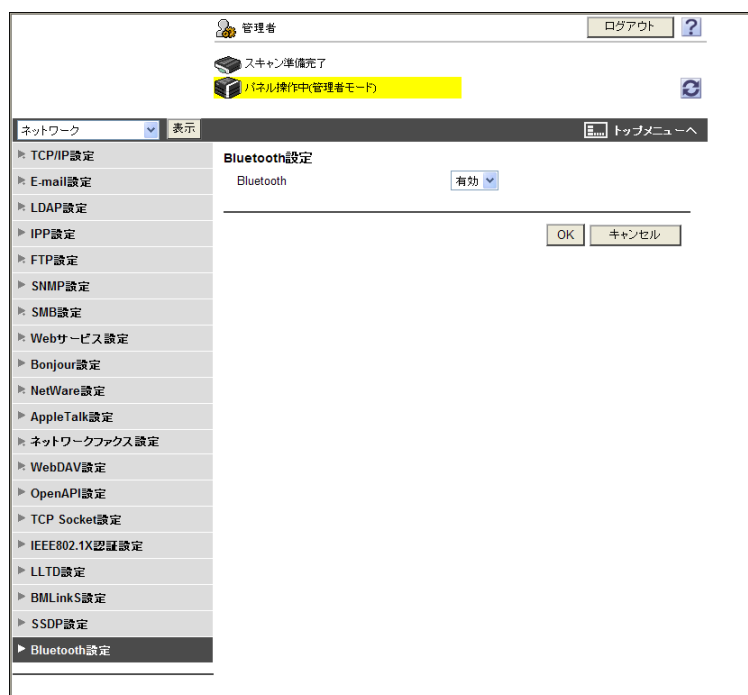
- この機能を使用するには、本機にオプションの**ローカル接続キット EK-605** を装着する必要があります。

参照

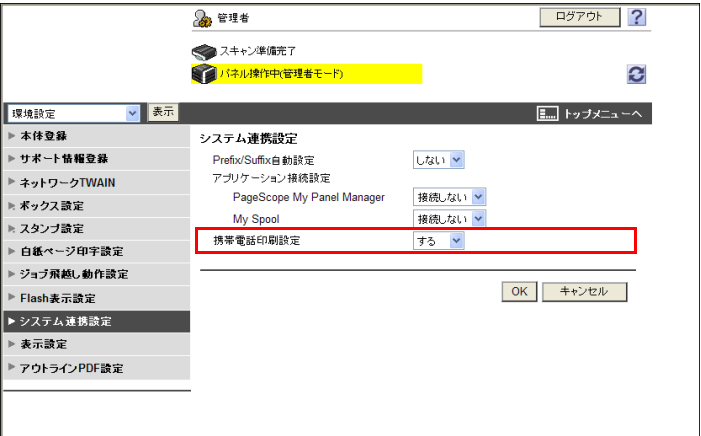
携帯電話や PDA に保存されているデータを印刷したり、本機のボックスに保存したりする操作について詳しくは、[ユーザーズガイド プリンター機能編] をごらんください。

本機のボックスに保存したデータの操作について詳しくは、[ユーザーズガイド ボックス機能編] をごらんください。

5.9.1　[Bluetooth 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [Bluetooth 設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[Bluetooth]	[有効] を選択します。	

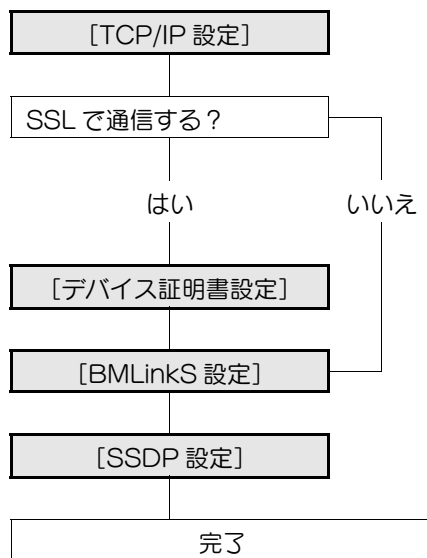
5.9.2 ［システム連携設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［システム連携設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［携帯電話印刷設定］	［する］を選択します。 ［Bluetooth］が［無効］の場合は、この項目は表示されません。	

5.10 BMLinkS 機能を使用してプリントする

BMLinkS 機能を使用して印刷するための設定を行います。

BMLinkS 統合プリンタードライバーを使用して、用途に応じたプリンターを検索し印刷できます。メーカーや機種に依存しない共通のプリンタードライバーを使用して印刷できるため、ユーザーや管理者の負荷を軽減できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

BMLinkS 機能を使用した印刷方法について詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

BMLinkS 統合プリンタードライバーの対応 OS やインストール方法、使用方法については、BMLinkS のサイトからダウンロードできる説明書をごらんください。

5.10.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

5.10.2 ［デバイス証明書設定］

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

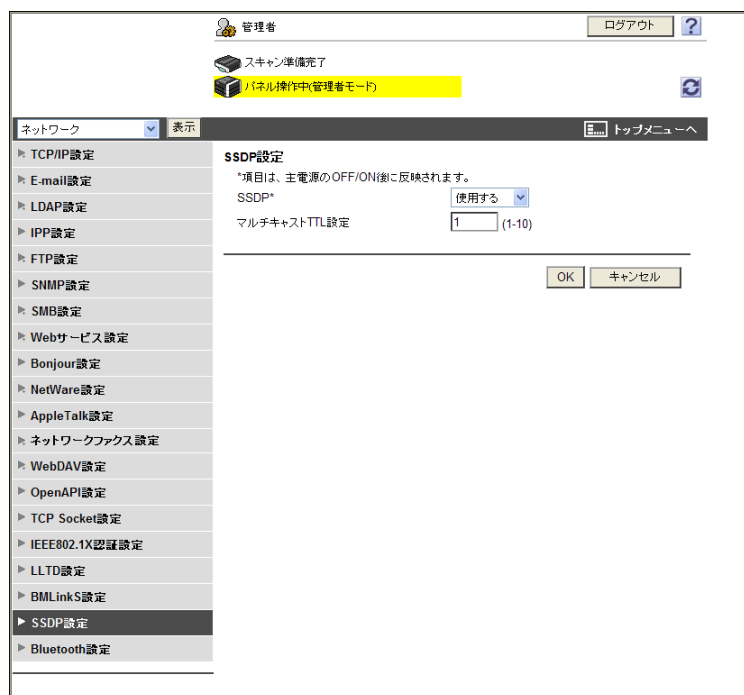
5.10.3 ［BMLinkS 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［BMLinkS 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［BMLinkS 使用設定］	［使用する］を選択します。	
［SSL 設定］	SSL を使用する場合は、［SSL 通信のみ可］または［SSL/ 非 SSL 通信可］を選択します。	SSL を使用するか
［SOAP ポート番号］	SOAP ポート番号を入力します。 SOAP ポートでは、印刷コマンドを受信します。	
［SOAP ポート番号 (SSL)］	SSL 通信で使用する SOAP ポート番号を入力します。	
［プリンターポート番号］	プリンターポート番号を入力します。 プリンターポートでは、印刷ジョブを受信します。	
［プリンターポート番号 (SSL)］	SSL 通信で使用するプリンターポート番号を入力します。	
［サーバータイムアウト］	本機が印刷コマンドや印刷ジョブを受信するときの、通信のタイムアウト時間を入力します。	
［クライアントタイムアウト］	本機がプリンタードライバーに通知するときの、通信のタイムアウト時間を入力します。	
［サービス通知間隔］	起動公告を送信してからタイムアウトするまでの公告の有効時間を選択します。 有効時間を経過しても、BMLinkS 機能を使用している場合は、自動的に更新されます。	
［プリンター名］	プリンタードライバーに通知するプリンター名を入力します（全角、半角 255 バイト以内）。	
［Friendly Name］	プリンタードライバーに通知する Friendly Name を入力します（全角、半角 255 バイト以内）。	
［国名］	国名を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。	
［組織名］	組織名を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。	
［支店名］	支店名を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。	

項目	説明	事前確認
[ビル名]	ビル名を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。	
[階数]	階数を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。	
[ブロック名]	ブロック名を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。	
[通知許可設定]	印刷完了後に通知するかどうかを選択します。	

5.10.4 [SSDP 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ►► [SSDP 設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[SSDP]	[使用する] を選択します。 SSDP 機能を使用すると、本機で BMLinkS サービスが起動したことをプリンタードライバーに知らせることができます。 また、プリンタードライバーで、SSDP 機能による BMLinkS サービスのサービス検索が行われると、本機が検索条件に合致する場合に、応答を返すことができます。	
[マルチキャスト TTL 設定]	SSDP マルチキャストパケットの TTL（Time To Live）を入力します。 ルーターなどを 1 回経由するたびに値が 1 減少し、値が 0 になるとパケットが破棄されます。	

6 ネットワークファクスを送受信する

6　ネットワークファクスを送受信する

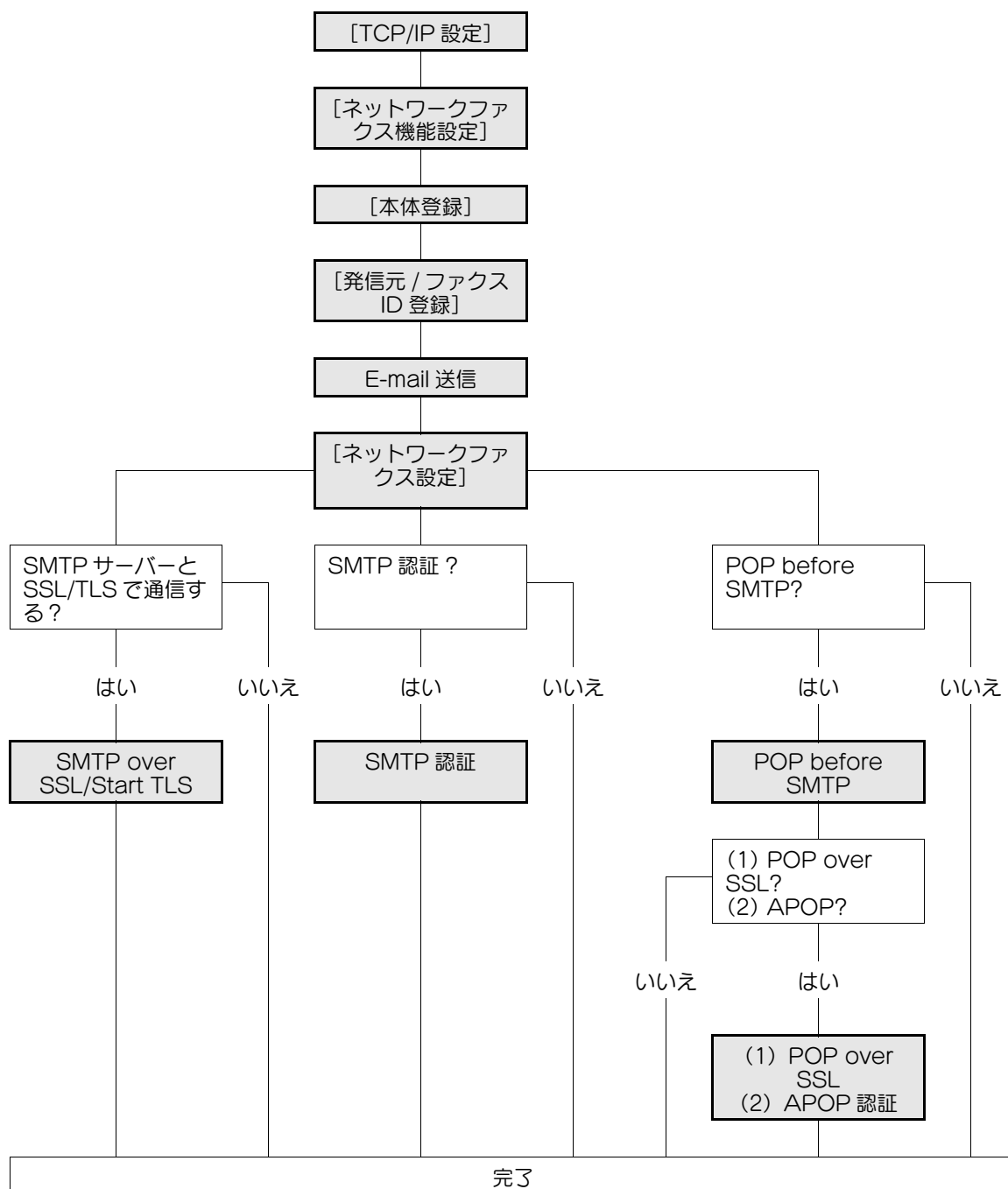
6.1　インターネットファクスを送信する

インターネットファクスを送信するための設定を行います。

インターネットファクスでは、イントラネットやインターネットを経由して、読み取った原稿を E-mail の添付ファイル（TIFF 形式）として送受信できます。カラー原稿の送信もできます。

イントラネットやインターネット経由で通信するため、遠隔地や海外との通信が多い場合などに、一般のファクス通信に比べて通信コストを削減できます。

POP before SMTP 認証、APOP 認証、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- インターネットファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- インターネットファクス宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。
- インターネットファクス機能について詳しくは、[ユーザーズガイド ネットワークスキャン/ファクス/ネットワークファクス機能編] をごらんください。

6.1.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

6.1.2 [ネットワークファクス機能設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ►► [ネットワークファクス設定] ►► [ネットワークファクス機能設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[I-Fax 機能設定]	[ON] を選択します。	

6.1.3 ［本体登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ▸▸ ［本体登録］を選択します。

項目	説明	事前確認
［装置名称］	装置の名称を入力します（半角 80 文字以内）。 インターネットファクスの件名の一部になります。	
［E-mail アドレス］	本機の E-mail アドレスを設定します（半角 320 文字以内）。 インターネットファクスを送信する場合に設定が必要です。	E-mail アドレス

6.1.4 ［発信元 / ファクス ID 登録］

ファクス送信時の発信元情報を登録します。

詳しくは、14-22 ページをごらんください。

6.1.5 E-mail 送信

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、4-9 ページをごらんください。

6.1.6 ［ネットワークファクス設定］

（ネットワークファクス機能を使用できない場合は、このメニューは表示されません。）

［I-Fax 拡張設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸ ［ネットワークファクス設定］ ▸▸ ［I-Fax 拡張設定］を選択します。

（インターネットファクス機能を使用できない場合は、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［MDN 要求］	［ON］を選択します。 インターネットファクスが受信側でプリントされると、MDN 応答を受信できます。 また、MDN 応答を受信することで、相手先の受信能力情報を取得できます。短縮宛先に登録済みの相手先から MDN 応答を受信した場合は、取得した受信能力情報を上書き登録します。	
［DSN 要求］	［ON］を選択します。 インターネットファクスが受信側のメールサーバーに到着すると、DSN 応答を受信できます。 MDN が［ON］に設定されている場合は、DSN を要求しません。	
［MDN/DSN 応答監視設定］	MDN/DSN 応答の監視時間を設定する場合は、チェックを入れます。	
［監視時間］	MDN/DSN 応答の受信待ち時間を入力します。 待ち時間を過ぎた MDN/DSN 応答は無視されます。	
［最高解像度］	読み取りや送受信記録時の最高解像度を選択します。	
［Content-Type 情報付加］	MIME ヘッダーに Content-Type 情報を付加するかどうかを選択します。	

[白黒 2 値圧縮方法]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ファクス設定] ▸▸ [ネットワークファクス設定] ▸▸ [白黒 2 値圧縮方法] を選択します。

項目	説明	事前確認
[白黒 2 値圧縮方法]	モノクロ送信モード時の白黒 2 値圧縮方法の初期値を選択します。	

[カラー / モノクロ多値圧縮方法]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ファクス設定] ▸▸ [ネットワークファクス設定] ▸▸ [カラー / モノクロ多値圧縮方法] を選択します。

項目	説明	事前確認
[カラー / モノクロ多値圧縮方法]	カラー送信モード時のカラー／モノクロ多値圧縮方法の初期値を選択します。	

6.1.7　SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、4-10 ページをごらんください。

6.1.8　SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-12 ページをごらんください。

6.1.9　POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、4-13 ページをごらんください。

6.1.10　POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

6.1.11　APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-16 ページをごらんください。

6.2 インターネットファクスを受信する

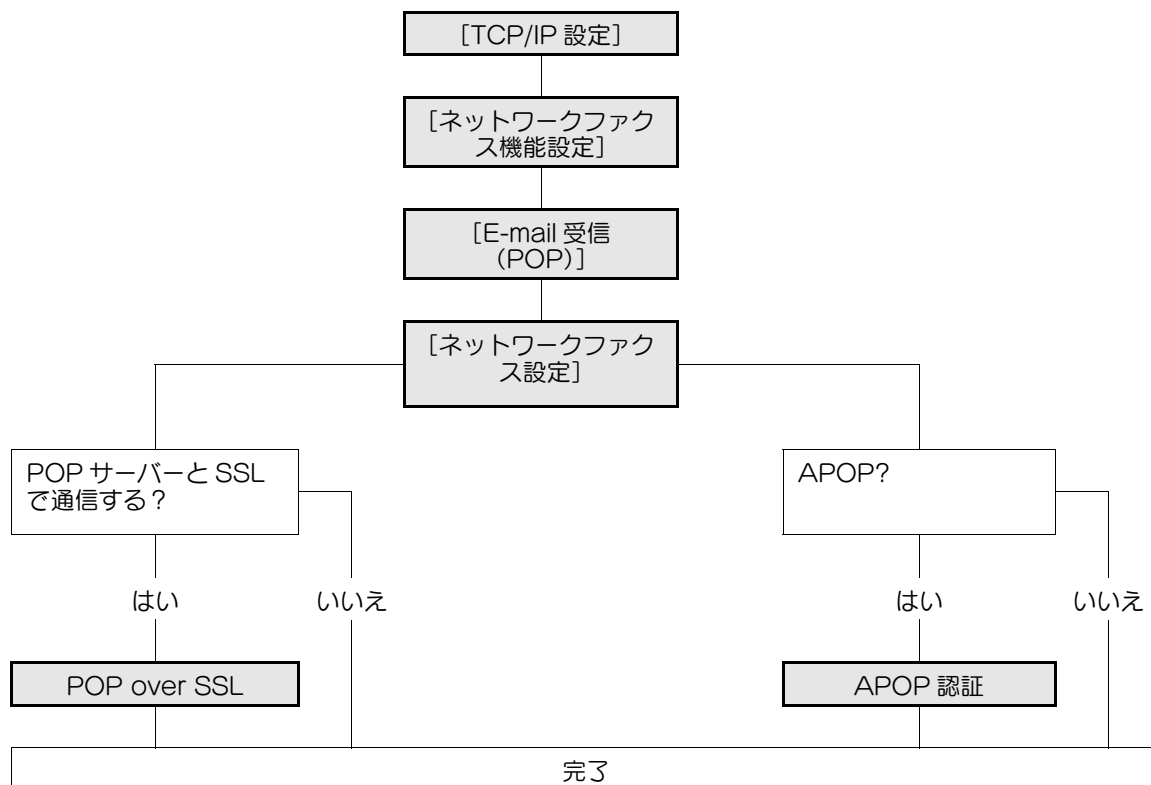
インターネットファクスを受信するための設定を行います。

インターネットファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

インターネットファクスでは、イントラネットやインターネットを経由して、読み取った原稿を E-mail の添付ファイル（TIFF 形式）として送受信できます。カラー原稿の送信もできます。

イントラネットやインターネット経由で通信するため、遠隔地や海外との通信が多い場合などに、一般のファクス通信に比べて通信コストを削減できます。

インターネットファクス受信時に SSL/TLS による暗号化や APOP 認証を行うことで、より安全に通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照
インターネットファクス機能について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

6.2.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

6.2.2 ［ネットワークファクス機能設定］

本機のインターネットファクス機能を有効にします。

詳しくは、6-3 ページをごらんください。

6.2.3 ［E-mail 受信（POP)］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［E-mail 設定］ ▸▸ ［E-mail 受信（POP)］を選択します。

項目	説明	事前確認
［E-mail 受信設定］	［使用する］を選択します。	
［POP サーバーアドレス］	POP サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ログイン名］	POP サーバーのログイン名を設定します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	POP サーバーのログイン時のパスワードを設定します（半角 15 文字以内）。	
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を設定します。	
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：110	サーバーのポート番号
［自動到着チェック］	E-mail を自動で受信する場合は、チェックを入れます。 手動で受信したい場合は、ファクス / スキャンモードで［E-mail 受信］を押してください。	
［ポーリング間隔］	自動的に POP サーバーに接続して、到着チェックを行う間隔を入力します。	

6.2.4 ［ネットワークファクス設定］

（ネットワークファクス機能を使用できない場合は、このメニューは表示されません。）

［I-Fax 拡張設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸［ネットワークファクス設定］ ▸▸［I-Fax 拡張設定］を選択します。

（インターネットファクス機能を使用できない場合は、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［MDN 応答］	相手先からの MDN 要求（受信確認要求）に対して応答する場合は、［ON］を選択します。	

[I-Fax 自機受信能力]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ファクス設定] ▸▸ [ネットワークファクス設定] ▸▸ [I-Fax 自機受信能力] を選択します。

(インターネットファクス機能を使用できない場合は、このメニューは表示されません。)

参考

- ここで設定した自機受信能力は、本機から MDN 応答を送信することで相手先に通知されます。自機受信能力を設定する場合は、[I-Fax 拡張設定] で [MDN 応答] を [ON] に設定してください。

項目	説明	事前確認
[圧縮形式]	インターネットファクスの受信で、本機が受信できる圧縮形式にチェックを入れます。 初期設定では、本機が受信できる圧縮形式がすべてチェックされた状態になっています。	
[用紙サイズ]	インターネットファクスの受信で、本機が受信できる用紙サイズにチェックを入れます。 初期設定では、本機が受信できる用紙サイズがすべてチェックされた状態になっています。	
[解像度]	インターネットファクスの受信で、本機が受信できる解像度にチェックを入れます。	

6.2.5　POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

6.2.6　APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-16 ページをごらんください。

6.3　IP アドレスファクスを送受信する

IP アドレスファクスを送受信するための設定を行います。

IP アドレスファクスとは、IP ネットワーク上で通信可能なファクスです。相手先を IP アドレス、ホスト名、E-mail アドレスのいずれかで指定してファクスを送信します。

通信には、SMTP プロトコルを使用します。本機の SMTP サーバー機能で通信するため、相手先の IP アドレスを指定して通信する場合は、サーバーが必要ありません。（ホスト名または E-mail アドレスを指定して通信する場合は、DNS サーバーが必要です。）

本機は 2 つの IP アドレスファクスの動作モードに対応しています。ご使用の環境に応じて、以下の動作モードを切換えて使用できます。

- ［モード 1］: IP アドレスファックス通信が可能な弊社機種間、および CIAJ (情報通信ネットワーク産業協会) が定めるダイレクト SMTP 規格に適合した機種間で通信できます。ただし、カラー送信は、弊社専用の方式で行われるため、弊社機種でのみ受信できます。
- ［モード 2］: IP アドレスファックス通信が可能な弊社機種間、および CIAJ (情報通信ネットワーク産業協会) が定めるダイレクト SMTP 規格に適合した機種間で通信できます。カラー送信は、ダイレクト SMTP 規格に適合した方式（Profile-C フォーマット）で行われます。

IP アドレスファクス機能を使用する場合は、以下の確認をしてください。

- 本機にオプションの **FAX キット FK-508** を装着する必要があります。
- IP アドレスファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

IP アドレスファクス宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

IP アドレスファクスついて詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

6.3.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

6.3.2 ［ネットワークファクス機能設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［ネットワークファクス設定］ ▸▸ ［ネットワークファクス機能設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［IP アドレスファクス機能設定］	［ON］を選択します。	

6.3.3 ［SMTP 送信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［ネットワークファクス設定］ ►► ［SMTP 送信設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：25	使用するポート番号
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を入力します。	

6.3.4 ［SMTP 受信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［ネットワークファクス設定］▸▸［SMTP 受信設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SMTP 受信機能］	［使用する］を選択します。	
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：25	使用するポート番号
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を入力します。	

6.3.5　［ネットワークファクス設定］

（ネットワークファクス機能を使用できない場合は、このメニューは表示されません。）

［白黒 2 値圧縮方法］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸［ネットワークファクス設定］ ▸▸［白黒 2 値圧縮方法］を選択します。

項目	説明	事前確認
［白黒 2 値圧縮方法］	モノクロ送信モード時の白黒 2 値圧縮方法の初期値を選択します。	

［カラー / モノクロ多値圧縮方法］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸［ネットワークファクス設定］ ▸▸［カラー / モノクロ多値圧縮方法］を選択します。

項目	説明	事前確認
［カラー / モノクロ多値圧縮方法］	カラー送信モード時のカラー / モノクロ多値圧縮方法の初期値を選択します。	

［IP アドレスファクス動作設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［ネットワークファクス設定］▸▸［IP アドレスファクス動作設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［動作モード］	ご使用の環境に応じて、IP アドレスファクスの動作モードを選択します。 ・［モード 1］: IP アドレスファックス通信が可能な弊社機種間、および CIAJ (情報通信ネットワーク産業協会) が定めるダイレクト SMTP 規格に適合した機種間で通信できます。ただし、カラー送信は、弊社専用の方式で行われるため、弊社機種でのみ受信できます。 ・［モード 2］: IP アドレスファックス通信が可能な弊社機種間、および CIAJ (情報通信ネットワーク産業協会) が定めるダイレクト SMTP 規格に適合した機種間で通信できます。カラー送信は、ダイレクト SMTP 規格に適合した方式（Profile-C フォーマット）で行われます。	
［カラー原稿の送信］	［動作モード］で［モード 2］を選択した場合に、カラー原稿の送信を許可するかどうかを選択します。 ［許可しない］を選択すると、カラー送信するときに、モノクロ 2 値に変換して送信されます。ダイレクト SMTP 規格のカラー受信ができない機種に送信する場合は、［許可しない］を選択してください。	送信先の機種でダイレクト SMTP 規格のカラー受信が可能か

6.3.6　［発信元 / ファクス ID 登録］

ファクス送信時の発信元情報を登録します。

詳しくは、14-22 ページをごらんください。

7 ユーザー認証を行う

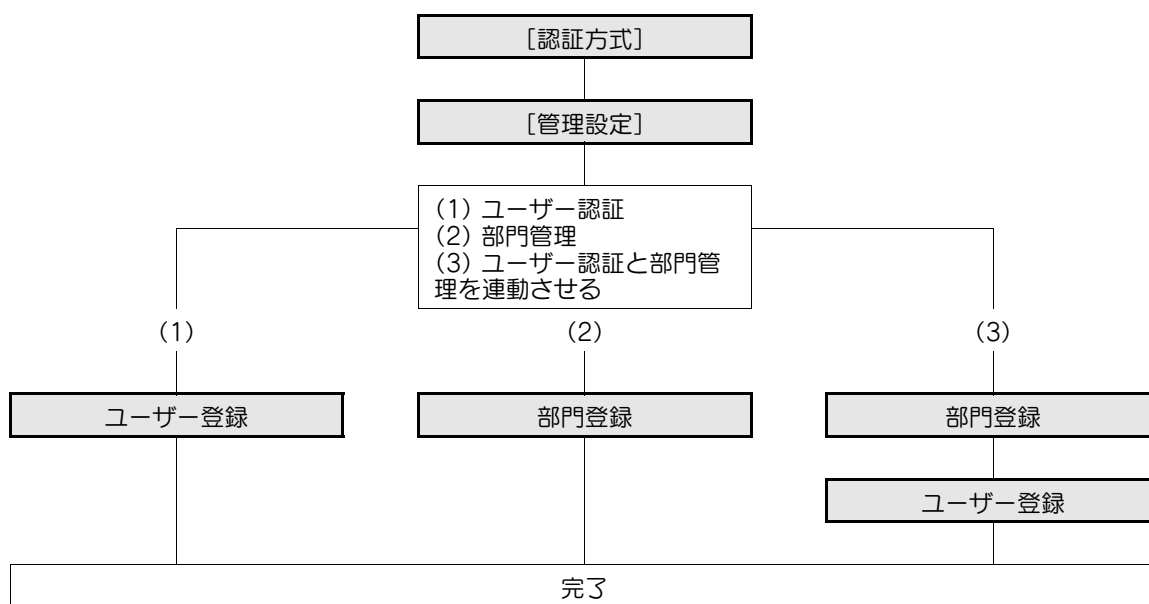
7　ユーザー認証を行う

7.1　本機を使用するユーザーを制限する（本体装置認証）

本機を使用するユーザーを本体装置認証で制限するための設定を行います。

本機の使用を制限するユーザー認証や部門管理の設定ができます。ユーザー認証は個人を管理するとき、部門管理はグループや複数のユーザーを管理するときに設定します。

ユーザー認証と部門管理を組み合わせて使用すると、各ユーザーを部門ごとに管理できます。カウンターを部門のカウンターとユーザーのカウンターの両方に割当てることができ、両方のカウント値を集計できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

7.1.1 ［認証方式］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸ ［認証方式］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［ユーザー認証］	［本体装置認証］を選択します。	
［パブリックユーザー］	パブリックユーザーを許可するかどうかを選択します。 ［許可する（ログインあり）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面で［パブリックユーザー］を選択してログインすることで、本機を使用できます。 ［許可する（ログインなし）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面でログインすることなく、本機を使用できます。	パブリックユーザーを許可するか
［部門管理］	部門管理を行う場合は、［管理する］を選択します。	部門管理するか
［部門管理認証方式］	部門管理を行う場合は、認証方式を選択します。 部門管理のみを行う場合に設定します。	
［ユーザー認証 / 部門認証の連動］	ユーザー認証と部門管理を連動させて、ユーザーを所属部門ごとに管理する場合は、［連動する］を選択します。 ユーザー登録時にユーザーの所属部門を指定すると、ログイン時にユーザー名を入力するだけでログインできます。所属部門を指定しない場合は、一度目のログイン時に部門を指定する必要があります。一度目のログイン時に指定した部門がユーザーの所属部門として登録されます。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか
［ユーザーカウンター割当て数］	ユーザー認証と部門管理を行う場合、ユーザーカウンターの割当て数を入力します。 カウンターは、ユーザー単位でも部門単位でも集計でき、ユーザーと部門で合計 1000 まで割当てることができます。たとえば、ユーザーカウンターの割当て数を 950 に設定した場合、部門は 50 件まで登録できます。	
［上限値到達時の動作］	各ユーザーや部門のジョブが、設定された上限値に到達した場合の動作を選択します。 上限値の設定は、ユーザー登録時または部門登録時に行います。	

参考

- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合、［認証方式］ ▸▸ ［ユーザー認証］で［認証しない］を選択できません。また、パブリックユーザーを許可できません。

7.1.2　［管理設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸ ［ユーザー認証設定］ ▸▸ ［管理設定］を選択します。

（ユーザー認証を行わない場合は、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［認証＆プリント］	登録ユーザーからの全印刷ジョブを、認証 & プリントジョブとして処理するかどうかを選択します。 ［使用する］を選択すると、プリンタードライバーで［認証 & プリント］を選択していなくても、登録ユーザーからの全印刷ジョブを認証 & プリントジョブとして処理します。 ［使用しない］を選択すると、プリンタードライバーで［認証 & プリント］を選択している場合のみ、認証 & プリントジョブとして処理します。登録ユーザーからの印刷ジョブでも、プリンタードライバーで［認証 & プリント］を選択していない場合は、通常の印刷ジョブとして処理します。	登録ユーザーからの全印刷ジョブを認証 & プリントジョブとして処理するか
［認証なし / パブリックユーザージョブ］	認証情報のないジョブ（プリンタードライバーでユーザー認証や部門管理を有効にせずに印刷指示したジョブ）や、パブリックユーザーのジョブを受信したときの動作を選択します。 ［即時印刷］を選択すると、受信したジョブをそのまま印刷します。 ［蓄積］を選択すると、受信したジョブを認証＆プリントボックスに保存します。	
［認証＆プリント動作設定］	オプションの認証装置で認証＆プリント機能を使用するときの動作を選択します。この項目は、オプションの認証装置を装着している場合に表示されます。 ［全ジョブ印刷］を選択すると、1 回の認証で、認証＆プリントボックスに保存されている該当ユーザーの全ジョブを印刷します。 ［1 ジョブ印刷］を選択すると、1 回の認証で、認証＆プリントボックスに保存されている該当ユーザーの 1 ジョブを印刷します。	
［認証後のデフォルト動作設定］	認証装置で認証完了（ログイン成功）した後の動作の初期値を選択します。 ［印刷開始］を選択すると、認証完了後に認証 & プリントのジョブを印刷します。 ［印刷＆基本画面へ］を選択すると、認証完了後に認証 & プリントのジョブを印刷し、基本画面へログインします。 ［基本画面へ］を選択すると、認証完了後に基本画面へログインします。認証 & プリントのジョブは印刷されません。	

参照

- 認証＆プリント機能について詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

7.1.3　ユーザー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［ユーザー認証設定］▸▸［ユーザー登録］▸▸［新規登録］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号のつけ方を選択します。 直接入力する場合は、登録番号を入力します。	
［ユーザー名］	ユーザー名を入力します（半角 64 文字、全角 32 文字以内）。	
［E-mail 宛先］	ユーザーの E-mail アドレスを入力します（半角 320 文字以内）。	
［ユーザーパスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。 登録情報を編集する場合に表示されます。	
［ユーザーパスワード］	パスワードを入力します（スペースと " を除く半角 64 文字以内）。	
［ユーザーパスワードの再入力］	確認のため、パスワードを再入力します（半角 64 文字以内）。	
［所属部門］	ユーザーの所属部門を登録します。 所属部門を指定する前に、部門の登録が必要です。 ユーザー認証と部門管理が連動する設定の場合に表示されます。 所属部門を指定しない場合は、一度目のログイン時にユーザーと部門を指定する必要があります。一度目のログイン時に指定した部門がユーザーの所属部門として登録されます。 所属部門を指定した後に、部門の登録情報が変更された場合は、ユーザーと部門の関連付けは解除されます。	
［アイコンを指定する］	［一覧より選択］から、ユーザーのアイコンを選択します。	
［一時利用停止］	登録ユーザーを一時的に無効にするかどうかを選択します。登録ユーザーを削除することなく、一時的に無効にしたい場合に設定します。 ［停止する］に設定されたユーザーは、本機にログインできないため、本機を利用できなくなります。 本体装置認証の場合に設定できます。	
［機能制限］	［コピー操作］、［スキャン操作］、［外部メモリー保存］、［外部メモリー文書読込み］、［ファクス操作］、［プリンター印字］、［蓄積文書操作］、［送信文書印字］、［手動宛先入力］、［携帯電話 /PDA］、［生体 /IC カード情報登録］を許可するかどうかをそれぞれ選択します。	
［出力許可（送信）］	カラー画像の送信を許可するかどうか選択します。	
［上限設定］	出力枚数、所有ボックス数の上限を設定します。 上限を設ける場合は、それぞれチェックを入れ、上限値を入力してください。	
［参照許可設定］	ユーザーが参照できる短縮宛先を制限できます。 参照許可グループを指定する場合は、チェックを入れ、一覧からユーザーを登録する参照許可グループを選択してください。複数の参照許可グループを選択できます。 参照可能レベルを設定する場合は、チェックを入れ、参照可能レベルを指定します。 参照許可グループを指定する前に、参照許可グループの登録が必要です。詳しくは、8-35 ページをごらんください。	

参考

- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［パスワード規約］を［有効］に設定している場合は、8 文字未満のパスワードを登録できません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は、［パスワード規約］を［有効］に設定する前に 8 文字に変更してください。
- パブリックユーザーを許可する場合、パブリックユーザーにも機能制限や参照許可権限の設定ができます。詳しくは、8-39 ページをごらんください。
- ［外部メモリー保存］を許可するかどうかの設定は、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［外部メモリー機能設定］で［文書保存］を［ON］に設定している場合に設定できます。また、［外部メモリー文書読込み］を許可するかどうかの設定は、［外部メモリー機能設定］で［文書読込］を［ON］に設定している場合に設定できます。詳しくは、12-7 ページをごらんください。

- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［手動宛先入力］を［禁止］に設定している場合は、ここでの設定に関わらず、ユーザーによる手動での宛先入力は禁止されます。
- 携帯電話や PDA と本機を連携させるには、本機にオプションの**ローカル接続キット EK-605** を装着する必要があります。また、［携帯電話 /PDA］を許可するかどうかの設定は、［ネットワーク］▸▸［Bluetooth 設定］で［Bluetooth］を［有効］に設定し、かつ［環境設定］▸▸［システム連携設定］で［携帯電話印刷設定］を［する］に設定している場合に設定できます。
- ［生体 /IC カード情報登録］を許可するかどうかの設定は、オプションの認証装置を装着し、かつ［セキュリティー］▸▸［ユーザー操作禁止設定］で［生体 /IC カード情報登録］を［許可］に設定している場合に設定できます。

7.1.4 部門登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［部門管理設定］▸▸［新規登録］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号のつけ方を選択します。 直接入力する場合は、登録番号を入力します。	
［部門名］	部門名を入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。 登録情報を編集する場合に表示されます。	
［パスワード］	パスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。	
［パスワードの再入力］	パスワードを再入力します（半角 8 文字以内）。	

項目	説明	事前確認
［一時利用停止］	登録部門を一時的に無効にするかどうかを選択します。 登録部門を削除することなく、一時的に無効にしたい場合に設定します。 ［停止する］に設定された部門は、本機にログインできないため、本機を利用できなくなります。また、ユーザーの所属部門として登録されている部門を無効にした場合は、無効にした部門に所属しているユーザーも本機にログインできなくなります。	
［出力許可（送信）］	カラー画像の送信を許可するかどうか選択します。	
［上限設定］	出力枚数、所有ボックス数の上限を設定します。 上限を設ける場合は、それぞれチェックを入れ、上限値を入力してください。	

参考

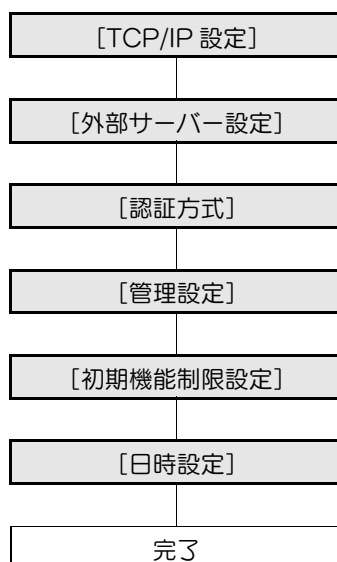
- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［パスワード規約］を［有効］に設定している場合は、8 文字未満のパスワードを登録できません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は、［パスワード規約］を［有効］に設定する前に 8 文字に変更してください。

7.2 本機を使用するユーザーを制限する（Active Directory）

本機を使用するユーザーを Active Directory 認証で制限するための設定を行います。

Windows Server の Active Directory で認証させたい場合にこの設定を行います。使用できる機能をユーザー別に制限することもできます。

Windows Server 2008 の Active Directory 機能で構築された IPv6 環境でも、本機を使用するユーザーを Active Directory 認証で制限できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

7.2.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- Active Directory を使用する場合は、Active Directory と連携している DNS サーバーを本機に登録してください。
- Windows Server 2008のActive Directory機能で構築されたIPv6環境でActive Directory認証を行う場合は、IPv6 の設定を行います。IPv6 の設定について詳しくは、2-4 ページをごらんください。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

7.2.2　［外部サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［外部サーバー設定］▸▸［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号が表示されます。	
［外部認証サーバー名称］	外部認証サーバーの名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
［外部認証サーバータイプ］	［Active Directory］を選択します。	
［デフォルトドメイン名］	Active Directory のデフォルトドメイン名を入力します（半角 64 文字以内）。	デフォルトドメイン名

7.2.3　［認証方式］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸ ［認証方式］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［ユーザー認証］	［外部サーバー認証］を選択します。	
［パブリックユーザー］	パブリックユーザーを許可するかどうかを選択します。 ［許可する（ログインあり）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面で［パブリックユーザー］を選択してログインすることで、本機を使用できます。 ［許可する（ログインなし）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面でログインすることなく、本機を使用できます。	パブリックユーザーを許可するか
［チケット保持時間（Active Directory）］	Kerberos 認証チケットの保持時間を入力します。	
［部門管理］	部門管理を行う場合は、［管理する］を選択します。 ［管理する］を選択する場合は、認証方式を確定後、［部門管理設定］で部門を登録してください。	部門管理するか
［ユーザー認証 / 部門認証の連動］	ユーザー認証と部門管理を連動させて、ユーザーを所属部門ごとに管理する場合は、［連動する］を選択します。 連動させる場合は、一度目のログイン時に部門を指定する必要があります。一度目のログイン時に指定した部門がユーザーの所属部門として登録されます。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか

7.2.4　［管理設定］

認証＆プリント機能の使用や動作に関する設定をします。

詳しくは、7-4 ページをごらんください。

7.2.5　［初期機能制限設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸ ［ユーザー認証設定］ ▸▸ ［初期機能制限設定］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［コピー操作］	外部サーバーで認証したユーザーの機能制限の初期値を設定します。 本体に未登録のユーザーが外部サーバーで認証する場合、ここで設定した機能制限の内容で本体に登録されます。 一度本体に登録されたユーザーの機能制限に関する情報は、［ユーザー登録］で編集できます。	
［スキャン操作］		
［外部メモリー保存］		
［外部メモリー文書読込み］		
［ファクス操作］		
［プリンター印字］		
［蓄積文書操作］		
［送信文書印字］		
［手動宛先入力］		
［携帯電話 /PDA］		

参考

- ［外部メモリー保存］を許可するかどうかの設定は、［環境設定］ ▸▸ ［ボックス設定］ ▸▸ ［外部メモリー機能設定］で［文書保存］を［ON］に設定している場合に設定できます。また、［外部メモリー文書読込み］を許可するかどうかの設定は、［外部メモリー機能設定］で［文書読込］を［ON］に設定している場合に設定できます。詳しくは、12-7 ページをごらんください。
- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］ ▸▸ ［セキュリティー詳細］ ▸▸ ［手動宛先入力］を［禁止］に設定している場合は、ここでの設定に関わらず、ユーザーによる手動での宛先入力は禁止されます。
- 携帯電話や PDA と本機を連携させるには、本機にオプションの**ローカル接続キット EK-605** を装着する必要があります。また、［携帯電話 /PDA］を許可するかどうかの設定は、［ネットワーク］ ▸▸ ［Bluetooth 設定］で［Bluetooth］を［有効］に設定し、かつ［環境設定］ ▸▸ ［システム連携設定］で［携帯電話印刷設定］を［する］に設定している場合に設定できます。

7.2.6　［日時設定］

Active Directory を使用する場合は、本機の日時を設定します。

- 本機と Active Directory のシステム時間が大きく違っていると、Active Directory にログインできません。本機の日時を設定し、本機と Active Directory のシステム時間を合わせてください。

詳しくは、10-2 ページをごらんください。

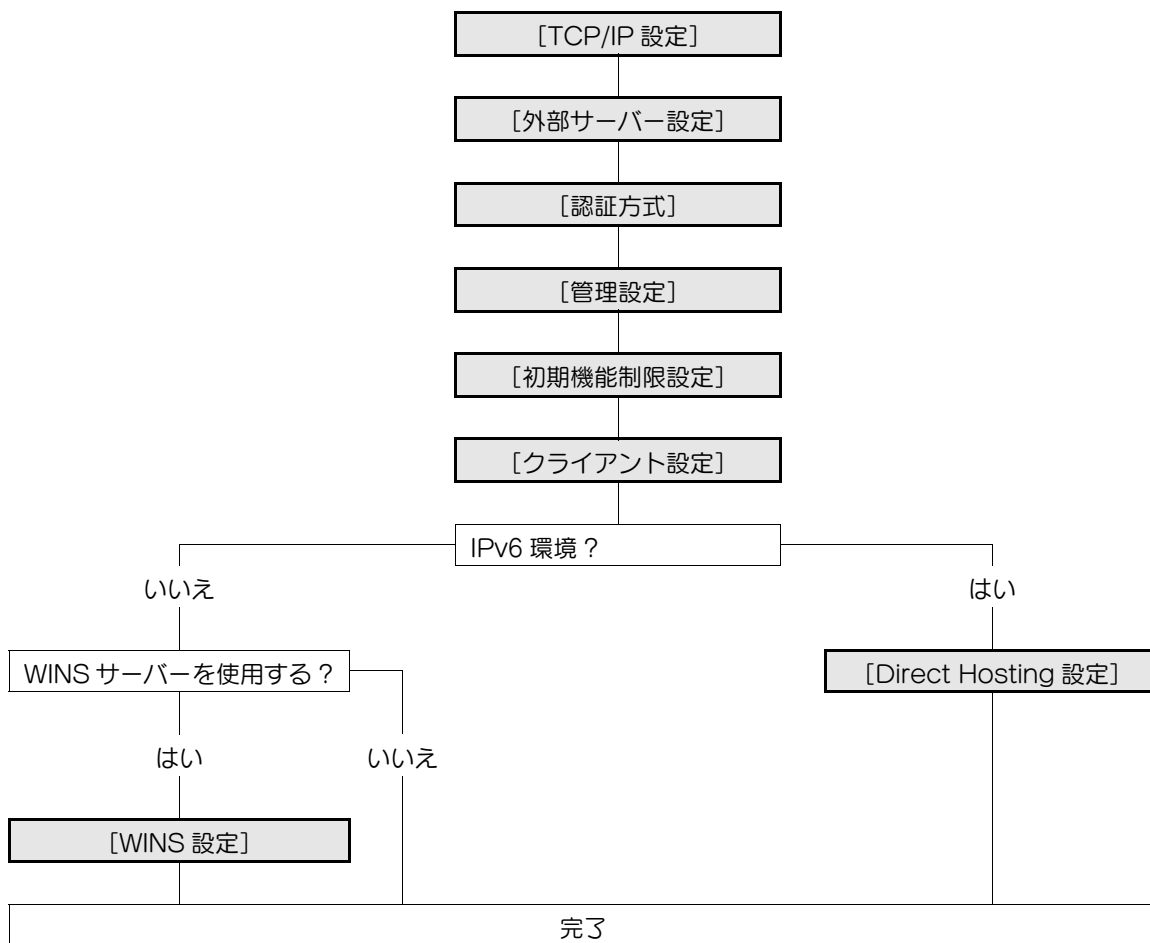
7.3 本機を使用するユーザーを制限する（Windows ドメイン／ワークグループ）

本機を使用するユーザーを NTLM 認証で制限するための設定を行います。

Windows NT 4.0 を使用している場合や、Windows Server で Active Directory（NT 互換ドメイン環境）を利用する場合など、NTLM で認証させたい場合にこの設定を行います。使用できる機能をユーザー別に制限することもできます。

Windows Server 2008 の Active Directory 機能（NT 互換ドメイン環境）で構築された IPv6 環境でも、本機を使用するユーザーを NTLM 認証で制限できます。

IPv6 環境で NTLM 認証を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にする必要があります。DNS サーバーを利用して名前解決を行う場合は、DNS サーバーを用意し、本機の DNS に関する設定を行ってください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

7.3.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- Windows Server 2008 の Active Directory 機能（NT 互換ドメイン環境）で構築された IPv6 環境で NTLM 認証を行う場合は、IPv6 の設定を行います。IPv6 の設定について詳しくは、2-4 ページをごらんください。
- IPv6 環境で NTLM 認証を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にする必要があります。DNS サーバーを利用して名前解決を行う場合は、DNS サーバーを用意し、本機の DNS に関する設定を行ってください。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

7.3.2 ［外部サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸［外部サーバー設定］ ▸▸［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号が表示されます。	
［外部認証サーバー名称］	外部認証サーバーの名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
［外部認証サーバータイプ］	［NTLM v1］または［NTLM v2］を選択します。 NTLMv2 は Windows NT4.0（SP4）から適用されています。	
［デフォルトドメイン名］	NTLM のデフォルトドメイン名を入力します（半角 64 文字以内）。 デフォルトドメイン名は大文字で入力してください。	デフォルトドメイン名

7.3.3　［認証方式］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ►► ［認証方式］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［ユーザー認証］	［外部サーバー認証］を選択します。	
［パブリックユーザー］	パブリックユーザーを許可するかどうかを選択します。 ［許可する（ログインあり）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面で［パブリックユーザー］を選択してログインすることで、本機を使用できます。 ［許可する（ログインなし）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面でログインすることなく、本機を使用できます。	パブリックユーザーを許可するか
［部門管理］	部門管理を行う場合は、［管理する］を選択します。 ［管理する］を選択する場合は、認証方式を確定後、［部門管理設定］で部門を登録してください。	部門管理するか
［ユーザー認証 / 部門認証の連動］	ユーザー認証と部門管理を連動させて、ユーザーを所属部門ごとに管理する場合は、［連動する］を選択します。 連動させる場合は、一度目のログイン時に部門を指定する必要があります。一度目のログイン時に指定した部門がユーザーの所属部門として登録されます。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか

7.3.4　［管理設定］

認証＆プリント機能の使用や動作に関する設定をします。

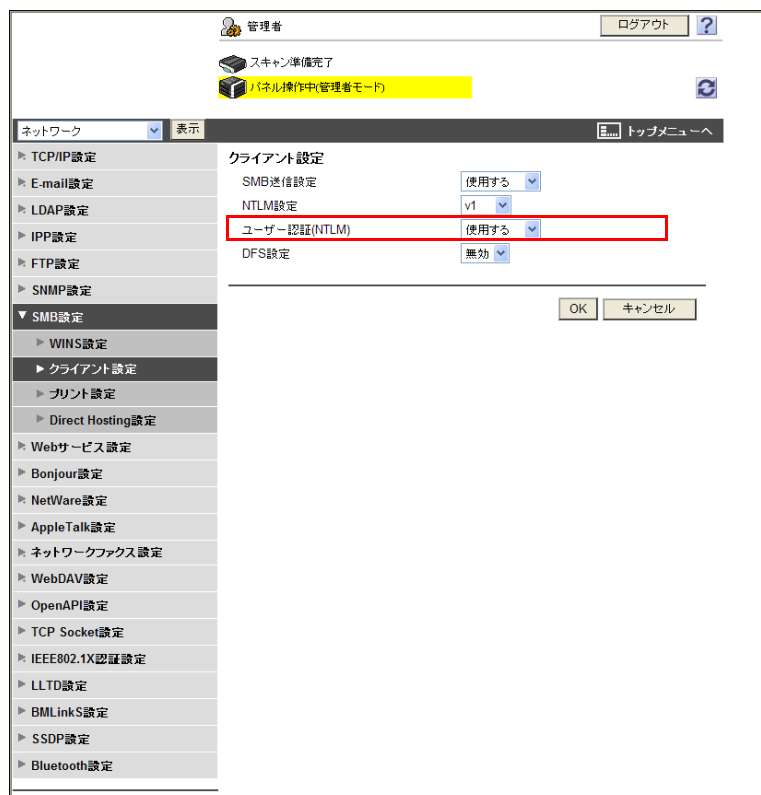
詳しくは、7-4 ページをごらんください。

7.3.5　［初期機能制限設定］

外部サーバーで認証したユーザーの機能制限の初期値を設定します。

詳しくは、7-12 ページをごらんください。

7.3.6 ［クライアント設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［SMB 設定］ ▸▸ ［クライアント設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［ユーザー認証（NTLM）］	［使用する］を選択します。 NTLM 認証を行っている場合に、［使用しない］を選択すると、認証方式が本体装置認証に切換わります。	

7.3.7 ［WINS 設定］

ルーター経由で NTLM 認証を行う場合は、WINS サーバーの設定を行います。

詳しくは、4-4 ページをごらんください。

7.3.8 ［Direct Hosting 設定］

IPv6 環境で NTLM 認証を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にします。

詳しくは、4-5 ページをごらんください。

7.4 本機を使用するユーザーを制限する（NDS over IPX/SPX）

本機を使用するユーザーを NDS over IPX/SPX 認証で制限するための設定を行います。

NetWare 5.1 以降を使用して、IPX/SPX 環境で NDS 認証させたい場合にこの設定を行います。使用できる機能をユーザー別に制限することもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

7.4.1 ［外部サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［外部サーバー設定］▸▸［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号が表示されます。	
［外部認証サーバー名称］	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	

項目	説明	事前確認
[外部認証サーバータイプ]	[NDS over IPX/SPX]を選択します。	
[デフォルト NDS ツリー名]	デフォルト NDS ツリー名を入力します(半角 63 文字以内)。	
[デフォルト NDS コンテキスト名]	デフォルト NDS コンテキスト名を入力します(半角 191 文字以内)。	

7.4.2 [認証方式]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ユーザー認証 / 部門管理] ▸▸ [認証方式]を選択します。

(PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。)

項目	説明	事前確認
[ユーザー認証]	[外部サーバー認証]を選択します。	
[パブリックユーザー]	パブリックユーザーを許可するかどうかを選択します。[許可する(ログインあり)]を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面で[パブリックユーザー]を選択してログインすることで、本機を使用できます。[許可する(ログインなし)]を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面でログインすることなく、本機を使用できます。	パブリックユーザーを許可するか
[部門管理]	部門管理を行う場合は、[管理する]を選択します。[管理する]を選択する場合は、認証方式を確定後、[部門管理設定]で部門を登録してください。	部門管理するか
[ユーザー認証 / 部門認証の連動]	ユーザー認証と部門管理を連動させて、ユーザーを所属部門ごとに管理する場合は、[連動する]を選択します。連動させる場合は、一度目のログイン時に部門を指定する必要があります。一度目のログイン時に指定した部門がユーザーの所属部門として登録されます。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか

7.4.3 [管理設定]

認証&プリント機能の使用や動作に関する設定をします。

詳しくは、7-4 ページをごらんください。

7.4.4 ［初期機能制限設定］

外部サーバーで認証したユーザーの機能制限の初期値を設定します。

詳しくは、7-12 ページをごらんください。

7.4.5 ［NetWare 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［NetWare 設定］ ▸▸ ［NetWare 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ
［ユーザー認証設定］	［使用する］を選択します。	

7.5　本機を使用するユーザーを制限する（NDS over TCP/IP）

本機を使用するユーザーを NDS over TCP/IP 認証で制限するための設定を行います。

NetWare 5.1 以降を使用して、TCP/IP 環境で NDS 認証させたい場合にこの設定を行います。使用できる機能をユーザー別に制限することもできます。

NDS over TCP/IP で認証する場合は、［TCP/IP 設定］で DNS サーバーを指定する必要があります。認証時には、ツリー名およびコンテキスト名を、指定した DNS サーバーに問い合わせることにより NDS 認証サーバーの IP アドレスを取得します。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- NetWare の各バージョンには、最新のサービスパックを適用してください。

7.5.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- NDS over TCP/IP で認証する場合は、DNS サーバーを指定する必要があります。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

7.5.2 ［外部サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ►► ［外部サーバー設定］ ►► ［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号が表示されます。	
［外部認証サーバー名称］	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
［外部認証サーバータイプ］	［NDS over TCP/IP］を選択します。	
［デフォルト NDS ツリー名］	デフォルト NDS ツリー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［デフォルト NDS コンテキスト名］	デフォルト NDS コンテキスト名を入力します（半角 191 文字以内）。	

7.5.3 ［認証方式］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［認証方式］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［ユーザー認証］	［外部サーバー認証］を選択します。	
［パブリックユーザー］	パブリックユーザーを許可するかどうかを選択します。［許可する（ログインあり）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面で［パブリックユーザー］を選択してログインすることで、本機を使用できます。［許可する（ログインなし）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面でログインすることなく、本機を使用できます。	パブリックユーザーを許可するか
［部門管理］	部門管理を行う場合は、［管理する］を選択します。［管理する］を選択する場合は、認証方式を確定後、［部門管理設定］で部門を登録してください。	部門管理するか
［ユーザー認証 / 部門認証の連動］	ユーザー認証と部門管理を連動させて、ユーザーを所属部門ごとに管理する場合は、［連動する］を選択します。連動させる場合は、一度目のログイン時に部門を指定する必要があります。一度目のログイン時に指定した部門がユーザーの所属部門として登録されます。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか

7.5.4 ［管理設定］

認証＆プリント機能の使用や動作に関する設定をします。

詳しくは、7-4 ページをごらんください。

7.5.5 ［初期機能制限設定］

外部サーバーで認証したユーザーの機能制限の初期値を設定します。

詳しくは、7-12 ページをごらんください。

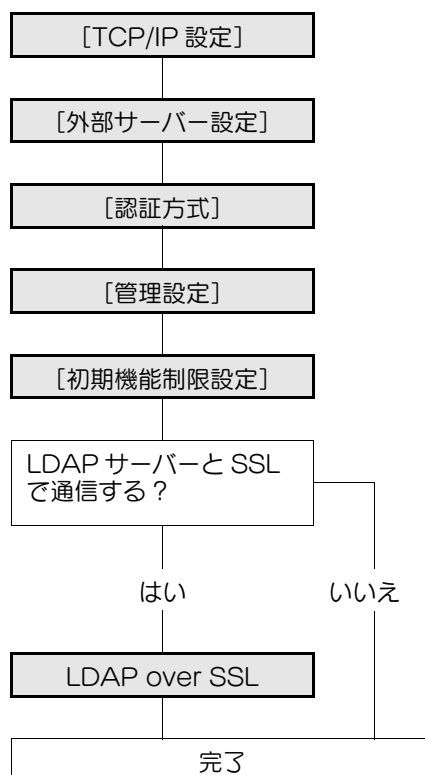
7.6 本機を使用するユーザーを制限する（LDAP）

本機を使用するユーザーを LDAP 認証で制限するための設定を行います。

LDAP サーバーで認証させたい場合にこの設定を行います。使用できる機能をユーザー別に制限することもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- ユーザー認証用と宛先検索用で同一の LDAP サーバーを使用する場合、［外部サーバー設定］で設定するユーザー認証用 LDAP サーバーの証明書検証の設定は、［ネットワーク］▸▸［LDAP 設定］▸▸［LDAP サーバー登録］で設定する宛先検索用 LDAP サーバーの証明書検証の設定によって決定します。宛先検索用の LDAP サーバーの設定および証明書検証の設定について詳しくは、10-5 ページをごらんください。

7.6.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

7.6.2 ［外部サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸［外部サーバー設定］ ▸▸［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［登録 No.］	登録番号が表示されます。	
［外部認証サーバー名称］	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
［外部認証サーバータイプ］	［LDAP］を選択します。	
［サーバーアドレス］	LDAP サーバーアドレスを設定します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：389	
［検索ベース］	LDAP サーバーに配置されているディレクトリ構造の中の検索起点を入力します（半角 255 文字以内）。 入力した起点から下のサブディレクトリも含めて検索します。	検索ベース
［タイムアウト時間］	LDAP 検索のタイムアウト時間を入力します。	
［認証方式］	LDAP サーバーへログインするときの認証方式を選択します。 認証方式は使用する LDAP サーバーで採用しているものに合わせてください。	サーバーの認証方式
［検索属性］	ユーザーアカウントの検索で使用する属性値を入力します（半角 64 文字以内、記号は - のみ使用可能）。	

7.6.3　［認証方式］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］ ▸▸ ［認証方式］を選択します。

（PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。）

項目	説明	事前確認
［ユーザー認証］	［外部サーバー認証］を選択します。	
［パブリックユーザー］	パブリックユーザーを許可するかどうかを選択します。 ［許可する（ログインあり）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面で［パブリックユーザー］を選択してログインすることで、本機を使用できます。 ［許可する（ログインなし）］を選択すると、パブリックユーザーは、ログイン画面でログインすることなく、本機を使用できます。	パブリックユーザーを許可するか
［部門管理］	部門管理を行う場合は、［管理する］を選択します。 ［管理する］を選択する場合は、認証方式を確定後、［部門管理設定］で部門を登録してください。	部門管理するか
［ユーザー認証 / 部門認証の連動］	ユーザー認証と部門管理を連動させる場合は、［連動する］を選択します。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか

7.6.4　［管理設定］

認証＆プリント機能の使用や動作に関する設定をします。

詳しくは、7-4 ページをごらんください。

7.6.5　［初期機能制限設定］

外部サーバーで認証したユーザーの機能制限の初期値を設定します。

詳しくは、7-12 ページをごらんください。

7.6.6 LDAP over SSL

［外部サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［外部サーバー設定］▸▸［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SSL 使用設定］	本機と LDAP サーバー間の通信を SSL で暗号化する場合は、チェックを入れます。	サーバーは SSL に対応するか
［ポート番号（SSL）］	SSL 通信で使用するポート番号を入力します。	サーバーのポート番号

［LDAP サーバー登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［LDAP 設定］▸▸［LDAP サーバー登録］▸▸［編集］を選択します。

参考

- 証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定するとともに、［外部サーバー設定］で指定した LDAP サーバーと同一の情報をここで登録してください。詳しくは、10-7 ページをごらんください。

項目	説明	事前確認
［証明書検証強度設定］	サーバー証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
［有効期限］	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
［CN］	サーバー証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。	
［鍵使用法］	サーバー証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	
［チェーン］	サーバー証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
［失効確認］	サーバー証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

［証明書検証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［証明書検証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	サーバー証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	
［タイムアウト時間］	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
［OCSP サービス］	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
［URL］	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	
［プロキシサーバーアドレス］	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

8 セキュリティーを強化する

8　セキュリティーを強化する

8.1　本機の証明書を登録して SSL で通信する

本機の証明書（デバイス証明書）を登録して、SSL で通信するための設定を行います。

本機には、出荷時にデバイス証明書が登録されているため、設置後すぐに SSL による暗号化通信ができます。

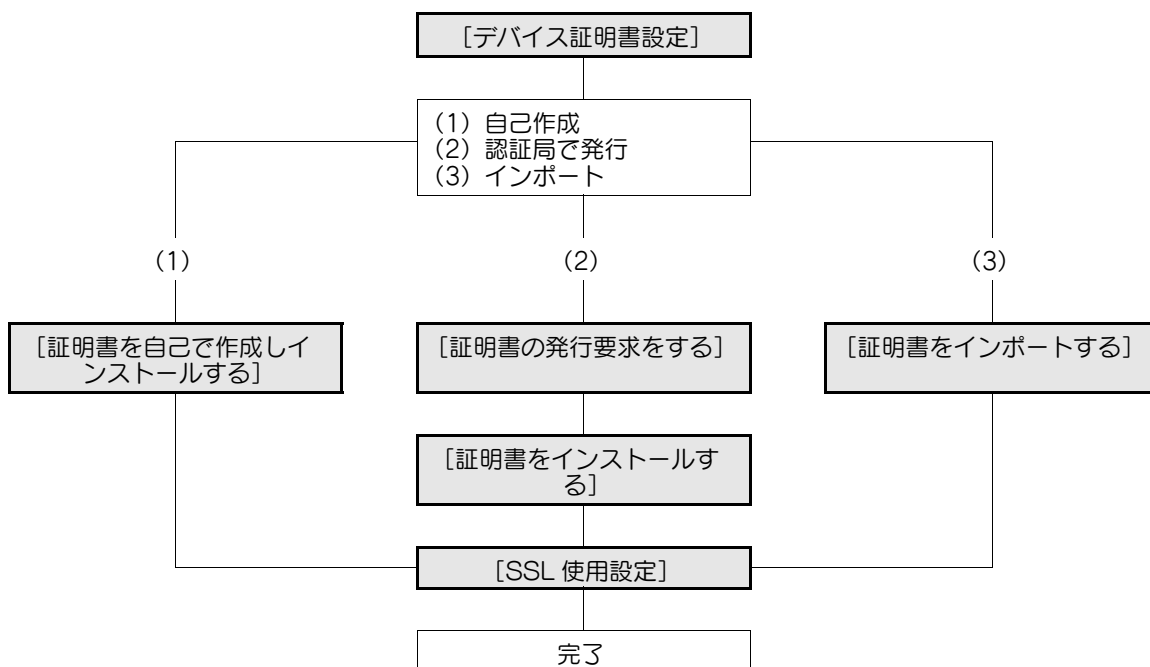
本機では複数のデバイス証明書を管理できます。本機に新しくデバイス証明書を登録したい場合は、自己で作成したり、CA（認証局）に発行要求をして発行された証明書をインストールしたりできます。また、エクスポートしたデバイス証明書をインポートすることもできます。

以下の目的で本機を使用する場合に、クライアントコンピューターから本機への通信を SSL で暗号化できます。詳しくは、参照先をごらんください。

- 「PageScope Web Connection を使用する」(p. 3-2)
- 「プリントする（IPPS)」(p. 5-9)
- 「BMLinkS 機能を使用してプリントする」(p. 5-22)
- 「Web サービスで Vista/Server 2008/7 から本機方向の通信を SSL 通信にする」(p. 8-19)
- 「IEEE802.1X 認証を行う（EAP-TLS の場合)」(p. 8-28)
- 「OpenAPI を使用したシステムと本機を連携させる」(p. 9-4)
- 「FTP サーバー機能および WebDAV サーバー機能を使用する（WebDAV サーバー機能のみ)」(p. 9-9)

また、以下の目的で本機を使用する場合に、本機に登録されているデバイス証明書を提示（添付）します。詳しくは、参照先をごらんください。

- 「スキャンしたデータを E-mail で送信する（デジタル署名の添付)」(p. 4-20)
- 「IEEE802.1X 認証を行う（EAP-TTLS または PEAP の場合)」(p. 8-28)
- 「TCP Socket を使用して本機と通信するアプリケーションを使用する」(p. 9-2)
- サーバー（SMTP、POP、LDAP、WebDAV）から要求されて証明書を提示する場合

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

本機では複数登録されているデバイス証明書を、プロトコルに応じて使い分けることができます。デバイス証明書の使い分けの設定について詳しくは、8-9 ページをごらんください。

8.1.1 ［デバイス証明書設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸［PKI 設定］ ▸▸［デバイス証明書設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［新規登録］	新しくデバイス証明書を登録できます。 自己署名証明書の作成、証明書の発行要求、証明書のインポートから登録方法を選択します。 登録できる証明書は 10 件までです。 10 件まで登録済みの場合は、［新規登録］は表示されません。	
［デフォルト］	デフォルトで使用するデバイス証明書を指定します。 プロトコルに応じてデバイス証明書の使い分けを行わない場合は、デフォルトに指定されたデバイス証明書を使用します。	デフォルトで使用するデバイス証明書
［発行者］	デバイス証明書の発行者が表示されます。	
［発行先］	デバイス証明書の発行先が表示されます。	
［有効期限］	デバイス証明書の有効期限が表示されます。	
［詳細］	デバイス証明書の詳細な情報を確認できます。	
［設定］	デバイス証明書がインストールされている場合は、証明書の破棄や証明書のエクスポートができます。 デバイス証明書の［発行者］の欄に［証明書要求中］と表示されている場合は、CA（認証局）が発行した証明書を本機にインストールできます。	

参照

デバイス証明書の破棄について詳しくは、8-8 ページをごらんください。

デバイス証明書のエクスポートについて詳しくは、8-11 ページをごらんください。

8.1.2　［証明書を自己で作成しインストールする］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］►►［PKI 設定］►►［デバイス証明書設定］►►［新規登録］►►［証明書を自己で作成しインストールする］を選択します。

項目	説明	事前確認
［コモンネーム］	本機の IP アドレスまたはドメイン名が表示されます。 本機にアクセスしたときの設定値が表示されます。	
［組織名］	組織名、団体名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［部門名］	部門名を入力します（半角 63 文字以内）。 空白でも登録できます。	
［市区町村名］	市区町村名を入力します（半角 127 文字以内）。	
［都道府県名］	都道府県名を入力します（半角 127 文字以内）。	
［国別記号］	国名を ISO03166 で規定されている国コードで入力します（半角 2 文字）。 アメリカ：US、イギリス：GB、イタリア：IT、オーストラリア：AU、オランダ：NL、カナダ：CA、スペイン：ES、チェコ：CZ、中国：CN、デンマーク：DK、ドイツ：DE、日本：JP、フランス：FR、ベルギー：BE、ロシア：RU	
［管理者アドレス］	管理者の E-mail アドレスを入力します（スペースを除く半角 128 文字以内）。 ［環境設定］►►［本体登録］で管理者の E-mail アドレスを登録している場合は、登録した E-mail アドレスが表示されます。	管理者の E-mail アドレス
［有効開始の日付］	有効期間の開始日が表示されます。 本画面を表示したときの本機の日付、時刻が表示されます。	
［有効期間］	証明書の有効期間を開始日からの経過日数で入力します。	
［暗号鍵の種類］	暗号鍵の種類を選択します。	
［OK］	自己署名証明書を作成します。証明書を作成するのに数分かかる場合があります。	

8.1.3 ［証明書の発行要求をする］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［PKI 設定］ ▸▸ ［デバイス証明書設定］ ▸▸ ［新規登録］ ▸▸ ［証明書の発行要求をする］を選択します。

項目	説明	事前確認
［コモンネーム］	本機の IP アドレスまたはドメイン名が表示されます。 本機にアクセスしたときの設定値が表示されます。	
［組織名］	組織名、団体名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［部門名］	部門名を入力します（半角 63 文字以内）。 空白でも登録できます。	
［市区町村名］	市区町村名を入力します（半角 127 文字以内）。	
［都道府県名］	都道府県名を入力します（半角 127 文字以内）。	
［国別記号］	国名を ISO03166 で規定されている国コードで入力します（半角 2 文字）。 アメリカ：US、イギリス：GB、イタリア：IT、オーストラリア：AU、オランダ：NL、カナダ：CA、スペイン：ES、チェコ：CZ、中国：CN、デンマーク：DK、ドイツ：DE、日本：JP、フランス：FR、ベルギー：BE、ロシア：RU	
［管理者アドレス］	管理者の E-mail アドレスを入力します（スペースを除く半角 128 文字以内）。 ［環境設定］ ▸▸ ［本体登録］で管理者の E-mail アドレスを登録している場合は、登録した E-mail アドレスが表示されます。	管理者の E-mail アドレス
［暗号鍵の種類］	暗号鍵の種類を選択します。	
［OK］	証明書発行要求データを作成します。	

［証明書要求データ］

項目	説明	事前確認
［証明書要求データ］	証明書発行の要求データが表示されます。 表示された文字列を CA（認証局）へ送付してください。	
［保存］	証明書発行要求データをファイルとしてコンピューターに保存します。	

8.1.4　［証明書をインストールする］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］▸▸［PKI 設定］▸▸［デバイス証明書設定］▸▸［設定］▸▸［証明書をインストールする］を選択します。

CA（認証局）に証明書の発行要求をした後、CA から送られてきた証明書を本機にインストールします。

項目	説明	事前確認
［証明書をインストールする］	CA（認証局）から送られてきたテキスト形式のデータを貼り付けます。	
［インストール］	証明書をインストールします。	

8.1.5　［証明書をインポートする］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［PKI 設定］ ▸▸ ［デバイス証明書設定］ ▸▸ ［新規登録］ ▸▸ ［証明書をインポートする］を選択します。

項目	説明	事前確認
［ファイル］	インポートするデバイス証明書のファイル名を指定します。 ［参照］をクリックすると、証明書ファイルの場所を指定できます。	
［パスワード］	暗号化された証明書ファイルを復号するためのパスワードを入力します（半角 32 文字以内）。	

8.1.6　［SSL 使用設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［PKI 設定］ ▸▸ ［SSL 使用設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SSL/TLS 使用モード］	SSL を適用する PageScope Web Connection のモードを選択します。 ［なし］を選択すると、SSL を無効にできます。	
［暗号強度］	SSL の暗号強度を選択します。	

8.1.7 ［証明書を破棄する］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［PKI 設定］ ▸▸ ［デバイス証明書設定］ ▸▸ ［設定］ ▸▸ 「証明書を破棄する」を選択します。

［OK］をクリックすると、登録されているデバイス証明書が破棄されます。

参考

- 証明書を 2 件以上登録していて、かつデフォルトに指定しているデバイス証明書を破棄する場合は、別のデバイス証明書をデフォルトに指定する必要があります。
- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合、デバイス証明書を破棄できません。

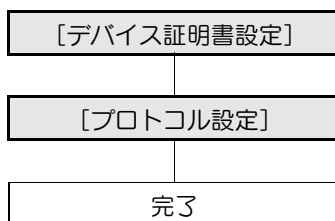
8.2 プロトコルに応じてデバイス証明書を使い分ける

プロトコルに応じてデバイス証明書を使い分けるための設定を行います。

本機では複数登録されているデバイス証明書を、プロトコルに応じて使い分けることができます。ご使用の環境に合わせて設定してください。

本機では、以下のプロトコルで使用するデバイス証明書を指定できます。

プロトコル 1	プロトコル 2	説明
[SSL]	[http サーバー]	本機が HTTP サーバーになる場合 ・ クライアントが HTTPS で PageScope Web Connection にアクセスする場合に、クライアントから本機方向の通信を暗号化するために使用する。 ・ クライアントから IPPS で印刷する場合に、クライアントから本機方向の通信を暗号化するために使用する。
[SSL]	[E-mail 送信(SMTP)]	本機が SMTP クライアントになる場合 ・ SMTP サーバーから証明書を要求された場合に、デバイス証明書を提示する。
[SSL]	[E-mail 受信(POP)]	本機が POP クライアントになる場合 ・ POP サーバーから証明書を要求された場合に、デバイス証明書を提示する。
[SSL]	[TCP Socket]	本機が TCP Socket クライアントになる場合 ・ TCP Socket サーバーから証明書を要求された場合に、デバイス証明書を提示する。
[SSL]	[LDAP]	本機が LDAP クライアントになる場合 ・ LDAP サーバーから証明書を要求された場合に、デバイス証明書を提示する。
[SSL]	[WebDAV クライアント]	本機が WebDAV クライアントになる場合 ・ WebDAV サーバーから証明書を要求された場合に、デバイス証明書を提示する。
[SSL]	[OpenAPI]	本機が OpenAPI サーバーになる場合 ・ OpenAPI クライアントが SSL で本機にアクセスする場合に、クライアントから本機方向の通信を暗号化するために使用する。
[SSL]	[BMLinkS]	本機が HTTPS サーバーになる場合 ・ クライアントから BMLinkS 機能で印刷する場合に、クライアントから本機方向の通信を暗号化するために使用する。
[SSL]	[Web サービス]	本機が Web サービスサーバーになる場合 ・ Windows Vista/7 が HTTPS で本機にアクセスする場合に、Vista/7 から本機方向の通信を暗号化する。
[IEEE802.1X]		本機が IEEE802.1X の認証クライアントになる場合 ・ EAP-TLS で IEEE802.1X サーバーに認証を受ける場合に、通信を暗号化するために使用する。 ・ EAP-TTLS または EAP-PEAP で、サーバーから証明書を要求された場合に、デバイス証明書を提示する。
[S/MIME]		S/MIME メールを送信する場合に、デバイス証明書を添付する。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

デバイス証明書を使い分けない場合は、[デバイス証明書設定] で [デフォルト] に指定しているデバイス証明書を使用します。詳しくは、8-2 ページをごらんください。

8.2.1 [デバイス証明書設定]

デバイス証明書を登録します。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

8.2.2 [プロトコル設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[セキュリティー] ▸▸ [PKI 設定] ▸▸ [プロトコル設定] を選択します。

参考

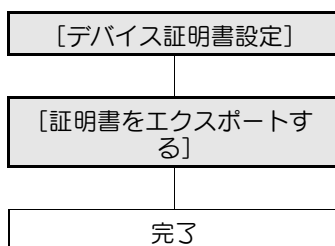
- デバイス証明書が登録されていない場合や、デバイス証明書が証明書要求中の状態のみの場合は、証明書の使い分けを設定できません。

項目	説明	事前確認
[プロトコル 1] / [プロトコル 2]	プロトコルの分類が表示されます。 使用するデバイス証明書が登録されている場合は、プロトコルに「*」が付きます。	
[登録]	デバイス証明書を指定したいプロトコルを選択し、[登録] をクリックします。デバイス証明書の登録画面が表示され、使用するデバイス証明書を指定できます。 デバイス証明書が登録済みの場合は、[編集] が表示されます。[編集] をクリックすると、使用するデバイス証明書を変更したり、デバイス証明書の詳細を確認したりできます。	
[削除]	使用するデバイス証明書を登録している場合に、登録情報を削除します。	

8.3 本機の証明書を管理する

デバイス証明書を管理したい場合は、PageScope Web Connection を使用してエクスポートできます。

デバイス証明書を取得すれば、取得した証明書（公開鍵）を使用して、ユーザーから本機に対して E-mail を暗号化して送信することもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

ユーザーは、本機からデジタル署名が添付された E-mail を受信することでも、デバイス証明書を取得できます。デジタル署名を添付して E-mail を送信する方法について詳しくは、4-20 ページをごらんください。

8.3.1 [デバイス証明書設定]

デバイス証明書を登録します。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

8.3.2 [証明書をエクスポートする]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[セキュリティー] ▸▸ [PKI 設定] ▸▸ [デバイス証明書設定] ▸▸ [設定] ▸▸ [証明書をエクスポートする] を選択します。

項目	説明	事前確認
[パスワード]	パスワードを入力します（半角 32 文字以内）。 入力したパスワードは、証明書をインポートするときに必要になります。	
[パスワードの再入力]	確認のため、パスワードを再入力します（半角 32 文字以内）。	
[OK]	ダウンロード画面に移動します。	

［ダウンロード］をクリックすると、証明書をコンピューターにダウンロードできます。

ダウンロードの準備ができました。「ダウンロード」ボタンを押して、保存を開始してください。保存が終了したら、「戻る」ボタンを押してください。

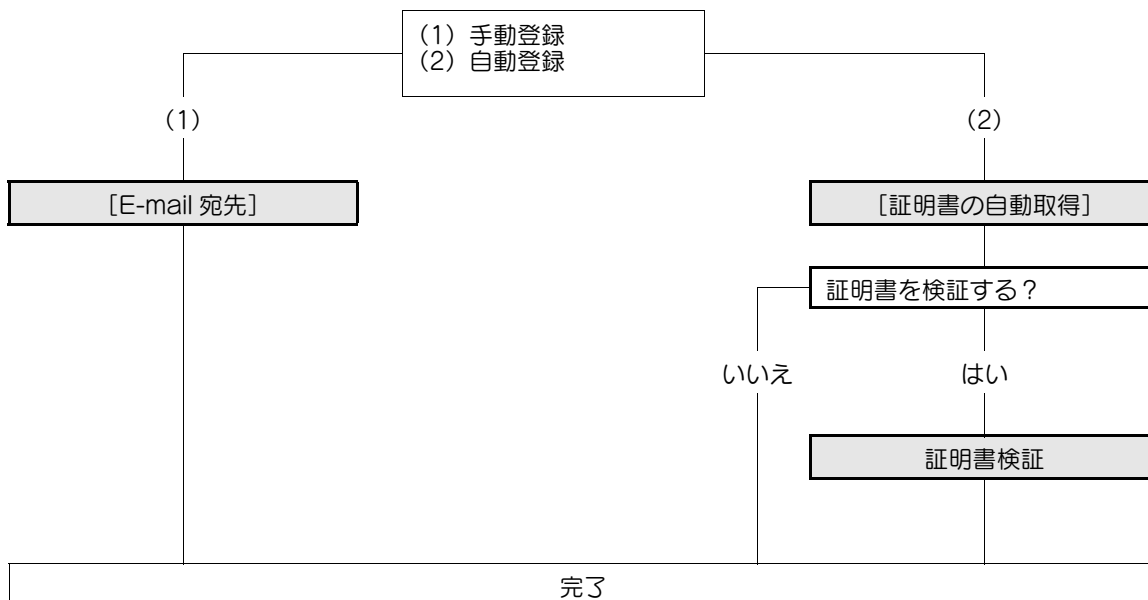
ダウンロード　戻る

8.4 本機にユーザーの証明書を登録する

本機にユーザーの証明書を登録します。

証明書の登録方法には、E-mail 宛先を登録するときに指定する方法と、本機宛にデジタル署名を添付した E-mail を送信して自動登録させる方法があります。

本機にユーザーの証明書を登録すれば、登録した証明書（公開鍵）を使用して、本機からユーザーに対して E-mail を暗号化して送信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

8.4.1 ［E-mail 宛先］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］ ▸▸ ［短縮宛先］ ▸▸ ［宛先登録］ ▸▸ ［新規登録］ ▸▸ ［E-mail 宛先］ を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書情報の登録］	［証明書情報の登録］にチェックを入れます。［参照］をクリックし、登録する証明書情報の保存場所を指定します。 証明書情報は、DER（Distinguished Encoding Rules）形式のファイルのみサポートされています。 ［証明書情報の削除］を選択すると、登録されている証明書情報を削除します。 宛先として登録する E-mail アドレスと、ユーザーの証明書の E-mail アドレスが一致しない場合は、証明書を登録できません。証明書を登録する前に E-mail アドレスが一致しているかどうか確認してください。	証明書の保存場所

8.4.2　［証明書の自動取得］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［E-mail 設定］ ▸▸ ［S/MIME］を選択します。

項目	説明	事前確認
［S/MIME 通信設定］	［使用する］を選択します。	
［証明書の自動取得］	［する］を選択します。	
［S/MIME 情報の印刷］	S/MIME 情報を印刷したい場合は、［する］を選択します。	

参考

- 証明書を登録したいユーザーの E-mail 宛先が、あらかじめ本機に登録されている必要があります。
- 証明書を自動取得するには、本機で E-mail を受信できる必要があります。E-mail を受信するための設定について詳しくは、6-8 ページをごらんください。
- 上記の条件を満たす場合に、ネットワーク上のコンピューターから本機宛にデジタル署名を添付した E-mail を送信してください。本機に登録されているユーザーの E-mail アドレスと、本機が受信した証明書に登録されている E-mail アドレスが一致した場合に、自動的に証明書が登録されます。

8.4.3　証明書検証

［証明書検証強度設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［E-mail 設定］ ►► ［S/MIME］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証強度設定］	証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
［有効期限］	証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
［鍵使用法］	証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	
［チェーン］	証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
［失効確認］	証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

［証明書検証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ►► ［証明書検証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	
［タイムアウト時間］	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
［OCSP サービス］	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
［URL］	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	

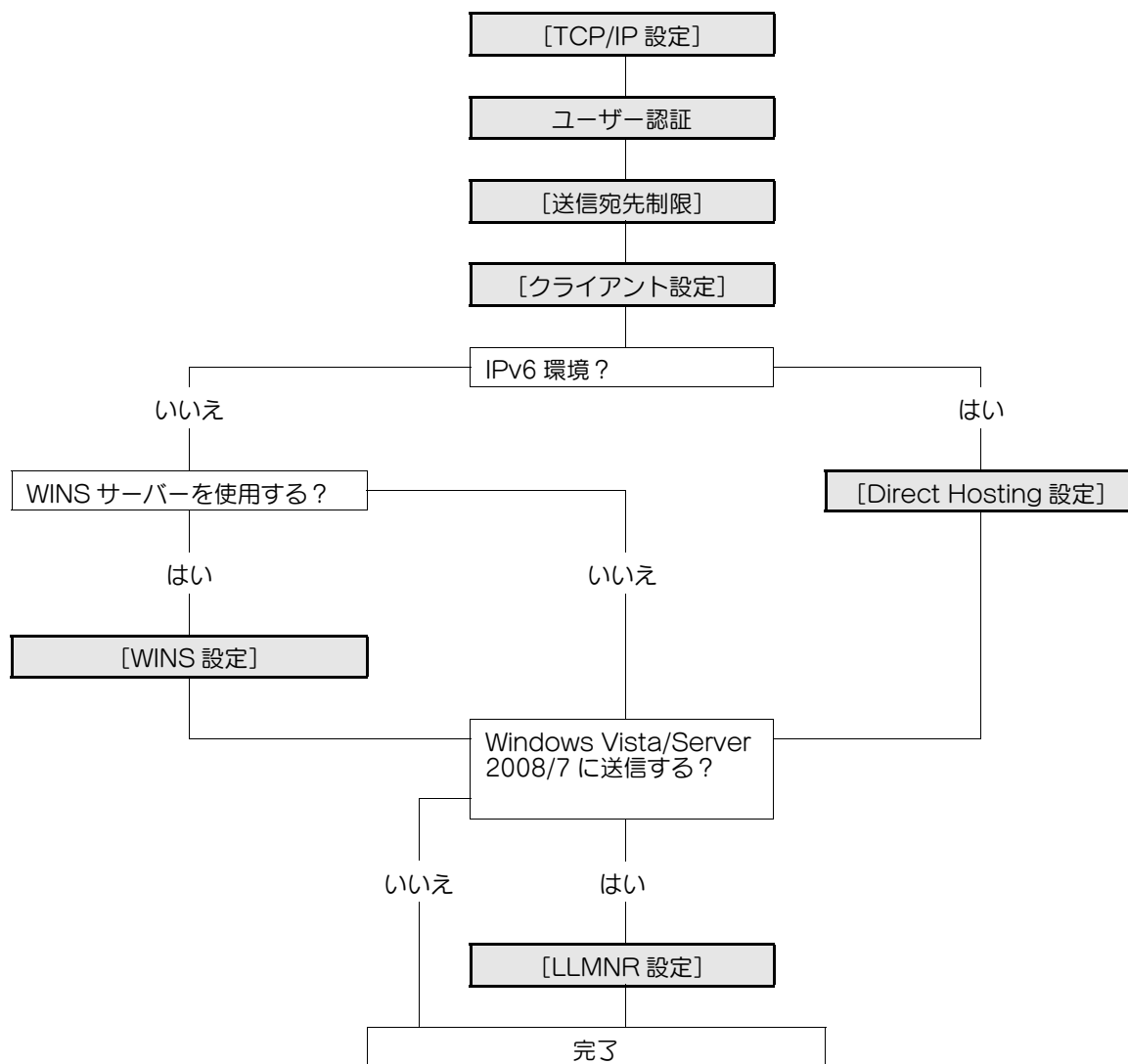
項目	説明	事前確認
［プロキシサーバーアドレス］	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

8.5　アドレス帳に登録された SMB 宛先の利用を制限する

アドレス帳に登録された SMB 宛先の利用を制限するための設定を行います。

ログインしたユーザーが、自分の SMB 宛先をアドレス帳から選択して送信する場合に、ユーザー認証のユーザー名とパスワードをそのまま使用して SMB の認証をすることができます。SMB の認証にユーザー認証のユーザー名とパスワードを使用すれば、誰でも参照できてしまうアドレス帳に SMB の認証情報を登録しないでおくことができるため、自分以外の SMB 宛先の利用を制限できます。

この機能を利用する場合は、SMB 宛先の［ユーザー ID］と［パスワード］の欄に何も登録しないでください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参照

［送信宛先制限］を［制限する］に設定すると、一部の機能を利用できなくなります。詳しくは、8-41 ページをごらんください。

SMB 宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

8.5.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

- IPv6 環境で SMB 送信するときに、送信先のコンピューターをコンピューター名（ホスト名）で指定する場合は、DNS サーバーを用意し、本機の DNS に関する設定を行ってください。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

8.5.2 ユーザー認証

本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

詳しくは、以下の参照先をごらんください。

- 「本機を使用するユーザーを制限する（本体装置認証）」（p. 7-2）
- 「本機を使用するユーザーを制限する（Active Directory）」（p. 7-9）
- 「本機を使用するユーザーを制限する（Windows ドメイン／ワークグループ）」（p. 7-14）
- 「本機を使用するユーザーを制限する（NDS over TCP/IP）」（p. 7-21）
- 「本機を使用するユーザーを制限する（LDAP）」（p. 7-24）

8.5.3 ［送信宛先制限］

ユーザーの直接入力による宛先の指定を制限するための設定を行います。

詳しくは、8-41 ページをごらんください。

8.5.4 ［クライアント設定］

SMB クライアントの設定を行います。

詳しくは、4-3 ページをごらんください。

8.5.5 ［WINS 設定］

ルーター経由で SMB 送信を行う場合は、WINS サーバーの設定を行います。

詳しくは、4-4 ページをごらんください。

8.5.6 ［Direct Hosting 設定］

IPv6 環境で SMB 送信を行う場合は、ダイレクトホスティングサービスを有効にします。

詳しくは、4-5 ページをごらんください。

8.5.7 ［LLMNR 設定］

Windows Vista/Server 2008/7 と通信し、かつ DNS サーバーが動作していない環境で名前解決を行う場合は、LLMNR 機能を有効にします。

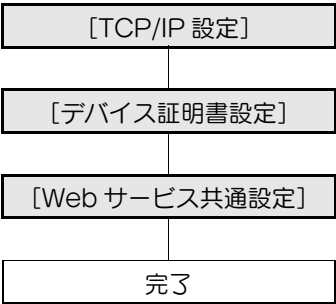
詳しくは、4-5 ページをごらんください。

8.6 Web サービスで Vista/Server 2008/7 から本機方向の通信を SSL 通信にする

Web サービス機能を使用して通信するときに、Windows Vista/Server 2008/7 搭載のコンピューターから本機方向の通信を SSL で暗号化するための設定を行います。Web サービスによる通信を SSL で暗号化して、セキュリティーを強化できます。

SSL 通信の設定をする場合は、以下の確認をしてください。

- 本機とコンピューター間の通信をSSLで暗号化するには、双方向でSSL通信の設定を行う必要があります。本機から Vista/Server2008/7 方向の SSL 通信の設定について詳しくは、8-20 ページをごらんください。
- コンピューター側から本機を DNS により名前解決できる必要があります。あらかじめ DNS サーバーに本機を登録して、コンピューター側で DNS の設定を行ってください。
- 本機の証明書が CA（認証局）により発行されたものでない場合は、ローカルコンピュータの［信頼されたルート証明機関］にデバイス証明書を登録してください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

8.6.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

8.6.2 ［デバイス証明書設定］

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

8.6.3 ［Web サービス共通設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［Web サービス設定］▸▸［Web サービス共通設定］を選択します。

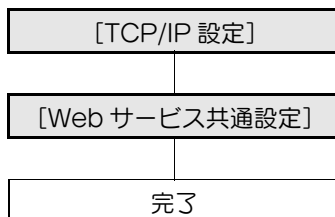
項目	説明	事前確認
［Friendly Name］	Friendly Name を入力します（半角 62 文字以内）。	
［SSL 設定］	［使用する］を選択します。	
［Publication Service］	Windows Vista/Server 2008/7 で NetBIOS が無効、または IPv6 のみの通信を行うよう構築された環境で本機を使用する場合は、［有効］を選択します。	

8.7 Web サービスで本機から Vista/Server 2008/7 方向の通信を SSL 通信にする

Web サービス機能を使用して通信するときに、本機から Windows Vista/Server 2008/7 搭載のコンピューター方向の通信を SSL で暗号化するための設定を行います。Web サービスによる通信を SSL で暗号化して、セキュリティーを強化できます。

SSL 通信の設定をする場合は、以下の確認をしてください。

- 本機とコンピューター間の通信をSSLで暗号化するには、双方向でSSL通信の設定を行う必要があります。Vista/Server 2008/7 から本機方向の SSL 通信の設定について詳しくは、8-19 ページをごらんください。
- あらかじめコンピューター側で証明書を作成して、TCP/IP の通信ポートと関連付けてください（初期値：ポート番号 5358)。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

8.7.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

8.7.2 ［Web サービス共通設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［Web サービス設定］▸▸［Web サービス共通設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［Friendly Name］	Friendly Name を入力します（半角 62 文字以内)。	
［SSL 設定］	［使用する］を選択します。	
［Publication Service］	Windows Vista/Server 2008/7 で NetBIOS が無効、または IPv6 のみの通信を行うよう構築された環境で本機を使用する場合は、［有効］を選択します。 Publication Service による接続先の検出は、NetBIOS による接続先の検出と合わせて、最大 512 個まで検出できます。	
［証明書検証強度設定］	証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
［有効期限］	証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
［鍵使用法］	証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	
［チェーン］	証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
［失効確認］	証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

［証明書検証設定］

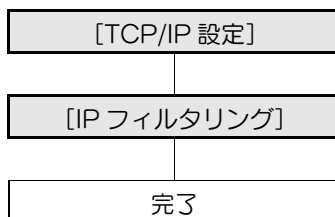
PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］▸▸［証明書検証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	
［タイムアウト時間］	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
［OCSP サービス］	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
［URL］	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	
［プロキシサーバーアドレス］	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

8.8　IP アドレスフィルタリングを行う

IP アドレスフィルタリングを行うための設定を行います。

IP アドレスフィルタリングを行うことで、指定した IP アドレスからのアクセスを制限できます。本機へのアクセスを許可するアドレスと拒否するアドレスを指定できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- IP アドレスフィルタリングは IPv6 に対応していません。

8.8.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

8.8.2 ［IP フィルタリング］

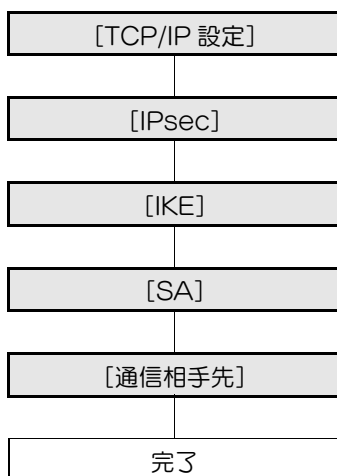
PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［TCP/IP 設定］ ►► ［IP フィルタリング］を選択します。

項目	説明	事前確認
［許可設定］	許可アドレスを指定する場合は、［有効］を選択します。	
［範囲 1］～［範囲 5］	許可するアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255）	許可するアドレス
［拒否設定］	拒否アドレスを指定する場合は、［有効］を選択します。	
［範囲 1］～［範囲 5］	拒否するアドレスを設定します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255）	拒否するアドレス

8.9 IPsec で通信する

IPsec で通信するための設定を行います。

IPsec で通信することで、IP パケット単位でデータの改ざんや漏洩を防止できます。これによって、暗号化をサポートしていないトランスポートやアプリケーションを用いても、安全に通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

8.9.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

8.9.2 ［IPsec］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［TCP/IP 設定］▸▸［IPsec］を選択します。

項目	説明	事前確認
［IPsec］	［使用する］を選択します。	

8.9.3 ［IKE］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［TCP/IP 設定］▸▸［IPsec］を選択します。

項目	説明	事前確認
［鍵有効時間］	通信の暗号化に使用する共通鍵を安全に生成するための共通鍵の有効時間を入力します。 有効時間が経過すると、新しい鍵が生成されるため、セキュリティーを確保できます。	
［Diffie-Hellman グループ］	Diffie-Hellman グループを選択します。	

[IKE 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [TCP/IP 設定] ▸▸ [IPsec] ▸▸ [IKE] ▸▸ [編集] を選択します。

(IKE は 4 グループまで登録できます。)

項目	説明	事前確認
[暗号化アルゴリズム]	通信に使用する共通鍵を生成するときに使用する暗号化アルゴリズムを選択します。	
[認証アルゴリズム]	通信に使用する共通鍵を生成するときに使用する認証アルゴリズムを選択します。	

8.9.4 [SA]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [TCP/IP 設定] ▸▸ [IPsec] を選択します。

項目	説明	事前確認
[確立後の破棄時間]	通信の暗号化に使用する共通鍵の有効時間を入力します。有効時間が経過すると、新しい鍵が生成されるため、セキュリティーを確保できます。	

[SA 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [TCP/IP 設定] ▸▸ [IPsec] ▸▸ [SA] ▸▸ [編集] を選択します。

(SA は 8 グループまで登録できます。)

項目	説明	事前確認
[セキュリティープロトコル]	セキュリティープロトコルを選択します。	
[ESP 暗号化アルゴリズム]	セキュリティープロトコルで [ESP] を選択した場合は、ESP 暗号化アルゴリズムを選択します。	
[ESP 認証アルゴリズム]	セキュリティープロトコルで [ESP] を選択した場合は、ESP 認証アルゴリズムを選択します。	
[AH 認証アルゴリズム]	セキュリティープロトコルで [AH] を選択した場合は、AH 認証アルゴリズムを選択します。	

8.9.5 ［通信相手先］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［TCP/IP 設定］ ►► ［IPsec］ ►► ［通信相手先］ ►► ［編集］を選択します。

（通信相手先は 10 台まで登録できます。）

項目	説明	事前確認
［Perfect Forward Secrecy］	IKE の強度を上げたい場合は、［使用する］を選択します。 ［使用する］を選択した場合、通信にかかる時間が長くなります。	
［通信相手先］	相手先の IP アドレスを入力します。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	相手先の IP アドレス
［Pre-Shared Key 文字列］	通信相手先と共有する Pre-Shared Key 文字列を入力します（半角 64 文字以内）。 通信相手と同じ文字列を設定しておく必要があります。	
［カプセル化モード］	IPsec の動作モードを選択します。	

8.10 IEEE802.1X 認証を行う

IEEE802.1X 認証が導入された有線 LAN 環境で本機を使用する場合に、本機のサプリカント（認証クライアント）機能の設定を行います。

IEEE802.1X 認証を行うことで、管理者が許可した機器以外の LAN 環境への接続を制限できます。本機の設定は、ご使用の環境に合わせて行ってください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

8.10.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

8.10.2 [デバイス証明書設定]

利用する EAP 認証方式によって、本機にクライアント証明書（デバイス証明書）を登録します。

- [EAP-Type] が [EAP-TLS] の場合は、デバイス証明書の登録が必要です。
- [EAP-Type] が [EAP-TTLS] または [PEAP] の場合は、利用方法によってはデバイス証明書の登録が必要になります。

デバイス証明書の登録について詳しくは、8-2 ページをごらんください。

8.10.3 [IEEE802.1X 認証設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [IEEE802.1X 認証設定] ▸▸ [IEEE802.1X 認証設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[認証状態]	認証状態が表示されます。 ・ [認証済み]:認証済みの場合に表示 ・ [認証中]:認証中の場合に表示 ・ [未認証]:未認証の場合に表示 ・ [認証失敗]:認証失敗の場合に表示 ・ [状態取得失敗]:認証状態取得失敗時に表示 [更新] を押すと、現在の認証状態に更新されます。	
[IEEE802.1X 認証設定]	[使用する] を選択します。	
[サプリカント設定]	サプリカント(認証クライアント)である本機が認証サーバーから認証を受けるために必要な設定を行います。ご使用の環境に合わせて設定してください。	
[ユーザー ID]	ユーザー ID を入力します(半角 128 文字以内)。 ユーザー ID は、すべての EAP-Type で使用します。	
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
[パスワード]	パスワードを入力します(半角 128 文字以内)。 パスワードは、[EAP-TLS] 以外の EAP-Type で使用します。	
[EAP-Type]	EAP 認証方式を選択します。 [サーバーに依存] を選択すると、認証サーバーが提供する EAP-Type で認証します。認証サーバーが提供する EAP-Type に合わせて、本機で必要なサプリカントの設定を行ってください。 [しない] には設定しないでください。	EAP 認証方式
[EAP-TTLS]	EAP-TTLS に関する設定を行います。	

項目	説明	事前確認
［anonymous］	EAP-TTLS の認証で使用する anonymous 名を入力します（半角 128 文字以内）。 ［EAP-Type］が、［EAP-TTLS］または［サーバーに依存］の場合に設定できます。	
［内部認証プロトコル］	EAP-TTLS の内部認証プロトコルを選択します。 ［EAP-Type］が、［EAP-TTLS］または［サーバーに依存］の場合に設定できます。	
［サーバー ID］	サーバー ID を入力します（半角 64 文字以内）。 サーバー証明書の CN を検証する場合に設定が必要です。	サーバー証明書の CN を検証するか
［クライアント証明書］	本機のクライアント証明書を使用して、認証情報を暗号化するかどうかを選択します。本機にクライアント証明書が登録されている場合に設定できます。 ［EAP-Type］で［EAP-TLS］を選択した場合は、クライアント証明書が必須になります。 ［EAP-Type］が、［EAP-TTLS］または［PEAP］の場合にも設定できます。	
［暗号強度］	TLS で暗号化通信を行うときの暗号強度を選択します。 ・［低］：すべての鍵長で通信 ・［中］：56 bit 超の鍵長で通信 ・［高］：128 bit 超の鍵長で通信 ［EAP-Type］で、［しない］または［EAP-MD5］以外を選択した場合に設定できます。	
［ネットワーク停止時間］	認証を開始してから指定時間内に認証に成功しない場合は、すべてのネットワーク通信を停止します。認証を開始してからネットワーク通信を停止するまでの猶予時間を設定する場合は、チェックを入れます。	
［停止時間］	認証を開始してからネットワーク通信を停止するまでの猶予時間（秒）を設定します。 ネットワーク通信の停止後に再度認証させたい場合は、本機の主電源を入れなおしてください。	

8.10.4 証明書検証

［IEEE802.1X 認証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［IEEE802.1X 認証設定］▸▸［IEEE802.1X 認証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証強度設定］	サーバー証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
［有効期限］	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
［CN］	サーバー証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。 CN を確認する場合は、［サーバー ID］を設定してください。	
［チェーン］	サーバー証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	

［証明書検証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［証明書検証設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	サーバー証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	

8.10.5 ［IEEE802.1X 認証試行］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［IEEE802.1X 認証設定］ ▸▸ ［IEEE802.1X 認証試行］を選択します。

項目	説明	事前確認
［認証状態］	認証状態が表示されます。 ・ ［認証済み］：認証済みの場合に表示 ・ ［認証中］：認証中の場合に表示 ・ ［未認証］：未認証の場合に表示 ・ ［認証失敗］：認証失敗の場合に表示 ・ ［状態取得失敗］：認証状態取得失敗時に表示 ［更新］を押すと、現在の認証状態に更新します。	
［認証試行］	直ちに認証を試行します。	

8.11 外部証明書を管理する

本機で外部証明書を管理できます。

信頼する CA（認証局）のルート証明書や中間証明書、信頼する EE（End Entity）の証明書、信頼しない証明書を本機に登録して管理できます。登録した外部証明書は、証明書のチェーンの検証で、検証する証明書の証明のパスに問題ないかどうかを確認するときに参照されます。

［外部証明書設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［PKI 設定］ ▸▸ ［外部証明書設定］を選択します。

項目	説明
証明書の種類	表示したい外部証明書の種類を選択して［表示切替］をクリックすると、選択した外部証明書の種類の一覧が表示されます。
［新規登録］	新しく外部証明書を登録します。 新規登録画面で［参照］をクリックし、新しく登録する外部証明書を指定します。
［発行者］	外部証明書の発行者が表示されます。
［発行先］	外部証明書の発行先が表示されます。
［有効期限］	外部証明書の有効期限が表示されます。
［詳細］	外部証明書の詳細な情報を確認できます。
［削除］	削除確認画面が表示され、外部証明書を削除できます。

［新規登録］

項目	説明
［ファイル］	［参照］をクリックし、新しく登録する外部証明書を指定します。 ・ ［信頼する CA のルート証明書］を選択している場合は、信頼する CA（認証局）のルート証明書を登録します。 ・ ［信頼する CA の中間証明書］を選択している場合は、信頼する CA（認証局）の中間証明書を登録します。 ・ ［信頼する EE（End Entity）の証明書］を選択している場合は、信頼する証明書を個別に登録します。 ・ ［信頼しない証明書］を選択している場合は、信頼しない証明書を個別に登録します。

参考

種類	説明
［信頼する CA のルート証明書］	提示される証明書のチェーンを検証する場合は、証明書を発行した CA の証明書を本機にインポートしておく必要があります。
［信頼する CA の中間証明書］	提示される証明書が中間認証局から発行されている場合は、中間認証局の証明書を本機にインポートしておく必要があります。また、中間認証局を認証している CA のルート証明書も本機にインポートしておく必要があります。
［信頼する EE（End Entity）の証明書］	信頼する EE とは、提示される証明書そのものを意味しています。提示される証明書そのものを本機にインポートしておくことで、提示される証明書を信頼する証明書として判断するようにできます。 提示される証明書が、信頼される EE の証明書として事前に登録されている場合は、本機は証明書のチェーンを検証せずに、信頼できる証明書として判断します。
［信頼しない証明書］	信頼しない証明書を登録することができます。

8.12 ユーザーごとに参照できる宛先を制限する

参照許可グループを登録、編集できます。

ユーザー登録時に、ユーザーを参照許可グループに登録します。加えて、短縮宛先の登録時に、ここで登録した任意の参照許可グループのみに対して参照許可を与えることで、ユーザーごとに参照できる短縮宛先を制限できます。

また、参照許可グループごとに参照可能レベルを設定できます。短縮宛先への参照許可を与えられたグループに所属していないユーザーでも、ユーザーに設定されている参照可能レベルが、短縮宛先への参照許可を与えられたグループの参照可能レベル以上であれば、その短縮宛先を参照できます。

参照

ユーザー登録について詳しくは、7-5 ページをごらんください。

短縮宛先の登録について詳しくは、11-7 ページをごらんください。

［宛先参照許可設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ►► ［宛先参照許可設定］ ►► ［編集］を選択します。

項目	説明
［No.］	登録番号が表示されます。
［参照許可グループ名称］	参照許可グループの名称を設定します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［参照可能レベル］	参照許可グループの参照可能レベルを指定します。

8.13　ユーザーによる登録および変更を禁止する

ユーザーによる宛先の登録、生体 /IC カード情報の登録、From アドレスの変更を禁止できます。

［ユーザー操作禁止設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［ユーザー操作禁止設定］ を選択します。

項目	説明
［登録宛先変更］	ユーザーによる宛先の登録、変更を禁止する場合は、［禁止］を選択します。
［生体 /IC カード情報登録］	ユーザーによる生体 /IC カード情報の登録を禁止する場合は、［禁止］を選択します。
［From アドレス変更］	本機から E-mail を送信するとき、ユーザーによる From アドレスの変更を禁止する場合は、［管理者アドレス］または［ユーザーアドレス優先］を選択します。 ［管理者アドレス］を選択すると、管理者の E-mail アドレスが、本機から送信する E-mail の From アドレスに設定されます。 ［ユーザーアドレス優先］を選択すると、ユーザーの E-mail アドレスが登録されている場合は、ユーザーの E-mail アドレスが From アドレスに設定されます。ユーザーの E-mail アドレスが登録されていない場合や、S/MIME を使用して送信する場合は、管理者の E-mail アドレスが From アドレスに設定されます。 ［許可］を選択すると、E-mail を送信する前にユーザーが From アドレスを変更できます。

参考

- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合、［登録宛先変更］は［禁止］に設定されます。
- ［生体 /IC カード情報登録］は、オプションの認証装置を装着している場合に設定できます。
- ユーザー認証を行う場合は、［From アドレス変更］の初期値は［ユーザーアドレス優先］に設定されます。

8.14 コピーセキュリティーを設定する

コピーガード機能およびパスワードコピー機能の使用に関する設定ができます。

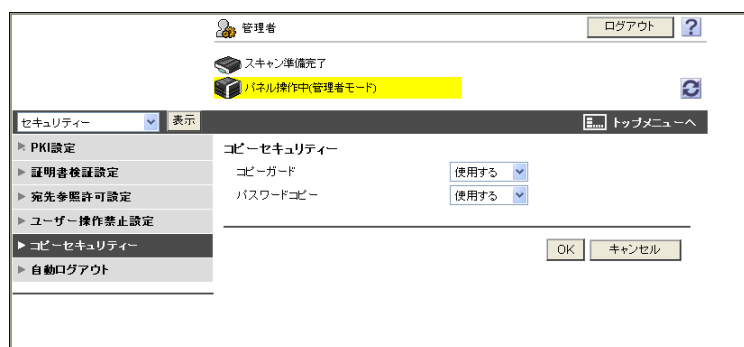
コピーガード機能を使用すると、文書にコピーガード（コピー禁止情報が埋め込まれた文字）を印字できます。コピーガードが印字された文書をコピーしようとすると警告が表示され、コピーできません。

パスワードコピー機能を使用すると、文書にパスワードを埋め込むことができます。パスワードが埋め込まれた文書をコピーしようとするとパスワードの入力を要求されます。正しいパスワードを入力しないとコピーできません。

参考
- コピーガード機能およびパスワードコピー機能を使用するには、本機にオプションの**セキュリティーキット SC-507** を装着する必要があります。
- コピーガード機能およびパスワードコピー機能について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。

［コピーセキュリティー］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ▸▸ ［コピーセキュリティー］を選択します。

（オプションの**セキュリティーキット SC-507** が装着されていない場合は、このメニューは表示されません。）

項目	説明
［コピーガード］	コピーガード機能を使用する場合は、［使用する］を選択します。
［パスワードコピー］	パスワードコピー機能を使用する場合は、［使用する］を選択します。

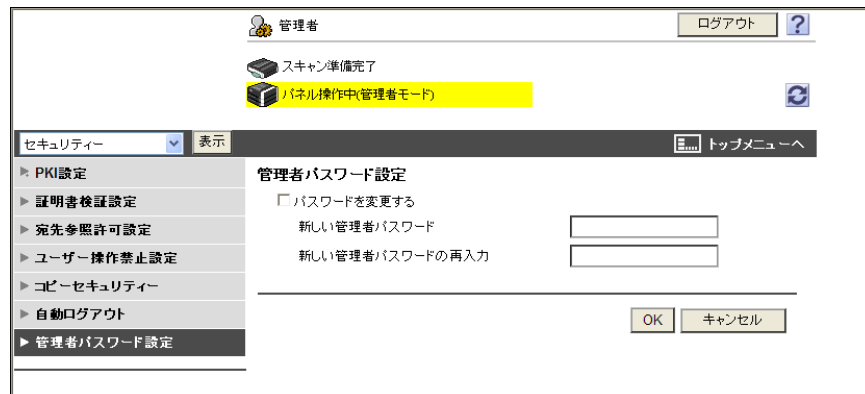
8.15 管理者パスワードを設定する

本機の管理者パスワードを設定できます。

［管理者パスワード設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］▸▸［管理者パスワード設定］を選択します。

参考

- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合は、このメニューは表示されません。
- デバイス証明書が登録されていない場合は、このメニューは表示されません。
- デバイス証明書が登録されていても、［セキュリティー］▸▸［PKI 設定］▸▸［SSL 使用設定］で［SSL/TLS 使用モード］を［なし］に設定している場合は、このメニューは表示されません。

項目	説明
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。
［新しい管理者パスワード］	新しい管理者パスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。
［新しい管理者パスワードの再入力］	確認のため、新しい管理者パスワードを再入力します。

参考

- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［パスワード規約］を［有効］に設定している場合は、8 文字未満のパスワードを登録できません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は、［パスワード規約］を［有効］に設定する前に 8 文字に変更してください。

8.16 パブリックユーザーの機能制限を設定する

パブリックユーザーの機能制限や参照許可権限を設定できます。

[パブリックユーザー認証設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ユーザー認証 / 部門管理] ▸▸ [ユーザー認証設定] ▸▸ [パブリックユーザー認証設定] を選択します。

(パブリックユーザーを許可していない場合は、このメニューは表示されません。)

項目	説明
[機能制限]	機能制限を設定します。 [コピー操作]、[スキャン操作]、[外部メモリー保存]、[外部メモリー文書読込み]、[ファクス操作]、[プリンター印字]、[蓄積文書操作]、[送信文書印字]、[手動宛先入力]、[携帯電話 /PDA] を許可するかどうかをそれぞれ設定します。 すべての機能を禁止する場合、パブリックユーザーでログインできなくなります。
[出力許可 (送信)]	送信機能の制限を設定します。 カラー画像の送信を許可するかどうかを設定できます。
[参照許可設定]	パブリックユーザーが参照できる短縮宛先を制限します。 参照許可グループを設定する場合は、チェックを入れ、[参照許可グループ一覧より選択] をクリックします。表示された一覧からパブリックユーザーを登録する参照許可グループを選択します。複数の参照許可グループを選択できます。 参照可能レベルを設定する場合は、チェックを入れ、参照可能レベルを指定します。

参考

- ［外部メモリー保存］を許可するかどうかの設定は、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［外部メモリー機能設定］で［文書保存］を［ON］に設定している場合に設定できます。また、［外部メモリー文書読込み］を許可するかどうかの設定は、［外部メモリー機能設定］で［文書読込］を［ON］に設定している場合に設定できます。詳しくは、12-7 ページをごらんください。
- 操作パネルの［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［手動宛先入力］を［禁止］に設定している場合は、ここでの設定に関わらず、ユーザーによる手動での宛先入力は禁止されます。
- 携帯電話や PDA と本機を連携させるには、本機にオプションの**ローカル接続キット** EK-605 を装着する必要があります。また、［携帯電話 /PDA］を許可するかどうかの設定は、［ネットワーク］▸▸［Bluetooth 設定］で［Bluetooth］を［有効］に設定し、かつ［環境設定］▸▸［システム連携設定］で［携帯電話印刷設定］を［する］に設定している場合に設定できます。

8.17　直接入力での宛先の指定を制限する

ユーザーによる直接入力での宛先の指定を制限できます。

この設定を行うと、ファクス、IP アドレスファクス以外の宛先の直接入力での指定が禁止され、アドレス帳に登録されている宛先の指定しかできなくなります。また、以下の機能制限がかかります。

- ボックスへの文書保存ができない
- ボックスからの文書送信ができない
- ファイリングナンバーボックスを利用できない
- イメージパネルを利用できない
- 宛先を送信履歴から選択できない
- URL 通知機能を利用できない

ユーザーによる直接入力での宛先の指定を制限する場合は、ご使用の環境に応じて、以下の設定を組み合わせて運用すると効果的です。

- ユーザーによる宛先登録を禁止する（p. 8-36）
- LDAP サーバーを利用させたくない場合は、LDAP サーバーを登録しない（p. 10-5）
- パブリックユーザーを許可する場合は、パブリックユーザーによるスキャン操作を禁止する（p. 8-39）
- ボックスからの画像の取り出しを懸念する場合は、ユーザーにボックス操作権限を開放しない（p. 12-8）
- TCP Socket 経由の画像の取り出しを懸念する場合は、TCP Socket を無効にする（p. 9-2）

参照

ユーザー認証を行う環境で、この設定を行うことで、アドレス帳に登録されたファイル送信（SMB）宛先の利用を制限できます。詳しくは 8-17 ページをごらんください。

［送信宛先制限］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［送信宛先制限］を選択します。

項目	説明
［送信宛先制限］	ユーザーによる直接入力での宛先の指定を制限する場合は、［制限する］を選択します。

9 アプリケーションと連携させる

9 アプリケーションと連携させる

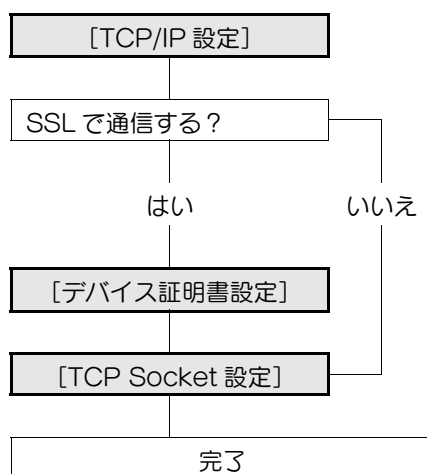
9.1 TCP Socket を使用して本機と通信するアプリケーションを使用する

本機の TCP Socket に関する設定を行います。

TCP Socket は、コンピューターのアプリケーションソフトと本機とのデータ通信に使用されます。

本機にデバイス証明書を登録していれば、アプリケーションソフトと本機の TCP Socket を使用した通信を SSL で暗号化できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- PageScope Authentication Manager で認証を行う場合､TCP Socket の SSL/TLS の設定を有効にしてください。
- 外部サーバーで認証を行っている状態で、TCP Socket を使用して本機と通信するアプリケーションを使用する場合は、本機で TCP Socket の SSL/TLS の設定を有効にしてください。

9.1.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

9.1.2 [デバイス証明書設定]

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

9.1.3 ［TCP Socket 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［TCP Socket 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［TCP Socket］	チェックを入れます。	
［ポート番号］	ポート番号を入力します。	
［SSL/TLS 使用］	SSL/TLS を使用する場合は、［SSL/TLS 使用］にチェックを入れます。	SSL/TLS を使用するか
［ポート番号(SSL)］	SSL 通信で使用するポート番号を入力します。	

参考

- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合、［SSL/TLS 使用］が有効に設定されます。
- PageScope Web Connection および**操作パネル**で、複数のポート番号を同時に変更して［OK］を選択した場合、ポート番号重複エラーが表示されることがあります。エラーが表示される場合は、まず一方のポート番号を変更して［OK］を選択し、その後もう一方のポート番号を変更して［OK］を選択してください。

9.2 OpenAPI を使用したシステムと本機を連携させる

本機の OpenAPI に関する設定を行います。

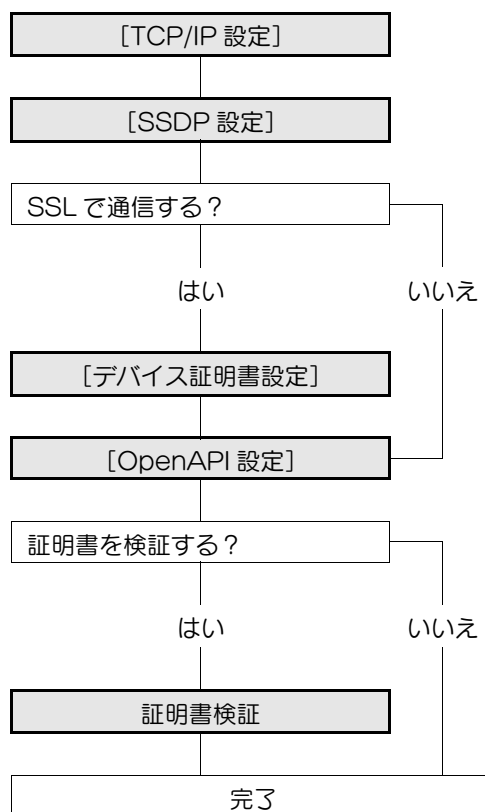
OpenAPI は、本機と OpenAPI を使用したシステムを連携させたい場合に設定します。

本機がサーバーとして通信するとき、本機にデバイス証明書を登録していれば、クライアントから本機への OpenAPI を使用した通信を SSL で暗号化できます。また、本機は OpenAPI クライアントにクライアント証明書を提示するよう要求できます。クライアントが本機へ接続するときに、提示されたクライアント証明書を検証することで、クライアントを認証できます。

本機がクライアントとして通信するときに、サーバーから証明書を提示された場合は、提示された証明書を検証できます。

OpenAPI 連携アプリケーションが SSDP 機能に対応している場合は、本機の SSDP 機能を使用することで、本機で OpenAPI サービスが起動したことをアプリケーションに知らせることができます。また、アプリケーションで、SSDP 機能による OpenAPI サービスのサービス検索が行われると、本機が検索条件に合致する場合に、応答を返すことができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

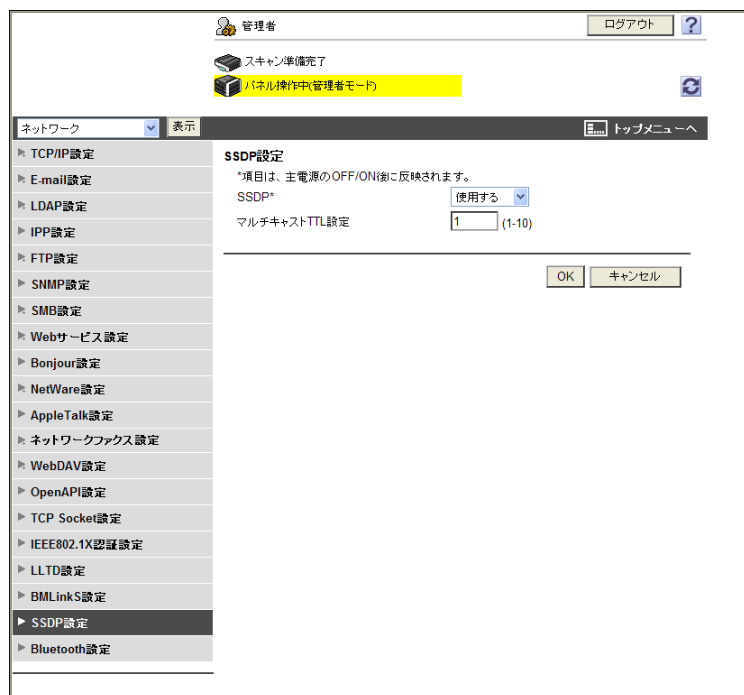
参考

- PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、OpenAPI の SSL/TLS の設定を有効にしてください。

9.2.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

9.2.2　［SSDP 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［SSDP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SSDP］	OpenAPI 連携アプリケーションが SSDP 機能に対応している場合に、［使用する］に設定すると、本機で OpenAPI サービスが起動したことをアプリケーションに知らせることができます。 また、アプリケーションで、SSDP 機能による OpenAPI サービスのサービス検索が行われると、本機が検索条件に合致する場合に、応答を返すことができます。	アプリケーションは、SSDP 機能に対応しているか
［マルチキャスト TTL 設定］	SSDP マルチキャストパケットの TTL（Time To Live）を入力します。 ルーターなどを 1 回経由するたびに値が 1 減少し、値が 0 になるとパケットが破棄されます。	

9.2.3　［デバイス証明書設定］

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

9.2.4 ［OpenAPI 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［OpenAPI 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SSL/TLS 使用］	SSL で暗号化する場合は、［SSL 通信のみ可］または［SSL/ 非 SSL 通信可］を選択します。	SSL/TLS を使用するか
［ポート番号］	ポート番号を入力します。	
［ポート番号(SSL)］	SSL 通信で使用するポート番号を入力します。	

参考

- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合、［SSL/TLS 使用］が［SSL 通信のみ可］に設定されます。
- プリンタードライバーから PageScope Authentication Manager で認証する場合、**操作パネル**の［管理者設定］で、［システム連携］ ▸▸ ［OpenAPI 設定］ ▸▸ ［認証］を［使用しない］に設定してください。
- PageScope Web Connection および**操作パネル**で、複数のポート番号を同時に変更して［OK］を選択した場合、ポート番号重複エラーが表示されることがあります。エラーが表示される場合は、まず一方のポート番号を変更して［OK］を選択し、その後もう一方のポート番号を変更して［OK］を選択してください。

9.2.5 証明書検証

［証明書検証強度設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［OpenAPI 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［証明書検証強度設定］	証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
［クライアント証明書］	クライアント証明書を要求するかどうか選択します。 クライアントに証明書を要求してクライアントの認証（クライアント証明書の検証）を行う場合は、［要求する］を選択します。	クライアント証明書を要求するか
［有効期限］	証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
［CN］	証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。	
［鍵使用法］	証明書の鍵使用法に問題ないことを確認するかどうか選択します。	
［チェーン］	証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
［失効確認］	証明書の有効性を確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

［証明書検証設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［セキュリティー］ ►► ［証明書検証設定］を選択します。

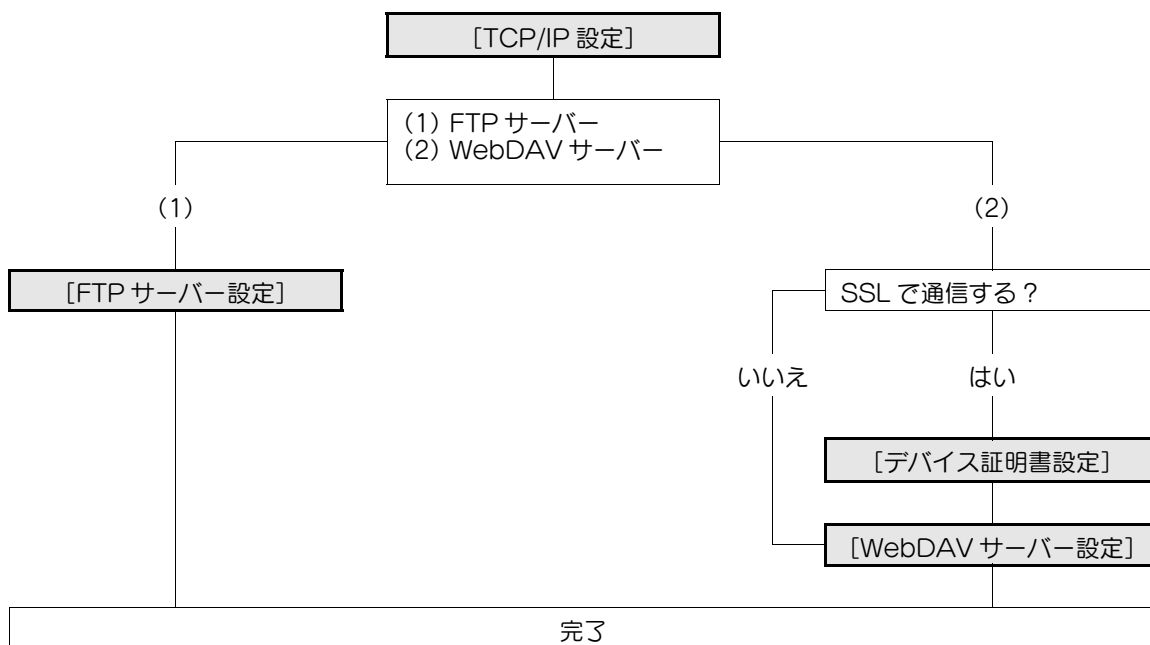
項目	説明	事前確認
［証明書検証設定］	証明書を検証する場合は、［使用する］を選択します。	
［タイムアウト時間］	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
［OCSP サービス］	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
［URL］	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	
［プロキシサーバーアドレス］	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［プロキシサーバーポート番号］	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
［ユーザー名］	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

9.3　FTP サーバー機能および WebDAV サーバー機能を使用する

本機の FTP サーバー機能および WebDAV サーバー機能を使用するための設定を行います。

FTP クライアントまたは WebDAV クライアントとして、本機と連携するアプリケーションを使用する場合に設定します。

本機を WebDAV サーバーとして使用する場合は、アプリケーションからの通信を SSL で暗号化して、セキュリティーを強化できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。

9.3.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

9.3.2　［デバイス証明書設定］

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、8-2 ページをごらんください。

9.3.3 ［FTP サーバー設定］

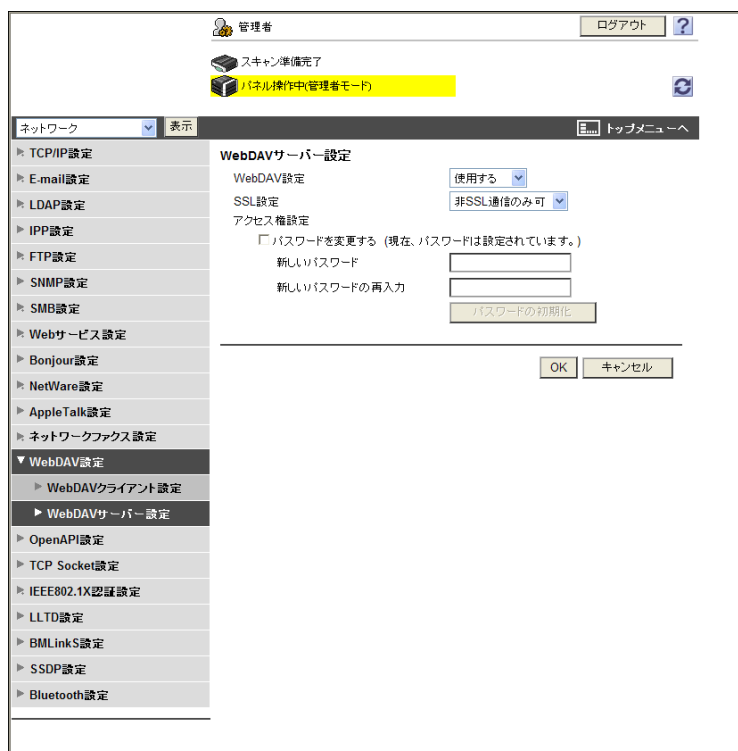
PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］►►［FTP 設定］►►［FTP サーバー設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［FTP サーバー］	［使用する］を選択します。	

参考

- ［セキュリティー強化設定］が有効の場合、［使用しない］が設定されます。

9.3.4 ［WebDAV サーバー設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［WebDAV 設定］ ►► ［WebDAV サーバー設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［WebDAV 設定］	［使用する］を選択します。	
［SSL 設定］	SSL/TLS を使用する場合は、［SSL 通信のみ可］または［SSL/ 非 SSL 通信可］を選択します。	SSL を使用するか
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［現在のパスワード］	現在設定しているパスワードを入力します（半角 8 文字以内）。 初期値から変更していない場合は、この項目は表示されません。	
［新しいパスワード］	WebDAV サーバーにアクセスするためのパスワードを入力します（スペース " を除く半角 8 文字以内）。	
［新しいパスワードの再入力］	確認のため、新しいパスワードを再入力します（半角 8 文字以内）。	
［パスワードの初期化］	設定したパスワードを初期化したい場合はクリックします。 初期値：sysadm	

参考

- SSL を使用する場合は、あらかじめデバイス証明書を登録してください。詳しくは、8-2 ページをごらんください。

9.4　アプリケーションへの接続を解除する

PageScope My Panel Manager または bizmic PS Lite でサーバー側にトラブルが発生した場合などに、本機からサーバーに接続しないように設定できます。

［システム連携設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［システム連携設定］を選択します。

項目	説明
［PageScope My Panel Manager］	本機から PageScope My Panel Manager への接続を解除する場合は、［接続しない］を選択します。
［My Spool］	本機から bizmic PS Lite への接続を解除する場合は、［接続しない］を選択します。

10 管理する

10　管理する

10.1　本機の日時を設定する

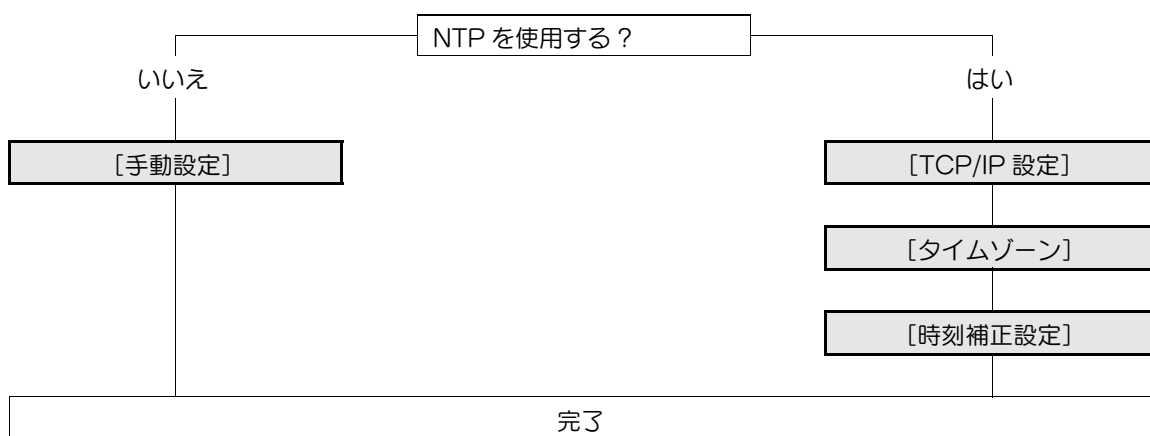
本機に内蔵されている時計の日時を設定します。

設定方法には、手動で設定する方法と、ネットワークを介して NTP サーバーから取得する方法があります。

本機でファクス機能を使用する場合は、あらかじめ本機の日時を設定してください。また、本機を Active Directory と連携させたい場合には、本機の日時の設定が必要となる場合があります。

以下の目的で本機を使用する場合に、本機の日時を設定します。詳しくは、参照先をごらんください。

- 「E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索する」(p. 10-5)
- 「本機を使用するユーザーを制限する（Active Directory)」(p. 7-9)

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

10.1.1 ［手動設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］ ▸▸ ［日時設定］ ▸▸ ［手動設定］ を選択します。

項目	説明	事前確認
［年］	年を入力します。	
［月］	月を入力します。	
［日］	日を入力します。	
［時］	時を入力します。	
［分］	分を入力します。	
［タイムゾーン］	世界標準時からの時差を設定します。	タイムゾーン
［サマータイム設定］	必要に応じて、夏時間を設定します。	

10.1.2 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.1.3 ［タイムゾーン］

タイムゾーンを設定します。

詳しくは、10-3 ページをごらんください。

10.1.4 ［時刻補正設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［日時設定］▸▸［時刻補正設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［時刻補正設定］	［使用する］を選択します。	
［IPv6 自動取得］	NTP サーバーの IPv6 アドレスを自動取得する場合は、［する］を選択します。 IPv6 を使用し、かつ DHCPv6 が有効の場合に設定します。	自動取得可能か
［NTP サーバーアドレス］	NTP サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：123	サーバーのポート番号
［自動時刻補正］	自動で NTP サーバーに接続して時刻補正を行う場合は、［使用する］を選択します。	自動で補正するか
［ポーリング間隔］	自動で時刻補正を行う場合に、時刻補正を行う間隔を設定します（単位：時間）。	
［調整］	設定した条件で NTP サーバーに接続し、時刻を調整します。	

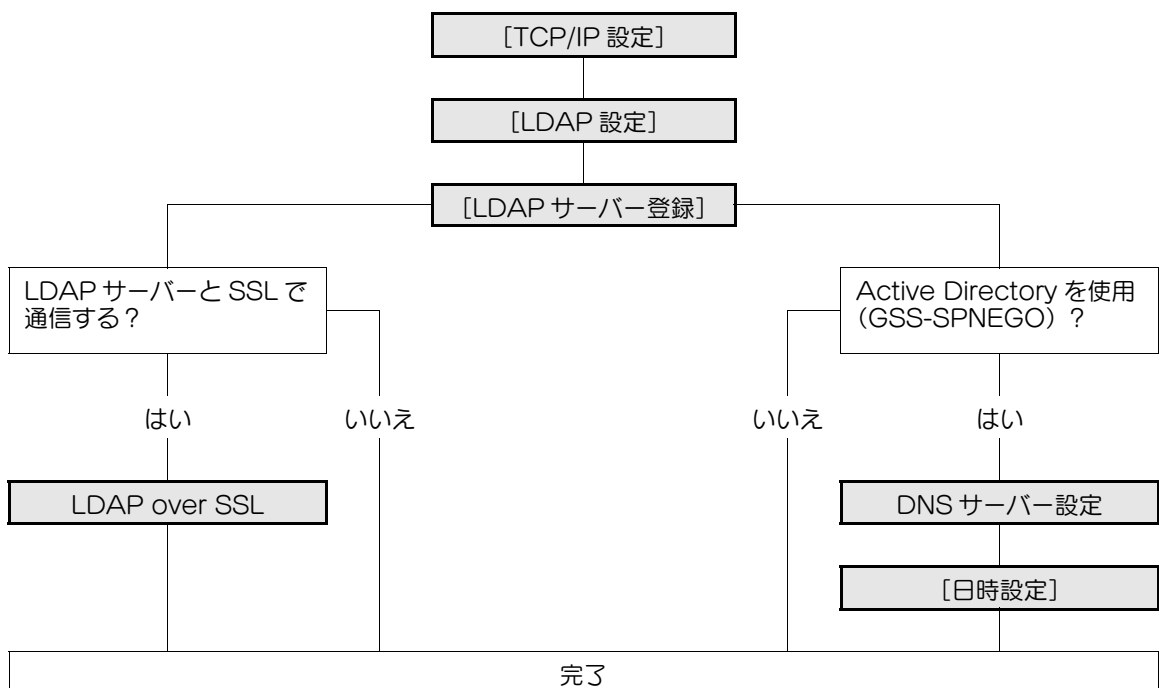
10.2 E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索する

E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索するための設定を行います。

ユーザー管理などで LDAP サーバーを使用している場合は、E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索できます。この設定を行うことで、ファクス / スキャンモードに［LDAP 検索］が表示され、宛先を LDAP サーバーから検索できます。宛先を指定するときに LDAP サーバーを利用することで、本機へ宛先を登録したり、直接入力したりする手間を省くことができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

参考

- Active Directory を LDAP サーバーとして指定し、かつ GSS-SPNEGO 認証を行う場合は、本機の［TCP/IP 設定］で Active Directory と連携している DNS サーバーを登録してください。また、本機の日時を設定し、本機と Active Directory のシステム時間を合わせてください。
- 宛先検索用とユーザー認証用で同一の LDAP サーバーを使用する場合、［LDAP サーバー登録］で設定する宛先検索用 LDAP サーバーの証明書検証の設定は、［ユーザー認証 / 部門管理］▸▸［外部サーバー設定］で設定するユーザー認証用 LDAP サーバーの証明書検証の設定にもなります。ユーザー認証用の LDAP サーバーの設定および証明書検証の設定について詳しくは、7-24 ページをごらんください。

参照
LDAP 検索を使用した送信方法について詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

10.2.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.2.2 ［LDAP 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［LDAP 設定］ ►► ［LDAP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［LDAP 使用設定］	［使用する］を選択します。	

10.2.3 ［LDAP サーバー登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［LDAP 設定］ ▸▸ ［LDAP サーバー登録］ ▸▸ ［編集］を選択します。

参考

- LDAP サーバーを登録したあと、［LDAP サーバー一覧］で［接続確認］をクリックすると、登録した LDAP サーバーに接続できるかどうかを確認できます。

項目	説明	事前確認
［LDAP サーバー名称］	LDAP サーバーの名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
［サーバーアドレス］	LDAP サーバーアドレスを設定します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：389	
［検索ベース］	LDAP サーバーに配置されているディレクトリ構造の中の検索起点を入力します（半角 255 文字以内）。 入力した起点から下のサブディレクトリも含めて検索します。	検索ベース
［タイムアウト時間］	LDAP 検索のタイムアウト時間を入力します。	
［検索最大表示件数］	LDAP の検索結果として受け取る最大数を入力します。	

項目	説明	事前確認
[認証方式]	LDAP サーバーへログインするときの認証方式を選択します。 認証方式は使用する LDAP サーバーで採用している方式に合わせてください。 [anonymous] を選択した場合は、[ログイン名]、[パスワード]、[ドメイン名] の設定は不要です。 [GSS-SPNEGO] を選択した場合は、Kerberos 認証方式でサーバーにログインします。Kerberos 認証方式は、Active Directory によりサポートされています。	サーバーの認証方式
[ログイン名]	LDAP サーバーへログインするためのログイン名を入力します(全角、半角 255 バイト以内)。	
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
[パスワード]	LDAP サーバーへログインするためのパスワードを入力します(スペースと " を除く半角 128 バイト以内)。	
[ドメイン名]	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を入力します(半角 64 文字以内)。 [GSS-SPNEGO] を選択した場合は、Active Directory のドメイン名を入力します。	· 認証方式 · ドメイン名
[サーバー認証方式選択]	サーバー認証方式を選択します。 [設定値を使用] を選択すると、[ログイン名]、[パスワード]、[ドメイン名] の設定値を使用します。 [ユーザー認証を使用] を選択すると、ユーザー認証で使用したユーザー名とパスワードを使用します。 [Dynamic 認証を使用] を選択すると、LDAP 検索時にユーザー名とパスワードが要求されます。	
[referral 設定]	referral 機能を使用するかどうか選択します。 LDAP サーバーの環境に応じて選択してください。	
[検索条件の属性]	LDAP 検索を行うときの名前の属性を選択します。 LDAP 検索を行うときの名前の属性を [名前](cn)と [ニックネーム](displayName)で切換えることができます。	名前の属性
[詳細検索初期設定]	LDAP 検索を行う条件を設定します。	

10.2.4 LDAP over SSL

[LDAP サーバー登録]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [LDAP 設定] ▸▸ [LDAP サーバー登録] ▸▸ [編集] を選択します。

項目	説明	事前確認
[SSL 使用設定]	本機と LDAP サーバー間の通信を SSL で暗号化する場合は、チェックを入れます。	サーバーは SSL に対応するか
[ポート番号(SSL)]	SSL 通信で使用するポート番号を入力します。 初期値:636	サーバーのポート番号
[証明書検証強度設定]	サーバー証明書を検証する場合は、証明書の検証方法を設定します。	
[有効期限]	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
[CN]	サーバー証明書の CN がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。	
[鍵使用法]	サーバー証明書が、発行者の承認した使用用途に沿って使用されていることを確認するかどうか選択します。	

項目	説明	事前確認
[チェーン]	サーバー証明書のチェーン（証明のパス）に問題ないことを確認するかどうか選択します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。詳しくは、8-33 ページをごらんください。	
[失効確認]	サーバー証明書が失効していないことを確認するかどうか選択します。 失効確認は、OCSP サービス、CRL（Certificate Revocation List）の順番に行います。	

[証明書検証設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[セキュリティー] ▸▸ [証明書検証設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[証明書検証設定]	サーバー証明書を検証する場合は、[使用する] を選択します。	
[タイムアウト時間]	失効確認のタイムアウト時間を入力します。	失効確認するか
[OCSP サービス]	OCSP サービスを使用する場合は、チェックを入れます。	
[URL]	OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。 空欄の場合は、証明書に埋め込まれた OCSP サービスの URL にアクセスします。証明書に OCSP サービスの URL が埋め込まれていない場合は、エラーになります。	
[プロキシサーバーアドレス]	失効確認を行うときにプロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
[プロキシサーバーポート番号]	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	サーバーのポート番号
[ユーザー名]	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	

項目	説明	事前確認
［パスワード］	プロキシサーバーへログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。	
［プロキシサーバーを使用しないアドレス］	失効確認を行うときに、ご使用の環境に応じて、プロキシサーバーを使用しないアドレスを指定できます。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	

10.2.5 DNS サーバー設定

Active Directory を LDAP サーバーとして指定し、かつ GSS-SPNEGO 認証を行う場合は、Active Directory と連携している DNS サーバーを登録します。

DNS サーバーの設定について詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.2.6 ［日時設定］

Active Directory を使用する場合は、本機の日時を設定します。

詳しくは、10-2 ページをごらんください。

10.3 本機をネットワークマップに表示させる

Windows Vista/Server 2008/7 のネットワークマップ上に本機を表示させるための設定を行います。

本機の LLTD 機能を有効にすることで、ネットワークマップに本機のネットワーク上の位置を表示できます。また、ネットワークマップ上の本機のアイコンをクリックすると、PageScope Web Connection にアクセスできます。

ネットワークマップは、本機の位置や情報を確認したり、ネットワーク上の障害を調査したりする場合に利用すると便利です。

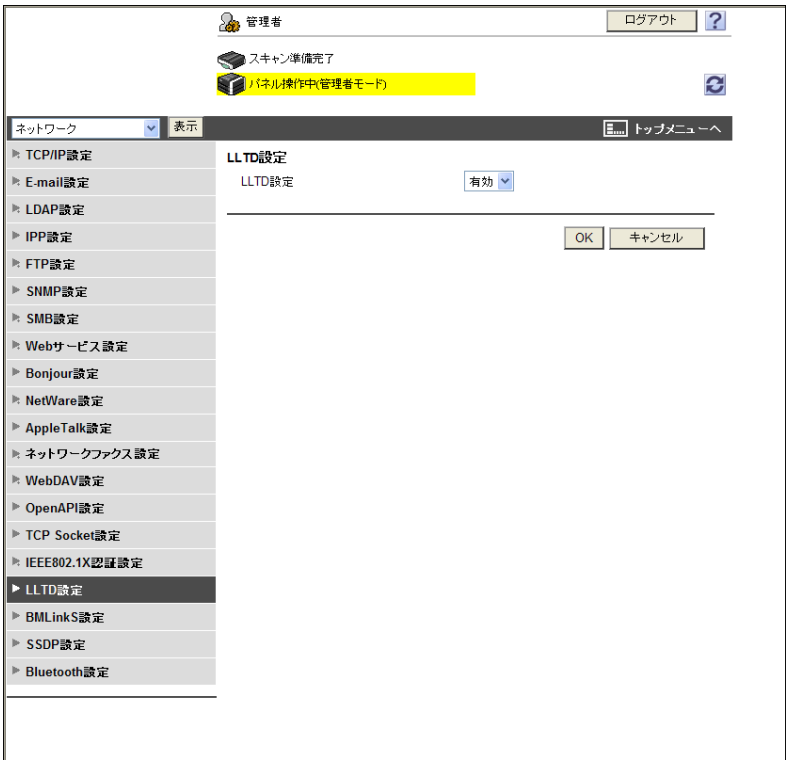
以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

10.3.1 [TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.3.2 [LLTD 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [LLTD 設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
[LLTD 設定]	[有効] を選択します。	

10.4　SNMP マネージャーで本機を監視する

SNMP マネージャーで本機を監視するための設定を行います。

SNMP マネージャーで本機の SNMP エージェントと通信して、ネットワーク経由で本機の情報の取得、管理、監視ができます。SNMP は TCP/IP 環境または IPX/SPX 環境で使用できます。

また、SNMP の TRAP 機能を利用して本機の状態を通知できるように設定できます。詳しくは、10-18 ページをごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

10.4.1　[TCP/IP 設定]

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.4.2　[NetWare 設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ネットワーク] ▸▸ [NetWare 設定] ▸▸ [NetWare 設定] を選択します。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ

10.4.3 ［SNMP 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ►► ［SNMP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［SNMP 設定］	［使用する］を選択します。 SNMP を使用する場合は、［SNMP v1/v2c（IP）］、［SNMP v3（IP）］、［SNMP v1（IPX）］を使用するかどうか選択します。 ［SNMP v1（IPX）］は IPX が有効時のみ設定できます。	使用するプロトコル（TCP/IP または IPX/SPX）
［UDP ポート設定］	UDP ポート番号を入力します。 初期値：161	
［SNMP v1/v2c 設定］	SNMP v1/v2c に関する設定を行います。	

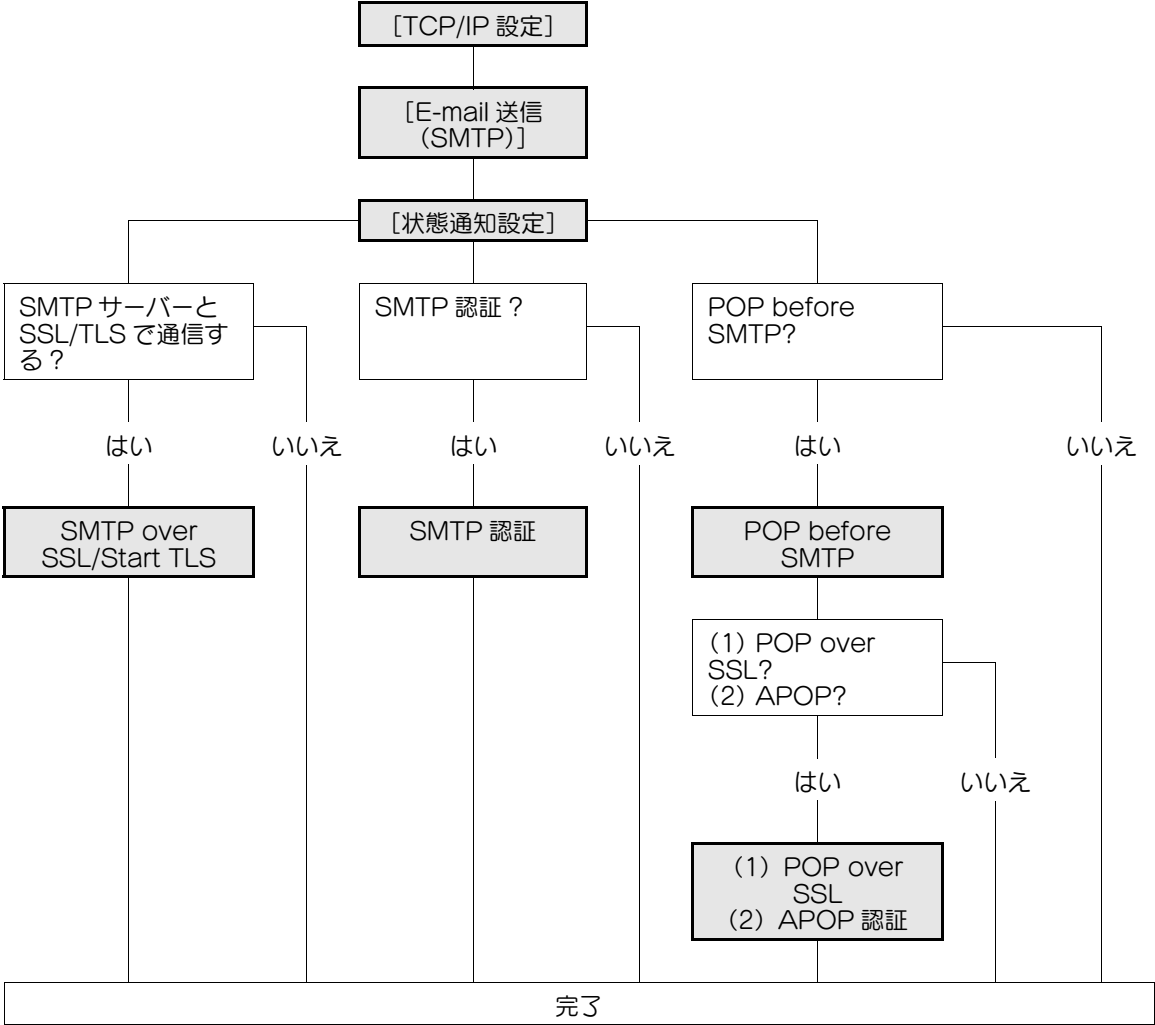
項目	説明	事前確認
［Read Community Name］	読み取り時に使用されるコミュニティ名を入力します（スペースと￥を除く半角 15 文字以内）。	
［Write Community Name］	読み書き用のコミュニティ名を入力します（スペースと￥を除く半角 15 文字以内）。	
［SNMP v3 設定］	SNMP v3 に関する設定を行います。	
［Context Name］	コンテキスト名を入力します（スペースと￥を除く半角 63 文字以内）。	
［Discovery User Name］	検出用ユーザー名を入力します（スペースと￥を除く半角 32 文字以内）。	
［Read User Name］	読み取り専用ユーザーのユーザー名を入力します（スペースと￥を除く半角 32 文字以内）。	
［Security Level］	読み取り専用ユーザーのセキュリティーレベルを選択します。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［auth-password］	認証に使用する読み取り専用ユーザーの認証パスワードを入力します（スペースと￥を除く半角 8 文字以上、32 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［priv-password］	プライバシ（暗号）に使用する読み取り専用ユーザーのプライバシパスワードを入力します（スペースと￥を除く半角 8 文字以上、32 文字以内）。	
［Write User Name］	読み書き専用ユーザーのユーザー名を入力します（スペースと￥を除く半角 32 文字以内）。	
［Security Level］	読み書き専用ユーザーのセキュリティーレベルを選択します。	
［auth-password］	認証に使用する読み書き専用ユーザーの認証パスワードを入力します（スペースと￥を除く半角 8 文字以上、32 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［priv-password］	プライバシ（暗号）に使用する読み書き専用ユーザーのプライバシパスワードを入力します（スペースと￥を除く半角 8 文字以上、32 文字以内）。	
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。	
［暗号化アルゴリズム］	暗号化アルゴリズムを選択します。	
［認証方式］	認証方式を選択します。	
［装置名称］	本機の名称を設定します（半角 255 文字以内）。	
［設置場所］	本機の設定場所を設定します（半角 255 文字以内）。	
［管理者名］	管理者の名前を設定します（半角 255 文字以内）。	

10.5 本機の状態を通知する（E-mail）

本機の状態を管理者に E-mail で通知するための設定を行います。

本機に警告が発生したときに、指定した宛先に E-mail で通知できます。

E-mail の通知時には、POP before SMTP 認証、APOP 認証、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせることができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

10.5.1 ［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

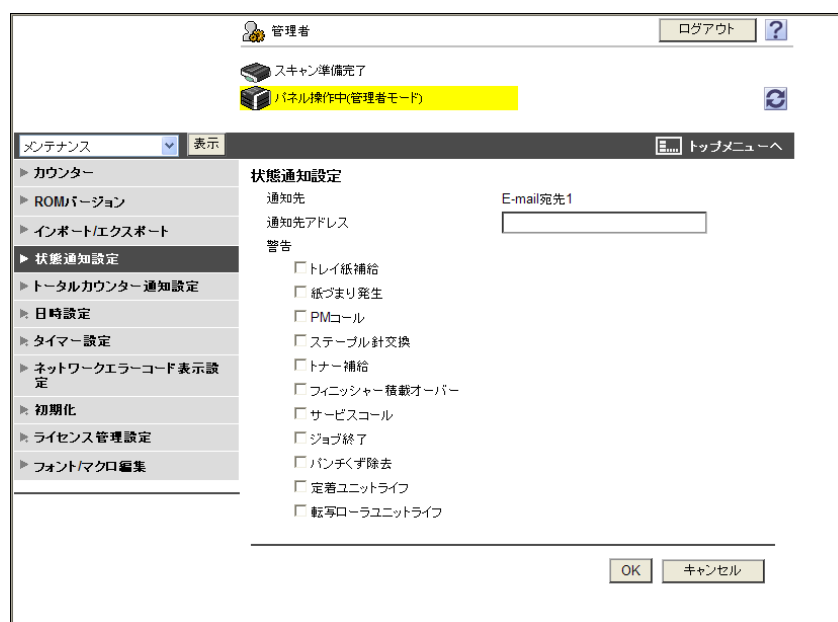
10.5.2 ［E-mail 送信（SMTP）］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［E-mail 設定］▸▸［E-mail 送信（SMTP）］を選択します。

項目	説明	事前確認
［E-mail 送信設定］	［E-mail 送信設定］にチェックを入れます。	
［E-mail 通知機能］	［使用する］を選択します。	
［SMTP サーバーアドレス］	SMTP サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス

項目	説明	事前確認
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：25	サーバーのポート番号
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を設定します。	
［最大メールサイズ］	送信メールのサイズを制限するかどうか選択します。	
［サーバー容量］	SMTP サーバーの容量を入力します。サーバー容量の上限値を超えるメールは破棄されます。 メールを分割する場合は、この設定は無効となります。	サーバーの受信制限値
［管理者アドレス］	管理者の E-mail アドレスが表示されます。 管理者の E-mail アドレスを登録していない場合は、［環境設定］ ▸▸ ［本体登録］で登録してください。	
［バイナリー分割］	メールを分割する場合は、チェックを入れます。 メールを受信したメールソフトに復元機能がない場合は、メールを読むことができない可能性があります。	メールソフトの復元機能
［分割メールサイズ］	メールを分割する場合は、分割メールサイズを入力します。	サーバーの受信制限値

10.5.3　［状態通知設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］ ▸▸ ［状態通知設定］ ▸▸ ［E-mail 宛先］ ▸▸ ［編集］を選択します。

項目	説明	事前確認
［通知先アドレス］	通知先の E-mail アドレスを入力します。	通知先アドレス
［トレイ紙補給］	トレイの用紙がなくなったときに通知します。	
［紙づまり発生］	紙づまりが発生したときに通知します。	
［PM コール］	定期点検が必要になったときに通知します。	
［ステープル針交換］	ステープルの針がなくなったときに通知します。	
［トナー補給］	トナーがなくなったときに通知します。	
［フィニッシャー積載オーバー］	フィニッシャー積載オーバーを通知します。	
［サービスコール］	サービスコールが発生したときに通知します。	

項目	説明	事前確認
［ジョブ終了］	ジョブが終了したことを通知します。	
［パンチくず除去］	パンチくずの除去が必要なときに通知します。	
［廃棄トナーボックスフル］	廃棄トナーボックスの交換が必要なときに通知します。	
［ドラムユニット / 現像ユニットライフ］	ドラムユニット、現像ユニットの交換が必要なときに通知します。	
［定着ユニットライフ］	定着ユニットの交換が必要なときに通知します。	
［転写ローラユニットライフ］	転写ローラユニットの交換が必要なときに通知します。	
［転写ベルトユニットライフ］	転写ベルトの交換が必要なときに通知します。	
［オゾンフィルターライフ］	オゾンフィルターの交換が必要なときに通知します。	

10.5.4 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、4-10 ページをごらんください。

10.5.5 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-12 ページをごらんください。

10.5.6 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、4-13 ページをごらんください。

10.5.7 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

10.5.8 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

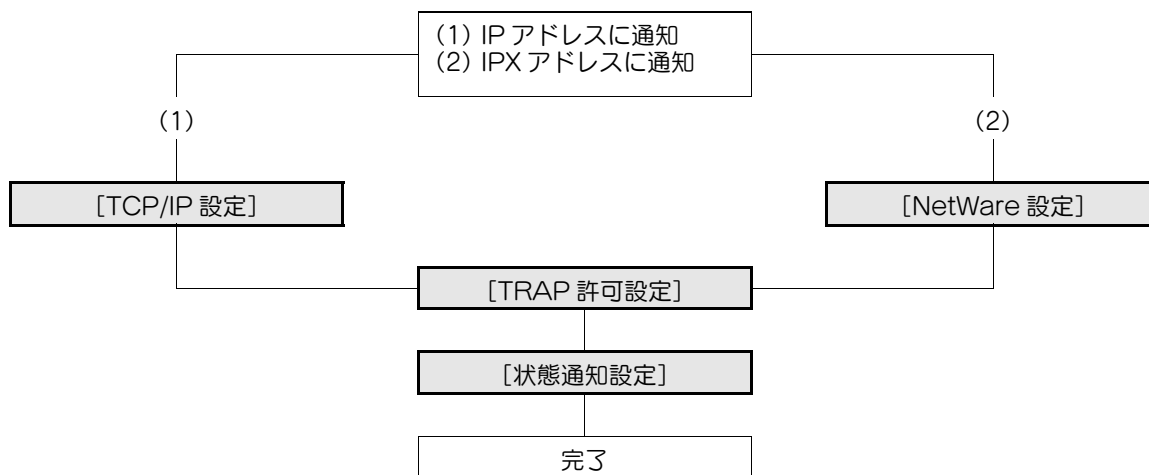
詳しくは、4-16 ページをごらんください。

10.6　本機の状態を通知する（TRAP）

本機の状態を管理者に SNMP の TRAP 機能で通知するための設定を行います。

本機に警告が発生したときに、指定した IP アドレスまたは IPX アドレス宛に TRAP で通知できます。

SNMP の TRAP 機能を使用するためには、あらかじめ SNMP の設定を行ってください。詳しくは、10-12 ページをごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

10.6.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.6.2 ［NetWare 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［NetWare 設定］ ▸▸ ［NetWare 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［IPX 設定］	［使用する］を選択します。	
［イーサネットフレームタイプ］	使用するフレームタイプを選択します。	フレームタイプ

10.6.3 ［TRAP 許可設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］ ▸▸ ［SNMP 設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［許可設定］	［許可する］を選択します。	
［認証失敗時の TRAP 設定］	認証失敗時の TRAP 送信を有効にするかどうかを選択します。	

10.6.4 ［状態通知設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［状態通知設定］▸▸［IP アドレス］または［IPX アドレス］▸▸［編集］を選択します。

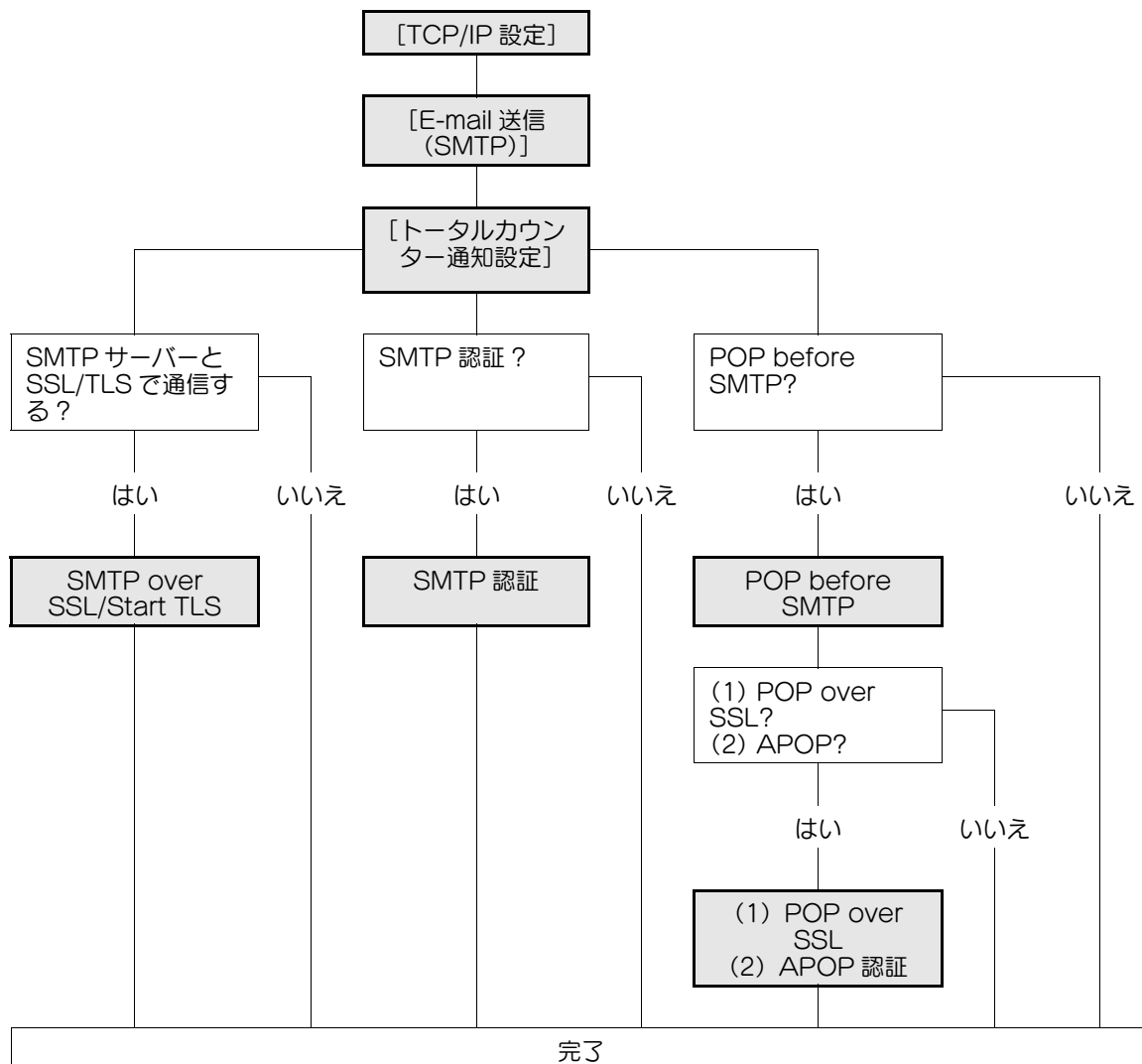
項目	説明	事前確認
［通知先アドレス］	通知先が［IP アドレス］の場合は、IP アドレスを入力します。DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。 通知先が［IPX アドレス］の場合は、IPX アドレスを 8 桁の 16 進数で入力します。	通知先アドレス
［ポート番号］	通知先が［IP アドレス］の場合に、ポート番号を入力します。	
［ノードアドレス］	通知先が［IPX アドレス］の場合に、ノードアドレスを 12 桁の 16 進数で入力します。	
［コミュニティー名］	コミュニティー名を入力します（半角 15 文字以内）。	
［トレイ紙補給］	トレイの用紙がなくなったときに通知します。	
［紙づまり発生］	紙づまりが発生したときに通知します。	
［PM コール］	定期点検が必要になったときに通知します。	
［ステープル針交換］	ステープルの針がなくなったときに通知します。	
［トナー補給］	トナーがなくなったときに通知します。	
［フィニッシャー積載オーバー］	フィニッシャー積載オーバーを通知します。	
［サービスコール］	サービスコールが発生したときに通知します。	
［ジョブ終了］	ジョブが終了したことを通知します。	
［パンチくず除去］	パンチくずの除去が必要なときに通知します。	
［廃棄トナーボックスフル］	廃棄トナーボックスの交換が必要なときに通知します。	
［ドラムユニット / 現像ユニットライフ］	ドラムユニット、現像ユニットの交換が必要なときに通知します。	
［定着ユニットライフ］	定着ユニットの交換が必要なときに通知します。	
［転写ローラユニットライフ］	転写ローラユニットの交換が必要なときに通知します。	
［転写ベルトユニットライフ］	転写ベルトの交換が必要なときに通知します。	
［オゾンフィルターライフ］	オゾンフィルターの交換が必要なときに通知します。	

10.7　本機のカウンター情報を E-mail で通知する

本機のカウンター情報を E-mail で通知するための設定を行います。

本機で管理されているカウンター情報を、指定した宛先に E-mail で通知できます。

E-mail の通知時には、POP before SMTP 認証、APOP 認証、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせることができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。クリックすると設定の説明へジャンプします。

10.7.1　［TCP/IP 設定］

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、2-2 ページをごらんください。

10.7.2 ［E-mail 送信（SMTP）］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ネットワーク］▸▸［E-mail 設定］▸▸［E-mail 送信（SMTP）］を選択します。

項目	説明	事前確認
［E-mail 送信設定］	［E-mail 送信設定］にチェックを入れます。	
［トータルカウンター通知機能］	［使用する］を選択します。	
［SMTP サーバーアドレス］	SMTP サーバーアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。	サーバーのアドレス
［ポート番号］	ポート番号を入力します。 初期値：25	サーバーのポート番号
［接続タイムアウト］	サーバーとの通信のタイムアウト時間を設定します。	
［最大メールサイズ］	送信メールのサイズを制限するかどうか選択します。	
［サーバー容量］	SMTP サーバーの容量を入力します。サーバー容量の上限値を超えるメールは破棄されます。 メールを分割する場合は、この設定は無効となります。	サーバーの受信制限値
［管理者アドレス］	管理者の E-mail アドレスが表示されます。 管理者の E-mail アドレスを登録していない場合は、［環境設定］▸▸［本体登録］で登録してください。	
［バイナリー分割］	メールを分割する場合は、チェックを入れます。 メールを受信したメールソフトに復元機能がない場合は、メールを読むことができない可能性があります。	メールソフトの復元機能
［分割メールサイズ］	メールを分割する場合は、分割メールサイズを入力します。	サーバーの受信制限値

10.7.3 ［トータルカウンター通知設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］ ▸▸ ［トータルカウンター通知設定］を選択します。

項目	説明	事前確認
［モデル名］	通知メールに記載されるモデル名を入力します（半角 20 文字以内）。	
［通知スケジュール設定］	通知するスケジュールの条件を設定します。スケジュール 1 と 2 で異なる条件を登録できます。	通知スケジュール
［通知先設定］	通知先の E-mail 宛先を入力します（半角 320 文字以内）。 加えて、通知スケジュールを選択します。	通知先
［設定完了後にテスト通知］	［する］に設定すると、［OK］を押したあとにテスト通知を実行します。	

10.7.4 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、4-10 ページをごらんください。

10.7.5 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-12 ページをごらんください。

10.7.6 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、4-13 ページをごらんください。

10.7.7 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、4-14 ページをごらんください。

10.7.8 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、4-16 ページをごらんください。

10.8　本機のカウンターを確認する

本機で管理されているカウンター情報を確認できます。

［カウンター］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［カウンター］を選択します。

10.9 ROM バージョンを確認する

本機の ROM バージョンを確認できます。

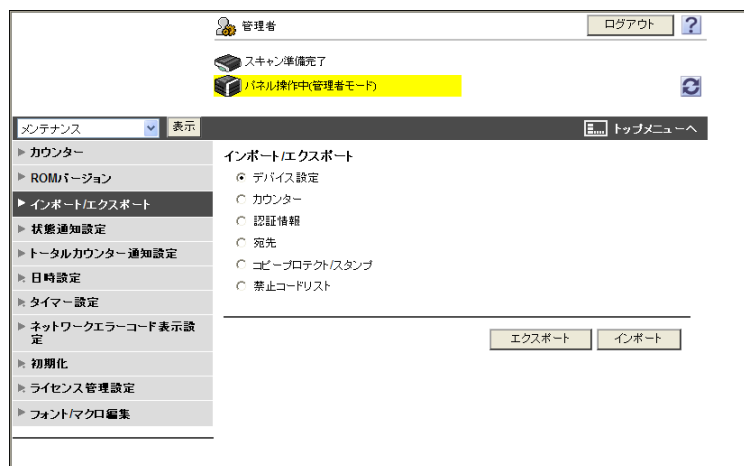
［ROM バージョン］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］ ▸▸ ［ROM バージョン］を選択します。

10.10 設定情報をインポート、エクスポートする

本機に記録されている情報を、本機からコンピューターに保存（エクスポート）したり、コンピューターから本機に書込み（インポート）したりできます。

［インポート / エクスポート］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［インポート / エクスポート］を選択します。

項目	説明
［デバイス設定］	デバイスの設定値をインポートおよびエクスポートできます。
［カウンター］	カウンター情報をエクスポートできます。 カウンターはエクスポートのみできます。
［認証情報］	全認証データをバックアップおよびリストアできます。 また、ユーザー登録情報や認証データをインポートおよびエクスポートできます。本機でオプションの認証装置を使用する場合は、認証データをインポートおよびエクスポートできます。 認証情報をエクスポートする場合は、必要に応じてパスワードを設定できます。設定したパスワードは、認証情報をインポートするときに必要になります。 PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、この項目は表示されません。
［宛先］	全宛先データをバックアップおよびリストアできます。また、各宛先情報をインポートおよびエクスポートできます。 宛先情報をエクスポートする場合は、必要に応じてパスワードを設定できます。設定したパスワードは、宛先情報をインポートするときに必要になります。
［コピープロテクト / スタンプ］	コピープロテクトやスタンプデータをインポートおよびエクスポートできます。
［禁止コードリスト］	弊社が推奨しない OpenAPI 連携アプリケーションの禁止コードリストをインポートおよびエクスポートできます。

参考

- エクスポートしたファイルは編集できません。
- エクスポートした証明書付きの E-mail 宛先をインポートする場合は、インポート後に証明書情報を再登録する必要があります。
- 禁止コードリストについて詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

10.11 タイマー機能を使用する

パワーセーブ機能とウィークリータイマー機能を設定できます。

パワーセーブ機能には、低電力モードとスリープモードがあります。スリープモードは低電力モードと比べ、より高い節電効果を得ることができますが、再度印刷を行う場合は、ウォームアップにかかる時間が低電力モードよりも長くなります。装置の使い方に合わせて設定してください。

ウィークリータイマー機能では、本機がスリープモードへ移行する時間を日単位または曜日単位で設定し、装置の使い方に合わせた節電管理ができます。

［パワーセーブ設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［タイマー設定］▸▸［パワーセーブ設定］を選択します。

項目	説明
［低電力設定］	本機の操作が行われなかった場合に、低電力モードに移行するまでの時間を入力します。
［スリープ設定］	本機の操作が行われなかった場合に、スリープモードに移行するまでの時間を設定します。
［パワーセーブキー節電切替］	長時間操作を行わない場合、**操作パネルのパワーセーブ**を押して、強制的にパワーセーブモードに切換えることができます。 ここでは、**パワーセーブ**を押した後に移行するモードを選択します。
［パワーセーブ移行］	パワーセーブモード中にファクスを受信した場合に、受信文書を印刷したあとのパワーセーブモードへの移行のしかたを設定します。 本機を使用しない夜間などにファクスを受信した場合、［即時］に設定しておくことで、より効率的に節電できます。 ［通常］を選択すると、移行時間の設定に従ってパワーセーブモードに切換わります。
［ファクスボードパワーセーブ］	ファクスボードのパワーセーブをするかしないかを設定します。 ［する］に設定した場合でも、以下の場合は、ファクスボードはパワーセーブ状態へ移行しません。 ・ ナンバーディスプレイ機能が有効の場合 ・ ダイアルイン設定が有効の場合 ・ 着信回数設定が 0 回の場合 ・ TEL/FAX 自動切換えが有効の場合 ・ 外部電話切離しが［ON］の場合

[ウィークリータイマー設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[メンテナンス] ▸▸ [タイマー設定] ▸▸ [ウィークリータイマー設定] を選択します。

項目	説明
[ウィークリータイマーを使用する]	ウィークリータイマー機能を使用する場合にチェックを入れ、動作日と時間を設定します。 動作日の設定方法には、1 日ずつ日付を指定して設定する方法のほか、曜日ごとに一括して設定する方法があります。また両者を併用することもできます。 [設定] をクリックすると、ウィークリータイマーの動作する日を設定できます。
[昼休み OFF 機能を使用する]	昼休み OFF 機能を使用する場合にチェックを入れ、OFF にする時刻と再起動する時刻を入力します。
[時間外パスワードを使用する]	ウィークリータイマーで本機がスリープモード状態にあるときに、一時的に本機を使用させたい場合は、その使用者をパスワードによって制限できます。 時間外パスワード指定する場合にチェックを入れ、パスワードを入力します(+ " を除く半角 8 文字以内)。

10.12 ネットワークエラーコードを表示する

ネットワークのエラーが発生した場合に、エラーコードを表示できます。

ネットワークエラーコードをトラブルシューティング等で参照したい場合に設定します。

参照

ネットワークエラーコードの内容について詳しくは、15-19 ページをごらんください。

［ネットワークエラーコード表示設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［ネットワークエラーコード表示設定］を選択します。

項目	説明
［エラーコード表示］	［する］を選択します。

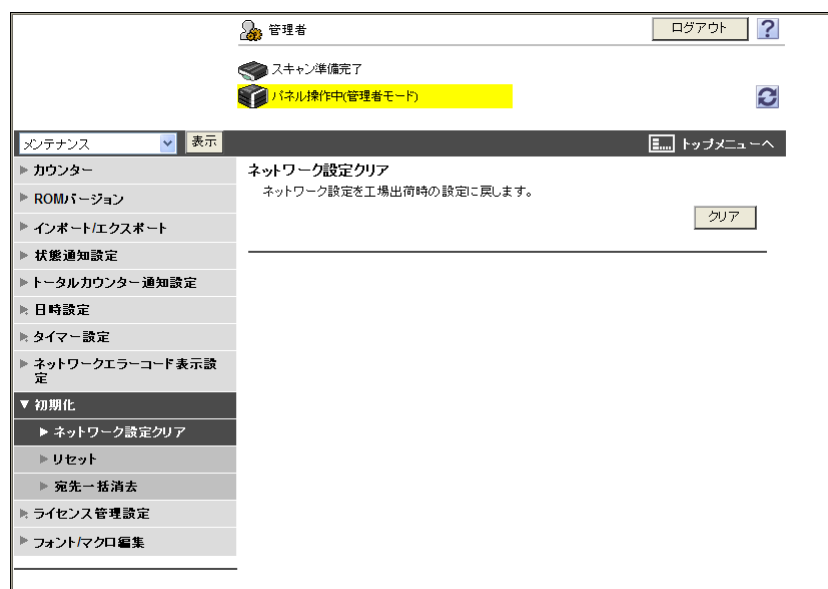
10.13 設定情報を初期化する

ネットワーク設定の初期化（出荷時の設定に戻す）、コントローラーのリセット、宛先情報の一括削除ができます。

［ネットワーク設定クリア］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［初期化］▸▸［ネットワーク設定クリア］を選択します。

（［セキュリティー強化設定］が有効の場合、このメニューは表示されません。）

［クリア］をクリックすると、本機のネットワーク設定を工場出荷時の設定に戻します。

［リセット］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［初期化］▸▸［リセット］を選択します。

［リセット］をクリックすると、コントローラーをリセットします。

［宛先一括消去］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］ ▶▶ ［初期化］ ▶▶ ［宛先一括消去］を選択します。

［フォーマット］をクリックすると、本機に登録されている宛先を一括消去します。

10.14 本機の機能拡張を行う

オプションのライセンスキットを登録して本機の機能拡張を行う場合に、リクエストコードの発行と機能有効化ができます。

参考

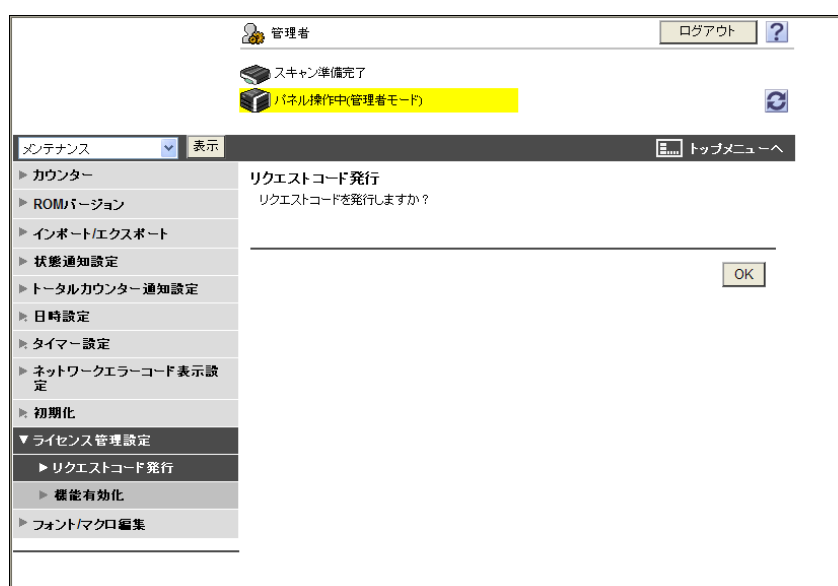
- オプションの**アップグレードキットUK-203**に同梱されている拡張メモリーが装着されていない場合、このメニューは表示されません。

参照

ライセンスコードを取得し、機能を有効化する方法について詳しくは、［すぐに使える操作ガイド］をごらんください。

［リクエストコード発行］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］►►［ライセンス管理設定］►►［リクエストコード発行］を選択します。

［OK］をクリックすると、リクエストコードを発行します。

［機能有効化］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］ ▸▸ ［ライセンス管理設定］ ▸▸ ［機能有効化］を選択します。

項目	説明
［機能コード］	機能コードを入力します。
［ライセンスコード］	ライセンスコードを入力します。
［OK］	機能を有効化します。

10.15 ジョブログを取得する

本機で実行されたジョブのログデータ（課金ログ、集計ログ、監査ログ）を作成し、ダウンロードできます。取得したジョブログの閲覧方法については、サービス実施店にお問い合わせください。

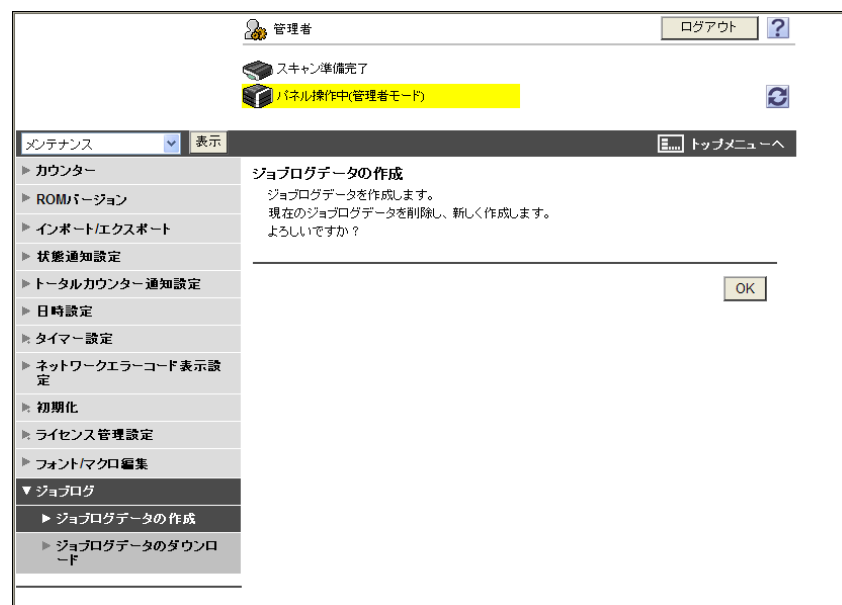
（**操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▶▶［セキュリティー詳細］▶▶［ジョブログ設定］を［しない］に設定している場合は、このメニューは表示されません。）

参考

- ［ジョブログ設定］について詳しくは、［ユーザーズガイド コピー機能編］をごらんください。
- ジョブログの書込み領域が上限に達した場合は、ジョブログの取得を行う必要があります。

［ジョブログデータの作成］

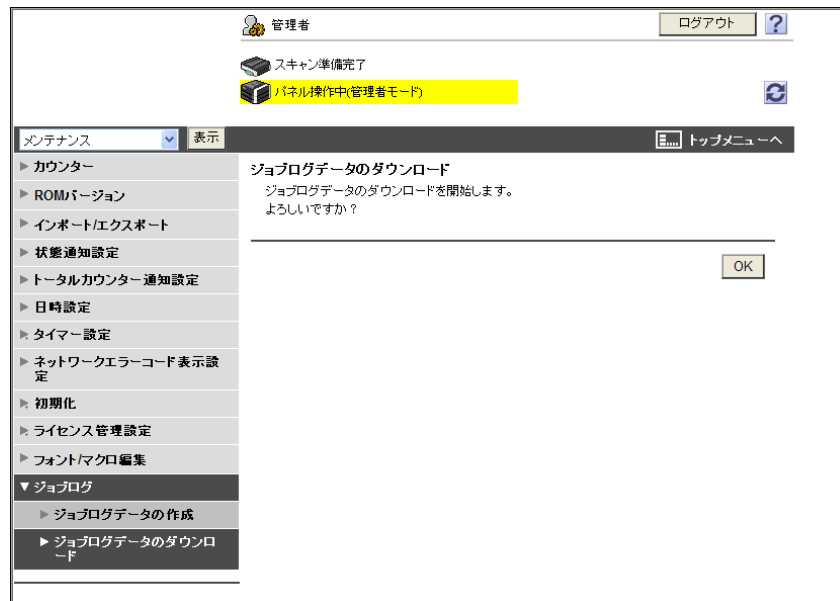
PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▶▶［ジョブログ］▶▶［ジョブログデータの作成］を選択します。

［OK］をクリックすると、ジョブログデータの作成を開始します。作成が完了すると、［ジョブログデータのダウンロード］でジョブログデータをダウンロードできるようになります。

参考

- 未取得のジョブログデータが存在するときに、ジョブログデータを作成しようとすると、未取得のジョブログデータを削除し新しくジョブログデータを作成するかどうか確認するメッセージが表示されます。未取得のジョブログデータが存在する場合は、新しく作成する前に、ジョブログデータをダウンロードしてください。

［ジョブログデータのダウンロード］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［ジョブログ］▸▸［ジョブログデータのダウンロード］を選択します。

ジョブログデータをダウンロードする場合は、［OK］をクリックし、［ダウンロード］をクリックします。

参考

- ジョブログデータをダウンロードするには、あらかじめ［ジョブログデータの作成］でジョブログデータを作成する必要があります。

10.16 白紙ページの印字に関する設定をする

白紙ページの印字に関する設定ができます。

スタンプ機能で文字列を印字する場合に、白紙ページに文字列を印字するかどうかを設定できます。

［白紙ページ印字設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ▸▸ ［白紙ページ印字設定］を選択します。

項目	説明
［印字設定］	スタンプ機能で文字列を印字する場合に、白紙ページに文字列を印字するかどうかを設定します。

10.17　ジョブの飛越しに関する設定をする

ジョブの飛越しに関する設定ができます。

現在プリントしているジョブが用紙エンプティー、ビンの容量オーバー、用紙不適合の警告で停止する場合に、後に待機中のジョブをプリントできるときは、前ジョブを飛越して後ジョブをプリントするように設定できます。

後ジョブがファクスである場合と、ファクス以外である場合で、それぞれ前ジョブの飛越しを行うかどうかを設定できます。

［ジョブ飛越し動作設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ジョブ飛越し動作設定］を選択します。

項目	説明
［ファクス］	後ジョブがファクスである場合に、前ジョブの飛越しを行うかどうかを設定します。
［ファクス以外］	後ジョブがファクス以外である場合に、前ジョブの飛越しを行うかどうかを設定します。

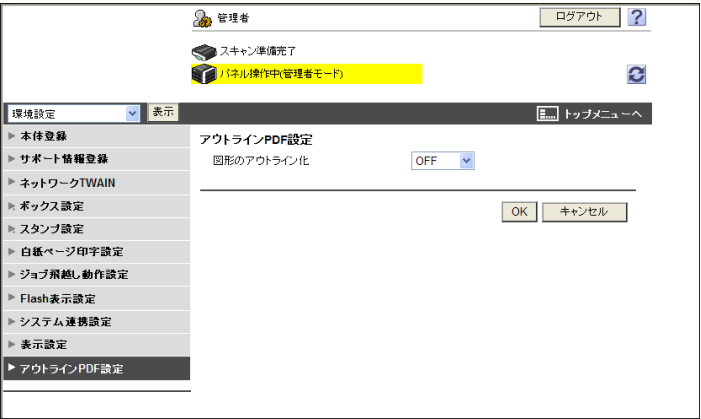
10.18 アウトライン PDF の設定をする

アウトライン PDF を作成するときの図形のアウトライン化に関する設定ができます。

参照

アウトライン PDF ついて詳しくは、［ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編］をごらんください。

［アウトライン PDF 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▶▶［アウトライン PDF 設定］を選択します。

項目	説明
［図形のアウトライン化］	アウトライン PDF を作成するときの図形（線画）の読取りレベルを設定します。 ［LOW］、［MIDDLE］、［HIGH］の順に、図形（線画）のアウトライン処理のレベルが高くなります。［OFF］に設定すると、図形（線画）はアウトライン化されません。

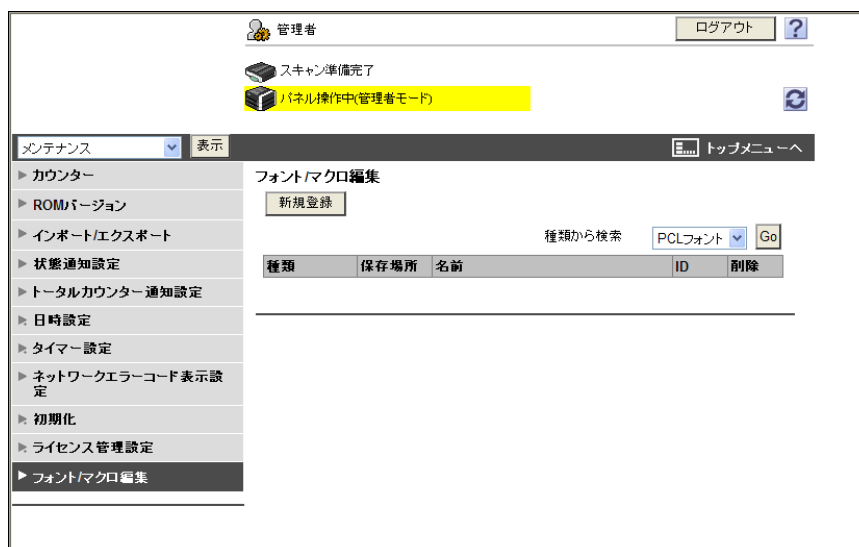
11 登録する

11　登録する

11.1　フォント／マクロを登録する

フォント／マクロを本機に登録したり、削除したりできます。

［フォント / マクロ編集］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［メンテナンス］▸▸［フォント / マクロ編集］を選択します。

項目	説明
［新規登録］	新規にフォント／マクロを登録できます。
［種類から検索］	フォント／マクロの種類を選択して［Go］をクリックすると、選択したフォント／マクロの一覧が表示されます。
［種類］	登録されているフォント／マクロの種類が表示されます。
［保存場所］	登録されているフォント／マクロの保存場所が表示されます。
［名前］	登録されているフォント／マクロの名称が表示されます。
［ID］	登録されているフォント／マクロの ID が表示されます。
［削除］	選択したフォント／マクロを削除します。

［新規登録］

項目	説明
［種類］	登録するフォント／マクロの種類を選択します。
［ID］	フォント／マクロの ID を入力します。 ［種類］で［PCL フォント］または［PCL マクロ］を選択し、［手動で設定する］にチェックを入れている場合に入力します。 すでに使用されている ID を入力した場合は、上書き登録されます。
［保存場所］	フォント／マクロの保存場所を選択します。

11.2 本体情報を登録する

本機の管理者の情報や本体アドレスを登録できます。

本体情報の登録は、E-mail の送信やインターネットファクスの送信の際に必要です。

［本体登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ►► ［本体登録］を選択します。

項目	説明
［設置場所］	本機の設置場所を入力します（半角 255 文字以内）。
［管理者登録］	本機の管理者名と連絡先を登録します。
［管理者名］	本機の管理者名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［E-mail アドレス］	管理者の E-mail アドレスを入力します（半角 128 文字以内）。 E-mail を送信する場合に設定が必要です。
［内線番号］	管理者の内線番号を入力します（半角 8 文字以内）。
［本体アドレス登録］	本機の装置名称と E-mail アドレスを登録します。
［装置名称］	装置名称を入力します（半角 80 文字以内）。 インターネットファクスの件名の一部になります。
［E-mail アドレス］	本機の E-mail アドレスを入力します（半角 320 文字以内）。 インターネットファクスを送信する場合に設定が必要です。

11.3　サポート情報を登録する

本機の製品サポート情報を登録できます。

この情報は、ユーザーモードの［情報表示］▸▸［サポート情報］で表示されます。

［サポート情報登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［サポート情報登録］を選択します。

項目	説明
［問い合わせ先］	製品に関する問い合わせ先を入力します（半角 63 文字以内）。
［問い合わせ情報］	製品に関する問い合わせ先の電話番号、URL などを入力します（半角 127 文字以内）。
［製品情報ホームページ］	製品情報のホームページの URL を入力します（半角 127 文字以内）。
［製品元ホームページ］	製造元のホームページの URL を入力します（半角 127 文字以内）。
［消耗品連絡先］	消耗品の発注先の情報を入力します（半角 127 文字以内）。
［オンラインマニュアル URL］	オンラインマニュアルの URL を入力します（半角 127 文字以内）。 http://www.pagescope.com/download/webconnection/onlinehelp/
［ドライバーの URL］	ドライバーの格納先を入力します（半角 127 文字以内）。
［エンジンシリアル番号］	本機のシリアル番号が表示されます。

11.4　ヘッダー／フッターのプログラムを登録する

ヘッダー／フッターのプログラムを登録できます。

文書をコピーするときに、ここで登録したヘッダー／フッターのプログラムを呼び出して、用紙の指定したページの上部または下部に、文字列や日時などを印字できます。

［ヘッダー / フッター登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ▸▸ ［スタンプ設定］ ▸▸ ［ヘッダー / フッター登録］ ▸▸ ［編集］を選択します。

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	登録名を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
［カラー］	ヘッダー／フッターのカラーを選択します。 カラーの設定は、スキャンデータに有効です。本機で印刷する場合はモノクロで印刷されます。
［印字ページ］	ヘッダー／フッターを、先頭ページのみに印字するか、全ページに印字するかを指定します。
［サイズ］	ヘッダー／フッターの文字サイズを指定します。
［文字種類］	印字する文字のフォントを指定します。
［日時 / 時刻設定］	日付、時刻の表示形式をそれぞれ選択します。 ［ヘッダー］または［フッター］のどちらかの［日時設定］が［印刷する］に設定されている場合に選択できます。
［配布番号指定］	配布番号に付加して印字する文字列を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。配布番号の出力形式と開始番号を指定します。 出力形式で［必要桁数のみ表示］を選択すると、配布番号が 2 桁の場合、2 桁の数字で表示されます。 ［8 桁固定表示］を選択すると、入力された桁数に関わりなく、常に 8 桁で表示されます。 ［ヘッダー］または［フッター］のどちらかの［配布番号］が［印刷する］に設定されている場合に設定できます。

項目	説明
［ヘッダー］／［フッター］	以下の項目を印字するかどうか設定します。 ・［ヘッダー文字列］／［フッター文字列］（半角 40 文字、全角 20 文字以内） ・［日時設定］ ・［配布番号］ ・［ジョブ番号］ ・［シリアル番号］（本機のエンジンシリアル番号） ・［ユーザー名 / 部門名］ 配布番号を印字する場合は、［配布番号指定］で印字する配布番号の設定を行います。 ユーザー認証や部門管理が設定されていない場合は、［ユーザー名 / 部門名］を［印刷する］に設定しても印字されません。

11.5　短縮宛先を登録する

短縮宛先の登録や編集、アイコンの登録ができます。

頻繁に使用する送信先を短縮宛先に登録しておけば、文書を送信するときに、登録した短縮宛先を指定して簡単に送信できます。また、短縮宛先にアイコンを登録することもできます。

[宛先登録]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[宛先登録] ▸▸ [短縮宛先] ▸▸ [宛先登録] を選択します。

項目	説明
[新規登録]	新しく短縮宛先を登録します。
[番号から検索]	登録番号を選択して [Go] をクリックすると、選択した番号の宛先の一覧が表示されます。
[検索文字から検索]	検索文字を選択して [Go] をクリックすると、選択した検索文字の宛先の一覧が表示されます。
[No.]	登録番号が表示されます。
[機能]	登録した機能が表示されます。
[登録名称]	登録名称が表示されます。
[S/MIME]	E-mail 宛先に証明書が登録されているかどうかが表示されます。
[編集]	登録されている短縮宛先を編集します。設定項目は登録時と同じです。
[削除]	短縮宛先を削除します。

[新規登録] ▸▸ [E-mail 宛先]

項目	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号を指定します。 [直接入力する] を選択した場合は、登録番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
[検索文字]	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、[常用（よく使う宛先）] にチェックを入れると便利です。
[E-mail 宛先]	宛先の E-mail アドレスを入力します（半角 320 文字以内）。

項目	説明
［証明書情報の登録］	証明書情報を登録する場合はチェックを入れます。 ［参照］をクリックし、登録する証明書を指定します。証明書情報は、DER（Distinguished Encoding Rules）形式のファイルのみサポートされています。 登録されている証明書情報を削除する場合は、［証明書情報の削除］を選択します。 登録する宛先の E-mail アドレスと証明書の E-mail アドレスが一致しない場合は、証明書を登録できません。証明書を登録する前に E-mail アドレスが一致しているかどうか確認してください。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［新規登録］►►［FTP 宛先］

項目	説明
［登録 No.］	宛先の登録番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、登録番号を入力します。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［検索文字］	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、［常用（よく使う宛先）］にチェックを入れると便利です。
［ホストアドレス］	宛先の FTP サーバーのアドレスを入力します。 書式：*.*.*.*（* の入力範囲：0-255） DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。
［ファイルパス］	宛先のディレクトリを指定します（全角、半角 127 バイト以内）。
［ユーザー ID］	宛先の FTP サーバーにログインするためのユーザー ID を入力します（全角、半角 63 バイト以内）。
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。 登録情報を編集する場合に表示されます。
［パスワード］	宛先の FTP サーバーにログインするためのパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 63 バイト以内）。
［anonymous］	anonymous ユーザーでもアクセスできるようにするかどうかを選択します。
［PASV モード］	PASV モードで通信を行うかどうかを選択します。
［プロキシ］	プロキシサーバーを使用するかどうかを選択します。
［ポート番号］	ポート番号を入力します。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［新規登録］►►［SMB 宛先］

項目	説明
［登録 No.］	宛先の登録番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、登録番号を入力します。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［検索文字］	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、［常用（よく使う宛先）］にチェックを入れると便利です。

項目	説明
[ホストアドレス]	宛先のコンピューターのアドレスを入力します。 IPv4 環境の場合は、IPv4 アドレス、NetBIOS 名、ホスト名のいずれかを入力します。NetBIOS 名は大文字で入力します。DNS サーバーを指定している場合に、ホスト名で指定できます。ホスト名は、完全修飾ドメイン名(FQDN)で指定してください。 IPv6 環境の場合は、IPv6 アドレスまたはホスト名を入力します。DNS サーバーを指定している場合に、ホスト名で指定できます。ただし、宛先のコンピューターが Windows Vista/Server 2008/7 で、LLMNR 機能を使用して名前解決する場合は、DNS サーバーの存在しない環境でもホスト名で指定できます。
[ファイルパス]	宛先のディレクトリを指定します(全角、半角 255 バイト以内)。
[ユーザー ID]	宛先のコンピューターにログインするためのユーザー ID を入力します(全角、半角 127 バイト以内)。
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。 登録情報を編集する場合に表示されます。
[パスワード]	宛先のコンピューターにログインするためのパスワードを入力します(スペースと " を除く半角 127 バイト以内)。
[参照許可設定]	[表示]をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

[新規登録] ▸▸ [WebDAV 宛先]

項目	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号を指定します。 [直接入力する]を選択した場合は、登録番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名称を入力します(半角 24 文字、全角 12 文字以内)。
[検索文字]	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、[常用(よく使う宛先)]にチェックを入れると便利です。
[ホストアドレス]	宛先の WebDAV サーバーのアドレスを入力します。 書式:*.*.*.*(* の入力範囲:0-255) DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で指定できます。 IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。
[ファイルパス]	宛先のディレクトリを指定します(全角、半角 142 バイト以内)。
[ユーザー ID]	宛先の WebDAV サーバーにログインするためのユーザー ID を入力します(全角、半角 63 バイト以内)。
[パスワードを変更する]	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。 登録情報を編集する場合に表示されます。
[パスワード]	宛先の WebDAV サーバーにログインするためのパスワードを入力します(スペースと " を除く半角 63 バイト以内)。
[SSL 設定]	SSL で暗号化するかどうかを選択します。
[プロキシ]	プロキシサーバーを使用するかどうかを選択します。
[ポート番号]	ポート番号を入力します。
[参照許可設定]	[表示]をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

[新規登録] ▸▸ [ボックス宛先]

項目	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号を指定します。 [直接入力する]を選択した場合は、登録番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名称を入力します(半角 24 文字、全角 12 文字以内)。
[検索文字]	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、[常用(よく使う宛先)]にチェックを入れると便利です。

項目	説明
［ボックス番号］	本機に登録されているボックスから、宛先として登録するボックスのボックス番号を指定します。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［新規登録］ ▸▸ ［ファクス宛先］

（オプションの FAX キット FK-508 が装着されている場合に登録できます。）

項目	説明
［登録 No.］	宛先の登録番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、登録番号を入力します。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［検索文字］	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、［常用（よく使う宛先）］にチェックを入れると便利です。
［ファクス番号］	宛先のファクスのダイアル番号を入力します（半角 38 文字以内）。
［ファクス番号の再入力］	ファクス番号の誤登録を防止するため、ファクス番号を再入力します。 ［宛先 2 度入力機能（登録）］が［ON］の場合に表示されます。
［回線指定］	使用する回線を選択します。 オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着している場合に設定できます。
［通信設定］	［表示］をクリックすると、通信設定の内容が表示されます。 ［V34 OFF］、［ECM OFF］、［海外通信］、［宛先確認送信］をそれぞれ有効にするかどうか選択します。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［新規登録］ ▸▸ ［IP アドレスファクス宛先］

（IP アドレスファクス機能を使用できる場合に登録できます。）

項目	説明
［登録 No.］	宛先の登録番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、登録番号を入力します。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［検索文字］	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、［常用（よく使う宛先）］にチェックを入れると便利です。
［アドレス形式］	宛先のアドレス形式を選択します。
［宛先］	宛先の IP アドレスファクス機のアドレスを入力します。 ［アドレス形式］で［IP アドレス］を選択した場合は、宛先の IP アドレスを入力します。IPv6 を使用する場合は、IPv6 アドレスで指定できます。 ［アドレス形式］で［ホスト名］を選択した場合は、宛先のホスト名を入力します。DNS サーバーを指定している場合に、ホスト名で指定できます。 ［アドレス形式］で［E-mail アドレス］を選択した場合は、宛先の E-mail アドレスを入力します。DNS サーバーを指定している場合に、E-mail アドレスで指定できます。
［ポート番号］	ポート番号を入力します。
［相手先機種］	相手先機種がカラー機かモノクロ機かを選択します。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［新規登録］▸▸［インターネットファクス宛先］

（インターネットファクス機能を使用できる場合に登録できます。）

項目	説明
［登録 No.］	宛先の登録番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、登録番号を入力します。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［検索文字］	宛先検索用の検索文字を選択します。 よく使う宛先は、［常用（よく使う宛先）］にチェックを入れると便利です。
［E-mail 宛先］	宛先の E-mail アドレスを入力します（半角 320 文字以内）。
［解像度］	受信機側で受信できる解像度を選択します。
［用紙サイズ］	受信機側で受信できる用紙サイズを選択します。
［圧縮形式］	受信機側で受信できる圧縮形式を選択します。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［アイコン］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］▸▸［短縮宛先］▸▸［アイコン］▸▸［編集］を選択します。

項目	説明
［登録 No.］	短縮宛先の登録番号が表示されます。
［登録名称］	短縮宛先の登録名称が表示されます。
［アイコンを指定する］	［アイコンを指定する］を選択します。
［一覧より選択］	アイコン一覧画面が表示されます。登録したいアイコンを選択します。

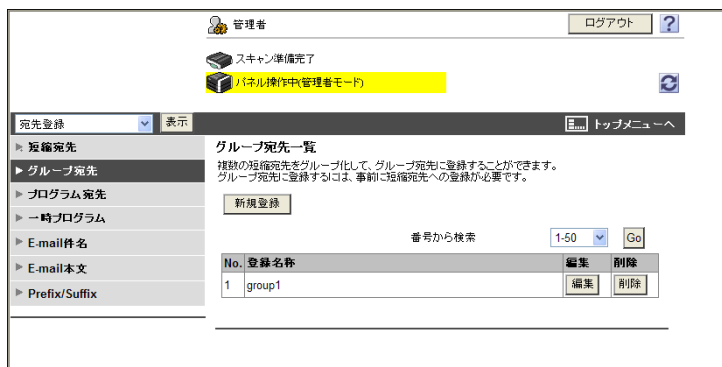
11.6 グループ宛先を登録する

グループ宛先を登録、編集できます。

複数の短縮宛先をグループ化して、グループ宛先として登録できます。

同報送信を行いたいときにグループ宛先を登録しておくと便利です。グループ宛先を登録するには、あらかじめ短縮宛先の登録が必要です。

［グループ宛先］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］▸▸［グループ宛先］を選択します。

項目	説明
［新規登録］	新しくグループ宛先を登録します。
［番号から検索］	登録番号を選択して［Go］をクリックすると、選択した番号の宛先が一覧表示されます。
［No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	登録名称が表示されます。
［編集］	登録されているグループ宛先を編集します。設定項目は登録時と同じです。
［削除］	グループ宛先を削除します。

［新規登録］

項目	説明
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［スキャン / ファクス宛先］	［宛先一覧より選択］をクリックすると、登録されている短縮宛先の一覧が表示されます。 短縮宛先の一覧から、グループ宛先として登録したい短縮宛先を選択します。
［登録宛先確認］	登録した短縮宛先を確認できます。
［アイコンを指定する］	［一覧より選択］から、登録するユーザーのアイコンを選択します。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、参照許可設定の内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

11.7　プログラム宛先を登録する

プログラム宛先を登録、編集できます。

プログラム宛先には、宛先情報、通信情報、原稿情報を組み合わせて登録できます。

［プログラム宛先］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］▸▸［プログラム宛先］を選択します。

項目	説明
［ページ（12 件ずつ表示）］	ページを選択して［Go］をクリックすると、選択したページの宛先の一覧が表示されます。
［ページ名変更］	ページ名を変更します。
［No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	登録名称が表示されます。
［S/MIME］	E-mail 宛先に証明書が登録されているかどうかが表示されます。
［登録］	プログラム宛先を登録します。
［編集］	登録されているプログラム宛先を編集します。設定項目は登録時と同じです。
［削除］	プログラム宛先を削除します。

［登録］▸▸［E-mail 宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、E-mail 宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。

項目	説明
［ファイル名］	ファイル名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
［ページ設定］	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
［E-mail 件名］	E-mail 件名を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの件名を使用します。内容は［E-mail 件名一覧］をクリックすると確認できます。
［E-mail 本文］	E-mail 本文を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの本文を使用します。内容は［E-mail 本文一覧］をクリックすると確認できます。
［ファイル添付設定］	［ページ設定］で［ページ分割］を選択した場合に、分割したファイルを 1 メールに全て添付して送信するか（メールサイズ：200 MB 以内）、1 メールに 1 ファイルずつ添付して送信するか（メールサイズ：400 MB 未満）を選択します。1 メールに 1 ファイルずつ添付する場合は、分割したファイルの数だけ E-mail が送信されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［原稿セット方向］	原稿の天地の向きを選択します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］▸▸［スタンプ設定］▸▸［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。

項目	説明
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］ ►► ［FTP 宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、FTP 宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［ファイル名］	ファイル名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
［ページ設定］	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［E-mail 通知］	スキャンデータの保存先の URL を E-mail で通知するかどうかを設定します。 通知する場合は、通知先アドレスを指定します。［宛先一覧より選択］をクリックして、一覧から選択することもできます。
［原稿セット方向］	原稿の天地の向きを選択します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。

項目	説明
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］ ▸▸ ［スタンプ設定］ ▸▸ ［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］ ▸▸ ［SMB 宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、SMB 宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［ファイル名］	ファイル名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
［ページ設定］	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。

項目	説明
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［E-mail 通知］	スキャンデータの保存先の URL を E-mail で通知するかどうかを設定します。 通知する場合は、通知先アドレスを指定します。［宛先一覧より選択］をクリックして、一覧から選択することもできます。
［原稿セット方向］	原稿の天地の向きを選択します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］ ▸▸ ［スタンプ設定］ ▸▸ ［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］ ▸▸ ［WebDAV 宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、WebDAV 宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。

項目	説明
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［ファイル名］	ファイル名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
［ページ設定］	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［E-mail 通知］	スキャンデータの保存先の URL を E-mail で通知するかどうかを設定します。 通知する場合は、通知先アドレスを指定します。［宛先一覧より選択］をクリックして、一覧から選択することもできます。
［原稿セット方向］	原稿の天地の向きを選択します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］▸▸［スタンプ設定］▸▸［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。

項目	説明
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］▸▸［ボックス宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、ボックス宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［ファイル名］	ファイル名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
［ページ設定］	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［E-mail 通知］	スキャンデータの保存先の URL を E-mail で通知するかどうかを設定します。 通知する場合は、通知先アドレスを指定します。［宛先一覧より選択］をクリックして、一覧から選択することもできます。
［原稿セット方向］	原稿の天地の向きを選択します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。

項目	説明
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］ ▸▸ ［スタンプ設定］ ▸▸ ［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］ ▸▸ ［ファクス宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、ファクス宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。

項目	説明
［タイマー通信］	タイマー通信を行うかどうかを選択します。行う場合は、送信時刻を入力します。
［パスワード送信］	パスワード送信を行うかどうかを設定します。行う場合は、パスワードを入力します。
［F コード］	F コードを使用して送信するかどうかを選択します。使用する場合は、SUB アドレスとパスワードを入力します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］▶▶［スタンプ設定］▶▶［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］▶▶［IP アドレスファクス宛先］

（IP アドレスファクス機能を使用できる場合に登録できます。）

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、IP アドレスファクス宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。

項目	説明
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］►►［スタンプ設定］►►［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］►►［インターネットファクス宛先］

（インターネットファクス機能を使用できる場合に登録できます。）

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。

項目	説明
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先表から選択］または［宛先を直接指定する］を選択し、インターネットファクス宛先を指定します。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［E-mail 件名］	E-mail 件名を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの件名を使用します。内容は［E-mail 件名一覧］をクリックすると確認できます。
［E-mail 本文］	E-mail 本文を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの本文を使用します。内容は［E-mail 本文一覧］をクリックすると確認できます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］▸▸［スタンプ設定］▸▸［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。

項目	説明
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

［登録］ ▸▸ ［グループ宛先］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［登録名称］	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
［宛先情報］	宛先を指定します。 ［宛先一覧より選択］をクリックし、プログラム宛先として登録するグループ宛先を選択します。 ［宛先確認］をクリックすると、登録宛先を確認できます。
［解像度］	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
［ファイル形式］	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
［アウトライン PDF］	［ファイル形式］で［コンパクト PDF］を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
［ファイル名］	ファイル名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
［ページ設定］	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
［E-mail 件名］	E-mail 件名を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの件名を使用します。内容は［E-mail 件名一覧］をクリックすると確認できます。
［E-mail 本文］	E-mail 本文を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの本文を使用します。内容は［E-mail 本文一覧］をクリックすると確認できます。
［ファイル添付設定］	［ページ設定］で［ページ分割］を選択した場合に、分割したファイルを 1 メールに全て添付して送信するか（メールサイズ：200 MB 以内）、1 メールに 1 ファイルずつ添付して送信するか（メールサイズ：400 MB 未満）を選択します。1 メールに 1 ファイルずつ添付する場合は、分割したファイルの数だけ E-mail が送信されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［E-mail 通知］	スキャンデータの保存先の URL を E-mail で通知するかどうかを設定します。 通知する場合は、通知先アドレスを指定します。［宛先一覧より選択］をクリックして、一覧から選択することもできます。

項目	説明
[タイマー通信]	タイマー通信を行うかどうかを選択します。行う場合は、送信時刻を入力します。
[原稿セット方向]	原稿の天地の向きを選択します。
[両面とじ方向]	原稿とじ位置を選択します。
[特殊原稿]	送信する原稿が混載原稿(サイズの異なる原稿が混在している原稿)、Z 折れ原稿(折り目がついている原稿)、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
[ブック連写]	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
[枠消し]	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
[文字・画像合成(日付 / 時刻)]	日付/時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、[日付種類]、[時刻種類]、[印字位置]、[微調整]、[カラー]、[印字ページ]、[サイズ]、[文字種類] を設定します。
[文字・画像合成(ページ)]	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、[開始]、[ページ種類]、[印字位置]、[微調整]、[カラー]、[サイズ]、[文字種類] を設定します。
[文字・画像合成(ヘッダー / フッター)]	ヘッダー/フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー/フッターの登録番号を指定します。 [登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー/フッターを確認できます。 ヘッダー/フッターを指定する場合は、[環境設定] ▸▸ [スタンプ設定] ▸▸ [ヘッダー / フッター登録] で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
[文字・画像合成(スタンプ)]	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、[定型スタンプ] または [登録スタンプ]、[印字位置]、[微調整]、[カラー]、[印字ページ]、[サイズ] を設定します。 [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
[スタンプ合成方法]	[文字・画像合成(スタンプ)] で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
[参照許可設定]	[表示] をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

[登録] ▸▸ [宛先指定なし]

項目	説明
[登録 No.]	登録番号が表示されます。
[登録名称]	宛先の名称を入力します(半角 24 文字、全角 12 文字以内)。
[解像度]	原稿をスキャンするときの解像度を選択します。
[ファイル形式]	スキャンしたデータを保存するときのファイル形式を選択します。
[アウトライン PDF]	[ファイル形式] で [コンパクト PDF] を選択した場合は、アウトライン PDF 機能を使用するかどうかを選択します。
[ファイル名]	ファイル名を入力します(半角 30 文字、全角 15 文字以内)。
[ページ設定]	スキャンしたデータを保存するときにページ一括を 1 ファイルで保存するか、指定したページごとにファイルを分割して保存するかを選択します。 ページ分割を行う場合は、1 ファイルごとのページ数を入力します。ページ分割の設定値よりも原稿の枚数が少ない場合は、分割せずに 1 ファイルで保存されます。
[E-mail 件名]	E-mail 件名を指定します。 [指定なし] を選択すると、デフォルトの件名を使用します。内容は [E-mail 件名一覧] をクリックすると確認できます。

項目	説明
［E-mail 本文］	E-mail 本文を指定します。 ［指定なし］を選択すると、デフォルトの本文を使用します。内容は［E-mail 本文一覧］をクリックすると確認できます。
［ファイル添付設定］	［ページ設定］で［ページ分割］を選択した場合に、分割したファイルを 1 メールに全て添付して送信するか（メールサイズ：200 MB 以内）、1 メールに 1 ファイルずつ添付して送信するか（メールサイズ：400 MB 未満）を選択します。1 メールに 1 ファイルずつ添付する場合は、分割したファイルの数だけ E-mail が送信されます。
［片面 / 両面］	原稿の片面をスキャンするか両面をスキャンするかを選択します。 また、原稿の最初のページを表紙として片面だけスキャンし、残りのページを両面スキャンすることもできます。
［原稿画質］	文字、写真など原稿の画質を選択します。
［カラー］	カラーモードを選択します。選択するカラーモードによって保存できるファイル形式に制限があります。
［連続読込み設定］	原稿を複数回に分割して読込むかどうかを選択します。
［濃度］	濃度を選択します。
［下地調整］	下地の濃さを調整します。
［読込みサイズ］	原稿のサイズを選択します。 ［定形サイズ］の場合は、サイズと通紙方向を指定します。 ［不定形サイズ］の場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
［応用設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。
［E-mail 通知］	スキャンデータの保存先の URL を E-mail で通知するかどうかを設定します。 通知する場合は、通知先アドレスを指定します。［宛先一覧より選択］をクリックして、一覧から選択することもできます。
［タイマー通信］	タイマー通信を行うかどうかを選択します。行う場合は、送信時刻を入力します。
［パスワード送信］	パスワード送信を行うかどうかを設定します。行う場合は、パスワードを入力します。
［F コード］	F コードを使用して送信するかどうかを選択します。使用する場合は、SUB アドレスとパスワードを入力します。
［原稿セット方向］	原稿の天地の向きを選択します。
［両面とじ方向］	原稿とじ位置を選択します。
［特殊原稿］	送信する原稿が混載原稿（サイズの異なる原稿が混在している原稿）、Z 折れ原稿（折り目がついている原稿）、長尺原稿の場合は、該当するものを選択します。
［ブック連写］	ブック連写を行うかどうかを選択します。 ブック連写の機能を使用すると、本やカタログなどの見開きの原稿をスキャンするときに、左右のページを分割し、それぞれを 1 ページとしてスキャンできます。
［枠消し］	枠消しを行うかどうかを選択します。 枠消しの機能を使用すると、パンチ穴の影や、印刷したファクスの受信記録の印字など、原稿の周囲の不要部分を消去してスキャンできます。
［文字・画像合成（日付 / 時刻）］	日付／時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［日付種類］、［時刻種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ページ）］	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［開始］、［ページ種類］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［サイズ］、［文字種類］を設定します。
［文字・画像合成（ヘッダー / フッター）］	ヘッダー／フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー／フッターの登録番号を指定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたヘッダー／フッターを確認できます。 ヘッダー／フッターを指定する場合は、［環境設定］ ▸▸ ［スタンプ設定］ ▸▸ ［ヘッダー / フッター登録］で、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。

項目	説明
［文字・画像合成（スタンプ）］	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、［定型スタンプ］または［登録スタンプ］、［印字位置］、［微調整］、［カラー］、［印字ページ］、［サイズ］を設定します。 ［登録内容確認］をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。 登録スタンプを指定する場合は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。
［スタンプ合成方法］	［文字・画像合成（スタンプ）］で追加する内容の合成方法を選択します。 画像として挿入するか、文字として挿入するかを選択できます。
［参照許可設定］	［表示］をクリックすると、内容が表示されます。 この宛先を参照するのに必要な参照可能レベルまたは参照許可グループを指定します。

11.8　一時プログラムを登録する

一時プログラムとは、送信先や送信の操作手順などを一時的に登録する機能です。

プログラム宛先と異なり、一時プログラムとして登録した宛先に送信したり、本機の電源を OFF にしたりすると、一時プログラムの登録情報は削除されます。

参考

- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［手動宛先入力］を［禁止］に設定している場合は、一時プログラムを登録できません。

［一時プログラム］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］▸▸［一時プログラム］を選択します。

参照

一時プログラムの登録内容は、プログラム宛先の登録内容と同じです。ただし、一時プログラムでは、［証明書情報の登録］と［参照許可設定］を設定できません。一時プログラムの登録内容について詳しくは、11-13 ページをごらんください。

11.9　E-mail の件名および本文を登録する

E-mail やインターネットファクスの送信時に使用する件名と本文を登録できます。

［E-mail 件名］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］ ▸▸ ［E-mail 件名］ ▸▸ ［編集］を選択します。

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［E-mail 件名］	E-mail 件名を登録します（全角、半角 96 バイト以内）。

［E-mail 本文］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］ ▸▸ ［E-mail 本文］ ▸▸ ［編集］を選択します。

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［E-mail 本文］	E-mail 本文を登録します（全角、半角 384 バイト以内）。

11.10 E-mail アドレスの入力を簡単にする

E-mail アドレスの入力を簡単にするための、Prefix/Suffix を登録できます。

Prefix/Suffix にドメインなどを登録しておくことで、E-mail アドレスなどを入力するときに登録した文字列を呼び出し、アドレスをすばやく入力できます。

[Prefix/Suffix]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[宛先登録] ▸▸ [Prefix/Suffix] ▸▸ [編集] を選択します。

項目	説明
[登録 No.]	登録番号が表示されます。
[Prefix]	Prefix を入力します（半角 20 文字以内）。
[Suffix]	Suffix を入力します（半角 64 文字以内）。

11.11 データ管理ユーティリティーを使用する

PageScope Web Connection のデータ管理ユーティリティーを使用して、ネットワーク上のコンピューターからコピープロテクトデータ、スタンプデータ、フォント／マクロデータを管理できます。

11.11.1 データ管理ユーティリティーを起動する

データ管理ユーティリティーは、PageScope Web Connection のログイン画面から起動します。

参考

- データ管理ユーティリティーを使用するには、Flash Player をインストールする必要があります。
- フォント／マクロデータの管理を行うには、Internet Explorer を使用し、Flash Player Ver.9.0 以降をインストールする必要があります。
- 複数のデータ管理ユーティリティーを同時に起動できません。

1 ログイン画面で起動するデータ管理ユーティリティーを選択します。

2 本機の管理者パスワードを入力します。

データ管理ユーティリティーが起動します。

参照

［コピープロテクトデータの管理］について詳しくは、11-32 ページをごらんください。

［スタンプデータの管理］について詳しくは、11-34 ページをごらんください。

［フォント / マクロデータの管理］について詳しくは、11-36 ページをごらんください。

11.11.2 コピープロテクトデータを管理する

本機に追加して使用するコピープロテクトデータを管理できます。

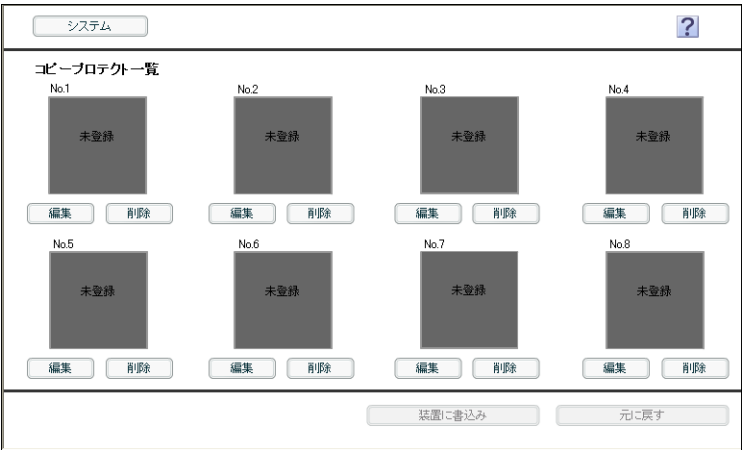
コピープロテクトとは、プリントおよびコピーした文書を再びコピーしたときに、そのコピー文書上に文字列を浮かび上がらせることにより、その文書がコピーであることを分かるようにする機能です。機密性が高い文書の二次コピーを防止したい場合などに便利です。

参考

- 出荷時に本機に登録されているコピープロテクトデータは、編集および削除できません。

［コピープロテクト一覧］

［コピープロテクトデータの管理］を起動すると、登録されているコピープロテクトデータの一覧が表示されます。

（最大 8 個のコピープロテクトデータを登録できます。）

項目	説明
［システム］	システムメニューが表示されます。 ［オートプロテクト設定］、［エクスポート］、［インポート］、［終了］の操作ができます。 詳しくは 11-33 ページをごらんください。
?	［コピープロテクトデータの管理］についてのヘルプが表示されます。
［編集］	コピープロテクト編集画面が表示されます。 コピープロテクト編集画面では、登録済みのコピープロテクトデータを編集したり、新しくコピープロテクトデータを登録したりできます。 詳しくは 11-33 ページをごらんください。
［削除］	登録されているコピープロテクトデータを削除します。 コピープロテクト一覧画面には表示されなくなりますが、［装置に書込み］をクリックして本機に書込むまでは、コピープロテクトデータは削除されません。［装置に書込み］をクリックする前であれば、［元に戻す］をクリックすることで、削除をキャンセルできます。
［装置に書込み］	コピープロテクトデータを本機に書込みます。 コピープロテクトデータを新規登録、編集、削除したあとに、［装置に書込み］をクリックしてください。［装置に書込み］をクリックしないと、編集内容が反映されません。
［元に戻す］	編集内容を破棄して編集前の状態に戻します。

［システム］

［オートプロテクト設定］、［エクスポート］、［インポート］、［終了］の操作ができます。

項目	説明
［オートプロテクト設定］	オートプロテクトとは、操作をしなくなってから一定時間が経過した場合に、操作を保護する画面を表示する機能です。これにより、設定画面を表示したまま席を離れているときなどに、他人が勝手に操作することを防止できます。 オートプロテクト機能を使用する場合は、タイムアウト時間（操作をしなくなってから、プロテクト画面を表示するまでの時間）を設定します。
［エクスポート］	本機に設定されているコピープロテクトデータのバックアップをとるためにファイルに保存（エクスポート）します。 エクスポートする場合は、確認画面で［OK］をクリックします。
［インポート］	ファイルに保存されたコピープロテクトデータを読込み、その内容を本機に書込み（インポート）ます。 インポートする場合は、インポートするファイルを指定し、［OK］をクリックします。 編集中のコピープロテクトデータがあった場合、インポートしたコピープロテクトデータに置き換わってしまいます。
［終了］	アプリケーションを終了します。 確認画面が表示されるので、［OK］をクリックします。

［編集］

コピープロテクトデータを編集します。

コピープロテクトに使用する文字列、フォント、文字の大きさとスタイル、回転角度を指定できます。プレビューで結果を確認しながら編集できます。

項目	説明
［コピープロテクト名］	コピープロテクト名を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
［コピープロテクト文字列］	コピープロテクトとして表示する文字列を入力します（半角 32 文字、全角 16 文字以内）。
［フォント名］	コピープロテクトの文字列のフォントを選択します。
［フォントサイズ］	コピープロテクトの文字列のフォントサイズを選択します。
［ボールド］	コピープロテクトの文字列をボールド（太字）に設定する場合は、チェックを入れます。
［イタリック］	コピープロテクトの文字列をイタリック（斜体）に設定する場合は、チェックを入れます。
［回転角度］	文字列の回転角度を指定します。 スライダーや数値入力によって、文字列の回転角度を 1 度刻みで調整できます。

11.11.3 スタンプデータを管理する

本機に追加して使用するスタンプデータを管理できます。

スタンプに使用する画像を本機に登録したり、削除したりできます。

参考

- 出荷時に本機に登録されているスタンプデータは、編集および削除できません。

［スタンプ一覧］

［スタンプデータの管理］を起動すると、登録されているスタンプデータの一覧が表示されます。

（最大 8 個のスタンプデータを登録できます。）

項目	説明
［システム］	システムメニューが表示されます。 ［オートプロテクト設定］、［エクスポート］、［インポート］、［終了］の操作ができます。 詳しくは 11-35 ページをごらんください。
?	［スタンプデータの管理］についてのヘルプが表示されます。
［編集］	スタンプ編集画面が表示されます。 スタンプ編集画面では、登録済みのスタンプデータを編集したり、新しくスタンプデータを登録したりできます。 詳しくは 11-35 ページをごらんください。
［削除］	登録されているスタンプデータを削除します。 スタンプ一覧画面には表示されなくなりますが、［装置に書込み］をクリックして本機に書込むまでは、スタンプデータは削除されません。［装置に書込み］をクリックする前であれば、［元に戻す］をクリックすることで、削除をキャンセルできます。
［装置に書込み］	スタンプデータを本機に書込みます。 スタンプデータを新規登録、編集、削除したあとに、［装置に書込み］をクリックしてください。［装置に書込み］をクリックしないと、編集内容が反映されません。
［元に戻す］	編集内容を破棄して編集前の状態に戻します。

［システム］

［オートプロテクト設定］、［エクスポート］、［インポート］、［終了］の操作ができます。

項目	説明
［オートプロテクト設定］	オートプロテクトとは、操作をしなくなってから一定時間が経過した場合に、操作を保護する画面を表示する機能です。これにより、設定画面を表示したまま席を離れているときなどに、他人が勝手に操作することを防止できます。 オートプロテクト機能を使用する場合は、タイムアウト時間（操作をしなくなってから、プロテクト画面を表示するまでの時間）を設定します。
［エクスポート］	本機に設定されているスタンプデータのバックアップをとるためにファイルに保存（エクスポート）します。 エクスポートする場合は、確認画面で［OK］をクリックします。
［インポート］	ファイルに保存されたスタンプデータを読込み、その内容を本機に書込み（インポート）ます。 インポートする場合は、インポートするファイルを指定し、［OK］をクリックします。 編集中のスタンプデータがあった場合、インポートしたスタンプデータで置き換わってしまいます。
［終了］	アプリケーションを終了します。 確認画面が表示されるので、［OK］をクリックします。

［編集］

スタンプデータを編集します。

スタンプに使用する画像と拡大率を指定できます。プレビューで結果を確認しながら編集できます。

項目	説明
［スタンプ名］	スタンプ名を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
［スタンプ画像ファイル］	［読込み］をクリックし、スタンプとして設定するビットマップ画像を指定し［OK］をクリックします。
［拡大率］	スタンプ画像の拡大率を指定します。 スライダーや数値入力によって、拡大率を 1%刻みで調整できます。
［プレビュー詳細］	スタンプ画像を拡大して表示します。画像の細かい部分をチェックできます。

11.11.4 フォント／マクロデータを管理する

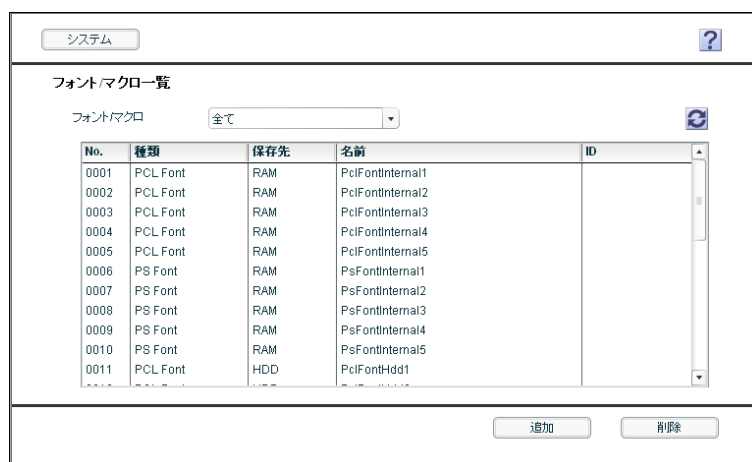
本機に追加して使用するフォント／マクロデータを管理できます。

フォント／マクロを本機に登録したり、削除したりできます。

参考

- フォント／マクロデータを管理するには、Internet Explorer を使用し、Flash Player Ver.9.0 以降をインストールする必要があります。

［フォント / マクロ一覧］

［フォント / マクロデータの管理］を起動すると、登録されているフォント／マクロデータの一覧が表示されます。

項目	説明
［システム］	システムメニューが表示されます。 ［オートプロテクト設定］および［終了］の操作ができます。詳しくは 11-37 ページをごらんください。
	［フォント / マクロデータの管理］についてのヘルプが表示されます。
	フォント／マクロの一覧表示を最新の情報に更新します。
［フォント / マクロ］	フォントの一覧表示とマクロの一覧表示を切換えます。
［No.］	フォント／マクロの番号が表示されます。
［種類］	フォント／マクロの種類が表示されます。
［保存先］	フォント／マクロが保存されている場所が表示されます。
［名前］	フォント／マクロの名前が表示されます。
［ID］	PCL フォントまたは PCL マクロの場合は、フォント／マクロの ID 番号を表示します。
［追加］	新たにフォント／マクロを追加する場合にクリックします。 詳しくは 11-37 ページをごらんください。
［削除］	登録されているフォント／マクロを削除する場合にクリックします。

［システム］

［オートプロテクト設定］および［終了］の操作ができます。

項目	説明
［オートプロテクト設定］	オートプロテクトとは、操作をしなくなってから一定時間が経過した場合に、操作を保護する画面を表示する機能です。これにより、設定画面を表示したまま席を離れているときなどに、他人が勝手に操作することを防止できます。 オートプロテクト機能を使用する場合は、タイムアウト時間（操作をしなくなってから、プロテクト画面を表示するまでの時間）を設定します。
［終了］	アプリケーションを終了します。 確認画面が表示されるので、［OK］をクリックします。

［追加］

本機にフォント／マクロを追加します。

項目	説明
［種類］	追加するフォント／マクロの種類を選択します。
［保存先］	フォント／マクロを保存する場所を選択します。 メモリー（RAM）に保存した場合は、本機の電源を OFF にしたときに削除されます。継続して使用するフォント／マクロは、ハードディスク（HDD）に保存してください。
［ID］	PCL フォントまたは PCL マクロの場合は、フォント／マクロの ID 番号を入力します。 入力しなかった場合は、登録可能な ID 番号を自動的に割当てます。
［追加ファイル］	［参照］をクリックして、本機に追加するフォントファイルまたはマクロファイルを指定します。

12 ボックス機能に関する設定をする

12　ボックス機能に関する設定をする

12.1　ボックスの使用環境の設定をする

ボックスの使用環境に関する設定ができます。

不要ボックスの削除や、ボックスに保存されている文書の削除設定、外部メモリー機能の使用に関する設定ができます。

［不要ボックス削除］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［不要ボックス削除］を選択します。

［OK］をクリックすると、文書が保存されていないボックスを削除します。

［セキュリティー文書削除］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［セキュリティー文書削除］を選択します。

［OK］をクリックすると、セキュリティー文書ボックスに保存されている文書を削除します。

［削除時間設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［削除時間設定］を選択します。

項目	説明
［セキュリティー文書削除時間設定］	セキュリティー文書ボックスに保存されている文書が、自動的に削除されるまでの時間を指定する場合はチェックを入れます。
［日数設定］	文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、セキュリティー文書ボックスに保存してから自動的に削除されるまでの日数を指定します。
［時間設定］	文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、セキュリティー文書ボックスに保存してから自動的に削除されるまでの時間を指定します。
［認証＆プリント削除時間設定］	認証＆プリントボックスに保存されている文書が、自動的に削除されるまでの時間を指定する場合はチェックを入れます。 ユーザー認証が設定されていない場合は、この項目は表示されません。
［日数設定］	文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、認証＆プリントボックスに保存してから自動的に削除されるまでの日数を指定します。 認証＆プリントボックスから印刷した後、文書を削除しない場合は、指定した削除時間がリセットされます。印刷した時点から指定した日数が経過すると、文書が自動的に削除されます。
［時間設定］	文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、認証＆プリントボックスに保存してから自動的に削除されるまでの時間を指定します。 認証＆プリントボックスから印刷した後、文書を削除しない場合は、指定した削除時間がリセットされます。印刷した時点から指定した時間が経過すると、文書が自動的に削除されます。

参照

- 認証＆プリントボックスから印刷した後、印刷した文書を削除するかどうかの設定は、［認証＆プリント印字後削除設定］で行います。詳しくは、12-9 ページをごらんください。

［文書削除時間設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［文書削除時間設定］を選択します。

項目	説明
［削除設定］	ボックス内の文書の削除時間を指定するかどうかを選択します。 対象ボックスは、共有ボックス、個人ボックス、グループボックスで、各ボックス内の文書の削除時間をまとめて設定します。 ［する］を選択すると、登録済みのボックスの文書の削除時間が、ここで指定した時間に変更されます。また、ユーザーによる文書の削除時間の指定ができなくなります。新たにボックスを作成する場合も、ここで指定した時間が文書の削除時間として適用されます。管理者のみ設定を変更できます。
［削除しない］	ボックス内の文書を削除しない場合に選択します。
［日数設定］	文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、ボックスに保存してから自動的に削除されるまでの日数を指定します。 ボックスから送信または印刷した後、文書を削除しない場合は、指定した削除時間がリセットされます。送信または印刷した時点から指定した日数が経過すると、文書が自動的に削除されます。
［時間設定］	文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、ボックスに保存してから自動的に削除されるまでの時間を指定します。 ボックスから送信または印刷した後、文書を削除しない場合は、指定した削除時間がリセットされます。送信または印刷した時点から指定した時間が経過すると、文書が自動的に削除されます。

参照

- ボックスから文書を送信または印刷した後、文書を削除するかどうかの設定は、［文書保持設定］で行います。詳しくは、12-6 ページをごらんください。

［文書保持設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▶▶［ボックス設定］▶▶［文書保持設定］を選択します。

項目	説明
［保持設定］	文書を送信または印刷した後に、自動的に文書をボックスから削除するかどうかを設定します。 ［保持する］を選択すると、文書を送信または印刷してもデータをそのまま保持できます。
［削除選択画面］	文書を送信または印刷した後に、文書をボックスから削除するかどうかを選択する画面を表示させるかどうか選択します。 ［保持設定］で［保持する］を選択した場合に設定します。

［外部メモリー機能設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［外部メモリー機能設定］を選択します。

項目	説明
［文書保存］	スキャンしたデータを外部メモリーに送信したい場合や、ボックスに保存されているデータを外部メモリーに送信したい場合は、［ON］を選択します。データの盗難を防止するため、初期設定では［OFF］に設定されています。使用したい場合に［ON］に設定してください。
［文書印刷］	外部メモリー内のデータを印刷したい場合は、［ON］を選択します。本機でサポートしているファイルフォーマットのみ印刷できます。
［文書読込］	外部メモリー内のデータをボックスに保存したい場合は、［ON］を選択します。

参考

- 外部メモリーの操作中には、外部メモリーを抜かないでください。
- ［文書保存］（外部メモリーへの送信）および［文書読込］（外部メモリーからのボックス保存）を行うためには、ユーザーごとに機能の使用を許可する必要があります。詳しくは、7-5 ページをごらんください。

［ボックス操作権限設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［ボックス設定］▸▸［ボックス操作権限設定］を選択します。

項目	説明
［ボックスの操作権限］	ボックスの操作権限をユーザーに開放するかどうかを選択します。 ［開放しない］を選択すると、ユーザーによるボックスの作成、編集、削除ができなくなります。

［認証＆プリント印字後削除設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ▸▸ ［ボックス設定］ ▸▸ ［認証＆プリント印字後削除設定］を選択します。

項目	説明
［印字後削除設定］	認証＆プリントボックスの文書や、bizmic PS Lite によるプリントデータスプール機能で保存した文書の、印字後の動作を設定します。 ［ユーザーに確認］を選択すると、印字後に削除するかどうかを確認する画面が表示されます。 ［常に削除］を選択すると、印字後に自動的に削除されます。

12.2　共有ボックス数の上限を設定する

共有ボックス数の上限を設定できます。

[共有ボックス設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ユーザー認証 / 部門管理] ▸▸ [共有ボックス設定] を選択します。

項目	説明
[ボックス上限設定を行う]	共有ボックス数に上限を設ける場合は、チェックを入れます。
[ボックス上限設定]	共有ボックス数の上限値を入力します（単位：個）。

12.3　ボックスの設定を変更する

作成されているボックスの設定変更や削除ができます。

管理者モードでは、ボックスのパスワードを入力しなくてもボックスの設定変更や削除を行うことができます。

参照

ボックス内の文書の操作はユーザーモードで行います。詳しくは、[ユーザーズガイド ボックス機能編] をごらんください。

[ボックスを開く]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ボックス] ►► [ボックスを開く] を選択し、設定を変更するボックスを選択します。

項目	説明
[ボックス設定]	ボックスの設定を変更できます。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしている場合に、個人ボックスを選択したときは、この項目は表示されません。
[ボックス削除]	ボックスを削除できます。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしている場合に、個人ボックスを選択したときは、この項目は表示されません。

[ボックス設定]

項目	説明
[ボックス No.]	ボックス番号が表示されます。
[ボックス名]	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内)。
[検索文字]	検索用の文字を選択します。
[ボックス内ドキュメント削除時間]	ボックス内の文書が削除されるまでの時間を設定します。 ボックス内の文書を削除しない場合は、[削除しない] を選択します。 文書の削除時間を日数で指定する場合は、[日数設定] を選択し、自動的に削除されるまでの日数を指定します。 文書の削除時間を時間で指定する場合は、[時間設定] を選択し、自動的に削除されるまでの時間を指定します。 [環境設定] ►► [ボックス設定] ►► [文書削除時間設定] で [削除設定] を [する] に設定している場合に設定できます。
[ボックス拡張機能を変更する]	ボックスに親展受信の機能を追加するどうか選択します。追加する場合は、パスワードを入力します（半角 8 文字以内)。 オプションの FAX キット FK-508 装着時に表示されます。
[ボックスパスワードを変更する]	ボックスパスワードを変更する場合にチェックを入れ、新しいパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内)。

項目	説明
［所有ユーザーを変更する］	ボックス所有者を変更する場合にチェックを入れ、ボックスタイプを選択します。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしている場合に、共有ボックスを選択したときは、この項目は表示されません。

12.4　新しくボックスを作成する

新しくボックスを作成できます。

［ボックスを作成する］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ボックス］ ▸▸ ［ボックスを作成する］を選択します。

項目	説明
［ボックス No.］	作成するボックス番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、ボックス番号を入力します。
［ボックス名］	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［ボックスパスワードを使用する］	ボックスパスワード使用する場合はチェックを入れ、ボックスパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。
［検索文字］	検索用の文字を選択します。
［ボックスタイプ］	ボックスタイプを選択します。 ［個人］を選択した場合は、所有ユーザー名を指定します。 ［グループ］を選択した場合は、所有部門名を指定します。
［ボックス内ドキュメント削除時間］	ボックス内の文書が削除されるまでの時間を設定します。 ボックス内の文書を削除しない場合は、［削除しない］を選択します。 文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、自動的に削除されるまでの日数を指定します。 文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、自動的に削除されるまでの時間を指定します。
［ボックス拡張機能］	［表示］をクリックすると、ボックス拡張機能の内容が表示されます。 ボックスに親展受信の機能を追加するどうか選択します。追加する場合は、パスワードを入力します（半角 8 文字以内）。 オプションの **FAX キット FK-508** 装着時に表示されます。

参考

- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］ ▸▸ ［セキュリティー詳細］ ▸▸ ［パスワード規約］を［有効］に設定している場合は、8 文字未満のパスワードを登録できません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は、［パスワード規約］を［有効］に設定する前に 8 文字に変更してください。

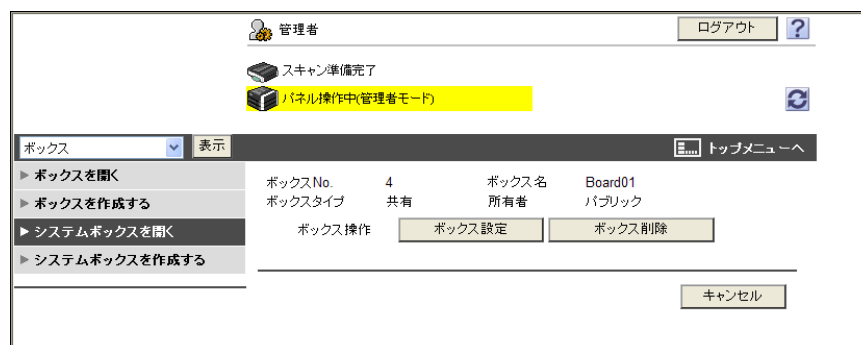
12.5 システムボックスの設定を変更する

作成されているシステムボックス（掲示板ボックス、中継ボックス、ファイリングナンバーボックス）の設定変更や削除ができます。

参考

- オプションの FAX キット FK-508 が装着されている場合に、掲示板ボックスおよび中継ボックスを選択できます。

［システムボックスを開く］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ボックス］ ▸▸ ［システムボックスを開く］を選択し、設定を変更するシステムボックスを選択します。

（画面は［掲示板ボックス］を選択した場合）

項目	説明
［ボックス設定］	ボックスの設定を変更できます。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしている場合に、個人ボックスを選択したときは、この項目は表示されません。
［ボックス削除］	ボックスを削除できます。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしている場合に、個人ボックスを選択したときは、この項目は表示されません。

［ボックス設定］（［掲示板ボックス］を選択した場合）

項目	説明
［ボックス No.］	ボックス番号が表示されます。
［ボックス名］	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［ボックス内ドキュメント削除時間］	ボックス内の文書が削除されるまでの時間を設定します。 ボックス内の文書を削除しない場合は、［削除しない］を選択します。 文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、自動的に削除されるまでの日数を指定します。 文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、自動的に削除されるまでの時間を指定します。 ［環境設定］ ▸▸ ［ボックス設定］ ▸▸ ［文書削除時間設定］で［削除設定］を［する］に設定している場合に設定できます。
［ボックスパスワードを変更する］	ボックスパスワードを変更する場合にチェックを入れ、新しいパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。
［所有ユーザーを変更する］	ボックス所有者を変更する場合にチェックを入れ、ボックスタイプを選択します。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしている場合に、共有ボックスを選択したときは、この項目は表示されません。

［ボックス設定］（［中継ボックス］を選択した場合）

項目	説明
［ボックス No.］	ボックス番号が表示されます。
［ボックス名］	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［中継宛先］	中継宛先を指定します。
［中継パスワードを変更する］	中継パスワードを変更する場合にチェックを入れ、新しいパスワードを入力します（半角 8 文字以内）。

［ボックス設定］（［ファイリングナンバーボックス］を選択した場合）

項目	説明
［ボックス No.］	ボックス番号が表示されます。
［ボックス名］	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［ボックス内ドキュメント削除時間］	ボックス内の文書が削除されるまでの時間を設定します。 ボックス内の文書を削除しない場合は、［削除しない］を選択します。 ファイリングナンバーボックスで決められた番号を印字し、かつボックスへの保存が必要ない場合は、［残さない］を選択します。 文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、自動的に削除されるまでの日数を指定します。 文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、自動的に削除されるまでの時間を指定します。
［ボックスパスワードを変更する］	ボックスパスワードを変更する場合にチェックを入れ、新しいパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。
［ナンバーカウント方式を変更する］	ナンバーカウント方式を変更する場合にチェックを入れ、カウント方式を選択します。 ボックス内に文書がある場合は設定できません。
［文字列指定を変更する］	文字列指定を変更する場合にチェックを入れ、［文字列］、［ナンバー文字列］、［日付 / 時刻］、［印字位置］、［濃度］、［カウンター出力形式］を設定します。

12.6 新しくシステムボックスを作成する

新しくシステムボックスを作成できます。

参考

- オプションの FAX キット FK-508 が装着されている場合に、掲示板ボックスおよび中継ボックスを作成できます。

［システムボックスを作成する］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ボックス］▸▸［システムボックスを作成する］を選択し、作成するシステムボックスを選択します。

（画面は［掲示板ボックス］を選択した場合）

［掲示板ボックス］

項目	説明
［ボックス No.］	作成するボックス番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、ボックス番号を入力します。
［ボックス名］	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［ボックスパスワードを使用する］	ボックスパスワードを設定する場合はチェックを入れ、ボックスパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。
［ボックスタイプ］	ボックスタイプを選択します。 ［個人］を選択した場合は、所有ユーザー名を指定します。 ［グループ］を選択した場合は、所有部門名を指定します。
［ボックス内ドキュメント削除時間］	ボックス内の文書が削除されるまでの時間を設定します。 ボックス内の文書を削除しない場合は、［削除しない］を選択します。 文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、自動的に削除されるまでの日数を指定します。 文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、自動的に削除されるまでの時間を指定します。

［中継ボックス］

項目	説明
［ボックス No.］	作成するボックス番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、ボックス番号を入力します。
［ボックス名］	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［中継宛先］	中継宛先を指定します。
［中継パスワード］	中継パスワードを入力します（半角 8 文字以内）。

項目	説明
［中継パスワードの再入力］	確認のため、中継パスワードを再入力します（半角 8 文字以内）。

［ファイリングナンバーボックス］

項目	説明
［ボックス No.］	作成するボックス番号を指定します。 ［直接入力する］を選択した場合は、ボックス番号を入力します。
［ボックス名］	ボックス名を入力します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
［ボックスパスワードを使用する］	ボックスパスワードを設定する場合はチェックを入れ、ボックスパスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内）。
［ボックス内ドキュメント削除時間］	ボックス内の文書が削除されるまでの時間を設定します。 ボックス内の文書を削除しない場合は、［削除しない］を選択します。 ファイリングナンバーボックスで決められた番号を印字し、かつボックスへの保存が必要ない場合は、［残さない］を選択します。 文書の削除時間を日数で指定する場合は、［日数設定］を選択し、自動的に削除されるまでの日数を指定します。 文書の削除時間を時間で指定する場合は、［時間設定］を選択し、自動的に削除されるまでの時間を指定します。
［ナンバーカウント方式］	ナンバーカウント方式を選択します。
［文字列指定］	［文字列］、［ナンバー文字列］、［日付 / 時刻］、［印字位置］、［濃度］、［カウンター出力形式］を設定します。

参考

- **操作パネル**の［管理者設定］で、［セキュリティー設定］▸▸［セキュリティー詳細］▸▸［パスワード規約］を［有効］に設定している場合は、8 文字未満のパスワードを登録できません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は、［パスワード規約］を［有効］に設定する前に 8 文字に変更してください。

13 プリント機能に関する設定をする

13　プリント機能に関する設定をする

13.1　プリント機能の初期設定値を指定する

プリント機能の初期設定値を指定できます。

［基本設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］▶▶［基本設定］を選択します。

項目	説明
［PDL 設定］	プリンター記述言語を選択します。
［給紙トレイ］	優先的に給紙するトレイを選択します。
［排紙トレイ］	優先的に排紙するトレイを選択します。
［両面印刷］	両面印刷するかどうかを選択します。
［とじ方向］	両面印刷時のとじ方向を選択します。
［ステープル］	ステープルでとじるかどうかを選択します。ステープルでとじる場合は、ステープル数を選択します。 ステープル機能は、オプションのフィニッシャーが装着されている場合のみ使用できます。
［パンチ］	パンチ穴をあけるかどうかを選択します。パンチ穴をあける場合は、パンチ穴数を選択します。 パンチ機能は、オプションのフィニッシャーとパンチキットが装着されている場合のみ使用できます。
［印刷部数］	印刷部数を入力します。
［用紙サイズ］	用紙サイズを選択します。
［画像の向き］	印刷する画像の向きを選択します。
［スプール設定］	印刷ジョブを HDD へスプールするかどうかを選択します。

項目	説明
［バナーシート設定］	各印刷ジョブに対して、バナーシートを印刷するかどうかを選択します。 バナーシートを印刷することで、印刷物の混在を防ぐことができます。
［バナーシート給紙トレイ］	バナーシートの印刷で優先的に給紙するトレイを選択します。
［指定給紙トレイ不一致］	指定した給紙トレイに適合する用紙がない場合の対処を選択します。 ［指定給紙トレイ優先］を選択すると、別の給紙トレイから給紙します。 ［指定給紙トレイ固定］を選択すると、印刷されずに警告メッセージが表示されます。
［用紙サイズ変換］	インチ、メトリックの変換を行います。 A4（Letter）/A3（Ledger）原稿の印刷で、Letter（A4）/Ledger（A3）の給紙トレイを選択した場合、そのまま等倍で印刷するかどうかを選択します。 ［する］に設定すると、強制的に等倍で印刷するため、画像が欠損する場合があります。
［とじ方向補正］	両面印刷する場合のとじ方向補正の方法を選択します。
［線幅補正］	線幅を補正して細い線や小さい文字を見やすくしたい場合は、線幅の太さを選択します。
［グレー背景線幅補正］	背景がグレースケール部分の線幅を補正して細い線や小さい文字を見やすくしたい場合は、［する］を選択します。 ［しない］を選択すると、グレースケール部分についても［線幅補正］の設定で補正されます。

13.2　PCL プリント機能の初期設定値を指定する

PCL プリント機能の初期設定値を指定できます。

［PCL 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］▸▸［PCL 設定］を選択します。

項目	説明
［シンボルセット］	シンボルセットを選択します。
［タイプフェイス］	フォントの指定がない場合に使用するフォントを、内蔵されているフォント（レジデントフォント）から選択するか、ダウンロードしたフォント（ダウンロードフォント）から選択するかを指定します。
［フォントサイズ］	選択したタイプフェイスにより、フォントポイントサイズまたはフォントピッチを設定します。
［ライン / ページ］	1 ページあたりの行数を入力します。
［CR/LF マッピング］	テキスト印字時の CR と LF の置換え方法を選択します。

13.3　PS プリント機能の初期設定値を指定する

PS プリント機能の初期設定値を指定できます。

［PS 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］ ►► ［PS 設定］を選択します。

項目	説明
［PS エラー印刷］	PS のラスタライズ時にエラーが発生した場合、エラー情報を印字するかどうかを選択します。

13.4　TIFF プリント機能の初期設定値を指定する

TIFF や JPEG の画像データを直接印刷するときに、どのように用紙サイズを決定するかを指定できます。

直接印刷には、ダイレクトプリント機能を使用した印刷のほか、外部メモリーからの印刷や、携帯電話 /PDA からの印刷があります。

［TIFF 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］▸▸［TIFF 設定］を選択します。

項目	説明
［自動用紙選択］	画像データを直接印刷するときに、どのように用紙サイズを決定するかを選択します。 ［自動］： TIFF/JPEG（JFIF）の場合は、データの解像度とピクセル数から画像の大きさを計算し、画像サイズに適合する用紙に画像を印刷します。画像の大きさと同じ大きさの用紙に印刷する場合はこちらを選択してください。 JPEG（EXIF）の場合は、**操作パネル**の［ユーザー設定］▸▸［プリンター設定］▸▸［用紙設定］▸▸［用紙サイズ］で設定している用紙サイズに印刷します。用紙サイズに合わせて、画像を拡大または縮小します。 ［優先用紙サイズ］： 携帯電話 /PDA から印刷する場合は、**操作パネル**の［ユーザー設定］▸▸［携帯電話 /PDA 設定］▸▸［印刷設定］▸▸［用紙］で設定している用紙サイズに印刷します。 PageScope Web Connection のダイレクトプリント機能を使用する場合や、外部メモリーから印刷する場合は、**操作パネル**の［ユーザー設定］▸▸［プリンター設定］▸▸［用紙設定］▸▸［用紙サイズ］で設定している用紙サイズに印刷します。 用紙サイズに合わせて、画像を拡大または縮小します。

13.5　XPS プリント機能の初期設定値を指定する

XPS プリント機能の初期設定値を指定できます。

［XPS 設定］

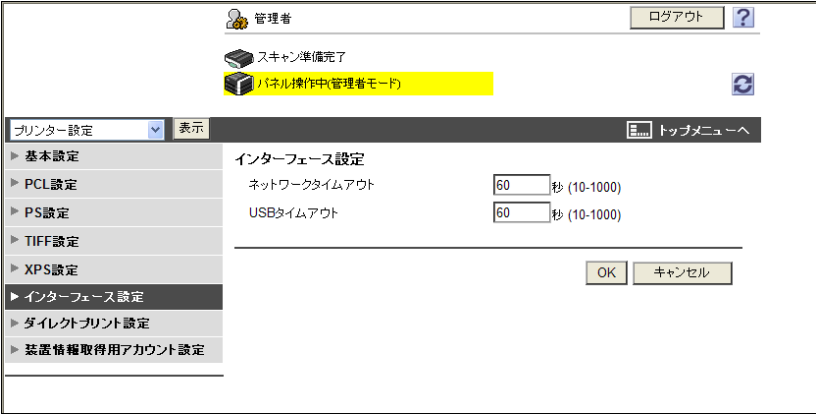
PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］▶▶［XPS 設定］を選択します。

項目	説明
［XPS デジタル署名検証］	XPS データのプリント時にデジタル署名を検証するかどうかを選択します。［する］を選択すると、署名が無効な場合はプリントできません。
［XPS エラー印刷］	XPS データのデジタル署名が無効な場合に、エラー情報を印刷するかどうかを選択します。

13.6　インターフェースのタイムアウト時間を設定する

インターフェースのタイムアウト時間を指定できます。

［インターフェース設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］▶▶［インターフェース設定］を選択します。

項目	説明
［ネットワークタイムアウト］	ネットワーク通信のタイムアウト時間を入力します。
［USB タイムアウト］	USB 通信のタイムアウト時間を入力します。

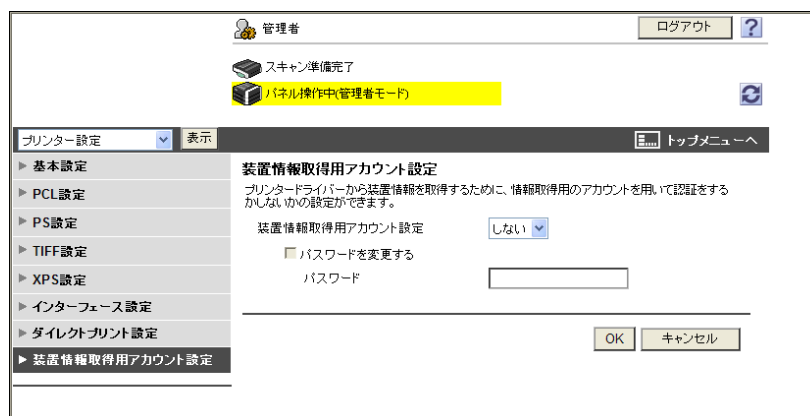
13.7 ダイレクトプリント機能を禁止する

初期設定で使用可能になっている PageScope Web Connection のダイレクトプリント機能の使用を禁止できます。

ダイレクトプリント設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］ ▸▸ ［ダイレクトプリント設定］を選択します。

項目	説明
［PSWC ダイレクトプリント許可設定］	ダイレクトプリント機能の使用を禁止する場合は、「しない」を選択します。

13.8　装置情報の取得をパスワードで制限する

プリンタードライバーから装置情報を取得するためにパスワードを設定することで、装置情報を取得できるユーザーを限定できます。

参照

- プリンタードライバーから装置情報を取得する操作について詳しくは、［ユーザーズガイド プリンター機能編］をごらんください。

［装置情報取得用アカウント設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［プリンター設定］▶▶［装置情報取得用アカウント設定］を選択します。

項目	説明
［装置情報取得用アカウント設定］	プリンタードライバーからの装置情報の取得をパスワードで制限する場合は、［する］を選択します。
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。
［パスワード］	パスワードを入力します（スペースと " を除く半角 8 文字以内)。

14 ファクス機能に関する設定をする

14　ファクス機能に関する設定をする

14.1　ファクス送信時のスタンプの印字に関する設定をする

ファクスを送信するときに、スタンプの設定を解除するかどうかを設定できます。

［ファクス送信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］▸▸［スタンプ設定］▸▸［ファクス送信設定］を選択します。

項目	説明
［解除設定］	ファクスを送信するときに、スタンプの設定を解除するかどうかを設定します。 ［解除する］を選択すると、ファクス送信原稿にスタンプを印字しないで送信します。

14.2 発信元および受信情報の印字に関する設定をする

発信元情報と受信情報の印字に関する設定ができます。

［発信元 / 受信情報］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［発信元 / 受信情報］を選択します。

項目	説明
［発信元情報］	本機から送信するファクス文書に付加する発信元情報の位置を指定します。付加した発信元情報は、画像の一部として、相手先の受信文書に印字されます。 ［OFF］を選択すると、発信元情報を付加しません。
［相手先印字］	発信元情報として付加する項目を設定します。 ［ON］を選択すると、発信元情報として、発信元名称、宛先のファクス番号（To：xxxxx）、送信開始日時、通信番号、ページ数を付加します。 ［OFF］を選択すると、発信元情報として、発信元名称、本機のファクスID、送信開始日時、通信番号、ページ数を付加します。
［受信情報］	本機で受信するファクス文書に印字される受信情報（受信時刻と受信番号）の位置を指定します。 ［OFF］を選択すると、受信情報が印字されません。

14.3 TEL/FAX 回線に関する設定をする

電話のダイアル方式や、ファクスの受信方式、着信回数設定など、TEL/FAX 回線に関する設定ができます。

[回線パラメーター設定]

PageScope Web Connection の管理者モードで、[ファクス設定] ►► [回線パラメーター設定] を選択します。

項目	説明
[ダイアル方式]	ダイアル方式を選択します。 ダイアル方式を正しく設定しないと、電話がかからない場合があります。
[受信方式]	受信方式を選択します。 [自動受信] を選択すると、自動的にファクスを受信します。 外部電話機を接続している場合など、電話がかかる機会が多い場合やリモート受信機能を使う場合は、[手動受信] に設定します。
[着信回数設定]	着信してから受信を開始するまでの擬似リングバックトーン回数を指定します。
[オートリダイアル回数]	相手先の回線が使用中で接続できなかった場合に、自動的にリダイアルする回数を指定します。
[オートリダイアル間隔]	オートリダイアルを行う場合に、リダイアルの間隔を指定します。
[TEL/FAX 自動切換え]	外部電話機を接続している場合、電話とファクスの自動切換えを行うかどうかを設定します。
[外部 TEL 呼出モニター音]	外部電話機を接続している場合、本機から電話の呼出モニター音を出すかどうかを設定します。 [TEL/FAX 自動切換え] にチェックを入れた場合に設定できます。
[外部 TEL 呼出時間]	外部電話機を接続している場合に、着信してから外部電話を呼び出すまでの時間を設定します。 [TEL/FAX 自動切換え] にチェックを入れた場合に設定できます。
[外部電話切離し]	外部電話を接続している場合、ファクスの着信時に外部電話を鳴らすかどうかを設定します。 ・ [ON] : ファクスの着信時には外部電話は鳴りません。 ・ [OFF] : ファクスの着信時にも外部電話が鳴ります。
[留守番電話接続設定]	外部電話機として留守番電話を接続するかどうかを設定します。
[回線モニター音]	通信時に回線上の音をスピーカーから聞くかどうかを設定します。
[回線モニター音レベル(送信)]	送信時のスピーカーの音量を設定します。

項目	説明
［回線モニター音レベル（受信）］	受信時のスピーカーの音量を設定します。

14.4 ファクスの送受信に関する設定をする

ポーリング送信時のファイルの扱いや、受信時のプリント方法など、ファクスの送受信に関する設定ができます。

［送信 / 受信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［送信 / 受信設定］を選択します。

項目	説明
［受信原稿両面印刷］	ファクス受信時に、受信した原稿を両面印刷するかどうか設定します。 ［ページ分割記録］を［ON］に設定した場合は、この項目は設定できません。
［インチ系用紙優先選択］	ファクス受信時に、インチサイズ用紙を優先的に使用するかどうかを設定します。
［記録用紙優先選択］	ファクス受信時の給紙トレイの優先順位を選択します。 ［サイズ優先］を選択すると、優先サイズに記録されます。優先サイズが設定されていない場合は、もっとも近いサイズに記録されます。 ［サイズ固定］を選択すると、設定したサイズだけに記録されます。 ［給紙トレイ固定］で［自動］以外に設定した場合は、この項目は［自動選択］に設定されます。
［記録用紙サイズ］	受信文書を出力する用紙サイズを選択します。
［ボックス番号エラー動作］	ボックスを使用したファクス受信時に、未登録のボックス番号が指定された場合の動作を選択します。
［着信拒否時の動作］	着信拒否宛先に登録した番号から着信した場合の動作を選択します。 ナンバーディスプレイ機能を使用する場合に設定できます。
［給紙トレイ固定］	受信文書を出力する給紙トレイを固定したい場合に、固定する給紙トレイを選択します。 ［記録用紙優先選択］で［自動選択］以外に設定した場合は、この項目は［自動］に設定されます。
［縮小率］	受信文書の縮小率を指定します。 受信文書が定形紙に入りきらない場合に調整します。
［ページ分割記録］	定形サイズより長い文書を受信した場合に、ページ分割（2ページ以上）するかどうかを設定します。 ［受信原稿両面印刷］を［ON］に設定した場合は、この項目は設定できません。
［ポーリング送信後文書］	ポーリング送信が終了した後、文書を削除するかどうか設定します。
［受信印刷部数］	受信文書が 2 枚以上必要な場合は、印刷部数を指定します。

項目	説明
［回線別受信設定］	回線別にファクスを受信するかどうかを設定します。 オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着している場合に設定できます。ただし、［増設回線設定］で［回線 2 通信設定］を［送信専用］に設定している場合は、この項目は表示されません。
［回線別発信元設定］	回線別に発信元情報を登録するかどうかを設定します。 オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着している場合に設定できます。ただし、［増設回線設定］で［回線 2 通信設定］を［受信専用］に設定している場合は、この項目は表示されません。

14.5　ファクスの機能に関する設定をする

ファクスの機能に関する設定ができます。

［機能 ON/OFF 設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［機能 ON/OFF 設定］を選択します。

項目	説明
［F コード送信機能］	F コード送信機能を使用するかどうか設定します。 F コード送信とは、SUB アドレスや送信 ID を入力することで、相手先の特定のボックス宛に送信する機能です。F コード送信を行うには、相手先が F コード機能を持っている必要があります。
［中継受信機能］	本機を中継配信局として利用するかどうか設定します。 中継配信局として、中継指示局から受信した文書を中継配信先に同報送信します。 中継配信機能を利用するには、中継ボックスを登録する必要があります。
［中継印刷］	中継配信後に、中継した文書を印刷するかどうか設定します。
［宛先確認表示機能］	ファクス送信時に、指定した宛先一覧を表示するかどうかを設定します。
［ナンバーディスプレイ機能］	ナンバーディスプレイ機能を使用するかどうか設定します。 ナンバーディスプレイ機能、ネームディスプレイ機能を使用するには、事前に NTT への申し込みが必要です。
［ネームディスプレイ機能］	ナンバーディスプレイ機能を使用する場合に、着信中の発信者情報の表示方法をネーム表示にするかどうか設定します。
［宛先 2 度入力機能（送信）］	直接入力でファクス宛先を指定するとき、確認のため宛先を 2 度入力させるかどうか設定します。 2 度入力させることで、宛先の入力ミスによる間違いを防ぐことができます。
［宛先 2 度入力機能（登録）］	短縮宛先にファクス宛先を登録するとき、確認のため宛先を 2 度入力させるかどうか設定します。 2 度入力させることで、宛先の入力ミスによる登録間違いを防ぐことができます。

［ダイアルイン設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［ダイアルイン設定］を選択します。

参考

- ダイアルインとは、ファクス用の電話番号と電話用の電話番号を別に持つことができる機能です。ファクス用の番号に着信するとファクスとして動作し、電話用の番号に着信するとファクスとしては動作しません。ダイアルイン機能を使うためには、NTT にダイアルイン機能（モデムダイアルイン）の申し込みが必要です。

項目	説明
［ダイアルイン設定］	ダイアルイン機能を使用するかどうか設定します。
［ファクス番号］	ファクス番号を入力します（半角数字 11 桁以内）。
［電話番号］	電話番号を入力します（半角数字 11 桁以内）。
［PC-FAX 番号］	PC-FAX 番号を入力します（半角数字 11 桁以内）。

［強制メモリー受信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［強制メモリー受信設定］を選択します。

参考

- 強制メモリー受信とは、受信した文書を強制メモリー受信ボックスに蓄積し、必要に応じてプリントする機能です。

項目	説明
［ファクス回線 1］	ファクス回線 1 で強制メモリー受信をするかどうかを選択します。 オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別受信設定］を［ON］に設定している場合に設定できます。
［ファクス回線 2］	ファクス回線 2 で強制メモリー受信をするかどうかを選択します。 オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別受信設定］を［ON］に設定している場合に設定できます。
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。
［強制メモリー受信ボックスパスワード］	強制メモリー受信ボックスのパスワードを入力します（半角数字 8 桁以内）。

［閉域受信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］►►［機能設定］►►［閉域受信設定］を選択します。

参考

- 閉域受信とは、パスワードが一致する相手機からの通信のみを受け付ける機能です。この機能は、相手先が閉域受信（パスワード）機能をもつ弊社機種のときだけ使用できます。

項目	説明
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。
［閉域受信パスワード］	閉域受信パスワードを入力します（半角数字 4 桁）。

［転送ファクス設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［転送ファクス設定］を選択します。

参考

- 転送ファクスとは、受信した文書をあらかじめ設定しておいた宛先に転送する機能です。
- ［PC-FAX 受信設定］、［TSI 受信振分け設定］、［強制メモリー受信設定］のいずれかが設定されている場合は、同時に設定できません。
- 回線別にファクスを受信する（オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別受信設定］を［ON］に設定している）場合は、回線別に転送ファクスの設定ができます。

項目	説明
［転送ファクス設定］	転送ファクス機能を使用するかどうか設定します。
［出力機能］	出力機能を選択します。 ［常時印刷］を選択すると、受信文書を転送し、かつ本機でも印刷します。 ［不達時のみ印刷］を選択すると、受信文書を転送できなかった場合のみ、本機で印刷します。
［転送先］	受信文書の転送先を指定します。 ［短縮宛先から選択］、［グループ宛先から選択］、［宛先を直接指定する］のいずれかの方法で指定します。
［回線指定］	FAX キット FK-508 を 2 つ装着している場合は、転送を行う回線を指定します。

［リモート受信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸ ［機能設定］ ▸▸ ［リモート受信設定］を選択します。

参考

- リモート受信とは、外部電話機でリモート受信番号を入力することで、外部電話機から本機に受信を指示できる機能です。リモート受信を行うには、あらかじめ［回線パラメーター設定］で、［受信方式］を［手動受信］に設定し、この設定でリモート受信するためのリモート受信番号（2 桁）を設定する必要があります。

項目	説明
［リモート受信機能設定］	リモート受信機能を使用するかどうかを設定します。
［リモート受信番号］	リモート受信に使用する番号を入力します（半角数字 2 桁）。

［再送信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ►► ［機能設定］ ►► ［再送信設定］を選択します。

参考

- 再送信とは、設定されたオートリダイアル回数を過ぎても送信できなかった文書を、再送信ボックスに一時的に保存しておく機能です。あとから再送信ボックスを開き、手動でリダイアルできます。

項目	説明
［再送信設定］	通信エラーや相手機が電話中などの理由でオートリダイアルでも送信できなかった文書を、再送信ボックスに一時的に保存するかどうか設定します。
［ファイル保持時間］	ファイル保持時間を指定します。

［PC-FAX 受信設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［PC-FAX 受信設定］を選択します。

参考

- PC-FAX 受信とは、ファクスとして受信した文書を本機のボックスに保存する機能です。保存したデータは印刷、送信ができます。保存先のボックスは、強制メモリー受信ボックスまたは指定した任意のボックスになります。
- ［TSI 受信振分け設定］、［転送ファクス設定］、［強制メモリー受信設定］のいずれかが設定されている場合は、同時に設定できません。
- 回線別にファクスを受信する（オプションの **FAX キット FK-508** を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別受信設定］を［ON］に設定している）場合は、回線別に PC-FAX 受信の設定ができます。

項目	説明
［PC-FAX 受信設定］	PC-FAX の受信を許可するかどうか設定します。
［受信出力先］	PC-FAX の受信出力先を選択します。
［受信後印刷］	受信完了後に印刷するかどうか設定します。
［パスワードチェック］	パスワードをチェックする場合はチェックを入れます。
［通信パスワード］	通信パスワードを入力します。（半角数字 8 桁以内）

［TSI 受信振分け設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［TSI 受信振分け設定］を選択します。

参考

- TSI 受信振分けとは、送信者のファクス ID（TSI）で受信した文書を、送信者ごとに用意した振分け先に自動的に配信する機能です。
- ［PC-FAX 受信設定］、［転送ファクス設定］、［強制メモリー受信設定］のいずれかが設定されている場合は、同時に設定できません。
- 回線別にファクスを受信する（オプションの **FAX キット FK-508** を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別受信設定］を［ON］に設定している）場合は、回線別に TSI 受信振分けの設定ができます。

項目	説明
［TSI 受信振分け設定］	TSI 受信振分けを行うかどうか設定します。 ファクス送信機の TSI（電話番号情報）から、電話番号情報別に受信文書を振り分けます。
［該当ボックスなし設定］	登録されていない TSI 情報を受信したときの動作を選択します。 ［受信印刷］を選択すると、受信した文書を印刷します。 ［強制メモリー受信ボックス］を選択すると、受信した文書を強制メモリー受信ボックスに保存します。 ［指定ボックス］を選択し、［ボックス一覧より選択］からボックスを指定すると、受信した文書を指定したボックスに保存します。保存先のボックスは、共有ボックス、個人ボックス、グループボックスから指定できます。
［受信後印刷］	受信完了後に印刷するかどうか設定します。

［TSI 受信振分け先登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［機能設定］▸▸［TSI 受信振分け先登録］▸▸［登録］を選択します。

参考

- 回線別にファクスを受信する（オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別受信設定］を［ON］に設定している）場合は、回線別に振分け先を登録できます。

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［送信者（TSI）］	送信者のファクス ID（TSI：電話番号情報）を入力します。
［振分け先］	TSI ごとの振分け先を指定します。 ［短縮宛先から選択］、［グループ宛先から選択］、［ボックス番号から選択］のいずれかの方法で指定します。

14.6　PBX の接続に関する設定をする

PBX の接続に関する設定ができます。

［PBX 接続設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［PBX 接続設定］を選択します。

項目	説明
［PBX 接続設定］	本機を PBX 回線に接続して使用する場合はチェックを入れます。
［外線番号］	外線番号を入力します。 短縮宛先やプログラム宛先に登録されているファクス番号が外線に設定されている場合は、登録されている電話番号の前に、ここで設定した外線番号がダイアルされます。

14.7　ファクスレポートの出力に関する設定をする

ファクスレポートの出力に関する設定ができます。

［レポート出力設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［レポート出力設定］を選択します。

項目	説明
［通信管理レポート］	通信管理レポートの出力方法を選択します。
［出力時刻設定］	通信管理レポートの出力方法で［毎日］または［100/ 毎日］に設定した場合は、出力時刻を指定します。
［送信結果レポート］	送信結果レポートの出力条件を選択します。
［順次通信結果レポート］	順次通信結果レポートを出力するかどうか設定します。
［予約レポート］	予約レポートを出力するかどうか設定します。
［親展受信レポート］	親展受信レポートを出力するかどうか設定します。
［掲示板送信結果レポート］	掲示板送信結果レポートを出力するかどうか設定します。
［中継結果レポート］	中継結果レポートを出力するかどうか設定します。
［中継依頼受付レポート］	中継依頼受付レポートを出力するかどうか設定します。
［PC-FAX 送信エラーレポート］	PC-FAX 送信エラーレポートを出力するかどうか設定します。
［同報結果レポート出力］	同報結果レポートの出力方法を選択します。
［送信結果レポート画面］	送信結果レポート画面を表示するかどうか設定します。

項目	説明
備考欄プリント設定	通信管理レポートの備考欄の印字に関する設定をします。 ［通常印字］を選択すると、回線の状態や送信時の設定が印字されます。 ユーザー認証や部門管理を行わない場合は、［通常印字］に設定されます。 ［ユーザー名印字］を選択すると、ユーザー名が印字されます。ユーザー認証を行う場合に設定できます。 ［部門名印字］を選択すると、部門名が印字されます。部門管理を行う場合に設定できます。
［ネットワークファクス受信エラーレポート］	ネットワークファクス使用時の受信エラーレポートを出力するかどうか設定します。
［MDN メッセージ］	MDN 要求に対する応答を受信したときのレポートを出力するかどうか設定します。
［DSN メッセージ］	DSN 要求に対する応答を受信したときのレポートを出力するかどうか設定します。
［正常受信メール本文印刷］	正常受信したメール本文を出力するかどうか設定します。

14.8　増設回線を使用する

FAX キット FK-508 を 2 つ装着している場合、2 つ目の回線の設定ができます。

［増設回線設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸ ［増設回線設定］を選択します。

項目	説明
［回線パラメーター設定］	増設回線の回線パラメーターの設定を行います。
［ダイアル方式］	増設回線のダイアル方式を選択します。
［着信回数設定］	着信してから受信を開始するまでの擬似リングバックトーン回数を指定します。
［回線モニター音］	通信時に回線上の音をスピーカーから聞くかどうかを設定します。
［機能設定］	増設回線の機能に関する設定を行います。
［PC-FAX 送信設定］	PC-FAX 送信時に使用する回線を選択します。
［ナンバーディスプレイ機能］	ナンバーディスプレイ機能を使用するかどうか設定します。 ナンバーディスプレイ機能、ネームディスプレイ機能を使用するには、事前に NTT への申し込みが必要です。
［ネームディスプレイ機能］	ナンバーディスプレイ機能を使用する場合に、着信中の発信者情報の表示方法をネーム表示にするかどうか設定します。
［複数回線使用設定］	回線 2（増設回線）の使用に関する設定を行います。
［回線 2 通信設定］	回線 2（増設回線）の通信方法を設定します。 増設回線のみ［送信専用］、［受信専用］、［送受信兼用］の指定ができます。
［ファクス ID］	ファクス ID を入力します（半角数字 20 桁以下、記号は +、スペースを使用可能）。 通常はファクス機のファクス番号を入力します。 登録したファクス ID が相手側の受信文書に発信元情報として印字されれます。

14.9　発信元名およびファクス ID を登録する

本機の発信元名とファクス ID を登録できます。

参考

- 回線別に発信元情報を登録する（オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別発信元設定］を［ON］に設定している）場合は、回線別に発信元名を登録できます。

［発信元 / ファクス ID 登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］▸▸［発信元 / ファクス ID 登録］を選択します。

項目	説明
［ファクス ID］	ファクス ID を入力します（半角数字 20 桁以下、記号は＃、＊、+、スペースを使用可能）。 通常は本機のファクス番号を入力します。 インターネットファクスを送信するときは、設定する必要はありません。
1 回線の場合： ［デフォルト］ 2 回線の場合： ［回線 1 デフォルト］	回線 1 で使用する発信元名の初期値を指定します。 ファクスを送信するときに発信元名を指定しない場合は、初期値に指定した発信元名が原稿に印字されます。
［回線 2 デフォルト］	回線 2 で使用する発信元名の初期値を指定します。 ファクス送信時に発信元名を指定しない場合は、初期値に指定した発信元名が原稿に印字されます。 オプションの FAX キット FK-508 を 2 つ装着し、かつ［送信 / 受信設定］で［回線別発信元設定］を［ON］に設定している場合に設定できます。
［発信元名］	登録されている発信元名が表示されます。
［編集］	発信元名を登録、編集します。
［削除］	登録されている発信元名を削除します。

［編集］

項目	説明
［登録 No.］	登録番号が表示されます。
［発信元名］	発信元名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。

参考

- 必要に応じて、発信元情報を印字する位置を指定できます。また、発信元情報を印字しないように設定できます。詳しくは、14-3 ページをごらんください。

14.10 G3 ファクスの印字画質を設定する

G3 ファクスの受信文書を補正するかしないかを、解像度に応じて設定します。

［G3 ファクス印字画質設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［ファクス設定］ ▸▸ ［G3 ファクス印字画質設定］を選択します。

項目	説明
低解像度	低解像度（200 dpi × 100 dpi、200 dpi × 200 dpi、300 dpi × 300 dpi）の受信文書を補正します。 ・ ［画質優先］：受信画像を補正しプリントします。 ・ ［速度優先］：受信画像を補正しないため、プリント時間が短縮されます。
高解像度	高解像度（400 dpi × 400 dpi）の受信文書を補正します。 ・ ［画質優先］：受信画像を補正しプリントします。 ・ ［速度優先］：受信画像を補正しないため、プリント時間が短縮されます。

14.11 ファクスサーバーを使用する

本機とファクスサーバーを連携させる場合に、アプリケーションの登録とアプリケーションを使用するサーバーの登録ができます。

アプリケーションとサーバーは 5 つまで登録できます。また、登録したアプリケーションごとに拡張項目を設定できます。

［アプリケーション登録］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［宛先登録］▸▸［アプリケーション登録］▸▸［登録 / 編集］を選択します。

参考

- オプションの FAX キット FK-508 が装着されていない場合に、［アプリケーション登録］が表示されます。
- オプションの FAX キット FK-508 が非装着で、かつインターネットファクスを使用しない場合に、登録したアプリケーションの表示や操作が本機の**操作パネル**でできます。

PageScope Web Connection では以下のようなテンプレートを用意しています。テンプレートにはアプリケーションごとに異なる拡張項目があらかじめ設定されています。

［WalkUp Fax］

［No.］	［**ボタン名**］	［**機能名**］	［**キーボードタイプ**］	［**初期値**］	［**オプション設定**］
1	［Sender Name (CS)］	［Name］	［ASCII］	［Walkup］	−
2	［Fax Number (CS)］	［PersonalFaxNumber］	［ASCII］	−	−
3	［TEL Number (CS)］	［PersonalVoiceNumber］	［ASCII］	−	−
4	［Subject］	［Subject］	［ASCII］	−	−
5	［Billing Code 1］	［BillingCode1］	［ASCII］	−	−
6	［Billing Code 2］	［BillingCode2］	［ASCII］	−	−

［Fax with Account］

［No.］	［**ボタン名**］	［**機能名**］	［**キーボードタイプ**］	［**初期値**］	［**オプション設定**］
1	［User ID］	［ID］	［ASCII］	［Walkup］	−
2	［Sender Name (CS)］	［Name］	［ASCII］	−	−
3	［Password］	［Password］	［ASCII］	−	−
4	［Password Auth#］	［Authentication］	−	−	［なし］
5	［Subject］	［Subject］	［ASCII］	−	−
6	［Billing Code 1］	［BillingCode1］	［ASCII］	−	−
7	［Billing Code 2］	［BillingCode2］	［ASCII］	−	−
8	［CoverSheet Type］	［CoverSheet］	−	−	−
9	［Hold For Preview］	［HoldForPreview］	−	−	［いいえ］

［Secure Docs］

［No.］	［**ボタン名**］	［**機能名**］	［**キーボードタイプ**］	［**初期値**］	［**オプション設定**］
1	［User ID］	［ID］	［ASCII］	［Walkup］	−
2	［Password］	［Password］	［ASCII］	−	−
3	［Password Auth#］	［Authentication］	−	−	［なし］

[No.]	[ボタン名]	[機能名]	[キーボードタイプ]	[初期値]	[オプション設定]
4	[Delivery Method]	[Delivery]	–	–	[保護あり]
5	[Subject]	[Subject]	[ASCII]	–	–
6	[Billing Code 1]	[BillingCode1]	[ASCII]	–	–
7	[Billing Code 2]	[BillingCode2]	[ASCII]	–	–
8	[CoverSheet Type]	[CoverSheet]	–	–	–
9	[Document PW]	[DocumentPassword]	[ASCII]	–	–

[Certified Delivery]

[No.]	[ボタン名]	[機能名]	[キーボードタイプ]	[初期値]	[オプション設定]
1	[User ID]	[ID]	[ASCII]	[Walkup]	–
2	[Password]	[Password]	[ASCII]	–	–
3	[Password Auth#]	[Authentication]	–	–	[なし]
4	[Delivery Method]	[Delivery]	–	–	[認証あり]
5	[Subject]	[Subject]	[ASCII]	–	–
6	[Billing Code 1]	[BillingCode1]	[ASCII]	–	–
7	[Billing Code 2]	[BillingCode2]	[ASCII]	–	–
8	[CoverSheet Type]	[CoverSheet]	–	–	–
9	[Document PW]	[DocumentPassword]	[ASCII]	–	–

テンプレートの種類を選択後、以下の設定を行います。

項目	説明
[No.]	アプリケーション登録番号が表示されます。
[アプリケーション名]	アプリケーションの名称を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
[ホストアドレス]	アプリケーションを使用するサーバーのホストアドレスを入力します（半角 15 文字以内）。
[ファイルパス]	送信先のファイルパスを入力します（半角 96 文字以内）。
[ユーザー ID]	サーバーにログインするためのユーザー ID を入力します（半角 47 文字以内）。

項目	説明
［パスワードを変更する］	パスワードを変更する場合はチェックを入れます。
［パスワード］	サーバーにログインするためのパスワードを入力します（半角 31 文字以内）。
［anonymous］	anonymous を有効にするかどうかを選択します。
［PASV モード］	PASV モードを有効にするかどうかを選択します。
［プロキシ］	プロキシを有効にするかどうかを選択します。
［ポート番号］	ポート番号を入力します。
［次へ］	拡張項目リストが表示されます。追加、変更したい項目の［編集］をクリックすると、機能設定画面が表示されます。

［機能設定］

項目	説明
［No.］	選択した項目の番号が表示されます。
［ボタン名］	ボタンの名称を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
［機能名］	機能名を選択します。 選択する機能名によって、必要な設定項目が異なります。
［パネル上の表示］	**操作パネル**に表示される名称を入力します（半角 32 文字、全角 16 文字以内）。
［表示方法］	**操作パネル**での表示方法を選択します。
［初期値］	初期値を入力します。 初期値を隠したい場合は、［**** 表示する］にチェックを入れます。 入力できる文字数は選択した機能によって異なります。
［キーボードタイプ］	**操作パネル**で表示するキーボードタイプを選択します。
［オプション設定］（Authentication 時）	Authentication のオプションを設定します。
［オプション設定］（Delivery 時）	Delivery のオプションを設定します。
［オプション設定］（HoldForPreview 時）	HoldForPreview のオプションを設定します。
［時間指定］（DelaySendDateTime 時）	時間指定を選択します。
［デフォルト］（DelaySendDateTime 時）	デバイスの時刻を表示するかどうかを選択します。

14.12 E-mail 形式で通信するファクスサーバーを使用する

E-mail 形式で通信するファクスサーバーを使用する場合は、送信先の番号に Prefix と Suffix を自動的に付加するように設定できます。

［システム連携設定］

PageScope Web Connection の管理者モードで、［環境設定］ ▸▸ ［システム連携設定］を選択します。

項目	説明
［Prefix/Suffix 自動設定］	送信先の番号に Prefix と Suffix を自動的に付加するかどうかを設定します。Prefix と Suffix を自動的に付加する場合は、［宛先登録］ ▸▸ ［Prefix/Suffix］で、登録 No.1 に付加する Prefix と Suffix を登録してください。詳しくは、11-30 ページをごらんください。

参考

［Prefix/Suffix 自動設定］を［する］に設定すると、以下の制限がかかります。

- ［ファクス設定］を設定できません（［宛先確認表示機能］、［宛先 2 度入力機能（送信）］、［宛先 2 度入力機能（登録）］を除く）。
- ［宛先登録］ ▸▸ ［アプリケーション登録］を設定できません。
- ［掲示板ボックス］、［ポーリング送信ボックス］、［強制メモリー受信ボックス］、［再送信ボックス］を使用できません。
- ［掲示板ボックス］、［中継ボックス］を登録できません。
- 親展受信ができません。
- ［オフフック］は使用できません。
- 送信時に［通信設定］で、［回線設定］、［送受信方法設定］、［ファクス発信元設定］は設定できません。
- ネットワークファクス機能を使用できません。
- ファクスの送信先を短縮宛先に登録するとき、［トーン］、［ポーズ］、［-］、［回線設定］を指定できません。
- ［履歴リスト］で［通信管理レポート］、［送信管理レポート］、［受信管理レポート］を出力できません。
- ［履歴リスト］の［宛先］には、Prefix と Suffix を除いた番号が表示されます。
- ［実行中リスト］および［履歴リスト］の［宛先種類］は、E-mail になります。
- ［セールスカウンター］は、［ファクス / スキャン］の［読取り］のみ更新され、［ファクス送信枚数］は更新されません。

15 付録

15 付録

15.1 製品仕様（ネットワーク機能）

項目	仕様
タイプ	組み込み型
フレームタイプ	IEEE802.2/802.3/Ethernet II/IEEE802.3SNAP
接続ケーブルタイプ	10Base-T/100Base-TX/1000Base-T
コネクタ	RJ-45
Bluetooth 性能 *1	通信プロトコル：Bluetooth 2.0 + EDR 対応プロファイル：OPP/BPP/SPP
主な対応プロトコル	TCP/IP（IPv4/IPv6）、BOOTP、ARP、ICMP、DHCP、DHCPv6、AutoIP、SLP、SNMP、FTP、LPR/LPD、RAW Socket、SMB over TCP/IP、IPP、HTTP、POP、SMTP、LDAP、NTP、SSL、IPX/SPX、AppleTalk、Bonjour、NetBEUI、WebDAV、DPWS、S/MIME、IPsec、DNS、DynamicDNS、LLMNR、LLTD、SSDP、SOAP
対応 LDAP サーバー	OpenLDAP 2.1x、Active Directory、Exchange 5.5/2000/2003、Sun Java Directory Server（Netscape/iPlanet Directory Server）、Novell NetWare 5.x/6.x NDS、Novell eDirectory 8.6/8.7、LotusDominoServer（5.x/6.x）*2
対応 LDAP プロトコル	LDAP プロトコルバージョン 3（バージョン 2 はサポートせず）
対応 SSL バージョン	SSL2、SSL3、TLS1.0（サーバー側に x.509 証明書がインストールされていること）
マルチプロトコル	自動判別
PageScope Web Connection の動作環境	対応 Web ブラウザー： <Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 の場合 > ・ Microsoft Internet Explorer 6/7/8（JavaScript 有効、Cookie 有効） ・ Netscape Navigator 7.02 以降（JavaScript 有効、Cookie 有効） ・ Mozilla Firefox 1.0 以降（JavaScript 有効、Cookie 有効） <Macintosh MacOS 9.x/MacOS X の場合 > ・ Netscape Navigator 7.02 以降（JavaScript 有効、Cookie 有効） Mozilla Firefox 1.0 以降（JavaScript 有効、Cookie 有効） <Linux の場合 > ・ Netscape Navigator 7.02 以降（JavaScript 有効、Cookie 有効） Mozilla Firefox 1.0 以降（JavaScript 有効、Cookie 有効） Adobe® Flash® Player ： ・ 表示形式で Flash を選択する場合、Ver.7.0 以降のプラグインが必要 データ管理ユーティリティー（フォント / マクロデータの管理）を利用する場合、Ver.9.0 以降のプラグインが必要
設定	不揮発性メモリーに保存

*1 オプションの**ローカル接続キット EK-605** を装着する必要があります。

*2 LotusDominoServer 使用時に検索条件で「含む」を選択した場合、正しく動作しません。

15.2 ［ネットワーク設定］画面を表示する（操作パネル）

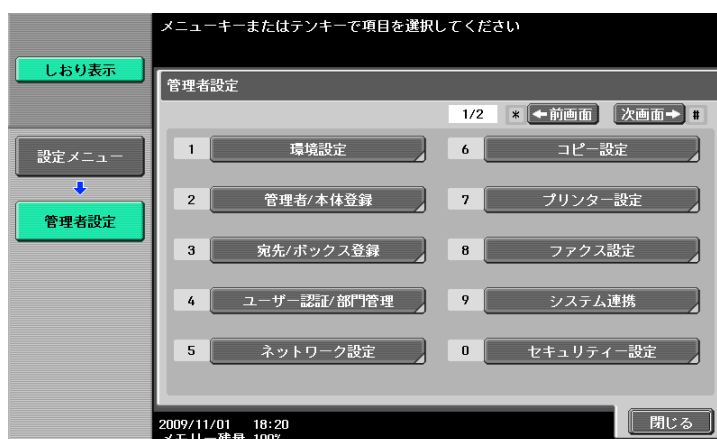
操作パネルから［ネットワーク設定］画面を表示する手順を説明します。

1 **設定メニュー / カウンター**を押します。

2 ［管理者設定］を押します。

➔ ［設定メニュー］では、キーに表示されている番号を**テンキー**で入力しても選択できます。［管理者設定］の場合は、**テンキー**の 3 を入力します。

3 パスワードを入力し、［OK］を押します。

［管理者設定］画面が表示されます。

4　［ネットワーク設定］を押します。

［ネットワーク設定］画面が表示されます。

重要

ネットワークの設定変更を有効にするには、本機の主電源を入れなおしてください。

主電源スイッチを OFF/ON する場合は、主電源を OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。

15.3　［ネットワーク設定］メニューリスト（操作パネル）

本機の**操作パネル**からネットワークの設定を行う場合は、このメニューリストを参考にしてください。

［ネットワーク設定］を押したときに表示されるキーを記載しています。

参照

［ネットワーク設定］画面の表示のしかたは、15-3 ページをごらんください。

15.3.1　［ネットワーク設定］（1/2）

［ネットワーク設定］（1/2）で設定できる項目は、以下のとおりです。

［TCP/IP 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［IPv4 設定］	［直接設定］	［IP アドレス］		
		［サブネットマスク］		
		［デフォルトゲートウェイ］		
	［自動取得］	［DHCP 設定］	［使用する］／［使用しない］	
		［BOOTP 設定］	［使用する］／［使用しない］	
		［ARP/PING 設定］	［使用する］／［使用しない］	
		［AUTO IP 設定］	［使用する］／［使用しない］	
［IPv6 設定］	［IPv6 自動設定］	［使用する］		
		［使用しない］	［グローバルアドレス］	［プレフィックスレングス］
			［ゲートウェイアドレス］	
			［リンクローカルアドレス］	
	［DHCPv6 設定］	［使用する］／［使用しない］		
［DNS ホスト］	［DNS ホスト名］			
	［Dynamic DNS 設定］	［有効］／［無効］		
［DNS ドメイン］	［ドメイン名自動取得］	［有効］／［無効］		
	［検索ドメイン名自動取得］	［有効］／［無効］		
	［DNS デフォルトドメイン名］			
	［DNS 検索ドメイン名 1］～［DNS 検索ドメイン名 3］			

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［DNS サーバー設定（IPv4）］	［DNS サーバー自動取得］	［有効］／［無効］		
	［優先 DNS サーバー］			
	［代替 DNS サーバー 1］～［代替 DNS サーバー 2］			
［DNS サーバー設定（IPv6）］	［DNS サーバー自動取得］	［有効］／［無効］		
	［優先 DNS サーバー］			
	［代替 DNS サーバー 1］～［代替 DNS サーバー 2］			
［IPsec 設定］	［IKE 設定］	［グループ 1］～［グループ 4］		
		［暗号化アルゴリズム］	［DES_CBC］	
			［3DES_CBC］	
			［使用しない］	
		［認証アルゴリズム］	［MD5］	
			［SHA-1］	
			［使用しない］	
		［鍵有効時間］		
		［Diffie-Hellman Group］	［グループ 1］	
			［グループ 2］	
	［IPsec SA 設定］	［グループ 1］～［グループ 8］	［セキュリティープロトコル］	［AH］
				［ESP］
				［ESP_AH］
				［使用しない］
			［ESP 暗号化アルゴリズム］	［DES_CBC］
				［3DES_CBC］
				［AES_CBC］
				［AES_CTR］
				［NULL］
				［使用しない］
			［ESP 認証アルゴリズム］	［MD5］
				［SHA-1］
				［使用しない］
			［AH 認証アルゴリズム］	［MD5］
				［SHA-1］
				［使用しない］
		［確立後の破棄時間］		
	［通信先相手］	［グループ 1］～［グループ 10］	［カプセル化モード］	［トンネルモード］
				［トランスポートモード］
				［使用しない］
			［IP アドレス］	
			［Pre-Shared Key 文字列］	
			［Perfect Forward Secrecy］	［使用する］／［使用しない］
［IP 許可設定］	［有効］	［範囲 1］～［範囲 5］		
	［無効］			

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［IP 拒否設定］	［有効］	［範囲 1］～［範囲 5］		
	［無効］			
［RAW ポート番号］	［ポート 1］～［ポート 6］	［設定値］		
		［使用しない］		
［LLMNR 設定］	［有効］／［無効］			

［NetWare 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［IPX 設定］	［使用する］	［イーサネットフレームタイプ］	［自動検出］	
			［802.2］	
			［802.3］	
			［Ethernet Ⅱ］	
			［802.3SNAP］	
	［使用しない］			
［NetWare プリント設定］	［使用する］	［PServer］	［プリントサーバー名］	
			［プリントサーバーパスワード］	
			［ポーリング間隔］	
			［Bindery/NDS 設定］	［NDS］
				［NDS/Bindery］
			［ファイルサーバー名］	
			［NDS コンテキスト名］	
			［NDS ツリー名］	
		［Nprinter/Rprinter］	［プリントサーバー名］	
			［プリンター番号］	
	［使用しない］			
	［ステータス］			
［ユーザー認証設定（NDS）］	［使用する］／［使用しない］			

［http サーバー設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［PSWC 設定］	［使用する］／［使用しない］			
［IPP 設定］	［使用する］／［使用しない］			
［IPP ジョブ許可］	［使用する］／［使用しない］			
［オペレーションサポート情報］	［印刷ジョブ］			
	［有効ジョブ］			
	［キャンセルジョブ］			
	［ジョブ属性取得］			
	［ジョブ取得］			
	［プリンター属性取得］			
［プリンター関連情報］	［プリンター名］			
	［プリンター設置場所］			
	［プリンター情報］			
	［プリンター URI］			
［IPP 認証設定］	［使用する］／［使用しない］			
［認証方式］	［requesting-user-name］			
	［basic］			
	［digest］			
［ユーザー名］				
［パスワード］				
［realm］				

［FTP 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［FTP 送信設定］	［使用する］	［プロキシサーバーアドレス］	［ホスト名入力］	
			［IPv4 アドレス入力］	
			［IPv6 アドレス入力］	
		［プロキシサーバーポート番号］		
		［ポート番号］		
		［接続タイムアウト］		
	［使用しない］			
［FTP サーバー設定］	［使用する］／［使用しない］			

［SMB 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［クライアント設定］	［使用する］	［NTLM 設定］	［v1］	
			［v2］	
			［v1/v2］	
		［ユーザー認証（NTLM）］	［使用する］／［使用しない］	
		［DFS 設定］	［有効］／［無効］	
	［使用しない］			
［プリント設定］	［使用する］	［NetBIOS 名］		
		［プリントサービス名］		
		［ワークグループ］		
	［使用しない］			
［WINS 設定］	［使用する］	［自動取得設定］	［有効］／［無効］	
		［WINS サーバーアドレス］		
		［ノードタイプ設定］	［B ノード］	
			［P ノード］	
			［M ノード］	
			［H ノード］	
	［使用しない］			
［Direct Hosting 設定］	［使用する］／［使用しない］			

［LDAP 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［LDAP 使用設定］	［使用する］／［使用しない］			
［LDAP サーバー登録］	［LDAP サーバー名称］			
	［検索最大表示件数］			
	［タイムアウト時間］			
	［詳細検索初期設定］	［名称］		
		［E-mail］		
		［ファクス番号］		
		［姓］		
		［名］		
		［都市名］		
		［会社名］		
		［組織名］		
	［検索条件の属性変更］	［名前］		
		［ニックネーム］		
	［サーバーアドレス］			
	［検索ベース］			
	［SSL 使用設定］	［使用する］／［使用しない］		
	［ポート番号］			
	［ポート番号（SSL）］			
	［証明書検証強度設定］	［有効期限］	［確認する］／［確認しない］	
		［鍵使用法］	［確認する］／［確認しない］	
		［チェーン］	［確認する］／［確認しない］	
		［失効確認］	［確認する］／［確認しない］	
		［CN］	［確認する］／［確認しない］	
	［認証形式］	［Anonymous］		
		［Simple］		
		［Digest-MD5］		
		［GSS-SPNEGO］		
		［NTLM v1］		
		［NTLM v2］		
	［サーバー認証方式選択］	［設定値を使用］		
		［ユーザー認証を使用］		
		［Dynamic 認証を使用］		
	［referral 設定］	［使用する］／［使用しない］		
	［ログイン名］			
	［パスワード］			
	［ドメイン名］			
	［設定全リセット］			
	［接続確認］			
［検索デフォルト設定］				

［E-mail 設定］

<table>
<tr><th>第 1 階層</th><th>第 2 階層</th><th>第 3 階層</th><th>第 4 階層</th><th>第 5 階層</th></tr>
<tr><td rowspan="25">［E-mail 送信（SMTP）］</td><td>［E-mail 送信］</td><td colspan="3">［使用する］／［使用しない］</td></tr>
<tr><td>［E-mail 通知機能］</td><td colspan="3">［使用する］／［使用しない］</td></tr>
<tr><td>［トータルカウンター通知機能］</td><td colspan="3">［使用する］／［使用しない］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">［SMTP サーバーアドレス］</td><td colspan="3">［ホスト名入力］</td></tr>
<tr><td colspan="3">［IPv4 アドレス入力］</td></tr>
<tr><td colspan="3">［IPv6 アドレス入力］</td></tr>
<tr><td>［バイナリー分割］</td><td colspan="3">［使用する］／［使用しない］</td></tr>
<tr><td colspan="4">［分割メールサイズ］</td></tr>
<tr><td colspan="4">［接続タイムアウト］</td></tr>
<tr><td colspan="4">［サーバー容量］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">［SSL 設定］</td><td colspan="3">［SMTP over SSL］</td></tr>
<tr><td colspan="3">［Start TLS］</td></tr>
<tr><td colspan="3">［使用しない］</td></tr>
<tr><td colspan="4">［ポート番号］</td></tr>
<tr><td colspan="4">［ポート番号（SSL）］</td></tr>
<tr><td rowspan="5">［証明書検証強度設定］</td><td>［有効期限］</td><td colspan="2">［確認する］／［確認しない］</td></tr>
<tr><td>［鍵使用法］</td><td colspan="2">［確認する］／［確認しない］</td></tr>
<tr><td>［チェーン］</td><td colspan="2">［確認する］／［確認しない］</td></tr>
<tr><td>［失効確認］</td><td colspan="2">［確認する］／［確認しない］</td></tr>
<tr><td>［CN］</td><td colspan="2">［確認する］／［確認しない］</td></tr>
<tr><td rowspan="7">［詳細設定］</td><td rowspan="5">［SMTP 認証］</td><td rowspan="4">［使用する］</td><td>［ユーザー ID］</td></tr>
<tr><td>［パスワード］</td></tr>
<tr><td>［ドメイン名］</td></tr>
<tr><td>［認証設定］</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用しない］</td></tr>
<tr><td>［POP before SMTP 認証］</td><td colspan="2">［使用する］／［使用しない］</td></tr>
<tr><td colspan="3">［POP before SMTP 時間］</td></tr>
</table>

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［E-mail 受信（POP）］	［使用する］	［POP サーバーアドレス］	［ホスト名入力］	
			［IPv4 アドレス入力］	
			［IPv6 アドレス入力］	
		［接続タイムアウト］		
		［SSL 使用設定］	［使用する］／［使用しない］	
		［ポート番号］		
		［ポート番号（SSL）］		
		［証明書検証強度設定］	［有効期限］	［確認する］／［確認しない］
			［鍵使用法］	［確認する］／［確認しない］
			［チェーン］	［確認する］／［確認しない］
			［失効確認］	［確認する］／［確認しない］
			［CN］	［確認する］／［確認しない］
		［ログイン名］		
		［パスワード］		
		［APOP 認証］	［ON］/［OFF］	
		［自動到着チェック］	［する］／［しない］	
		［ポーリング間隔］		
	［使用しない］			
［S/MIME 通信設定］	［使用する］	［デジタル署名］	［常に署名しない］	
			［常に署名する］	
			［送信時に選択する］	
		［メール本文の暗号化種類］	［RC2-40］	
			［RC2-64］	
			［RC2-128］	
			［DES］	
			［3DES］	
			［AES-128］	
			［AES-192］	
			［AES-256］	
		［S/MIME 情報の印刷］	［する］／［しない］	
		［証明書の自動取得］	［する］／［しない］	
		［証明書検証強度設定］	［有効期限］	［確認する］／［確認しない］
			［鍵使用法］	［確認する］／［確認しない］
			［チェーン］	［確認する］／［確認しない］
			［失効確認］	［確認する］／［確認しない］
	［使用しない］			

［SNMP 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［SNMP v1/v2c (IP)］	［使用する］／［使用しない］			
［SNMP v3 (IP)］	［使用する］／［使用しない］			
［SNMP v1 (IPX)］	［使用する］／［使用しない］			
［UDP ポート番号］				
［SNMP v1/v2c 設定］	［Read Community Name 設定］			
	［Write 設定］	［有効］／［無効］		
	［Write Community Name 設定］			
［SNMP v3 設定］	［Context Name 設定］			
	［Discovery User 許可］	［使用する］／［使用しない］		
	［Discovery User Name 設定］			
	［Read User Name 設定］			
	［Security Level］	［認証しない］		
		［auth-password］		
		［auth-password/priv-password］		
	［Password 設定］（Read）	［Read auth］		
		［Read priv］		
		［Write auth］		
		［Write priv］		
	［Write User Name 設定］			
	［Security Level］	［認証しない］		
		［auth-password］		
		［auth-password/priv-password］		
	［Password 設定］（Write）	［Read auth］		
		［Read priv］		
		［Write auth］		
		［Write priv］		
	［暗号化アルゴリズム］	［DES］		
		［AES-128］		
	［認証アルゴリズム］	［MD5］		
		［SHA-1］		
［TRAP 許可設定］	［許可］／［禁止］			
［認証失敗時の TRAP 設定］	［有効］／［無効］			

[AppleTalk 設定]

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
[AppleTalk 設定]	[使用する]	[プリンター名]		
		[ゾーン名]		
		[現在のゾーン]		
	[使用しない]			

[Bonjour 設定]

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
[Bonjour 設定]	[使用する]	[Bonjour 名]		
	[使用しない]			

15.3.2　[ネットワーク設定]（2/2）

[ネットワーク設定]（2/2）で設定できる項目は、以下のとおりです。

[TCP Socket 設定]

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
[TCP Socket]	[使用する]	[SSL/TLS 使用]	[使用する] ／ [使用しない]	
		[ポート番号]		
		[ポート番号（SSL）]		
	[使用しない]			
[TCP Socket/ASCII Mode 設定]	[使用する]	[ポート番号（ASCII Mode）]		
	[使用しない]			

［ネットワークファクス設定］

参考

- この設定をするには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［ネットワークファクス機能設定］	［IP アドレスファクス機能］	［ON］/［OFF］		
	［インターネットファクス機能］	［ON］/［OFF］		
［SMTP 送信設定］	［ポート番号］			
	［接続タイムアウト］			
［SMTP 受信設定］	［使用する］	［ポート番号］		
		［接続タイムアウト］		
	［使用しない］			

［WebDAV 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［WebDAV クライアント設定］	［使用する］	［プロキシサーバーアドレス］	［ホスト名入力］	
			［IPv4 アドレス入力］	
			［IPv6 アドレス入力］	
		［プロキシサーバーポート番号］		
		［ユーザー名］		
		［パスワード］		
		［チャンク送信］	［する］／［しない］	
		［接続タイムアウト］		
		［サーバー認証文字コード］	［UTF-8］	
			［Windows コードページ］	
		［証明書検証強度設定］	［有効期限］	［確認する］／［確認しない］
			［鍵使用法］	［確認する］／［確認しない］
			［チェーン］	［確認する］／［確認しない］
			［失効確認］	［確認する］／［確認しない］
			［CN］	［確認する］／［確認しない］
	［使用しない］			
［WebDAV サーバー設定］	［使用する］	［SSL 設定］	［非 SSL 通信のみ可］	
			［SSL 通信のみ可］	
			［SSL/ 非 SSL 通信可］	
		［アクセス権設定］	［パスワード設定］	
			［パスワード初期化］	
	［使用しない］			

［Web サービス設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［Web サービス共通設定］	［Friendly Name］			
	［Publication Service］	［有効］／［無効］		
	［SSL 使用設定］	［使用する］／［使用しない］		
［プリンター設定］	［使用する］	［プリンター名］		
		［プリンター設置場所］		
		［プリンター情報］		
	［使用しない］			
［スキャナー設定］	［使用する］	［スキャナー名］		
		［スキャナー設置場所］		
		［スキャナー情報］		
		［接続タイムアウト］		
	［使用しない］			

［BMLinkS 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［BMLinkS 使用設定］	［使用する］	［SSL 設定］	［非 SSL 通信のみ可］	
			［SSL 通信のみ可］	
			［SSL/ 非 SSL 通信可］	
		［SOAP ポート番号］		
		［SOAP ポート番号（SSL）］		
		［プリンターポート番号］		
		［プリンターポート番号（SSL）］		
		［サーバータイムアウト］		
		［クライアントタイムアウト］		
		［サービス通知間隔］		
		［プリンター名］		
		［Friendly Name］		
		［国名］		
		［組織名］		
		［支店名］		
		［ビル名］		
		［階数］		
		［ブロック名］		
	［使用しない］			
［通知許可設定］	［使用する］／［使用しない］			

［SSDP 設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［使用する］	［マルチキャスト TTL 設定］			
［使用しない］				

［詳細設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［デバイス設定］	［MAC アドレス］			
	［LLTD 設定］	［有効］／［無効］		
	［ネットワーク速度］	［自動（10M/100Mbps）］		
		［自動（10M/100M/1Gbps）］		
		［10Mbps 半二重］		
		［10Mbps 全二重］		
		［100Mbps 半二重］		
		［100Mbps 全二重］		
		［1Gbps 全二重］		
［時刻補正設定］	［使用する］	［IPv6 自動取得］	［する］／［しない］	
		［ホストアドレス］	［ホスト名入力］	
			［IPv4 アドレス入力］	
			［IPv6 アドレス入力］	
		［ポート番号］		
		［時刻補正実行］		
		［自動時刻補正］	［する］／［しない］	
		［ポーリング間隔］		
	［使用しない］			
［状態通知設定］	［通知先登録］	［IP アドレス 1］～［IP アドレス 5］	［アドレス］	［ホスト名入力］
				［IPv4 アドレス入力］
				［IPv6 アドレス入力］
			［ポート番号］	
			［コミュニティー名］	
			［通知項目］	
		［IPX アドレス］	［アドレス］	［ネットワークアドレス］
				［ノードアドレス］
			［コミュニティー名］	
			［通知項目］	
		［E-mail アドレス 1］～［E-mail アドレス 10］	［E-mail アドレス編集］	
			［通知項目］	
［トータルカウンター通知設定］	［通知スケジュール設定］	［スケジュール 1］～［スケジュール 2］	［月］	［月周期］
				［日付設定］
			［週］	［週周期］
				［曜日指定］
			［日］	［日周期］
	［通知先設定］	［アドレス 1］～［アドレス 3］	［E-mail アドレス編集］	
			［スケジュール設定］	［スケジュール 1］～［スケジュール 2］
	［モデル名］			
	［送信実行］			

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［ping 応答確認］	［ping 送信アドレス］	［ホスト名入力］		
		［IPv4 アドレス入力］		
		［IPv6 アドレス入力］		
	［接続確認実行］			
［SLP 設定］	［有効］／［無効］			
［LPD 設定］	［有効］／［無効］			
［アドレス入力付加設定］	［アドレス入力付加］	［使用する］／［使用しない］		
	［Prefix/Suffix 登録］	［Prefix］		
		［Suffix］		
［エラーコード表示設定］	［表示する］／［表示しない］			

［IEEE802.1X 認証設定］

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［使用する］	［認証状態］			
	［設定値リセット］			
	［証明書検証強度設定］	［有効期限］	［確認する］／［確認しない］	
		［CN］	［確認する］／［確認しない］	
		［チェーン］	［確認する］／［確認しない］	
［使用しない］				

［Bluetooth 設定］

参考

- 本機にオプションの**ローカル接続キット EK-605** が装着されている場合に設定できます。

第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	第 4 階層	第 5 階層
［有効］／［無効］				

15.4　ネットワークエラーコードリスト

機能	コード	説明
IEEE802.1X	1	すでに接続処理中である。
	2	パラメータエラー。
	3	接続先 AP が見つからない（SSID）。
	4	AP との認証モードが一致しない（IEEE8021X/WPA-EAP/WPA-PSK/NONE）。
	5	EAP メソッドのネゴシエーションに失敗した。
	6	EAP 認証に失敗した（ユーザー ID、パスワード、証明書等）。
	7	AP との暗号化ネゴシエーションに失敗した（TKIP/CCMP）。
	8	クライアント証明書の取得に失敗した。
	9	クライアント証明書の期限切れ。
	10	サーバー証明書の検証エラー（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	11	WPA-PSK モードが選択されているが、PreShared Key が設定されていない。
	12	WPA-PSK モードでの認証エラー（PreShared Key の不一致）。
	13	Phase2 メソッドが指定されていない（PEAP）。
	14	Phase2 メソッドのネゴシエーションに失敗した（PEAP）。
	15	サーバーからの応答がタイムアウトした。
	16	メモリーの確保に失敗した。
	17	サプリカントタスクの起動に失敗した。
	18	ドライバーが動作しない。
	19	サーバー証明書の期限切れ（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	20	サーバー証明書の CA 検証のエラー（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	21	サーバー証明書のサーバー ID 検証のエラー（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	22	CA 証明書が未設定である（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	23	サーバー ID が未設定である（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	24	設定の組み合わせが正常である。
	25	接続および認証が完了した。
	26	サーバー証明書は期待された用法を持っていない（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	27	サーバー証明書が失効している（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	28	サーバー証明書の失効確認のサーバーへの接続が拒否された（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	29	サーバー証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	30	サーバー証明書の失効確認時に取得した CRL のサイズが、保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	31	サーバー証明書の形式が正しくない（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	32	サーバー証明書の検証が無効である（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	33	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。

機能	コード	説明
IEEE802.1X	34	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	35	証明書のパラメータエラー（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
	36	証明書検証の内部エラー（EAP-TLS/EAP-TTLS/PEAP）。
LDAP	1	不正な操作をした。
	4	検索結果が最大件数を超えた。
	7	LDAP サーバーが SASL をサポートしていない。
	10	Referral が設定されているが、参照先へたどれない。
	32	検索ルートが見つからない。
	49	LDAP サーバーへのログインに失敗した。
	80	予期しないエラーが発生した。
	85	接続がタイムアウトした。
	86	サポートする SASL が LDAP サーバー側と一致しない。
	88	ユーザーによりキャンセルされた。
	90	メモリー不足が発生した。
	91	LDAP サーバーに接続できない。
	92	サポートする LDAP のバージョンが LDAP サーバー側と一致しない。
	128	DNS サーバーによる LDAP サーバーの名前解決に失敗した。
	129	LDAP サーバーの証明書の有効期限が切れている。
	130	GSS-SPNEGO（Kerberos v5）での相互認証に失敗した。
	131	検索結果が残っている。
	2238	LDAP サーバーの証明書の CN フィールドとサーバーのアドレスが一致しない。
	2239	LDAP サーバーの証明書はサーバーとして期待された用法を持っていない。
	2240	LDAP サーバーの証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	2241	LDAP サーバーの証明書が失効している。
	2242	CA サーバーに接続を拒否された。
	2243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	2244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	2261	LDAP サーバーの証明書の形式が不正である。
	2263	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない。
	2264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	2266	証明書検証の内部エラー。
	2267	デバイス証明書が存在しない。
	2268	サーバーから証明書が送られてこない。
	10000	PKI カードによる認証に失敗した。
	12236	チケットの証明書の期限切れ。
	12239	チケットの証明書はサーバーとして期待された用法を持っていない。
	12240	チケットの証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。

機能	コード	説明
LDAP	12241	チケットの証明書が失効している。
	12242	CA サーバーに接続を拒否された。
	12243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	12244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	12261	チケットの証明書の形式が不正である。
	12263	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない。
	12264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	12266	証明書検証の内部エラー。
E-Mail ／ インターネットファクス	1	メールサーバーへのログインに失敗した。
	2	内部エラーが発生した。
	3	サーバーへの接続に失敗した。
	4	接続がタイムアウトした。
	5	MIME フォーマットまたは S/MIME フォーマットの不正により復号化に失敗した。
	6	受信に必要なメモリーを確保できない。
	7	ジョブ ID が不正である。
	9	メールの削除に失敗した。
	10	メールボックスが一杯である。
	11	証明書の検索に失敗した。
	12	デバイス証明書または秘密鍵の取得に失敗した。
	13	I/O エラーが発生した。 HDD の動作不良または容量が不足している可能性がある。
	14	S/MIME 機能が無効である。
	15	HDD が無効である。
	16	メール送信者の証明書の形式が不正である。
	2236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	2238	証明書の CN フィールドとサーバーのアドレスが一致しない。
	2239	証明書は期待された用法を持っていない。
	2240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	2241	証明書が失効している。
	2242	CA サーバーに接続を拒否された。
	2243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	2244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	2261	証明書の形式が不正である。
	2263	証明書検証の初期化に失敗した。
	2264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	2266	証明書検証の内部エラー。
	2267	デバイス証明書が存在しない。
	2268	サーバーから証明書が送られてこない。

機能	コード	説明
FTP 送信	22	パラメーターエラー（ファイル名が NULL 等）。
	27	パラメータが不正である。
	42	指定されたプロトコルを利用できない 。
	52	リセットにより処理が中断された。
	55	バッファ不足が発生した。
	56	すでに FTP コネクションがオープンされている。
	57	サーバーへの接続に失敗した。
	60	接続がタイムアウトした。
	61	接続が切断された。
	62	ネットワークにつながっていない。
	70	ネットワーク処理がビジー状態である。
	450	ファイル削除操作が行なわれなかった。
	451	ファイル転送に失敗した（サーバーの容量不足等）。
	452	ファイル転送に失敗した（サーバーの容量不足等）。
	530	ログイン名およびパスワードが誤っている。
	550	指定されたフォルダが存在しない。
	552	ファイル操作に失敗した（サーバーの容量不足等）。
SMB 送信	42	指定されたプロトコルを利用できない 。
	52	リセットにより処理が中断された。
	55	バッファ不足が発生した。
	57	サーバーへの接続に失敗した。
	62	ネットワークにつながっていない。 コネクションが切断された。
	70	ネットワーク処理がビジー状態である。
	4096	ホスト名が指定されていない。 指定されたホスト名がネットワーク内に存在しない。
	4097	ユーザー名が指定されていない。 指定されたユーザー名およびパスワードでログインできない。 ユーザーがフォルダへの書込み権限を持っていない。 SMB プロトコルのエラーのためログインに失敗した。
	4098	フォルダ名が指定されていない。 指定されたフォルダが存在しない。
	4099	ユーザー名が指定されていない。 指定されたユーザー名およびパスワードでログインできない。 ユーザーがフォルダへの書込み権限を持っていない。 SMB プロトコルのエラーのためログインに失敗した。
	4100	指定されたファイル名が不正である。
	4101	指定されたファイルはすでに存在していて、書込み禁止状態にある。 フォルダおよびディスクが書込み禁止状態にある。
	4102	指定された書込み先の媒体が未フォーマット状態である。 指定された書込み先の媒体のファイルシステムに異常がある。
	4103	サーバーに空き容量がない。
	4104	書込み中にサーバーの空き容量が不足した。
	4105	その他、エラーコードが割当てられていないエラー。
	10000	PKI カードによる認証に失敗した。
	12236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	12239	証明書は期待された用法を持っていない。

機能	コード	説明
SMB 送信	12240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	12241	証明書が失効している。
	12242	CA サーバーに接続を拒否された。
	12243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	12244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	12263	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない。
	12264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	12266	証明書検証の内部エラー。
	12267	デバイス証明書が存在しない。
	12268	サーバーから証明書が送られてこない。
SMTP 送信	22	引数が無効である 。
	27	ファイルサイズが大きすぎる。
	28	デバイスの空き容量が不足している。
	32	パイプが壊れている 。
	42	指定されたプロトコルを利用できない 。
	51	宛先ネットワークに到達できない 。
	52	接続がネットワーク側から中断された。
	55	バッファ不足が発生した。
	57	ソケットが接続されていない 。
	58	接続が切断された。
	60	操作がタイムアウトした 。
	61	接続が拒否された 。
	62	ネットワークにつながっていない。
	67	ホストがダウンしている。
	70	操作がブロックされる見込みである 。
	421	SMTP サーバーエラー。サービスが利用できないので転送チャンネルを閉じる。
	432	SMTP サーバーエラー。 パスワードの変更が必要である。
	450	SMTP サーバーエラー。 メールボックスを利用できない。
	451	SMTP サーバーエラー。 処理中のエラーにより要求されたアクションが中止された。
	452	SMTP サーバーエラー。 システムのストレージが足りない。
	453	SMTP サーバーエラー。 メールがない。
	454	SMTP サーバーエラー。 一時的な認証失敗。
	458	SMTP サーバーエラー。 ノード宛のメッセージをキューできない。
	459	SMTP サーバーエラー。 ノードが許可されていない。

機能	コード	説明
SMTP 送信	499	SMTP サーバーエラー。 SMTP サーバーから未対応の 400 番台の SMTP エラーコードを受信した。
	500	SMTP サーバーエラー。 構文エラー（コマンドを解釈できない）。
	501	SMTP サーバーエラー。 パラメータや引数の構文エラー。
	502	SMTP サーバーエラー。 コマンドが実装されていない。
	503	SMTP サーバーエラー。 コマンドの並びが悪い。
	504	SMTP サーバーエラー。 コマンドパラメータが実装されていない。
	521	SMTP サーバーエラー。 メールを受け取らない。
	530	SMTP サーバーエラー。 アクセスが拒否された。
	534	SMTP サーバーエラー。 認証メカニズムが弱すぎる。
	535	SMTP サーバーエラー。 認証エラー。
	538	SMTP サーバーエラー。 要求された認証メカニズムには暗号化が必要である。
	550	SMTP サーバーエラー。 要求されたアクションは実行されない。
	551	SMTP サーバーエラー。 ユーザーがローカルでない。
	552	SMTP サーバーエラー。 要求されたメールアクションが中止された。
	553	SMTP サーバーエラー。 要求されたアクションが受け入れられない。
	554	SMTP サーバーエラーまたは送信時の内部エラー。 トランザクションに失敗した。
	555	SMTP サーバーエラー。 MAIL/RCPT のパラメータエラー。
	599	SMTP サーバーエラー。 SMTP サーバーから未対応の 500 番台の SMTP エラーコードを受信した。
	2236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	2238	証明書の CN フィールドとサーバーのアドレスが一致しない。
	2239	証明書は期待された用法を持っていない。
	2240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	2241	証明書が失効している。
	2242	CA サーバーに接続を拒否された。
	2243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	2244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	2261	証明書の形式が不正である。
	2263	証明書検証の初期化に失敗した。
	2264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。

機能	コード	説明
SMTP 送信	2266	証明書検証の内部エラー。
	2267	デバイス証明書が存在しない。
	2268	サーバーから証明書が送られてこない。
	3000	予期しないエラーが発生した。
	3001	使用しているライブラリ内で予期しないエラーが発生した。
	3002	無効なチャネルが指定された。
	3003	SMTP サーバーアドレスが不正である。
	3004	パラメータエラー（MIMEBodyHeader）。
	3005	パラメータエラー（DisplayName）。
	3006	パラメータエラー（キャラクタセット）。
	3007	パラメータエラー（From アドレス）。
	3008	パラメータエラー（To アドレス）。
	3009	パラメータエラー（CC アドレス）。
	3010	パラメータエラー（BCC アドレス）。
	3011	パラメータエラー（pEmailSet が NULL）。
	3012	パラメータエラー（宛先証明書が NULL）。
	3013	パラメータエラー（メール本文）。
	3014	HDD が無効である。
	3015	S/MIME 機能が無効である。
	3016	デバイス証明書が S/MIME で使用できない（自己署名証明書エラー、暗号鍵の種類が RSA ではない場合など）。
	3018	不正な暗号アルゴリズムが指定されている。
	3019	不正な署名アルゴリズムが指定されている。
	3020	宛先証明書内のメールアドレスと宛先アドレス（To/Cc/Bcc）が一致しない。
	3021	証明書内のメールアドレスと送信者（From）アドレスが一致しない。
	3022	証明書の書式エラー。
	3023	パラメータエラー（Disposition-Notification-To）。
	3024	受信側のメッセージ解析エラー。
	3025	SMTP サーバーが STARTTLS コマンドに対応していない。
	3026	PKI カードアクセスエラー。
WebDAV 送信	22	書込み先リソースの URL のフォーマットが不正である。パラメータエラー。
	27	転送コーディングで、転送可能な最大サイズ以上のデータを送信しようとした。
	42	指定されたプロトコルを利用できない 。
	52	リセットにより処理が中断された。
	55	バッファ不足が発生した。
	56	すでに接続済みである。
	57	WebDAV サーバーへの接続に失敗した（接続タイムアウト含む）。
	62	ネットワークにつながっていない。
	70	ネットワーク処理がビジー状態である。
	72	指定されたサイズに足りない状態で接続が切断された。

機能	コード	説明
WebDAV 送信	1001	サーバーが WebDAV に対応していない。 サーバーにアップロードできない。
	1002	中間リソースがコレクション（ディレクトリ）でない（指定したフォルダがない場合等）。
	1003	対象リソースがコレクション（ディレクトリ）である。
	1011	リソースの URL に "https" が指定されたが、SSL ライブラリがモジュラリティで外れているため使用できない。
	1012	リソースの URL に "https" が指定されたが、WebDAV サーバーの証明書が期限切れのため接続を切断した。
	1013	プロキシ経由で SSL 接続するために、プロキシサーバーに CONNECT メソッドを発行したが、拒否された。
	1017	リクエスト送信中に通信エラーが発生した。
	1018	レスポンス受信中に通信エラーが発生した。
	1027	nContentLength が転送可能なサイズの上限を超えている。
	1030	プロキシを使用する設定になっているがプロキシの設定情報がない。
	1031	プロキシサーバーへの接続に失敗した（接続タイムアウト含む）。
	1098	SharePoint Server にチャンク送信して失敗した。
	1099	その他、内部エラーが発生した（メモリー不足など）。
	2236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	2238	証明書の CN フィールドとサーバーのアドレスが一致しない。
	2239	証明書は期待された用法を持っていない。
	2240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	2241	証明書が失効している。
	2242	CA サーバーに接続を拒否された。
	2243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	2244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	2261	証明書の形式が不正である。
	2263	証明書検証の初期化に失敗した。
	2264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	2266	証明書検証の内部エラー。
	2267	デバイス証明書が存在しない。
	2268	サーバーから証明書が送られてこない。
SMB ブラウジング	32	接続が切断された。
	42	指定されたプロトコルを利用できない 。
	57	サーバーとの接続に失敗した。
	62	ネットワークにつながっていない。 通信直前に内部チャネルが異常を検出した。
	67	ホストがダウンしている。
	4096	グループ名／ホスト名が指定されていない。 指定したグループ名／ホスト名がネットワークに存在しない。
	4097	ユーザー名が指定されていない。 指定されたユーザー名およびパスワードでログインできない。 SMB プロトコルのエラーのためログインに失敗した。

機能	コード	説明
SMB ブラウジング	4098	管理共有がない。 共有リソース名が指定されていない。 指定された共有リソースが存在しない。
	4099	ユーザー名が指定されていない。 指定されたユーザー名およびパスワードでログインできない。 SMB プロトコルのエラーのためログインに失敗した。
	4102	指定された書込み先の媒体が未フォーマット状態である。 指定された書込み先の媒体のファイルシステムに異常がある。
	4105	その他、エラーコードが割当てられていないエラー。
	4352	ブラウザマシン（マスタブラウザ／バックアップブラウザ）が見つからない。
	4353	ブラウザマシン（マスタブラウザ／バックアップブラウザ）にログインできない。
	4354	サブフォルダが存在しない。
	4355	不正な呼び出しシーケンス等でリクエストが受け付けられない。
	4368	グループ数が多すぎる。
	4369	ホスト ＰＣ 数が多すぎる。
	4370	共有リソース数が多すぎる。
	10000	PKI カードによる認証に失敗した。
	12236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	12239	証明書は期待された用法を持っていない。
	12240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	12241	証明書が失効している。
	12242	CA サーバーに接続を拒否された。
	12243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	12244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	12263	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない。
	12264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	12266	証明書検証の内部エラー。
	12267	デバイス証明書が存在しない。
	12268	サーバーから証明書が送られてこない。
ユーザー認証	1	パラメータが正しくない（文字数オーバー、空欄等）。 認証機能の設定が無効である。
	2	DNS サーバーによる名前解決に失敗した。
	3	認証サーバーが見つからない。
	4	認証に失敗した。
	5	メモリーの確保に失敗した。 予期しないエラーが発生した（通常の使用では発生しない）。
	6	ユーザー認証クライアントの内部タスクが動作中に認証要求を受け取った。
	7	ユーザー認証動作中に接続が切断された。
	10000	PKI カードによる認証に失敗した。
	12236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	12239	証明書は期待された用法を持っていない。

機能	コード	説明
ユーザー認証	12240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	12241	証明書が失効している。
	12242	CA サーバーに接続を拒否された。
	12243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	12244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	12261	証明書の形式が不正である。
	12263	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない。
	12264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は20）検証を行えない。
	12266	証明書検証の内部エラー。
WebDAV クライアント	0	レスポンス受信の場合：受信に成功し、レスポンスボディが付加されていない。 リクエスト送信の場合：送信に成功し、レスポンス受信待ち。
	1	レスポンス受信の場合：受信に成功し、レスポンスボディの受信が続く。 リクエスト送信の場合：送信に成功し、リクエストボディの送信指示待ち。
	2	レスポンス受信の場合：レスポンスボディの受信に成功して、レスポンスボディの最後まで受信が完了した。 リクエスト送信の場合：オープンしていないクライアント ID が指定された。
	3	レスポンス受信の場合：受信タイムアウトが発生した。 リクエスト送信の場合：サポートしていないリクエストメソッドが指定された。
	4	レスポンス受信の場合：受信エラーが発生した。または、不正なリクエスト URL が指定された。 リクエスト送信の場合：不正なリクエスト URL が指定された。
	5	レスポンス受信の場合：Content-Length または受信サイズが転送可能な最大サイズを超えた。または、メッセージボディのサイズが大きすぎる。 リクエスト送信の場合：メッセージボディのサイズが大きすぎる。
	6	レスポンス受信の場合：リセットにより処理が中断された。または、メッセージボディのサイズが転送可能な最大サイズを超えた。 リクエスト送信の場合：メッセージボディのサイズが転送可能な最大サイズを超えた。
	7	レスポンス受信の場合：内部エラーが発生した。または、内部リセットにより処理が中断された。 リクエスト送信の場合：内部リセットにより処理が中断された。
	8	WebDAV サーバーへの接続に失敗した。
	9	WebDAV サーバーへの送信中にエラーが発生した
	10	WebDAV サーバーへの送信中にタイムアウトが発生した。
	11	プロキシサーバーへの接続に失敗した。
	12	プロキシサーバーに接続要求を拒否された。
	13	プロキシを使用する設定になっているがプロキシの設定情報がない。
	14	プロキシサーバーの認証に失敗した。
	15	その他のエラーがプロキシサーバーから返ってきた。
	16	内部エラーが発生した。

機能	コード	説明
WebDAV クライアント	17	デバイスアプリケーションから MIO_REQBODY_ERROR が指定されたため、処理を中断した。
	2236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	2238	証明書の CN フィールドとサーバーのアドレスが一致しない。
	2239	証明書は期待された用法を持っていない。
	2240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	2241	証明書が失効している。
	2242	CA サーバーに接続を拒否された。
	2243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	2244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	2261	証明書の形式が不正である。
	2263	証明書検証の初期化に失敗した。
	2264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	2266	証明書検証の内部エラー。
	2267	デバイス証明書が存在しない。
	2268	サーバーから証明書が送られてこない。
WS スキャン	1	指定されたクライアントが登録されていない。
	2	パラメータが不正である。
	3	Web サービスまたは WS スキャン機能が無効である。
	4	ネットワークにつながっていない。
	5	CP からの接続待ち状態である。
	6	証明書の有効期限のチェックを行う場合に、接続先の証明書の期限が有効でない。
	22	引数が無効である 。
	42	指定されたプロトコルを利用できない 。
	52	接続がネットワーク側から中断された 。
	53	接続が切断された 。
	55	バッファ不足が発生した。
	57	ソケットが接続されていない 。
	60	操作がタイムアウトした 。
	70	操作がブロックされる見込みである 。
	72	RetrieveImage 待ちタイムアウトが発生した。
	2236	証明書の有効期限切れ、または、まだ有効期限が来ていない。
	2238	証明書の CN フィールドとサーバーのアドレスが一致しない。
	2239	証明書は期待された用法を持っていない。
	2240	証明書を信頼できない。証明書を信頼するためにはシステムに証明書を登録する必要がある。
	2241	証明書が失効している。
	2242	CA サーバーに接続を拒否された。
	2243	証明書の失効確認のサーバーへの接続がタイムアウトした。
	2244	CRL のサイズが保持可能なサイズ（1MB）を超えたので失効確認ができない。
	2261	証明書の形式が不正である。

機能	コード	説明
WS スキャン	2263	HDD を使用する環境だが、HDD のパスが未設定のため検証を行えない。
	2264	現在検証中の証明書が多すぎて（同時に検証できる証明書の数は 20）検証を行えない。
	2265	証明書検証のパラメータが不正である。
	2266	証明書検証の内部エラー。
	2267	デバイス証明書が存在しない。
	2268	サーバーから証明書が送られてこない。
Bluetooth	0	オブジェクトデータの指定範囲の受信を完了した (末尾のデータではない)。
	1	オブジェクトデータの指定範囲の受信を完了した (末尾)。
	2	通信に失敗した。
	3	Bluetooth まわりのハードウェアに異常がある。
	4	メモリーの確保に失敗した。
	5	装置側から処理が中断された。

15.5 用語集

	用語	説明
記号・アルファベット	10Base-T /100Base-TX /1000Base-T	Ethernet の規格における仕様の一種。 銅でできた線材を 2 本ずつより合わせたケーブルを使っている。 通信速度は 10Base-T が 10Mbps、100Base-TX が 100Mbps、1000Base-T は 1000Mbps である。
	2in1	2 枚の原稿を 1 枚の用紙に集約し、見開きの状態にして送信する機能。
	Active Directory	Microsoft が提供するネットワーク上に存在するサーバー、クライアント、プリンターなどのハードウェア資源や、それらを使用するユーザーの属性、アクセス権などの情報を一元管理することができるサービス。
	Adobe® Flash®	Adobe Systems 社（旧 Macromedia 社）の開発した、ベクターグラフィックのアニメーションや音声を組み合わせたコンテンツを作成するソフト、またはそのファイル形式。キーボードやマウスからの入力により、双方向性を持たせたコンテンツを扱える。ファイル容量を比較的小さく抑えることができ、ウェブブラウザーに専用のプラグインを導入して閲覧できる。
	anonymous FTP	通常は、アカウントとパスワードによって保護される FTP サイトを、アカウント名 anonymous（匿名）と入力することでパスワードが不要になり、誰でも利用できるようになる FTP サイト。
	APOP	Authenticated Post Office Protocol の略。通常の POP が電子メールの受信に使われるパスワードを暗号化しないのに対して、パスワードを暗号化することで安全性が向上した認証方法。
	AppleTalk	Apple 社が開発したネットワーク機能を実現するプロトコル群の総称。
	Auto IP	自動で IP アドレスを取得する機能。DHCP による IP アドレス取得に失敗した場合、「169.254.0.0」のアドレス空間から任意の IP アドレスを取得する。
	bit	Binary Digit の略。コンピューターやプリンターなどが扱う情報（データ量）の最小単位。0 か 1 かでデータを表す。
	Bluetooth	携帯情報機器などで数 m 程度の機器間接続に使われる短距離無線通信技術の一つ。ノートパソコンや PDA、携帯電話などをケーブルを使わずに接続し、音声やデータをやりとりすることができる。
	BMLinkS	Business Machine Linkage Service の略。JBMIA が策定した統合的なネットワーク OA 機器インターフェースで、メーカーを問わない各社共通のドライバーのこと。
	BMP	Bitmap の略。画像データを保存するファイル形式の一つ（拡張子は .bmp）。 Windows 上で一般的に使用されている。白黒（2 値）の画像からフルカラー（1677 万 7216 色）までの色数を指定できる。基本的には圧縮せずに画像を保存する。
	Bonjour	ネットワーク上に接続しているデバイスを自動的に検出し、設定を行う、Macintosh のネットワーク技術。以前は Rendezvous と呼ばれていたが、Mac OS X v10.4 から Bonjour と名称変更された。
	BOOTP	BOOTstrap Protocol の略。TCP/IP ネットワーク上のクライアントマシンが、サーバーからネットワークに関する設定を自動的に読込むプロトコル。 ただし現在では BOOTP をベースとして一部改良した DHCP が主流になっている。
	bps	bit per second の略。 データ伝送の単位で、1 秒間に送るデータ量を表します。
	Byte	コンピューターやプリンターなどが扱う情報（データ量）の単位。1Byte=8bit で構成される。

用語	説明
CSV	Comma Separated Values の略。データベースソフトや表計算ソフトのデータをテキストファイルとして保存する形式の一つ（拡張子は .csv）。データをカンマ（区切り符号）で仕切ることで、異なるアプリケーション間でのデータの共有を図ることができる。
Default Gateway	同一 LAN 上に存在しないコンピューターへアクセスする際に使用する「出入り口」の代表となるコンピューターやルーターなどの機器。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol の略。 TCP/IP ネットワーク上のクライアントマシンが、サーバーからネットワークに関する設定を自動的に読込むプロトコル。 DHCP サーバーで DHCP クライアント用に IP アドレスを一括管理するだけで、アドレスの重複を避け、容易にネットワークの構築ができる。
DNS	Domain Name System の略。 ネットワーク環境において、ホスト名から対応する IP アドレスを取得できるようにするシステム。これによりユーザーは、憶えにくく、分かりにくい IP アドレスではなく、ホストの名前を指定してネットワーク上の他のコンピューターにアクセスできるようになる。
DPI （dpi）	Dots Per Inch の略。プリンターやスキャナーなどで使われる解像度の単位。 1 インチを何個の点の集まりとして表現するかを表す。 この値が高いほど、より精細な表現が可能となる。
DSN	Delivery Status Notifications の略。受信側のメールサーバーに電子メールが到着した時に送信側に送られる配送状態通知メッセージのことです。
Dynamic 認証（LDAP 設定）	MFP から LDAP サーバーに接続する際の、認証方法オプションの一つ。宛先情報を LDAP サーバーから参照するときに、LDAP サーバーへのログイン名とパスワードをユーザーに毎回入力させたい場合、このオプションを選択する。
ECM	Error Correction Mode の略 G3 通信の誤り再送方式。相手に正しくデータが送られたかどうかを確認し、正しく送られていない場合はそのデータを再送しながら通信する。相手側が ECM モードをもっていれば、本機では ECM オフを指定しない限り、ECM で通信される。
FTP	File Transfer Protocol の略。インターネットやイントラネットなどの TCP/IP ネットワークでファイルを転送するときに使われるプロトコル。
F コード	ITU-T（国際電気通信連合）で標準化された T.30 ＊のサブアドレスの使い方について、日本通信機工業会が定めた通信手順。F コード機能をもつファクス間の通信では、メーカーが異なる場合も、F コードを使用したいろいろな機能を利用することができる。本機では、掲示板、中継依頼、親展通信、パスワード送信で F コードを使っている。（＊通信の規格のことです）
G3	ITU-T（国際電気通信連合）が標準化したファクスの通信モードの一つ。通信モードには、G3、G4 がある。G3 は、現在最も多く使われている。
GSS-SPNEGO/Simple/Digest MD5	LDAP サーバーへのログオン時の認証形式。LDAP サーバーは使用するサーバーやサーバーの設定により認証形式が異なり、GSS-SPENEGO/Simple/Digest MD5 という認証形式がある。
HTTP	HyperText Transfer Protocol の略。Web サーバーとクライアント（Web ブラウザーなど）がデータを送受信するのに使われるプロトコル。文書に関連付けられている画像、音声、動画などのファイルを、表現形式などの情報を含めてやり取りできる。
IEEE802.1X	有線 LAN や無線 LAN で、ネットワークにアクセスする端末を認証するための規格。 IEEE802.1X に対応した LAN スイッチは、接続されたパソコンを認証し、正しい利用者であることを確認してから LAN への接続を許可する。

用語	説明
IPP	Internet Printing Protocol の略。インターネットなどの TCP/IP ネットワークを通じて、印刷データの送受信や印刷機器の制御を行うプロトコル。インターネットを通じて遠隔地のプリンターにデータを送って印刷することもできる。
IPsec	TCP/IP で使用されているセキュリティー技術の名称。送信するパケットの暗号化や認証に関するプロトコルを決めることによって、セキュリティーを強化したサービス提供が可能となる。
IPv6	Internet Protocol version 6 の略。 インターネットを使用する機器の増加に伴い、現在使用されている IPv4 に代わるものとして準備が進められてきたプロトコルの名称。 IP アドレスの 128 ビット化、セキュリティー機能の追加などが追加されている。
IPX	NetWare で利用されるプロトコルの一つ。OSI 参照モデルのネットワーク層で動作する。
IPX/SPX	Internetwork Packet exchange/Sequenced Packet exchange の略。Novell 社により開発された、NetWare 環境下で一般的に使用されるプロトコル。
IP アドレス	インターネット上で個々のネットワーク機器を識別する符号（アドレス）。現在広く普及している IPv4（Internet Protocol version 4）は、4 つに区切られた 32 ビットの数値が使われ、192.168.1.10 のように表される。次世代の IPv6（Internet Protocol version 6）では、128 ビットの IP アドレスが使われる。コンピューターを始めとしてインターネットに接続した機器には、すべて IP アドレスが割り振られる。
IP アドレスファクス	IP とは、インターネット上の個々のネットワーク機器を識別する符号（アドレス）で、IP アドレスファクスはそのアドレスを使用して、イントラネット内で送受信する通信形態。
JPEG	Joint Photographic Experts Group の略。画像データを保存するファイル形式の一つ（拡張子は .jpg）。圧縮率はおおむね 1/10 ～ 1/100 程度。写真などの自然画の圧縮には効果的な圧縮方式を誇る。
Kerberos	Windows2000 以降で使用されているネットワーク認証システムの一つ。Active Directory の認証に使用される。ネットワーク内に信頼できるサイトを配置し、このサイトでユーザーのログオンと各種ネットワークリソースの利用という 2 段階のフェーズで認証を行うことにより、ユーザーを安全かつ効率的に認証することができる。
LAN	Local Area Network の略。同一フロア、同一のビルないしは近隣のビル内などにあるコンピューター同士を接続したネットワーク。
LLMNR	Link-Local Multicast Name Resolution の略。 近隣のコンピュータの名前解決を実行するためのプロトコル。リクエストおよび応答メッセージの単純な交換を使用して、DNS サーバーまたは DNS クライアントの構成を必要とせずに近隣のコンピュータの名前解決を実行できる。
LLTD	Link Layer Topology Discovery の略。 ネットワーク上に存在する機器がどのようにつながっているかを調べるための技術。この技術を搭載したネットワーク機器は、ネットワーク上の Windows Vista/Server 2008/7 から存在を認識され、Windows Vista/7 のネットワークマップ上にアイコンとして表示されるようになる。
LPD	Line Printer Daemon の略。TCP/IP 上で動作する、プラットフォームに依存しない印刷プロトコル。もともと BSD UNIX 用に開発されたが、一般のコンピューターでも使用されるようになり、今では標準的な印刷プロトコルとなっている。
LPR/LPD	Line Printer Request/Line Printer Daemon の略。 WindowsNT 系、UNIX 系におけるネットワーク経由印刷の 1 種。TCP/IP を使って、Windows、UNIX からの印刷データをネットワーク上にあるプリンターに出力させることができる。

用語	説明
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol の略。インターネットやイントラネットなどの TCP/IP ネットワークで、ネットワークを利用するユーザーのメールアドレスや、環境に関する情報を管理できるデータベースにアクセスするためのプロトコル。
MAC Address	Media Access Control address の略。各 Ethernet カード固有の ID 番号で、これを元にカード間のデータの送受信が行われる。48 ビットの数字で表現されており、前半の 24 ビットは IEEE が管理、割当てをしている各メーカーごとに固有な番号で、後半の 24 ビットはメーカーが一意にカードに割当てる番号である。
MDN	MDN=Message Disposition Notifications の略。 送信側が開封確認を要求している場合に送られる開封確認メッセージ。
MH	Modified Huffman の略。ファクス用のデータ圧縮符号方式の 1 つ。文字を中心とした原稿の場合、10 分の 1 程度に圧縮される。
MIB	Management Information Base の略。TCP/IP 通信において、SNMP を用いて収集されるネットワーク機器の管理情報フォーマットを定義したもの。メーカー独自のプライベート MIB と、標準化されたスタンダード MIB の 2 種がある。
MMR	Modified Modified Read の略。ファクス用のデータ圧縮符号方式の 1 つ。文字を中心とした原稿の場合、20 分の 1 程度に圧縮される。
NDPS	Novell Distributed Print Services の略。NDS 環境において高機能なプリントソリューションを提供する。NDPS をプリントサーバーとして利用することにより、希望するプリンターからの出力、新規プリンター導入時のドライバーの自動ダウンロードなど、プリンター利用に関する煩雑な管理環境を簡素化、自動化できるほか、ネットワークプリンターに関わる統合的な管理を行うことができる。
NDS	Novell Directory Service の略。 ネットワーク上に存在するサーバーやプリンター、ユーザー情報などの共有資源、またそれらに対する個々のユーザーのアクセス権限などの情報を、階層構造で一元管理できる。
NetBIOS	Network Basic Input Output System の略。 IBM 社によって開発された通信インターフェース。
NetBEUI	NetBIOS Extended User Interface の略。IBM 社が開発したネットワークプロトコル。コンピューター名を設定するだけで、小規模なネットワークを構築できる。
NetWare	ノベル社が開発したネットワーク OS。 通信プロトコルに NetWare IPX/SPX を使用している。
Nprinter/Rprinter	Netware 環境下でプリントサーバーを使用する場合の、リモートプリンターサポートモジュール。 Netware 3.x で Rprinter、Netware 4.x で Nprinter を使用する。
NTLM	NT LAN Manager の略。Windows NT 以降で共通して使用されるユーザー認証方式。MD4 または MD5 という暗号方法でパスワードを暗号化する。
NTP	Network Time Protocol の略。コンピューターの内部時計を、ネットワークを介して正しく調整するプロトコル。階層構造を持ち、最上位のサーバーが GPS などを利用して正しい時刻を得、下位のホストはそれを参照する事で時刻を合わせる。
OCR	Optical Character Reader の略。手書き文字や印字された文字を光学的に読み取り、前もって記憶されたパターンとの照合によって文字を特定し、文字データに変換する装置またはソフトウェア。
OHP/OHT	OHP（オーバーヘッドプロジェクター）用の透明なシート。プレゼンテーションなどに使用する。

用語	説明
OS（オーエス）	Operating System の略。コンピューターのシステムを管理する基本ソフトウェア。Windows/MacOS/Unix もその中の一つ。
PASV	PASsiVe の略。ファイアウォール内部から FTP サーバーに接続するモード。このモードに設定していないとファイアウォールが不正アクセスと見なし、接続を遮断してしまうため、ファイルを転送できなくなる。
PB	プッシュ式回線のこと。
PC-FAX	紙を使用せずに、コンピューターから直接ファクス送信できる機能。
PDF	Portable Document Format の略。電子形式書類の 1 つ（拡張子は .pdf）。PostScript をベースとしたフォーマットで、Adobe Acrobat Reader という無料ソフトを使用して閲覧できる。
PDL	Page Description Language の略。ページプリンターで印刷するとき、プリンターにページ単位で印刷イメージを指示する言語。
POP3	Post Office Protocol - Version 3 の略。 電子メールの送受信で、一般的に使われている通信プロトコル（通信の約束ごと）の一つ。メールボックスの認証、電子メールのダウンロードや一覧情報の確認、電子メールの削除などの機能を持つ。
POP Before SMTP	電子メールを送信する際の、ユーザー認証方法の一つ。まず受信動作を行い、POP サーバーにてユーザー認証を行う。その後、POP サーバーにユーザー認証を通過した IP アドレスに対して、SMTP サーバーの利用を許可する。メールサーバーの利用権のない第三者が、不正にメールを送信するのを防ぐ。
PostScript	米 Adobe 社によって開発された、とくに高品質が要求される印刷処理で一般的に利用される代表的なページ記述言語。
PPD	PostScript Printer Description の略。解像度や利用可能紙サイズ等、PostScript プリンターの機種固有の情報を記述したファイル。
PPI	Pixels Per Inch の略。主にモニターやスキャナー等の解像度の単位。1 インチの中にどのくらいの画素（pixel ＝ピクセル）が含まれているかを表す。
Proxy Server	Internet との接続において、各クライアントの代わりに外部との接続窓口となり、組織全体で効率的にセキュリティーを確保するために設置されるサーバー。
PServer	Netware 環境下におけるプリントサーバーモジュール。 プリントジョブの監視、変更、休止、再開、および中止を行う。
Queue Name	ネットワーク印刷を行うときに、印刷を許可させる為に機器ごとに設定する名称。
Raw ポート番号	Windows 等の TCP 印刷で Raw プロトコルを選択した場合に使う TCP ポート番号。通常の番号は 9100。
realm（IPP 設定）	セキュリティー機能を実現するための領域。ユーザー名とパスワードなどの認証情報を組織化し、領域内のセキュリティー原則を定義する。
referral 設定（LDAP 設定）	宛先を検索した LDAP サーバーに該当するデータがなかった場合、次にどの LDAP サーバーを検索するべきか、LDAP サーバーが指示を行う。この指示された LDAP サーバーを、MFP が検索するかどうかの設定。
RIP	Raster Image Processor の略。PostScript 等のページ記述言語を用いて記述されたテキストデータを、画像イメージに展開する処理のこと。通常はプリンターに内蔵されている。
RGB	Red（赤）、Green（緑）、Blue（青）の略。 モニター等の色表現で用いられる原色で、RGB 3 色の輝度比率を変化させてすべての色を表現する。

用語	説明
Samba	SMB（Server Message Block）を利用して、UNIX システムの資源を Windows 環境から利用できるようにする、UNIX のサーバーソフトウェア。
SLP	Service Location Protocol の略。TCP/IP ネットワーク上のサービスの検索や、クライアントの自動設定などを可能にするプロトコル。
S/MIME	Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions の略。 MIME（E-mail の操作）に暗号化や電子署名などの機能を追加するプロトコル。 暗号化には、暗号化と復号化で異なる鍵を使う公開鍵方式が利用されている。
SMB	Server Message Block の略。主に Windows 間でネットワークを通じてファイル共有やプリンター共有を実現するプロトコル。
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol の略。電子メールを送信／転送するためのプロトコル。
SNMP	Simple Network Management Protocol の略。TCP/IP を使ったネットワーク環境での管理プロトコル。
SSL/TLS	Secure Socket Layer/Transport Layer Security の略。 Web サーバーとブラウザー間で安全にデータ通信するための暗号化方式。
Super G3（SG3）	ITU-T V.34 に準拠した G3 通信のモード。通常の G3 通信より高速（最高 33,400bps）で通信することができる。
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略。 インターネットにて使用されている事実上標準的なプロトコル。 個々のネットワーク機器を識別するために、IP アドレスを使用する。
TCP Socket	TCP/IP において利用するネットワーク用 API。このソケットを使って通信路を開いて、通常のファイル入出力を行う。
TIFF	Tagged Image File Format の略。画像データを保存するファイル形式の一つ（拡張子は .tif）。データの型を表す「タグ」によって、1 つの画像データの中にさまざまな種類の画像形式の情報を保存できる。
TrueType	アウトラインフォントの一種。Apple 社と Microsoft 社によって開発され、Macintosh や Windows には標準で採用されている。 ディスプレイ表示と印刷の両方に使用できる。
TSI	Transmitting Subscriber Identification の略。送信（発信）ファクス端末の ID のこと。
TWAIN	スキャナーやデジタルカメラなどの画像入力機器と、グラフィックソフトなどのアプリケーションとの間のインターフェースに関する規格のこと。TWAIN 対応機器を使用するためには、TWAIN ドライバーが必要である。
USB	Universal Serial Bus の略。 コンピューターとマウスやプリンター等を接続するための汎用インターフェース規格。
V34	スーパー G3 のファクス通信時に使われる通信方式。相手機または自社機が内線交換機経由で回線に接続されているなどの場合、回線の状況によっては、スーパー G3 モードで通信できない場合がある。このような場合は、V34 オフを選択することによって、スーパー G3 モードをオフにして送信する。
Web サービス	ネットワーク上に存在する機器を発見し、その機器の機能を利用したり、機器の情報を取得したりするための技術。Windows Vista/7 に標準装備されており、ネットワーク上でデバイスを発見したり、ネットワーク経由で印刷やスキャンを実行したりするために利用されている。
WINS	Windows Internet Name Service の略。Windows 環境で、コンピューター名と IP アドレス変換を行うネームサーバーを呼び出すためのサービス。

	用語	説明
	Zone	AppleTalk ネットワークに付ける名前。AppleTalk ネットワーク上の複数の機器をグループ分けするために使用する。
	Z 折れ原稿	折り目がついているために原稿サイズを正しく検知できない原稿の場合に、いったん原稿サイズを確定してから原稿を読込み送信する機能。この機能は、原稿を ADF で読込む場合にだけ使用できる。
あ行	アウトラインフォント	文字の形を、直線や曲線による輪郭線で表したフォント。 文字サイズが大きくなっても、ギザギザのない画面表示と印刷ができる。
	宛先確認送信	送信時に、指定したファクス番号と相手機のファクス番号情報（CSI）を比較して、一致した場合のみ送信する機能。不一致の場合は通信エラーとなるため、誤送信を防止できる。
	宛先レベル	情報のセキュリティーのため、特定の宛先情報を特定の人にだけ閲覧できるように設定する機能。ユーザー認証と連動して使用し、設定したユーザーレベルと一致した宛先レベルの情報だけを閲覧できる。
	アンインストール	インストールされているソフトウェアを削除すること。
	イーサネット（Ethernet）	LAN の伝送路に関する規格。
	一括送信	宛先、送信時刻、メモリー送信や解像度などの送信条件が同じ文書がメモリーに蓄積されると、指定した時刻にひとつの文書として自動的に送信されること。
	印刷ジョブ	PC から印刷機器に送信される印刷要求。
	インストール	ハードウェア、OS、アプリケーション、プリンタードライバー等を、コンピューターのシステムに組み込むこと。
	インターネットファクス	イントラネット（企業内ネットワーク）やインターネットを経由し、読込んだ原稿をインターネットファクスやコンピューターとのあいだで電子メールの添付文書（TIFF 形式）として送受信する通信形態。
	ウェブブラウザー	Web ページを閲覧するためのソフトウェア。 Internet Explorer や、Netscape Navigator などがある。

	用語	説明
か行	海外通信	国外の相手と通信をすること。海外通信モードに設定すると、ゆっくりとしたスピードで通信する。国内でも、通信状態の悪いところへ通信するときは、海外通信モードに設定しておくと、確実に通信することができる。
	解像度	画像や印刷物の細部を、どれだけ正確に再現できるかを表したもの。
	階調	画像の濃淡の段階。数が大きいほど、滑らかな濃度変化を再現できる。
	拡張子	ファイルの保存形式を見分けるために、ファイル名につけられる文字列。ピリオドに続けて表記される。「.bmp」や「.jpg」など。
	画素	画像を構成する最小単位。
	加入回線	日本電信電話株式会社（NTT）グループが提供している公衆電話回線。
	輝度	ディスプレイなどの画面の明るさ。
	キュー名	LPD/LPR 印刷のときに必要な論理プリンター名。
	強制メモリー受信	受信した文書をメモリーに蓄積し、必要に応じてプリントする機能。
	共有プリンター	ネットワーク上のサーバーに接続され、複数のコンピューターから使用可能なように設定されたプリンター。
	クイックメモリー送信	原稿を 1 ページ読み取ると同時にファクス送信を始める方法のこと。原稿の枚数が多い場合にもメモリーオーバーすることなく送信する機能。
	クライアント	ネットワークを介して、サーバーが提供するサービスを利用する側のコンピューター。
	グループ	複数の短縮 No. をグループ化しておくこと。同じ宛先に順次同報や順次ポーリング受信をすることが多い場合に便利。
	グレースケール	黒から白への階調情報を使用して表現したモノクロ画像の表現形式。
	掲示板	閲覧したい文書を掲示したり、ポーリング送信したい文書を蓄積しておく機能。
	ゲートウェイ	ネットワークとネットワークを接続するポイントとなるハードウェアやソフトウェア。単に接続するだけでなく、接続先のネットワークに合わせて、データのフォーマット、アドレス、プロトコルなどを変換する。
	原稿枚数	原稿の総ページ数を付けて送信すること。クイックメモリー送信の場合に使用する。原稿が正しく届いたかを確認するのに便利（メモリー送信の場合は、自動的に総ページ数が付けられる）。
	混載原稿	サイズの異なる原稿をセットし、それぞれの原稿サイズを検知して送信する機能。
	コントラスト	画像の明るい部分と暗い部分の差（明暗の差）。明暗の差が少ない画像を「コントラストが低い画像」、明暗の差が大きい画像を「コントラストが高い画像」という。
	コンパクト PDF/XPS	カラー文書を PDF または XPS 化する際に、容量を小さく抑える圧縮技術。 文字領域とイメージ領域を認識し、それぞれの領域に最適な圧縮方法、解像度を適用することで、高い圧縮性能を実現する。 本機では、スキャン機能により文書をデータ化する際に、コンパクト PDF を選択することができる。

	用語	説明
さ行	再送信	メモリーに保存されている送信できなかった文書を選択して、同じ宛先か、または宛先を変更してもう一度送信する機能。
	サブネットマスク	TCP/IP ネットワークをいくつかの小さなネットワーク（サブネット）に区切るために用いる値。 IP アドレスの上位何ビットがネットワークアドレスであるかを識別するために使用する。
	サムネイル	画像ファイルや文書ファイルの内容（ファイルを開いたときのイメージ）を小さく表示したもの。
	シングルページ TIFF	1 つのファイルが 1 ページだけの TIFF ファイル。
	スクリーンフォント	CRT などのモニター上で、文字／記号を表示するためのフォント。
	スプール（Spool）	Simultaneous Peripheral Operation On-Line の略。 プリンター出力で、データを直接プリンターに送らず、一時的に別の場所に貯めておき、後でまとめてプリンターに送信すること。
	下地調整	原稿の背景色の濃さを調整して送信する機能。
	シャープネス	文字のエッジを強調して送信する機能。
	主走査	原稿を読み取るときの横方向のこと。
	手動送信	相手側の状態を確認しながら送信する場合の操作。
	初期値	工場出荷時に、あらかじめ設定されている値。初期値のいくつかは、設定メニューで変更することができる。お使いの状況に合わせ、よく使う値を初期値に設定しておくと便利。
	親展通信	特定の人にだけ見せたい原稿を送受信する機能。親展送信した原稿は、受信側の親展ボックスに蓄積され、受信時には印刷されない。親展ボックスの暗証番号を入力するなどの操作をすると、受信した文書を印刷できる。
	線数	画像を形成する網点が、どれだけの密度で使われるかを示した数。
	走査（scan）	スキャナーの読み取り動作で、一列に並んだイメージセンサを少しずつ移動させながら画像を読み取っていくこと。イメージセンサを移動させる方向を主走査方向といい、イメージセンサが一列に並んでいる方向を副走査方向という。
	送信予約	送信中やプリント中に、次の送信を予約する機能。

	用語	説明
た行	ダイアル方式	PB（プッシュ式回線）、10PPS（ダイアル式回線 /10PPS）、20PPS（ダイアル式回線 /20PPS）の 3 種類がある。
	代行蓄積文書	用紙切れなどで、受信文書をプリントできない状態のとき、自動的に受信文書をメモリーに蓄積する機能。用紙補給などの処置をすると、代行蓄積文書が印刷される。
	代行転送	**操作パネル**の設定確認ボタンを使い、出力待ちの受信原稿を手動で転送する機能。代行転送は、ファクス / スキャン画面が表示されているとき、紙なし、または紙づまりで動作が中断しているときに設定する。
	タイマー通信	指定した時刻に通信する機能。深夜や早朝などの電話料金割引時間を利用して通信すると経済的。
	ダイアルイン	ファクス用の電話番号と、電話用の電話番号を別にもつことができる機能。 ダイアルイン機能を使用するためには、NTT にダイアルイン機能（モデムダイアルイン）の申し込みが必要。
	短縮 / アドレス	頻繁に送信する宛先のファクス番号を登録しておく機能。短縮 / アドレスを登録するときに、宛先名と検索文字を登録しておくと、短縮選択の検索文字を利用して宛先を指定することもできる。
	着信	ファクスに電話がかかってきた状態。
	着信拒否番号	着信拒否したい相手の電話番号をあらかじめ登録し、迷惑ファクスを受信しないようにする機能。登録されている電話番号と着信電話番号が一致した場合、「着信拒否」とメッセージを表示し受信されない。
	中継配信局	中継指示局からの中継依頼を受けて、中継配信先に同報をするファクス。本機には、中継配信の機能はない。
	中継指示局	中継同報の指示をするファクス。
	中継同報	他のファクス（中継配信局と呼びます）を経由して、同報送信をする機能。同報先が遠隔地に複数ある場合、同報先のひとつを中継局に設定し、中継局から同報送信をすることで、全体の通信料金を削減することができる。
	長尺原稿	規格サイズよりも長辺が長い原稿を送信する機能。長い原稿を送信したい場合は、長尺原稿を指定することにより送信することができる。
	ディザ	白と黒の二色で、擬似的にグレーの濃淡を表現する手法の一つ。誤差拡散と比較して処理は簡単だが、ムラが発生する場合がある。
	デフォルト	初期設定値。電源ボタンをオンにしたときに、あらかじめ選択されている設定。または、ある機能をオンにしたときにあらかじめ選択されている設定。
	電送時間	ファクスを送る時間。解像度が高く、用紙サイズが大きいほど、電送時間が長くかかる。
	伝送速度	モデムの伝送速度。本機では、33,600bps などの高速な伝送速度で通信できます。海外通信モードに設定しておくと、7200bps や 4800bps のノイズに強い伝送速度で通信する。
	同報	ひとつの原稿を 1 回の操作で複数の相手に送信すること。
	ドライバー	コンピューターと周辺機器の橋渡しをするソフトウェア。
な行	濃度	画像の濃さを表す量。
	濃度補正	プリンターやディスプレイなどの出力装置において、色調を補正する機能。
は行	パスワード送信	パスワードをつけて送信する機能。相手機が閉域受信を設定している場合、送信側からは閉域受信パスワードと同じパスワードを送る必要がある。
	発信	電話をかけること。ファクスでは、原稿を送信したり、ポーリングをするためにダイアルすること。

用語	説明
発信元名	漢字、英数カナで表す自局の名称。受信側で、送信原稿の先端に発信元印字の一部として記録される。
発信元記録	ファクス送信をしたときに、受信側の記録紙の先端に印刷される、送信日時、名前、電話番号、ページ番号など。
ハードディスク	データを保存するための大容量記憶装置。電源を OFF しても、データが保持される。
ハーフトーン	画像の各部分の濃淡を、黒または白の点の大小で表現する方法。
ピア・ツー・ピア	専用のサーバーを使うことなく、接続された機器同士が、相互に通信可能なネットワーク形態。
ピクセル	画素。画像を構成する最小単位。
ビットマップフォント	文字の形を、ドットの集合で表したフォント。文字サイズが大きくなると、ギザギザが発生する。
ファクス ID	ファクス通信をするときに、お互いを確認するための識別コード。通常は、ファクスの電話番号を登録する。
副走査	原稿を読み取るときの縦方向のこと。
ブック連写	本やカタログなどをファクス送信する場合に、表カバー、裏カバー、左右のページが分割され、それぞれ 1 ページとして送信できる機能。
プラグアンドプレイ	周辺機器を PC に接続したときに、適切なドライバーが自動検索されて使用可能になる仕組み。
プリンタードライバー	コンピューターとプリンターの橋渡しをするソフトウェア。
プリンターバッファ	印刷ジョブのデータ処理のために、一時的に利用されるメモリ領域。
プリントキュー	スプーラにおいて、発生したプリントジョブを記憶しておくソフトウェアシステム。
フレームタイプ	NetWare 環境において使用される通信形式の種類。 同じフレームタイプ同士でなければ、通信する事ができない。
プレビュー	印刷／スキャン処理前に、あらかじめ処理後のイメージを表示する機能。
プログラム宛先	頻繁に送受信する宛先のファクス番号や、定型で使う送信の操作手順などを登録しておく機能。プログラムキーを押すだけで、宛先を指定したり、自動的に機能を設定して通信することができる。
プロトコル	コンピューターが他のコンピューターや周辺機器と互いに通信するための規約。
プロパティ	属性情報。 プリンタードライバーを使用するときは、プロパティから様々な機能の設定を行うことができる。 またファイルのプロパティでは、そのファイルの属性情報を確認することができる。
閉域受信	パスワードが一致する相手機からの通信のみを受け付ける機能。
ホスト名	ネットワーク上の機器を表す名前。
ポーズ	間隔をあけてダイアルすること。本機ではポーズを 1 回押すと、1 秒の間隔をあけることができる。
ポート番号	ネットワーク上のコンピューター内で動いている複数の処理のそれぞれの通信口を識別する番号。同一のポートを複数の処理で使用することはできない。
ポーリング	相手側にセットされているか、またはメモリーに蓄積されている原稿を、受信側からの操作で送信させる機能。

	用語	説明
ま行	マルチページ TIFF	1 つのファイルに複数ページが含まれている TIFF ファイル。
	メモリー	データを一時保存するための記憶装置。 電源を OFF したときにデータが消去されるものと、消去されないものがある。
	メモリーオーバーフロー	読込んだ原稿や代行文書を蓄積しているときに、ファクス画像メモリーが一杯になった状態。
	メモリー送信	原稿を読み取り、メモリーに蓄積してからファクス送信を始める方法。メモリー送信を使用すると、発信元記録のページ数に自動的に総ページ数が付けられ、送信結果レポートに送信文書の 1 ページ目の画像が記載される。ただし、原稿のページ数が多い場合や、原稿の画質が細密なために情報量が多い場合はメモリーオーバーすることがある。
や行	読込み	原稿を光学的に走査して、画像データに変換して取り込むこと。
	読込みサイズ	原稿を読込むサイズを指定して送信する機能。受信側の用紙幅が送信原稿より小さい場合、通常は縮小して記録される。縮小したくない場合に、原稿サイズを受信側の用紙サイズに指定すると、原寸で送信することができる。
ら行	リダイアル	相手機が、話中のときなどに、時間をあけて再びダイアルをすること。手動でリダイアルする方法と、自動的にリダイアルされる自動リダイアルがある。
	両面とじ方向	ADF を使って両面原稿を送信する場合に原稿のとじ位置を設定する機能。両面原稿のとじ位置には、原稿の上側（または下側）にとじ位置がある上下とじと、原稿の左（または右側）にとじ位置がある左右とじがあり、原稿の裏面の上下関係が異なる。
	リモート受信	外部電話からリモート受信番号を使って受信の指示をする機能。
	ローカルプリンター	コンピューターのパラレル／ USB ポートに接続されたプリンター。
わ行	枠消し	ADF を開いたまま原稿を読み取ったり、冊子になっている原稿を読込むときなどに、上下左右に写る黒い影を消して送信する機能。

16 索引

16 索引

16.1 項目別索引

か行

さ行

た行

な行

は行

や行

ら行

16.2　キー索引

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

お問い合わせは

■ 販売店連絡先

《販売店 連絡先》

販売店名

電話番号

担当部門

担当者

■ 保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ

この商品の保守・操作方法・修理・サポートについてのお問い合わせは、お買い上げの販売店、サービス実施店にご連絡ください。

《保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ先》

TEL

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

〒103-0023　東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号

当社についての詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。　**http://bj.konicaminolta.jp**

当社に関する要望、ご意見、ご相談、その他お困りの点などございましたら、お客様相談室にご連絡ください。
お客様相談室電話番号　フリーダイヤル：0120-805039（受付時間 ： 土、日、祝日を除く9:00～12:00 / 13:00～17:00）